

CAMRY

取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。



このたびは **CAMRY** をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書はカムリの取り扱いについてドライバーの動作にそって説明しています。

安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。



- ・運転は交通ルール・マナーを守り、自然環境保護にも気をくばりましょう。
- ・メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、別冊の取扱書も併せてお読みください。
- ・トヨタ販売店で取りつけられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。
- ・装備については、販売店でカタログをご請求ください。
- ・ご不明な点は、担当営業スタッフにおたずねください。

- 保証および点検整備については、「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。
- トヨタ販売店の所在地および連絡先は、サービス網／お客様相談テレホン網として「メンテナンスノート」に記載しています。
- 取扱書はいつでも見られるように、メンテナンスノートとともにお車に大切に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のユーザーのために、この取扱書およびメンテナンスノートをお車につけておいてください。

本書の構成

本書は次の8章から構成されています。
とくに第1章の「安全ドライブのために必ず守っていたいこと」は重要です。しっかりとお読みください。

第1章：安全ドライブのために必ず守っていただきたいこと

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されています。重要ですので、必ずお読みください。

第2章：基本操作早わかり

はじめてこの車にお乗りいただいだくかたのために、基本操作を簡単に説明しています。

第3章：運転装置の取り扱い

ドアの開閉、シート、シートベルト、エンジンのかけ方、シフトレバー、メーター、スイッチなどの取り扱いを説明しています。

第4章：室内装備の取り扱い

エアコン、オーディオ、室内装備品（時計、カップホルダーなど）の取り扱いを説明しています。

第5章：安全・快適装備の解説と注意

SRSエアバッグ、ABSなど安全・快適装備についての機能説明と取り扱い上の注意を説明しています。

第6章：車との上手な付き合い方

季節による取り扱い、環境にやさしい経済的な運転方法などについて説明しています。

第7章：メンテナンス

車の手入れのしかたと日常点検について説明しています。

第8章：万一のとき

故障やパンクしたときなど、万一のときに必要な処置方法について説明しています。

表示について

安全に関する表示

「運転者やほかの人が傷害を受ける可能性のあること」や「車両の故障や破損につながるおそれがあること」と、その回避方法を下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、必ず読んで遵守してください。



警告

記載事項をお守りいただかないと、重大な傷害や事故・車両火災におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあること。



注意

記載事項をお守りいただかないと、傷害、車両の故障や破損につながるおそれがあること。

他の表示

「知っておくと便利なこと」・「知っておいていただきたいこと」を下記の表示で記載しています。



知識

知っておくと便利なこと。
知っておいていただきたいこと。

イラストのマークについて

してはならない行為を示すイラストには、下記のマークが記載されています。



してはならない行為。

操作説明（3～8章）の見方

操作説明（3～8章）の基本的な読み方について説明しています。

タイトル

階層により区別してあります。

★

グレード等により装着の有無が異なることをお知らせします。

ヘッダー

ページの内容を案内しています。

ツメタイトル

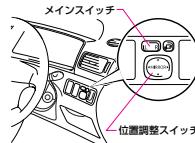
各章のタイトルを案内しています。

ハンドル、ミラーの調整

ミラーの調整

ドアミラーの調整のしかた ★

■鏡面調整のしかた



1 メインスイッチを押します。
メインスイッチの右側（R）または左側（L）を押します。

2 角度を調整します。
位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

3 メインスイッチを中立にします。
調整したあとはメインスイッチを中立の位置にもどします。



※安全警告
走行中は、ミラーの調整をしないでください。運転を誤り思ひぬ事故につながるおそれがあります。



注意
ミラーが動いているときは手をふれたりしないでください。手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

知識

作動条件について

エンジンスイッチがACCまたはONのとき使用できます。

154

★はグレード等により装着の有無が異なります。

155

操作要領

操作要領が記載されています。 前ページ参照。

知識

前ページ参照。

注意

前ページ参照。 前ページ参照。

警告

前ページ参照。

■本書では新計量法の施行に伴い、国際単位系（略称SI単位）を基本に記載し、従来単位を { } 内に記載しております。

検索方法について

本書では、お客様が知りたいことを素早くお読みいただけるよう、次のような工夫がしてあります。



タイトルからさがす

6

- 「目次」
- 「ツメタイトル」
- 「各章のはじめの目次」



取りつけ位置からさがす

8

- 「イラスト目次」



名称からさがす

472

- 「五十音さくいん」



警告灯からさがす

481

- 「警告灯さくいん」



症状からさがす

472

- 「五十音さくいん」
(色つき文字の項目)

目次

イラスト目次 8

1

安全ドライブのため に必ず守っていただきたいこと 13

- ・安全・快適ドライブのために 14
- ・安全装備について 41

2

基本操作早わかり

(はじめてこの車にお乗りになる方へ)

91

- ・各部の開閉 92
- ・シートの調整 94
- ・シートベルトの着用 96

3

運転装置の取り扱い

108

- ・スマートエントリー & スタートシステム 110
- ・ドア・ドアガラスなどの開閉 142
- ・シートの調整 167

4

室内装備の取り扱い

271

- ・エアコンの取り扱い 272

5

安全・快適装備の 解説と注意

331

- ・SRSエアバッグ 332
- ・シートベルト関係 346
- ・EBD付ABS & ブレーキアシスト 348

6

車との上手な 付き合い方

367

- ・雨の日の運転について 368
- ・寒冷時の取り扱い 369

7

メンテナンス

383

- ・車の手入れ 384
- ・日常点検 410

8

万一のとき

433

- ・工具・スペアタイヤ・発炎筒 434
- ・故障したときは 440
- ・パンクしたときは 442

さくいん

471

- ・五十音さくいん 472

早基
わ本
かり作取運
り装
置の取室
内装
備のの安
全解
説・快
適装
備付車
との上
手なメン
テナ
ンス万
一のとき

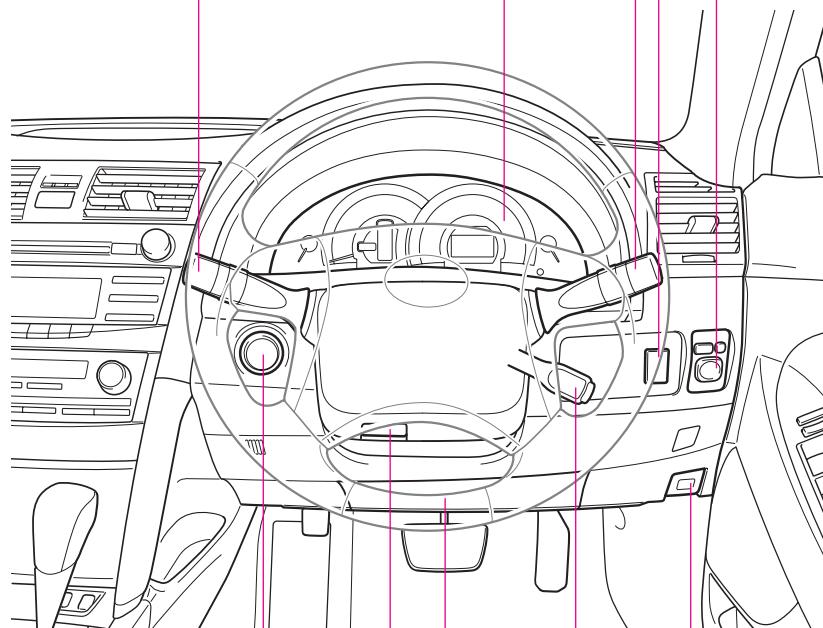
索引

・運転装置について	64	・オーバーヒート・萬一の事故	84
・メンテナンスについて	72	・その他の注意	87
<hr/>			
・運転するときは	98	・スイッチ類の取り扱い	104
・警告灯	102	・エアコン・オーディオ	106
<hr/>			
・シートベルトの着用	178	・パーキングブレーキの使い方	212
・チャイルドシートの固定	186	・メーター・表示灯・警告灯の見方	214
・ハンドル・ミラーの調整	194	・マルチインフォメーションディスプレイ	236
・シフトレバーの使い方	202	・スイッチの使い方	248
・オートマチック車の運転のしかた	206		
<hr/>			
・オーディオの取り扱い	288	・室内装備品の使い方 (サンバイザー・時計など)	318
<hr/>			
・トランスミッション	352	・盗難防止システム	360
・Vフレックスフルタイム4WD	354	・ディスチャージヘッドライト	361
・ミラー・ガラス関係	356	・VSC・TRC	362
<hr/>			
・経済的な運転	378		
・環境保護のために	380		
<hr/>			
・メンテナンスデータ	424		
・ユーザーカスタマイズ機能	430		
<hr/>			
・電子キーが正常に働かないときは	452	・けん引について	464
・バッテリーがあがったときは	456	・事故が起きたときは	468
・オーバーヒートしたときは	460	・車両を緊急停止するには	469
<hr/>			
・警告灯さくいん	481		

イラスト目次

インストルメントパネル

- ドアミラー調整／格納スイッチ 198
フロントワイパー／デアイサー／スイッチ 262
ライトスイッチ 248
方向指示レバー 251
フォグランプスイッチ 252
メーター、表示灯、警告灯 214
マルチインフォメーションディスプレイ 236
ワイパー＆ウォッシャースイッチ
254、259



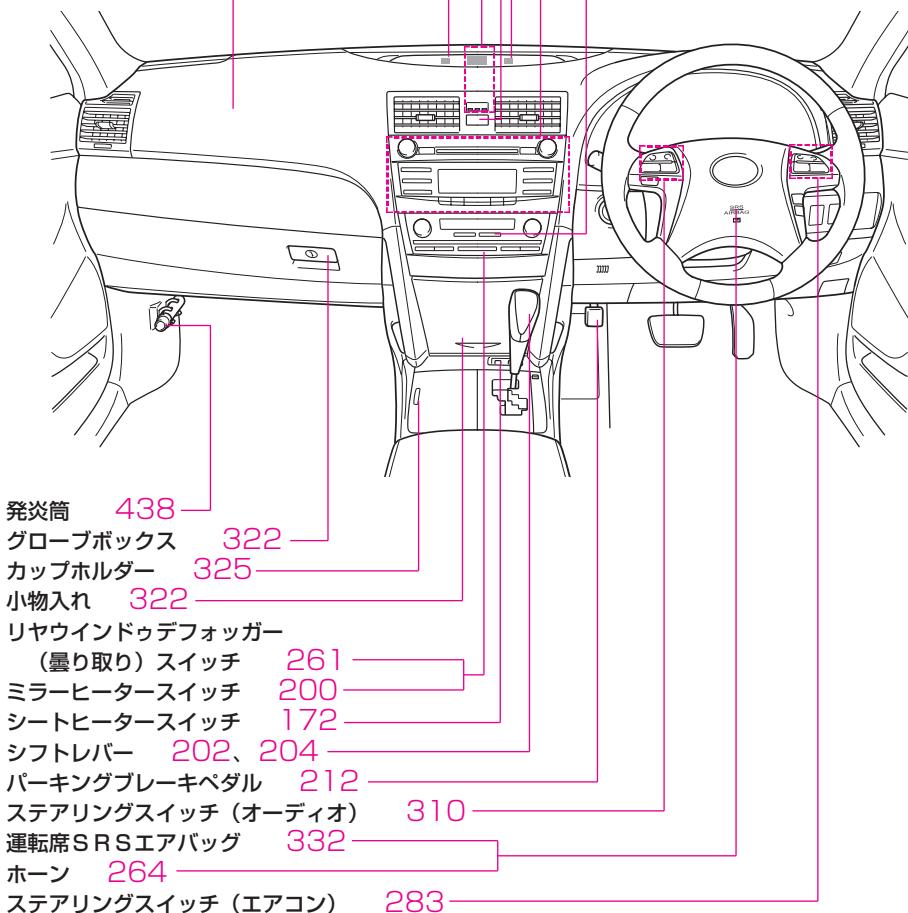
- エンジン（イグニッション）
スイッチ 121
チルト＆テレスコピック
ステアリングレバー 194
運転席SRSニーエアバッグ 332
クルーズコントロールスイッチ 265
ボンネットオープナー 165

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

早
基
本
操
り
作運
転
裝
置
の
取
り
扱
い室
内
裝
備
の
取
り
扱
いの
安
全
・
快
適
裝
備
の
解
説
と
注
意
事
項付
車
と
の
上
手
な
方
法メンテナ
ンス万
一
の
とき

索引

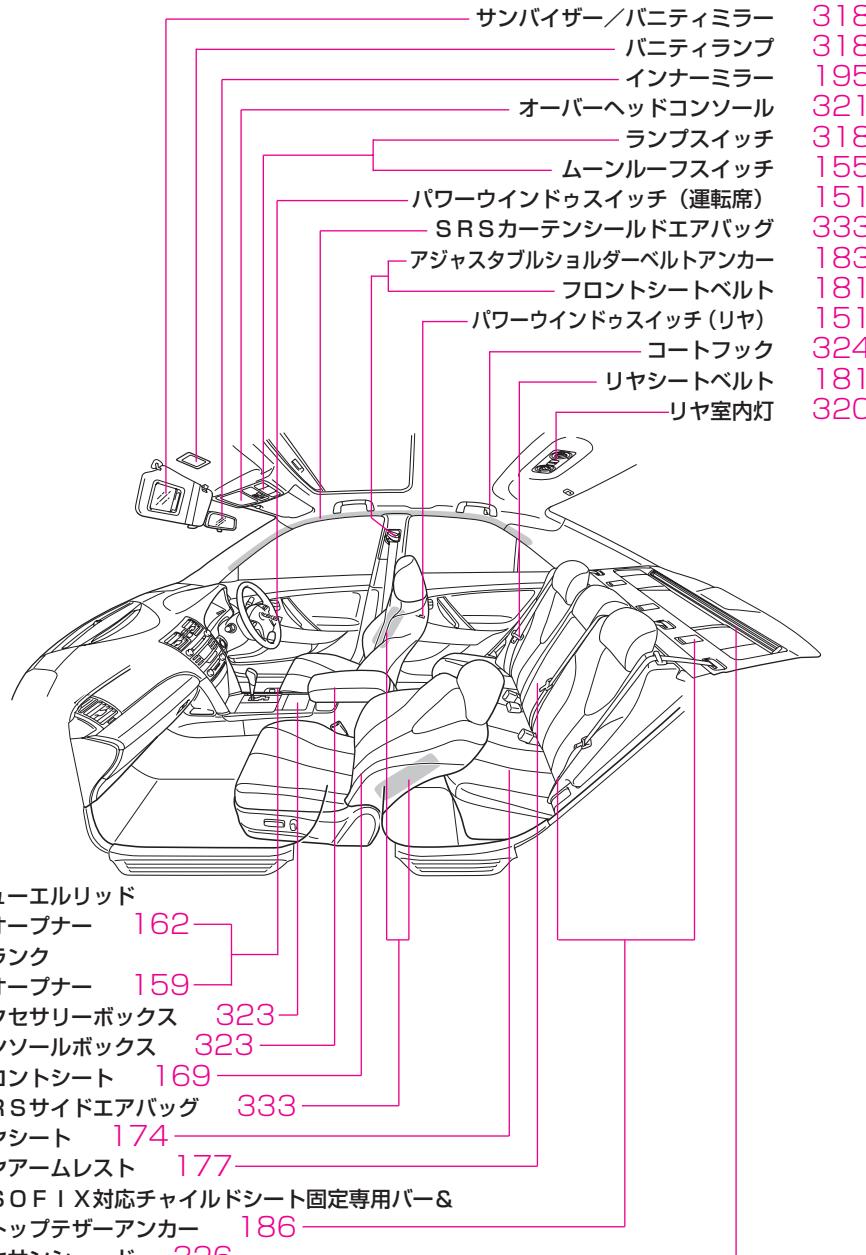
助手席SRSエアバッグ 332
 助手席シートベルト非着用警告灯 235
 時計 328
 非常点滅灯スイッチ 263
 セキュリティ表示灯 220
 オーディオ 288
 ナビゲーションシステム
 別冊「ナビゲーションシステム
 取扱書」参照
 エアコン 272



※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

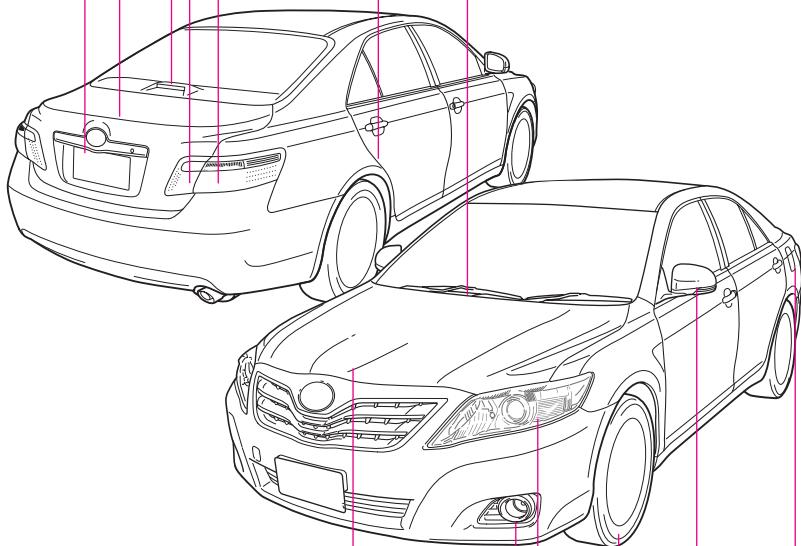
室内



※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

イラスト目次

車両外観



ボンネット 165

フロントフォグランプ 403、425

ヘッドライト 403、425

車幅灯 403、425

フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 403、425

タイヤ 393、429

サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 403、425

ドアミラー 198

フューエルリッド（燃料補給口） 162

番号灯 403、425

トランク 159

ハイマウントストップランプ 403、425

尾灯、後退灯、リヤフォグランプ 403、425

制動灯／尾灯、リヤ方向指示灯 兼

非常点滅灯 403、425

チャイルドプロテクター 148

ワイパー 254、259

目次

警告

早基本
わかり作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

付車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万ーのとき

索引

※ 装備の違い、オプション装備なども含んでいます。

MEMO

安全ドライブのために 必ず守っていただき たいこと

1

「重大な傷害や事故・車両火災におよぶおそれがあること」および
「一般的な注意」と、その回避方法がこの章に集約して記載されて
います。重要ですので必ずお読みください。



安全・快適ドライブの ために	14
1. 点検整備実施のお願い	14
2. お出かけ前の注意	15
3. 燃料補給時の注意	20
4. 走行するときの注意	22
5. 走行中、異常に 気づいたら	30
6. 駐停車するときの注意	33
7. 排気ガスに対する注意	35
8. お子さまを 乗せるときの注意	37



安全装備について	41
1. シートについての注意	41
2. 子供専用シートについての 注意	44
3. シートベルトについての 注意	49
4. SRSエアバッグについての 注意	55
5. EBD付ABS&ブレーキ アシストについての注意	62
6. VSC・TRCについての 注意	63



運転装置について	64
1. オートマチック車についての 注意	64
2. 4WD車についての注意	67
3. クルーズコントロール についての注意	70
4. スマートエントリー＆ スタートシステムに についての注意	71



メンテナンスについて	72
1. 点検・手入れ時の注意	72
2. タイヤについての注意	74
3. バッテリーについての 注意	79
4. ジャッキアップについての 注意	81



オーバーヒート・ 万一の事故	84
1. オーバーヒートについての 注意	84
2. 万一の事故のときの注意	85
！ その他の注意	87



1. 点検整備実施のお願い

点検整備を必ず実施してください。
実施していただかないと、重大な車両故障につながるおそれがあり危険です。

① 点検整備を必ず実施してください。



- 日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
日常点検（P.410参照）や定期点検など、点検整備の詳細については、「メンテナンスノート」をお読みください。
 - 定期点検は、安全の確保・公害防止の観点から、12か月ごとに実施する点検です。定期点検整備は、専用の整備機器、指定の油脂類、交換された部品・油脂類の適切な処理などが必要なため、トヨタ販売店にご相談ください。
- 点検整備は自動車の健康診断です。
定期的な点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施することが、未永く車と付き合っていくうえで最も大切なことです。
- 点検整備を実施しないと、例えばエンジンオイルの不足・劣化によりエンジン内部が焼きつきなどを起こすことがあります。また、ブレーキパッドやブレーキディスクなど、その役割を果たすと共に摩耗していく部品については、使用限度（摩耗限度）を越えての使用は故障を引き起こすばかりか、事故に結びつくおそれもあります。
- 日常点検で異常があったり、車の調子が悪い場合には、トヨタ販売店にご相談ください。



警告

2 お出かけ前の注意

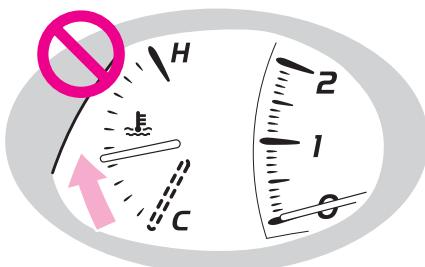
お出かけ前に、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①窓ごしなど車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。

- 思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。

②水温計の指針が動き出すまでは、極端にアクセルペダルをあおらないでください。

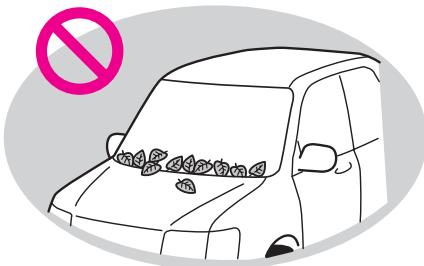


- 暖機不足の状態では触媒装置が未燃焼ガスにより異常燃焼を起こし、損傷するおそれがあります。
- 暖機は水温計の指針が動き出す程度で十分です。

③走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

- ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。なお、いずれかのドアが確実に閉まっていないときは、半ドア警告灯（P.234参照）が点灯すると同時に、半ドア警告表示（P.242参照）が出ます。

- ④フロントガラス前部の外気取り入れ口に雪、落ち葉などがついているときは取り除いてください。



●外気が導入できず、車内の換気が十分できなくなり、雨天時など車内の湿度が上がり、ガラスが曇ったりして視界が悪くなるおそれがあります。

- ⑤停車中にハンドル位置を調整したときは、確実に固定されていることを確認してください。



●ハンドルの固定が不十分だと、走行中にハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ⑥運転席足元、運転席下にものを置かないでください。



●空缶などがあると、ブレーキペダルやアクセルペダルに挟まり、ブレーキ操作ができなくなったり、アクセルペダルがもどらなくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、シートの動きがさまたげられたり、シートが固定できず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



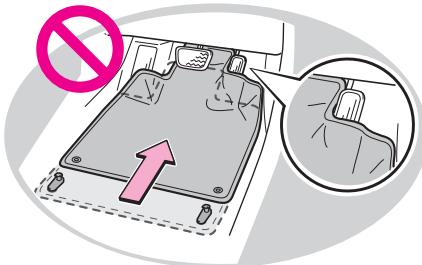
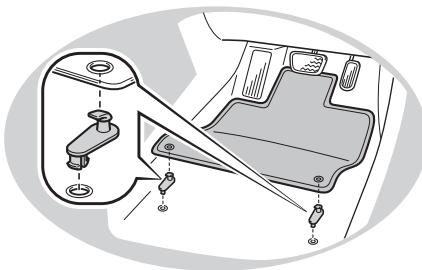
⑦フロアマットはお車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。お守りいただかないとい、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。カーペットの穴は、トヨタ純正フロアマットのずれを防止するために使用する固定クリップ取り付け用です。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- エンジン停止およびシフトレバーが❶の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。



- ⑧助手席や後席に荷物を積み重ねたり、背もたれ後方のパッケージトレイの上に荷物を置かないでください。



- 急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 荷物はトランクに安定した状態（例えば、トランク前方に均等に）で置いてください。

- ⑨燃料が入った容器やスプレー缶などは積まないでください。



- 万一のとき引火し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

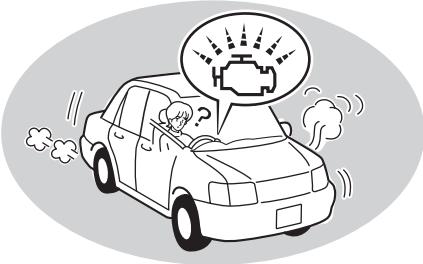
- ⑩ボンネットを開けて作業などをしたときは、走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

- ロックせずに走行すると、ボンネットが開いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑪次の場合は車が故障していることがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音や臭いや振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じたとき。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 地面に油のもれたあとが残っているとき。
- メーター・表示灯・警告灯、ランプ類に異常があるとき。



⑫お酒を飲んでの運転は絶対にしないでください。

- 飲酒運転は法律で禁止されています。
- 飲酒運転は非常に危険で、ごく少量のアルコールでも判断力・視力・注意力に影響をおよぼし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



⑬エンジンルーム内および車体床下に、ネコやネズミなどの小動物がいることを確認してください。

- エンジン始動時、ファンやベルトに小動物が巻き込まれたりして、機能不具合の原因となるおそれがあります。



3. 燃料補給時の注意

燃料を補給するときは、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

① 指定以外の燃料を使用しないでください。



- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノックングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

② 燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。



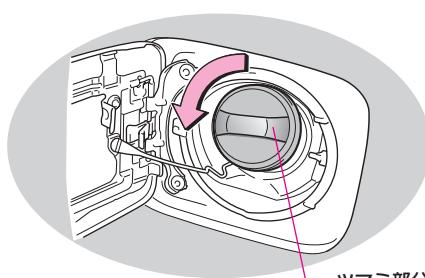
- エンジンは必ず停止してください。
- 車のドア、ドアガラスは閉めてください。
- タバコなど火気を近づけないでください。



警告

3. 燃料補給時の注意

- フューエルリッド・フューエルキャップを開けるときなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。



- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。

気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。

フューエルキャップを少しゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。

その音が止まってからゆっくり開けてください。

- 給油中、再び車内のシートにもどったり、帯電している人やものに触れないでください（再帯電のおそれがあります）。

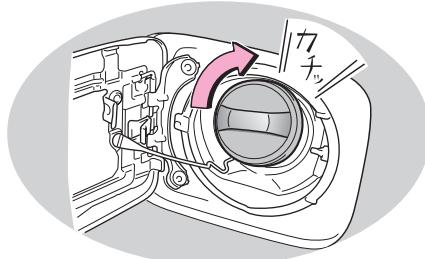
- 給油口には静電気除去を行ったか以外の人を近づけないでください。

- 給油するときは、給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

- 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわしてください。

- 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。

- そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。



③ 給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。

- 燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもありますので、注意してください。



4. 走行するときの注意

走行するときは、次の事項を必ず守ってください。

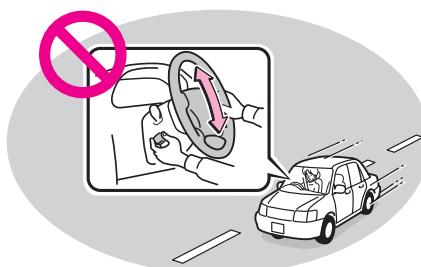
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① 走行中はエンジンを停止しないでください。



- エンジンがかからっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中、誤って“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続け、エンジンが停止すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

② 走行中はハンドル位置やミラー・運転席シートの調整はしないでください。



- 調整中に運転を誤ったり、シートが突然動くなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



③ドアミラーを倒したまま走行しないでください。

- ドアミラーによる後方確認ができず思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



④ブレーキペダルに足をのせたり、 パーキングブレーキをかけたま ま走行しないでください。

- ブレーキパッドが早く摩耗したり、ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



⑤下り坂ではエンジンブレーキを 併用してください。

- ブレーキペダルを踏み続けると、過熱によりブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

⑥車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。

- エンジンがかかっていないと、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが働かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。



- オイルの温度が上がり過ぎたり潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

⑧ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者は運転中に使用しないでください。



- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が運転中に使用することは、法律で禁止されています。
 - 電話をかけるときや、電話がかかってきたときに、注意が電話機に向いてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転者が使用するときは、安全な場所に停車してから使用してください。

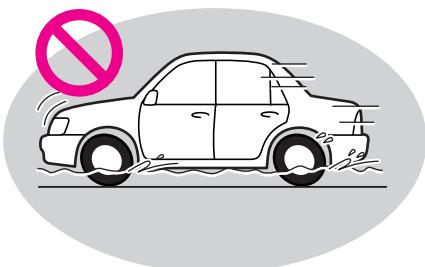


⑨ぬれた路面や積雪路・凍結路などのすべりやすい路面では、とくに慎重に走行してください。



- すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車を制御できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 寒いとき、橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

⑩冠水した道路は走行しないでください。



- 冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

⑪湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスター・スイッチを押さないでください。

- 外気とウインドウガラスの温度差でウインドウガラス外側表面が曇り、視界をさまたげる場合があります。

⑫スタック^{*}したときは

※ ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなつた状態。



- スタックからの脱出をこころみるときは、必ず周囲の安全を十分に確認してください。脱出の勢いで、ものを損傷させたり、人身事故を引き起こすおそれがあり危険です。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、駆動部品（ディファレンシャルギヤなど）の異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- スタックからの脱出のために、やむを得ず前進・後退を繰り返すときは、トランスマッisionやディファレンシャルギヤなどに損傷を与えるおそれがあるため、次のことに注意してください。
 - シフトレバーをDまたはRに確実に入れてから、アクセルペダルを軽く踏んでください。また、シフトレバー操作中は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
 - 過度の空ぶかしやタイヤの空転をさせないでください。
 - 過度にタイヤが空転した場合には、エンジン回転が低くなつてから徐々にブレーキ操作をしてください。
 - 数回行っても脱出できないときは、本操作を中止してください。
- スタック脱出には、次の方法が有効です。
 - タイヤ前後の土や雪を取り除く。
 - タイヤの下に木や石などをあてがう。
- けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。無理にけん引せず、トヨタ販売店やJ A Fなどに依頼してください。



(13) 洗車後や水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。



- ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。

(14) 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。



- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、頭などを強く打ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

(15) 窓・ムーンルーフから手や顔を出さないでください。



- 走行中、手や顔を出していると、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に頭を窓枠にぶつけたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ムーンルーフの開口部に腰かけないでください。ルーフがへこんだり、万一のとき車から投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ⑯ ドアガラス・ムーンルーフを閉めるときは、ほかの人の手や頭などを挟まないように注意してください。



- ドアガラスやムーンルーフに挟まれると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ⑰ グローブボックスや小物入れのフタを開けたまま走行しないでください。
- 急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ⑱ 走行中はドアレバーを引かないでください。

- 走行中はドアレバーを引かないでください。

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

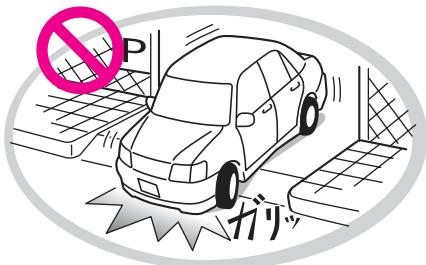


⑯ ウィンドウガラスにアクセサリーを取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上にものを置いたまま走行しないでください。



●運転者の視界をさまたげたり、発進時や走行中に安全運転のさまたげになり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑰ 大きな段差がある場所では慎重に走行してください。



●次のような場所を走行するときは、バンパーを損傷するおそれがありますので、スピードをおとして慎重に走行してください。

- 駐車場の出入り口などの段差のある場所を通過するとき。
- 立体駐車場のスロープなど勾配が急な場所を走行するとき。
- 輪止めなどのある場所や、路肩に沿って駐停車するとき。
- 凹凸やわだちのある道を走行するとき。
- くぼみ(穴)などを通過するとき。
- 平坦な道から上り坂・下り坂に進入するとき、または上り坂・下り坂から平坦な道に進入するとき。

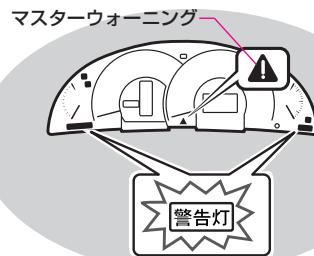


5. 走行中、異常に気づいたら

走行中、異常に気づいたら、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ①警告灯やマスターウオーニングが点灯・点滅したら、安全な場所に停車し、ただちに処置してください。



- 点灯・点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。警告灯の内容を確認し、適切な処置をしてください。(P.224参照)

- ②ブレーキ警告灯が点灯したまま走行し続けないでください。



- 警告灯が次のように变成了ときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。
 - エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。
 - ブレーキ警告灯がA B S & ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、A B S & ブレーキアシストに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。

③エンストしたときは、落ち着いて操作してください。

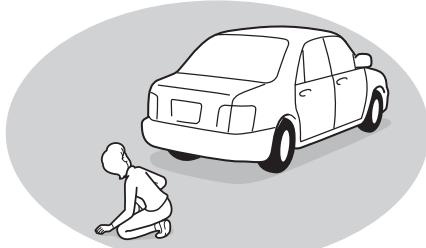
- エンストしたときは、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングの油圧装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりします。この場合は、制動力などがなくなったわけではありませんので、通常より力を入れて操作し、周囲の安全を確かめ、路肩に寄せて停車してください。

④走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）しても、あわてず対応してください。



- ハンドルをしっかりと持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 次のようなときはパンクやバーストが考えられます。
 - ハンドルが取られるとき。
 - 異常な振動があるとき。
 - 車両が異常に傾いたとき。
- パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイールやサスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。

⑤車体床下やタイヤ・ディスクホイールに強い衝撃を受けたら、ただちに安全な場所に車を止めて、下まわりを点検してください。



- ブレーキ液や燃料がもれたり、サスペンション部品、タイヤ・ディスクホイール、駆動系部品などの変形や損傷の可能性があるため、そのままの状態で使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- もれや損傷が見つかった場合は、そのまま使用せずトヨタ販売店にご相談ください。

⑥走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。トヨタ販売店で点検を受けてください。



- 警告音は、ブレーキパッドウェインジケーターによるもので、走行中に警告音（“キーキー”という金属音）を発生させ、ブレーキパッドが使用限度に近づいたことを運転者に知らせます。
警告音が発生したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなってしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑦走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。

- エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



6. 駐停車するときの注意



6. 駐停車するときの注意

①車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止し、施錠してください。

- 車から離れるときは、必ずエンジンを停止して、施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内のものを盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- 車から離れるとき、以下のことを守ってください。お守りいただかないと、車が無人で動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - シフトレバーをPにする。
 - パーキングブレーキをかける。
 - エンジンを停止する。
 - ドアを施錠する。

②可燃物付近に車を止めたりしないでください。



- 車両後方や排気管付近に燃えやすいものがあると、火災につながるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を約30cm以上離して止めてください。すき間が少ないと、排気ガスによって変色や変形したり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 枯れ草や紙くずなど燃えやすいものの上を走行したり、車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると、火災につながるおそれがあり危険です。

③寒冷時、パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。(P.376参照)

- 輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

④ 停車中に空ぶかしをしないでください。



- 排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤ 炎天下で駐車するときは、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置したままにしないでください。



- 車内が大変高温になるため、ライターやスプレー缶のガスが自然にもれたり、破裂したりして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 炭酸飲料の缶が破裂したりして室内を汚したり、電気部品のショートの原因となるおそれがあります。
- 車内が大変高温になるため、プラスチックレンズやプラスチック素材のメガネの变形・ひび割れを起こすことがあります。

⑥ 仮眠するときは、必ずエンジンを停止してください。



- エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車の急発進による事故や、エンジンの異常過熱による車両火災につながるおそれがあり危険です。
また、排気管が損傷していたり、風通しの悪い場所では、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

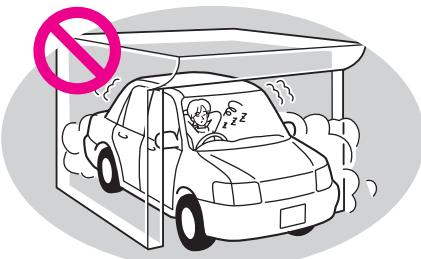


警告

7 排気ガスに対する注意

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。誤って排気ガスを吸い込まないようにするため、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ①換気が悪い場所では、エンジンをかけたままにしないでください。



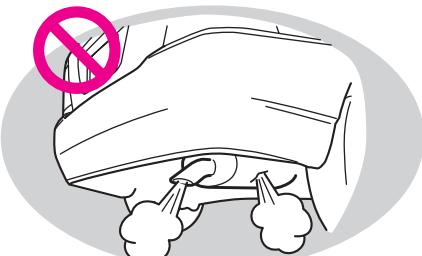
- 車庫内など囲まれた場所では、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ②雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。



- エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

③排気管はときどき点検してください。



- 排気管の腐食などによる穴やき裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は、必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。点検などで排気管に触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。

④トランクを開けたまま走行しないでください。



- 開けたまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行する前に、必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

⑤車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら、次の処置をしてください。



- すべての窓を全開にしてください。
- すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま放置すると、排気ガスにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



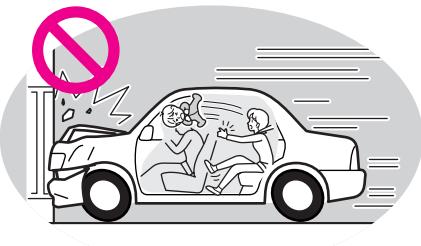
8. お子さまを乗せるときの注意

- ① お子さまはリヤシートに座らせてください。



- 助手席ではお子さまの動作が気になり、運転のさまたげになるだけでなく、お子さまが運転装置に触れて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お子さまをリヤシートに座らせたときは、チャイルドプロテクターを使用してください。お子さまが誤って車内からドアを開けることを防止できます。チャイルドプロテクターの使用方法は、P.148を参照してください。

②お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。



- ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。(P.181参照)
- シートベルトの肩部ベルトが首やあごに当たったり、腰部ベルトが腰骨にかららないような小さなお子さまには、お子さまの身体に合った子供専用シートを使用してください。子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。



③お子さまをシートベルトで絶対に遊ばせないでください。



- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。



④ ドア・ドアガラス・ムーンルーフなどはお子さまに操作させないでください。



- お子さまが操作すると、閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドプロテクター（P.148参照）やウインドウロックスイッチ（P.153参照）を使用して、お子さまが誤って操作しないようにしてください。また、ドアガラスを開けるときや閉めるときは、ほかの人の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないように注意して操作してください。

⑤ 車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。



- 炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 電子キーを車内に置いたまま車内にお子さまを残しておくと、パワーウィンドウやムーンルーフのスイッチを操作し、誤って手・頭・首などを挟み、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、運転装置を動かして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。絶対に電子キーを車内に置いたままお子さまを車内に残さないでください。



⑥ トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。



● トランクは中から開けることができません。閉じ込められると、熱射病などにより、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。トランクには人を絶対に乗せないでください。

安全装備について



1. シートについての注意

- ①シートは正しい運転姿勢が取れるように位置を調整してください。

シートについては、次の事項を必ず守つてください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- 正しい運転姿勢を取らないと、運転操作を誤り思わぬ事故につながるだけでなく、シートベルト・SRSエアバッグ・ヘッドレストなどの効果が発揮されず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
正しい運転姿勢については、P.167を参照してください。

- ②シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。（マニュアルシート装着車）



- 固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



安全装備について

警告

1 シートについての注意

③走行中はシートの操作をしないでください。

- ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



④背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。

- 必要以上に背もたれを倒していると、衝突、または追突されたとき、腰部ベルトが腰骨からずれ、身体がシートベルトの下にもぐり込み、強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



⑤背もたれと背中の間にクッショング（座布団）などを入れないでください。

- 正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したときシートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



⑥ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。



- 衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストは各シート専用です。取りつけるときは、“力チッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑦フロントシートにはSRSエアバッグが内蔵されていますので、取り扱いに注意してください。

- 不適切に扱うと正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(P.167の「シートの調整」の警告文を参照してください。)

⑧シートヒーターを使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすことがありますので、十分注意してください。（シートヒーター装着車）

- 次に相当する方が使用される場合は、ヒーター使用中、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがありますので十分注意してください。
 - 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、身体の不自由な方
 - 皮膚の弱い方
 - 疲労の激しい方
 - 深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方
- 毛布や座ぶとんなど保温性の良いものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常に過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあり危険です。
- 仮眠するときは使用しないでください。シートが異常に過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

安全装備について



2. 子供専用シートについての注意

子供専用シートについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①車のシートベルトが正しく着用できない小さなお子さまには、身体に合った子供専用シートに座らせてください。

- 乳児は、頭や首を含め完全な安全保護サポート（ベビーシート）が必要です。乳児の首は安定していないくて、また頭はほかの部分に比べて極めて重いからです。乳児は、必ず適切なベビーシートに座らせてください。
- 幼児の体形は、シートベルトの設計対象となっている大人とは異なっています。幼児の骨盤は小さく、通常のシートベルトでは骨盤の低い位置にとどまらず、腹部にかかりてしまいます。衝突した場合に、シートベルトによって腹部に強い圧迫を受け重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。幼児は必ず適切な子供専用シートに座らせてください。

②子供専用シートを使用するときは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、確実に取りつけ、使用方法を守ってご使用ください。



- 使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。
- 子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。



③子供専用シートは確実に固定できるように取りつけてください。

子供専用シートは、取りつけ位置や取りつけ方向に注意をして確実に取りつけてください。取りつけが不適切な場合、急ブレーキや衝突したときなどに、子供専用シートが正しく機能せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■子供専用シートはリヤシートに取りつけてください。

- リヤシートには子供専用シートの取りつけ装置が装備されています。(P.186参照)
- 運転席側リヤシートで、運転席の位置により、安全に取りつけられる十分なスペースが確保できない場合は、子供専用シートを無理に取りつけず、助手席側リヤシートに取りつけてください。

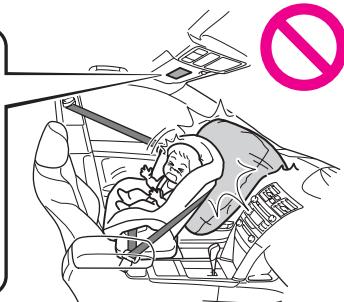
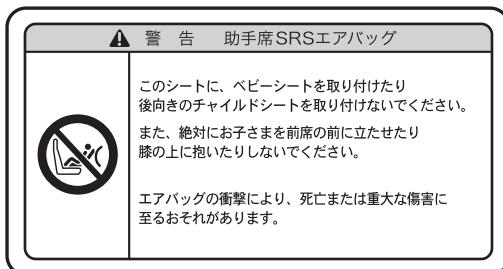




安全装備について

警告

2. 子供専用シートについての注意



■助手席には、子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。

- うしろ向きに取りつけた場合、助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。
- やむを得ず、前向きに助手席に子供専用シートを取りつける場合には、助手席SRSエアバッグがふくらんだときの衝撃を少しでも緩和させるため、助手席シートの前後位置調整をいちばんうしろにして取りつけてください。
お守りいただかないと、助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、お子さまに強い衝撃が加わり危険です。



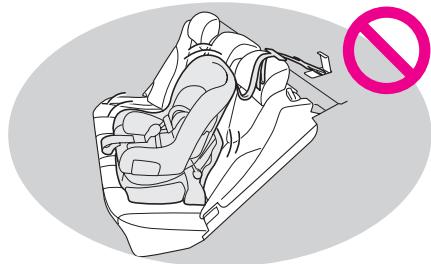
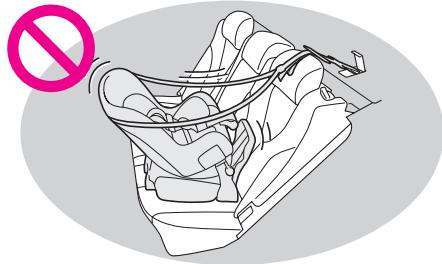
■チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取りつけるときは、チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。

- 異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



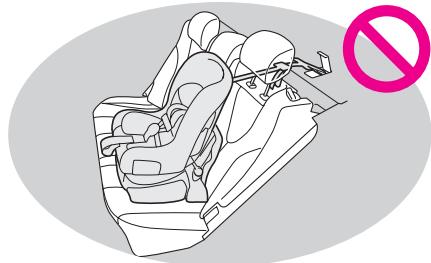
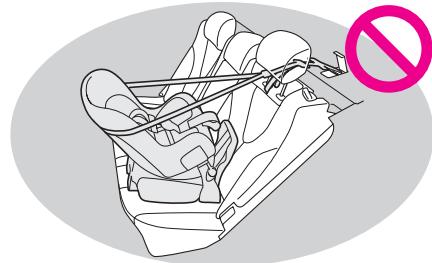
■子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力をかけてください。

●テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通してください。

●ヘッドレストの下を通すと、子供専用シートがしっかりと固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。





安全装備について

警告

2. 子供専用シートについての注意

- ④子供専用シートを車両に搭載するときは、以下のことをお守りください。



お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取はずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

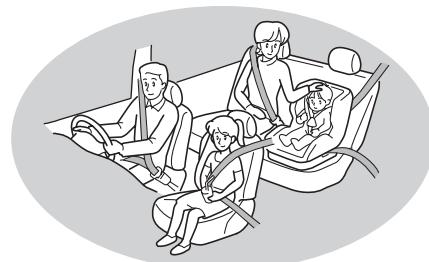
安全装備について



3. シートベルトについての注意

①車に乗るときは、全員がシートベルトを正しく着用してください。

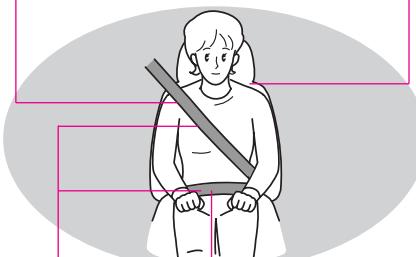
●シートベルトを着用しなかったり、正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。また、車外に投げ出されたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座ること。

肩部ベルト

●肩に十分かけること。
(首にかかったり、肩からはずれないこと。)



腰部ベルト

●必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること。

●ねじれていないこと。

〈正しい着用のしかた〉

警告

3. シートベルトについての注意



安全装備について



■シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰かけた状態で着用してください。

- 正しい姿勢については、P.167を参照してください。

■シートベルトの肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。

- シートベルトの肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるように着用してください。

- ベルトを通す位置が間違っていると、衝突時に、腹部などに強い圧迫を受け危険です。



■フロントシートではアジャスタブルショルダーベルトアンカーを確実に調整してください。(P.183参照)

- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。

- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

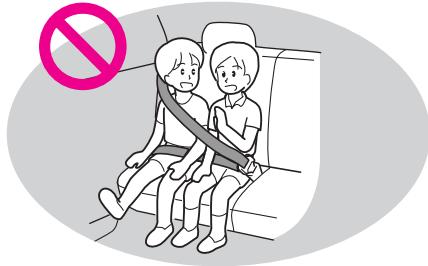
■シートベルトの腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。

- シートベルトの腰部ベルトが腰骨からずれないと、衝突したときに、腹部などに強い圧迫を受け危険です。



■シートベルトは必ず1人で1本のベルトを着用してください。

- 2人以上で1本のシートベルトを着用すると、シートベルトが衝撃を分散できないばかりか、2人がぶつかり合うなどで危険です。

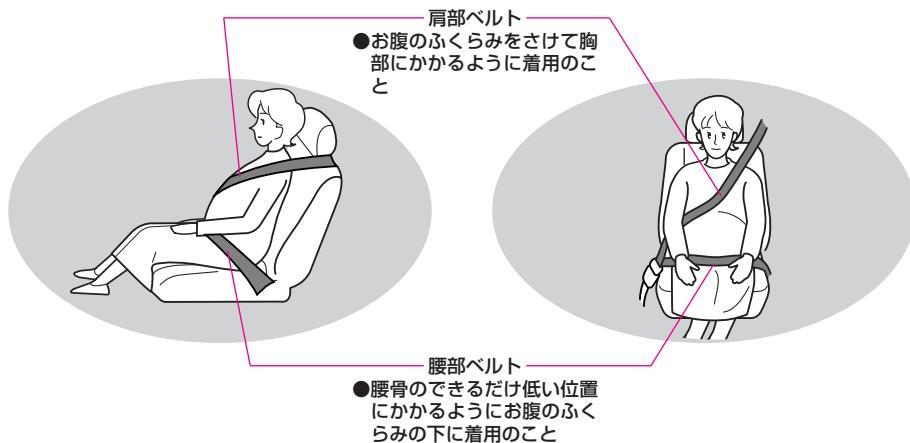




②妊娠中の女性も必ずシートベルトを正しく着用してください。

ただし、医師に注意事項をご確認ください。

- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようにしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通しお腹のふくらみをさけて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



③疾患のあるかたも必ずシートベルトを正しく着用してください。

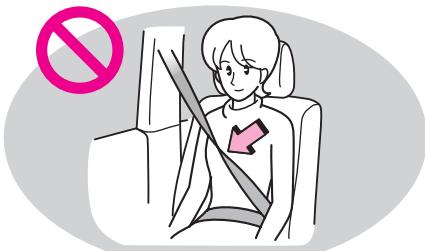
ただし、医師に注意事項をご確認ください。



安全装備について



- ④シートベルトは、ねじれやゆるみがなく確実にロックされた状態で着用してください。



正しい運転姿勢でもシートベルトがねじれていたり、ゆるんでいたり、確実にロックをしていない場合には、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができず危険です。
- ベルトがねじれている場合は、正しく装着できるようほどいてください。ねじれがうまくほどけない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

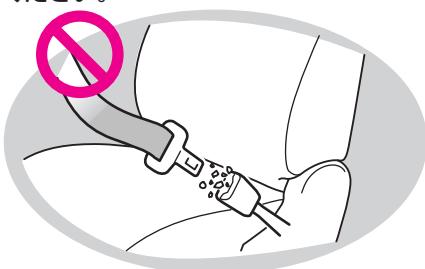
- 洗濯ばさみやクリップなどでシートベルトにたるみをつけて使用しないでください。

- 肩部ベルトがゆるすぎると、衝突の際、ベルトで身体が拘束されるまでの移動量が大きくなり、頭をハンドルにぶつけたり、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け危険です。



- プレートをバックルに差し込むときは、プレートとバックルが“カチッ”と音がして確実にかみ合っていることを確認してください。

- 異物が入ると、プレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトがはずれて危険です。





- ⑤シートベルトを損傷させたり、
損傷したシートベルトは使用し
ないでください。



損傷したシートベルトをそのまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。挟まると傷がつくおそれがあり危険です。

- ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷ついたシートベルトは使用しないでください。衝突したときなどに本来の機能が十分発揮できなくなります。

- このまま使用すると、衝突のときなどにベルトが切れる可能性があります。また、正常に働くかず、シートベルトが十分な効果を発揮せず危険です。

- シートベルトが正常に機能しない場合は、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。





安全装備について

警告

3 シートベルトについての注意

■シートベルトの不適切な取り扱いや改造・分解・取りつけ・取りはずしなどはしないでください。

- シートベルトを不適切に扱うと、衝突したときなどにシートベルトが正常に作動しなくなります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換・修理については必ずトヨタ販売店で行ってください。



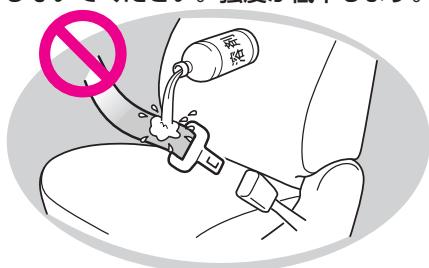
■プリテンショナー付シートベルトは再使用しないでください。

- 作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。強度が低下します。

- シートベルトの性能が低下し、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。





4. SRSエアバッグについての注意

- ① SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

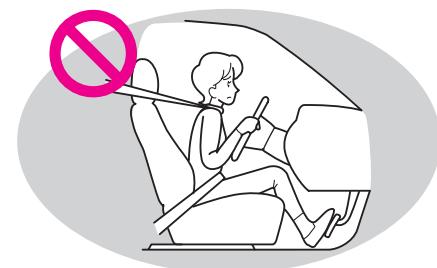
正しい姿勢でシートに座り、シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができないだけでなく、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートベルトの正しい着用については、P.178を参照してください。

- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。
- SRSエアバッグの展開部に覆いかぶさったり、近づきすぎた姿勢で乗車していると、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

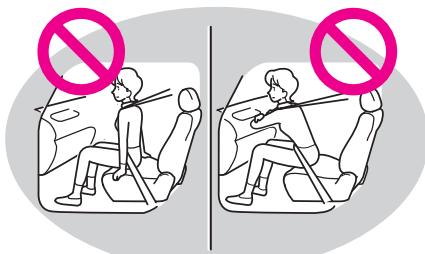
《運転者のかたは》

運転操作ができる範囲で、できるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。



《助手席乗員のかたは》

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シート前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。シートの調整・正しい姿勢については、P.167を参照してください。





安全装備について



■ひざの上にものをかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。

- SRSエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、SRSエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラーやルーフサイド部に近づかないようにしてください。

- SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け危険です。とくにお子さまを乗せるときには、注意してください。



■お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

- SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。





②車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをするときは必ずトヨタ販売店にご相談ください。

不適切な作業を行うと、SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

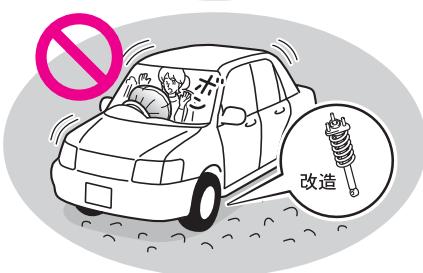


- フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。

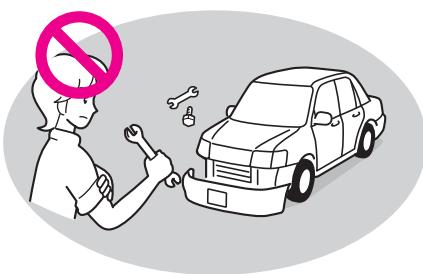
- フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部や天井の取りはずし、取りつけなどSRSカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。



- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、SRSエアバッグが誤作動し危険です。



- 車両前部、または車両客室部の修理をするときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。不適切な修理を行うと、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。





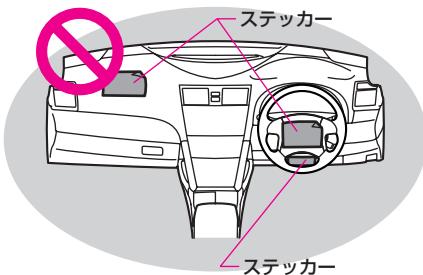
安全装備について



③カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

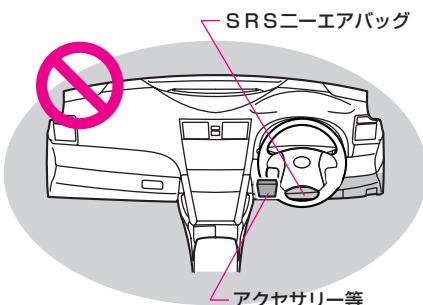
- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして危険です。



- インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、SRSエアバッグがふくらんだときに飛ばされるなどして危険です。



- 運転席インストルメントパネル下部のSRS二エアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取りつけないでください。SRS二エアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。

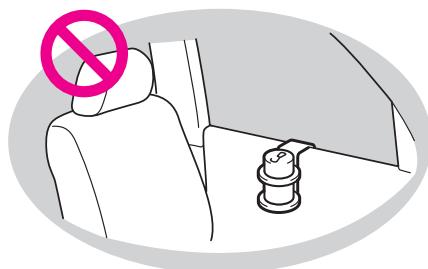




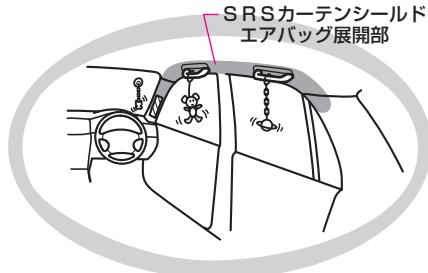
- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがSRSサイドエアバッグ展開部を覆うと、SRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。



- フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。SRSサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



- フロントウインドウガラス、フロントドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップや天井などSRSカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイク、ハンガーなどを取りつけないでください。SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあり、SRSエアバッグが誤作動するなどして危険です。無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。



安全装備について

警告

4 SRSエアバッグについての注意

- 後席アシストグリップ部のコートフックにハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



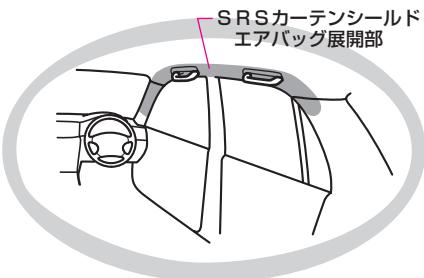
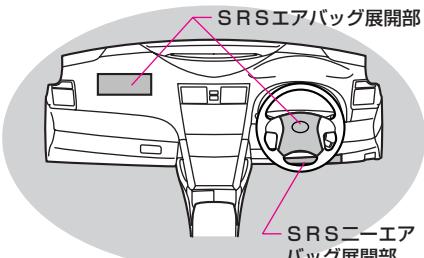
- 車両前部にグリルガードやワインチなどを装着する場合は、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが誤作動するなどして危険です。





(4) SRSエアバッグ展開部を強くたたかないでください。

- ステアリングパッド、インストルメントパネル、フロントシート側面、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部など、SRSエアバッグ展開部を強くたたくなど、過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



(5) SRSエアバッグがふくらんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください

- 構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



安全装備について



5. EBD付ABS&ブレーキアシストについての注意

警告

5. EBD付ABS&ブレーキアシストについての注意

EBD付ABS&ブレーキアシストについては、次の事項を必ず守ってください。お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

① EBD付ABS&ブレーキアシストを過信しないでください。

- EBD付ABSやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
EBD付ABS&ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。
 - ABSはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロプレーニング現象^{*}が起こった場合は、効果を発揮できません。
- ※ 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。
- EBD付ABSは制動距離を短くするための装置ではありません。
次の場合などは、EBD付ABSのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。
 - 砂利道、新雪路を走行しているとき。
 - タイヤチェーンを装着しているとき。
 - 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
 - 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。
- ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。



6. VSC・TRCについての注意

① TRCを過信しないでください。

- TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（P.221参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

② VSCを過信しないでください。

- VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転を心がけ、スリップ表示灯（P.221参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

!

警告

運転装置について

1. オートマチック車についての注意

オートマチック車については、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

① オートマチック車の特性

■クリープ現象

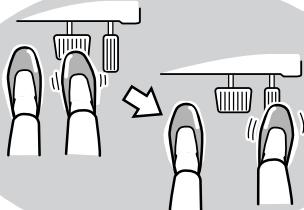
エンジンがかかっているとき、シフトレバーがP・N以外にあると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくてもゆっくりと動き出す現象をクリープ現象といいます。



■キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り替わり、エンジンの回転数が上昇して急加速させることができます。これをキックダウンといいます。

② 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。



- アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 後退するときは、身体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。





- ③ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。



●左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ④エンジンをかけるときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、エンジンをかけてください。

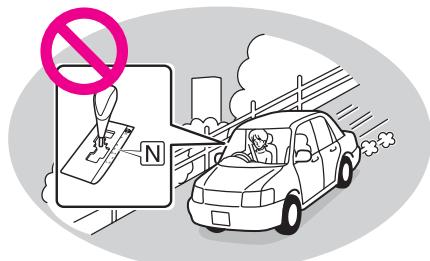
●安全のためシフトレバーは車輪が固定されるPに入れ、ブレーキペダルをしっかりと踏みエンジンをかけてください。

- ⑤発進するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んだままシフトレバーを操作してください。

●とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。

●レバー操作は絶対にアクセルペダルを踏み込んだまま行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ⑥走行中はシフトレバーをNに入れないでください。



●Nにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●Nにしたまま長時間走行すると、オートマチックトランスミッション内のオイルの潤滑が悪くなり、故障するおそれがあります。



運転装置について



⑦走行中はシフトレバーをRに入れなさい。

- オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑧前進で走行中は、シフトレバーをRに入れなさい。

- 車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。



⑨停車中は、空ぶかしをしないでください。

- P・N以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑩駐車するときは、シフトレバーをPに入れてください。

- P以外にある場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだとき急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

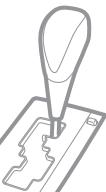
⑪坂道などでは、シフトレバーをD、4、3、2、Lに入れたまま惰性で後退することは絶対にしないでください。

- 同様にRに入れたまま惰性で前進することは絶対にしないでください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。

⑫そのほかにも以下の点に注意してください。

- 少し後退したあとなどは、シフトレバーがRにあることを忘れてしまうことがあります。後退したあとはすぐNにもどすよう習慣づけましょう。
- 切り返しなどでシフトレバーをDからR、RからDと何度もレバー操作をするときは、その都度、ブレーキペダルをしっかりと踏み、完全に車を止めてから行ってください。またシフトレバーの位置も忘れずに確認してください。

運転装置について



2. 4WD車についての注意

4WD車については、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

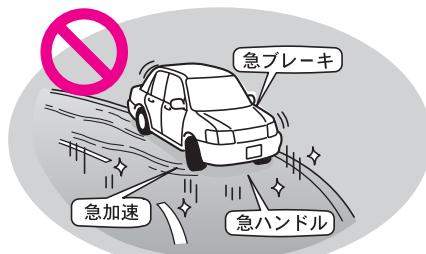


①無理な運転は禁物です。



- この車の4WD（Vフレックスフルタイム4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性の確保を目的とした4WDですので、無理な運転はしないでください。

②すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。



- 4WD車といっても万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

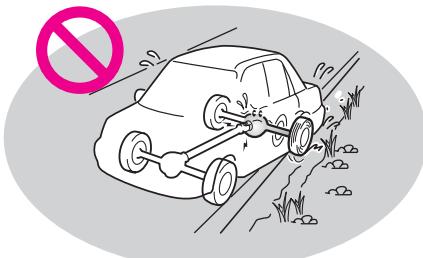


運転装置について

警告

2. 4WD車についての注意

- ③脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。



- 前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

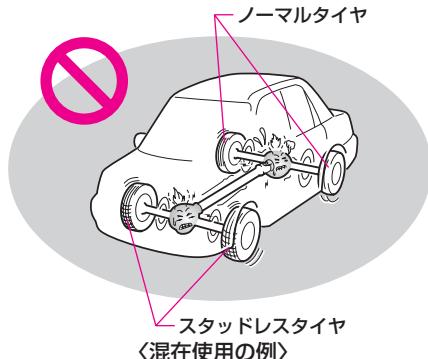
- ④渡河などの水中走行はしないでください。



- 渡河などの水中走行をすると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。
- 万一、水中につかってしまったときは、必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。
- ブレーキの効き具合。
 - エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）・ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
 - プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。



- ⑤タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。



- タイヤはすべて、指定サイズで同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - 4輪の空気圧の差が著しいとき。
 - 空気圧が指定値からはずれているとき。
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.393参照）
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.429参照）

運転装置について



3. クルーズコントロールについての注意

① クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをOFFにしてください。

● 誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

② 次のような状況のときは、クルーズコントロールを使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

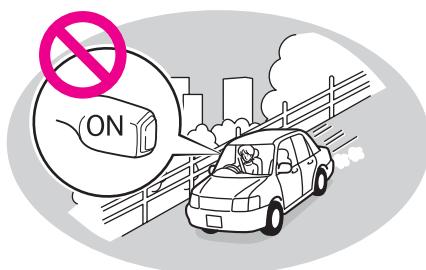
● 交通量の多い道や急カーブのある道では、道路の状況に合った速度で走行できないため、事故につながるおそれがあり危険です。

● 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面では、タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあり危険です。

● 急な下り坂では、エンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度をこえてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

クルーズコントロールについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や生命にかかる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



運転装置について

4. スマートエントリー＆スタートシステムについての注意

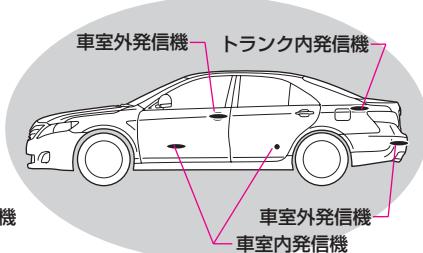
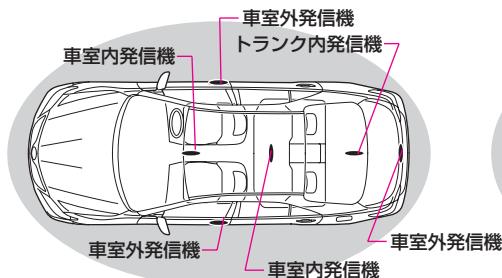


スマートエントリー＆スタートシステムについては、次の事項を必ず守ってください。

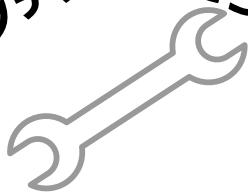
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な障害につながるおそれがあり危険です。

①植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22cm以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器が近づかないようにしてください。

- 電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
- スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



メンテナンスについて



1. 点検・手入れ時の注意

点検・手入れ時は、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

点検整備の詳細については「メンテナントート」をお読みください。

- ①エンジンルームを点検するときは、必ずエンジンを停止してください。また、火気を近づけないでください。

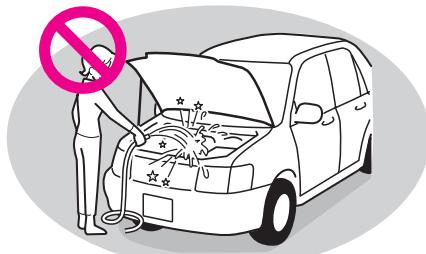


- エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり近づいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、エンジンが停止していても、冷却水温が高いときは、冷却ファンが急にまわり出すことがありますので、注意してください。なお、火気をバッテリーや燃料配管に近づけないでください。爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ②エンジン停止直後はエンジン・排気管・ラジエーターなど高温部には触れないでください。

- やけどをするおそれがあります。なお、オイルやその他の液体も高温になっていることがありますので注意してください。

- ③エンジンルーム内に水をかけないでください。



- エンジンルーム内に水をかけると、電装品がショートしたりして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。



④車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。



- オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑤洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。

- ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、錆びてブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。

⑥ヒューズを交換するときは、規定容量以外のヒューズを使用しないでください。

- 配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

⑦エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。

- ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

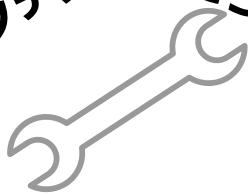
⑧エンジンルームを点検したあとは、エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。

- 点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

⑨電球を交換するときは、電球やまわりの部品が冷えてから交換してください。

- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

メンテナンスについて



2. タイヤについての注意

タイヤについては、次の事項を必ず守つてください。

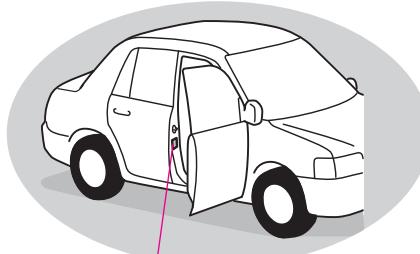
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

①日常点検として、必ずタイヤの点検を行ってください。

- タイヤの点検は、法律で義務づけられています。
- タイヤは以下の点について点検してください。
 - タイヤの空気圧。
 - タイヤのき裂・損傷の有無。
 - タイヤの溝の深さ。
 - タイヤの異常な摩耗。(極端にタイヤの片側のみが摩耗している・摩耗程度がほかのタイヤと著しく異なるなど。)

タイヤの点検方法は、「メンテナンスノート」をお読みください。

②タイヤ空気圧は、必ずタイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整してください。



「タイヤ空気圧」の表

- 指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.429で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

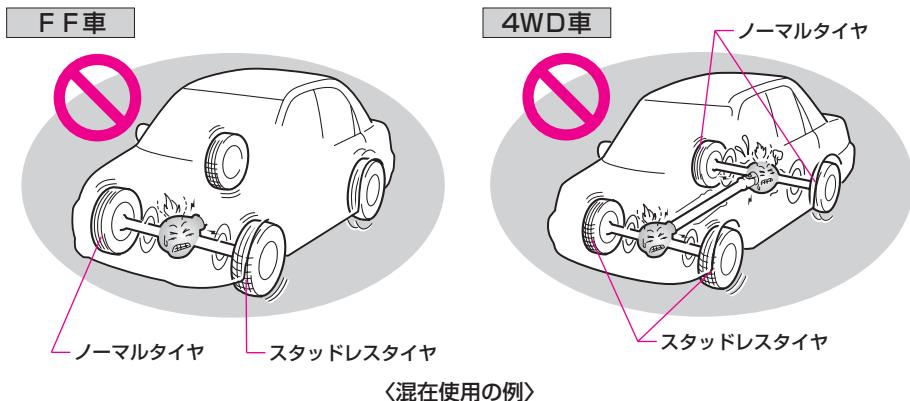
指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。高速走行時にスタンディングウェーブ現象^{*}によりタイヤがバースト(破裂)したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

^{*} 高速で走行している時に、タイヤが波うつ現象。



③タイヤはすべて、必ず指定サイズで同一種類のタイヤを装着してください。

- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しないでください。
- タイヤを混在使用すると、左右タイヤ（4WD車の場合は前後左右タイヤ）で常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイルもれや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。



- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるのでタイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - 4輪の空気圧の差が著しいとき。
 - 空気圧が指定値からはずれているとき。
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。(P.393参照)
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。(P.429参照)
- 指定以外のタイヤおよび4輪とも同一でないタイヤを装着すると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に發揮できないばかりでなく、前後左右のタイヤに回転差が発生するなどして、正確な車両速度が検出できなくなる場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
 - A B S & ブレーキアシスト
 - T R C・V S C
 - クルーズコントロール
 - G P Sボイスナビゲーション
 - マルチインフォメーションディスプレイ

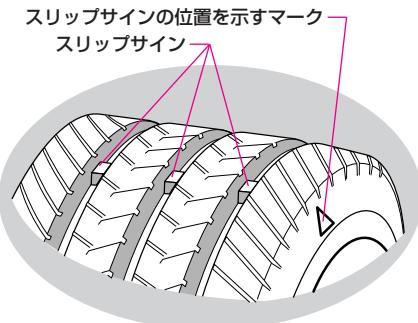
④摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。

- タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロブレーニング現象^{*1}により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

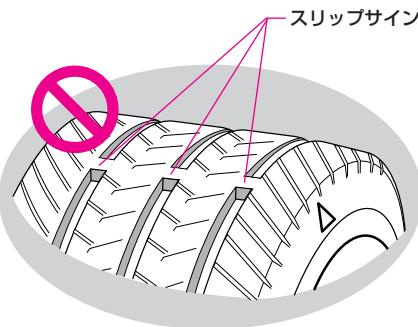
^{*1}水のたまつた道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

^{*2}イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

スリップサインの位置を示すマーク
スリップサイン



〈例：スリップサインが出ていない状態〉^{*2}



〈例：スリップサインが出ている状態〉^{*2}

⑤タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。
また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

⑥冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。

⑦タイヤチェーン装着時は、速度を控えて慎重に運転してください。

- タイヤチェーン装着時は、約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため必ず慎重に走行してください。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあり危険です。
また、ABS作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。

⑧タイヤを交換したときは、ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。



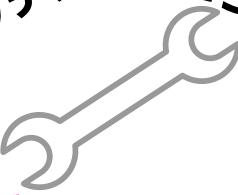
- 確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。

締めつけトルク：約105N・m {1050kgf・cm}

- タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ⑨ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部や、ディスクホイールのボルト穴につぶれやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。
- つぶれやき裂などの異常があると、ナットを締めづけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ⑩段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。
- 段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃により、タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。
- ⑪歩道の縁石などにタイヤが当たらないように注意してください。
- タイヤ・ディスクホイールが損傷する場合があります。
- ⑫応急用タイヤについては以下の点に注意してください。
- 応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに、一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa {4.2kg/cm²}
- 車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。ほかのタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ⑬走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
- 走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっています。タイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

メンテナンスについて



3. バッテリーについての注意

バッテリーについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



3. バッテリーについての注意

①日常点検として必ずバッテリーの液量を点検してください。

- バッテリーの液面が各液槽とも、バッテリー側面に表示されたLOWER LEVEL（下限）以下のまま使用、充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発するおそれがあり危険です。点検方法は「メンテナンスノート」を参照し、液量が少ないとときは補給してください。

②バッテリーあがりで、ブースターケーブルをつなぐときは、接続順や接続箇所を間違えないように注意してください。 (P.456参照)

- バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

③エンジンがかかっているときや、充電中は、バッテリーに近づかないでください。



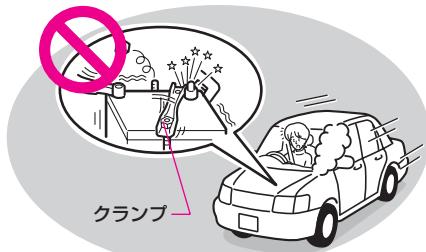
- 充電中は、バッテリーから有毒で腐食性の高い希硫酸を含んだバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、失明など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着した場合は、すぐに衣服を脱ぎ、液が付着した身体の部分を多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。

④火気をバッテリーに近づけないでください。

- バッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑤バッテリーを交換したときは、正しい位置にクランプを取りつけ、ナットを確実に締めつけてください。

- 確実に取りつけたり、締めつけたりしないと、走行中にクランプがはずれてショートするなどして、車両火災につながるおそれがあり危険です。





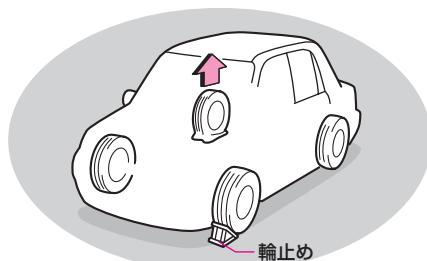
警告

4. ジャッキアップについての注意

ジャッキアップについては、次の事項を必ず守ってください。

お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ① ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角の位置にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。



- 車が動きジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。なお、輪止めはトヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

- ② ジャッキアップした車の下には、絶対にもぐらないでください。



- 万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車載工具のジャッキは、タイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外は使用しないでください。



③ジャッキアップするときは、次の点に注意しないと、車体が損傷したり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 人を乗せたままジャッキアップをしないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
- ジャッキアップするときは、ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置（P.443参照）にかかっていることを必ず確認してください。
- 車体は、タイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。
- ジャッキアップした車体をおろすときは、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。

④車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。

- ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⑤工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。

- 室内などに放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



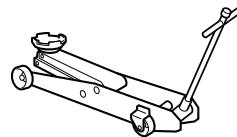
! 警告

4. ジャッキアップについての注意

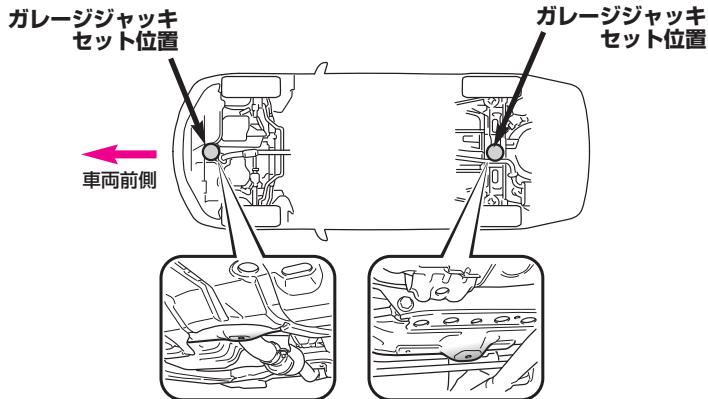
⑥車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、次のことをお守りください。

- 車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部（FF車）などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。

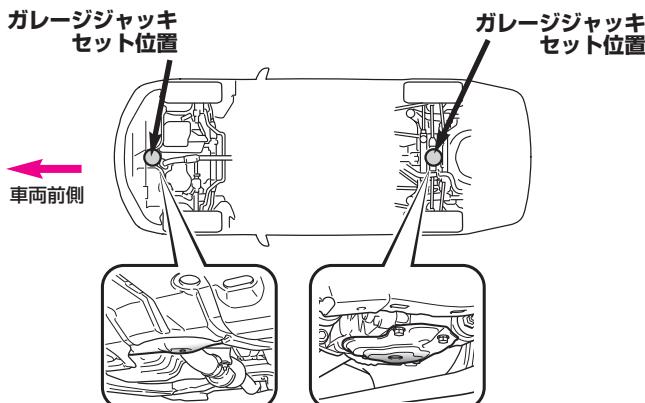
車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属する取扱説明書を十分に確認のうえ、使用してください。



FF車



4WD車





1. オーバーヒートについての注意

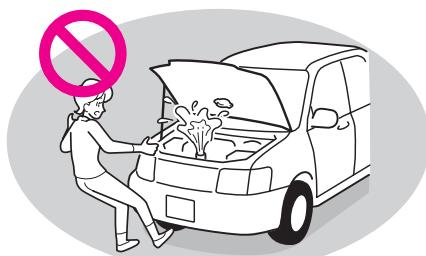
オーバーヒートについては、次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ① オーバーヒートし、ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。



- エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも、高温になっている部分がありますので、ボンネットを開けるときは十分注意してください。

- ② ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーター キャップを開けないでください。



- 蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
● キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包み、ゆっくりと開けてください。



2. 万一の事故のときの注意

①エンジンをかけずにけん引される場合は、ハンドルやブレーキ操作に十分注意してください。

●エンジンがかかっていないと、パワーステアリングやブレーキ倍力装置が働かないため、操作力が非常に重くなります。けん引される車の運転は、十分注意して行ってください。

②けん引中に、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。



●けん引フックやロープが破損し、それが周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

③けん引中に“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしないでください。

●ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



オーバーヒート・万一の事故

警告

2. 万一の事故のときの注意

- ④ 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。また、発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。



- 可燃物の近くで使用すると引火するおそれがあり危険です。また、使用中に顔や身体に向けると、炎でやけどするなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- ⑤ 事故後、エンジンを始動する前に燃料がもれていないか確認してください。



- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかれば、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままエンジンを始動すると燃料に引火し、重大な事故につながるおそれがあり危険ですので、エンジンを始動しないでください。

この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

その他の注意



次の事項を必ず守ってください。
お守りいただかないと、思わぬ事故や重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

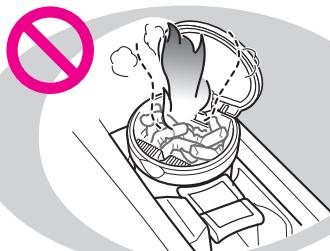


その他の注意

①違法改造は絶対にしないでください。

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害をおよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害をおよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
異なる種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - 電装品・無線機などの取りつけ、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

②灰皿を使用したあとは、マッチ・タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。



- 開けたまま放置すると、車両火災につながるおそれがあり危険です。また、灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

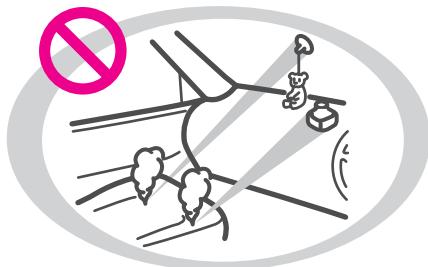
！ その他の注意



その他の注意

③ カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものをいれないとください。

- 急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
- 急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体が当たるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。



④ ウィンドウガラスなどには、吸盤をつけないでください。

- ウィンドウガラスにアクセサリーの吸盤を取りつけたり、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置くと、吸盤や容器がレンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。



⑤ トランクには人を絶対に乗せないでください。

- 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が飛ばされ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⑥ ミラーヒーターの作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。

- やけどをするおそれがあり危険です。

⑦ フロントワイパードアイサーの作動中はガラス下部が熱くなりますので、手を触れないでください。(フロントワイパードアイサー装着車)

- やけどをするおそれがあり危険です。



⑧電子キーの電池交換時に、取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。

●飲み込むと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⑨アルミボディには、磁石で固定するアクセサリーを取りつけることはできません。

●磁石はアルミにつかないため、磁石式の初心者運転標識や高齢運転者標識などは取りつけることはできません。

⑩車内のスイッチなどに飲み物などをこぼさないように注意してください。

●インストルメントパネル、コンソールボックス、ドアなどにあるスイッチなどに飲み物がかかると、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。万一、スイッチに飲み物がかかった場合は、すみやかにトヨタ販売店にご相談ください。

⑪エンジンがかかっているとき、またはエンジン停止直後、マフラーに触れないように注意してください。

●エンジンがかかっているときやエンジン停止直後のマフラーは高温になっています。荷物の積みおろし時などに手や足が触れると、やけどをするおそれがあります。

⑫ディスチャージヘッドライトを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

⑬シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。

●ドアやウインドウを開けたまま放置すると、直射日光がガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

！ その他の注意



その他の注意

⑯ メガネ、ライターやスプレー缶を車内に放置したままにしないでください。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすことがあります。
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発するなどして、火災につながるおそれがあり危険です。
- ライターやスプレー缶を収納装備に放置したり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして、火災につながるおそれがあり危険です。

⑯ 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。

- インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。



2

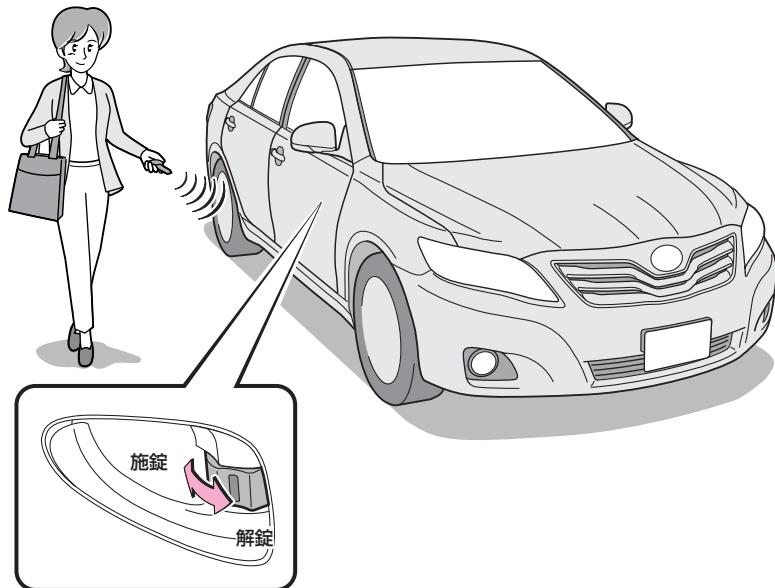
基本操作早わかり

(はじめてこの車にお乗りになるかたへ)

この章では、はじめて車を購入されたかたやトヨタ車にはじめてお乗りになるかたのために、この車の基本的な運転装置および装備品を簡単に説明しています。

詳しい取り扱い説明や注意事項は各章をしっかりとお読みください。

各部の開閉	92
シートの調整	94
シートベルトの着用	96
運転するときは	98
警告灯	102
スイッチ類の取り扱い	104
エアコン・オーディオ	106



ドアの施錠と解錠

スマートエントリー &
スタートシステムで



リモコンスイッチで



各部の開閉に関する詳しい紹介は

トランクの開閉 120、159

ドアガラスの開閉 151

ボンネットの開閉 165

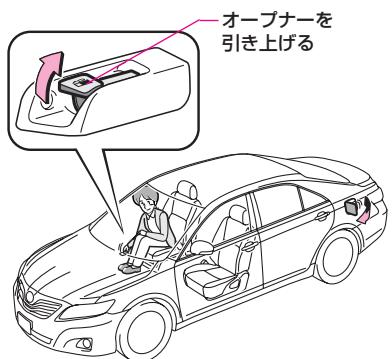
ドアの開閉 116、142

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉 162

ドアガラスの開閉



フューエルリッド (燃料補給口) の開け方





運転席の調整機能（その1）

前後位置

背もたれの角度

シート全体の上げ下げ

パワーシート



マニュアルシート



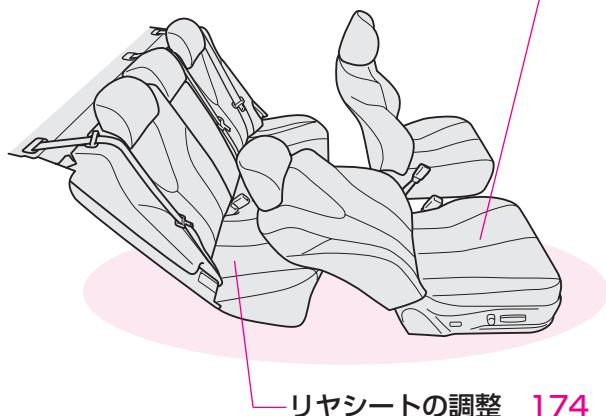
目次

早基
本
か
り
作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
いの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メンテナ
ンス万
一
の
とき

索引

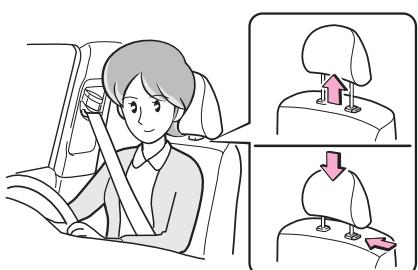
シートに関する詳しい紹介は

フロントシートの調整 169



運転席の調整機能（その2）

ヘッドラスト



シートベルトの着用



着用のしかた

1 ベルトを引き出します。



2 プレートをバックルに差し込みます。



① “カチッ”という音がするまで差し込みます。

② アンカーの高さを調整します。

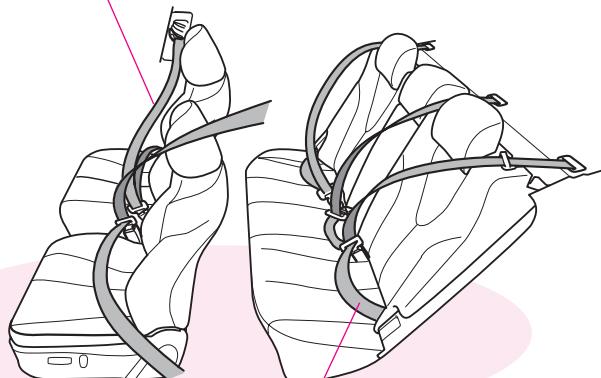
目次

早基
本
か
り
作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
いの安
全・
快適
装
備
の解
説と
注意車と
の上手な
付き合い
方メンテナ
ンス万
一
のとき

索引

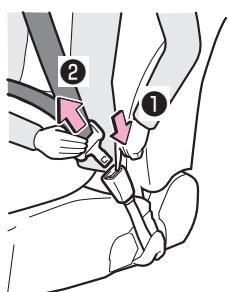
シートベルトに関する詳しい紹介は

シートベルトの着用 178



チャイルドシートの固定 191

はずし方



- ①バックルのボタンを押します。
- ②ベルトを巻き取らせます。

運転するときは

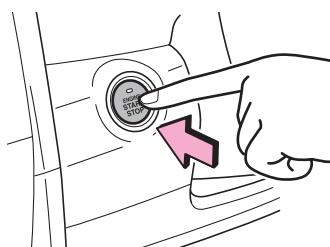


“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
イグニッションONモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。 (メーターが点灯します。)
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え方

1 電子キーを携帯して運転席に座ります。

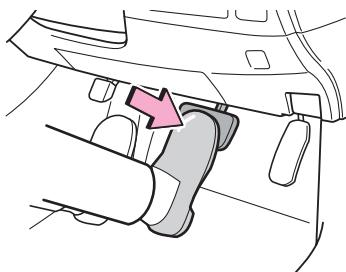
- 2 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。
スイッチを押すごとにスイッチが、
OFF⇒アクセサリーモード⇒イグニッションONモード⇒OFF…
の順に切り替わります。
- アクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。





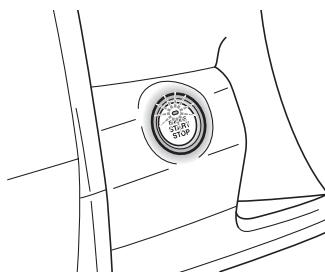
エンジン始動のしかた

- 1 電子キーを携帯して運転席に座り、ブレーキペダルをしっかり踏みます。

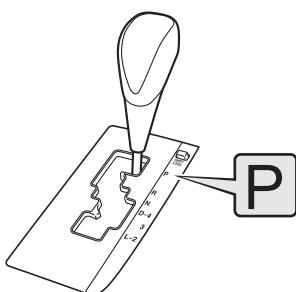


パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

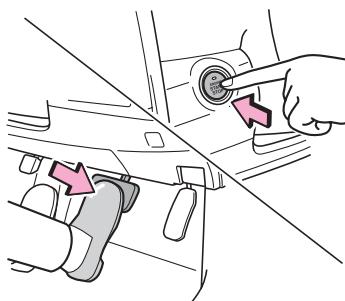
- 2 作動表示灯が緑色に点灯します。



- 3 シフトレバーの位置を確認します。



- 4 ペダルをしっかりと踏んだ状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。



ゆっくり確実に押してください。

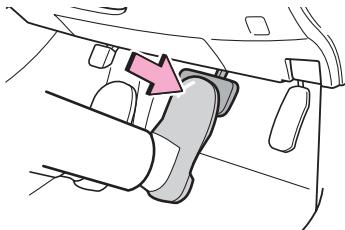
●エンジンが始動すると作動表示灯が消灯します。

運転するときは



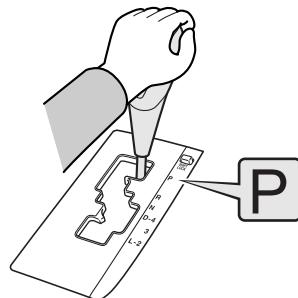
シフトレバーの動かし方（発進時の場合）

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。

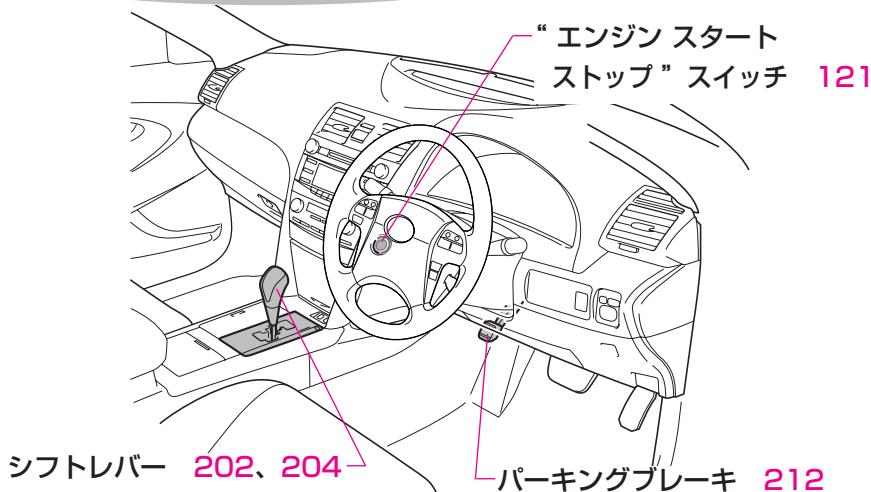


- パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

- 2 シフトレバーをPから操作します。

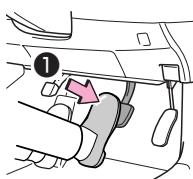


運転装置に関する詳しい紹介は



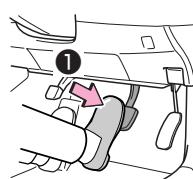
パーキングブレーキの使い方

解除のしかた

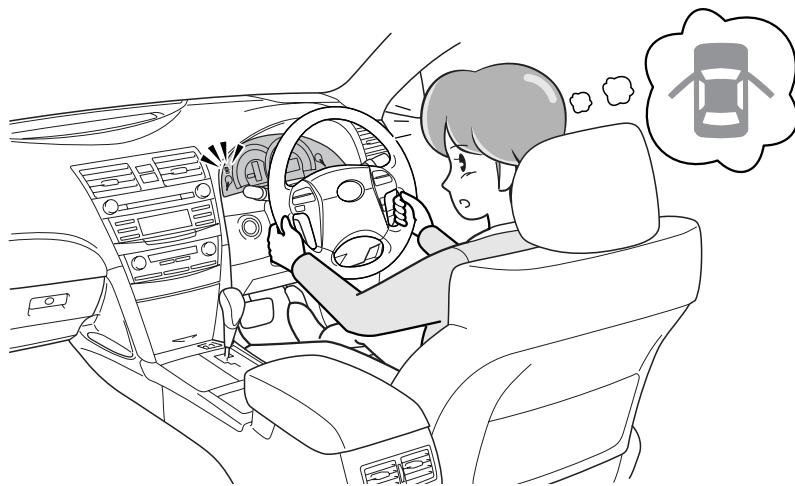


- ①右足でブレーキペダルをしっかりと踏みながら、
- ②左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

かけ方



- ①右足でブレーキペダルをしっかりと踏みながら、
- ②左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。



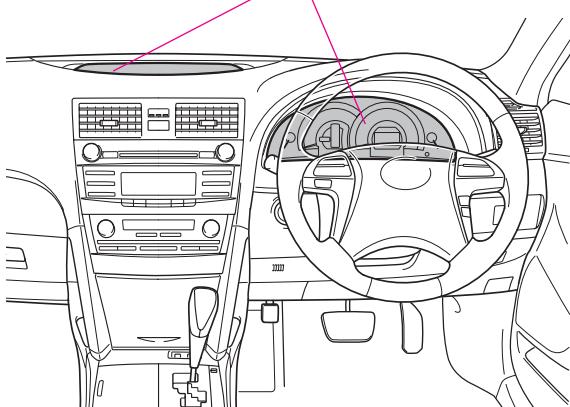
警告灯が点灯、または点滅したままのときは

警告灯	警告理由
	いずれかのドア、トランクが確実に閉まっていません。
	運転者がシートベルトを着用していません。
PASSENGER	助手席の乗員がシートベルトを着用していません。
	<ul style="list-style-type: none"> ●パーキングブレーキがかかっています。 ●パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液量の不足です。
	燃料切れが近づいています。 (FF車は約11L以下、4WD車は約10L以下で点灯)



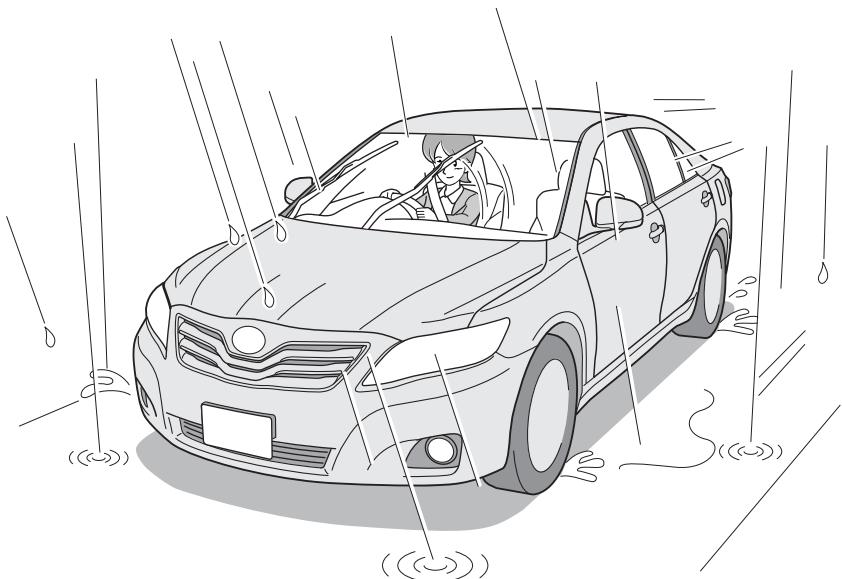
警告灯に関する詳しい紹介は

警告灯 224



警告灯が点灯、または点滅したままのときは

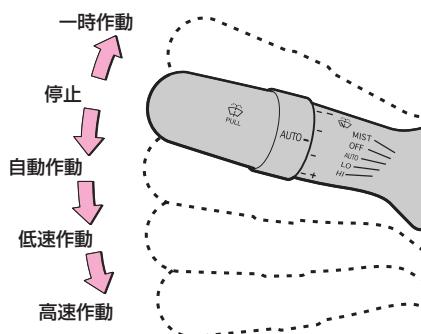
警告灯	警告理由
	SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯 SRSエアバッグシステム、またはプリテンショナー付シートベルトシステムの異常です。
	A B S & ブレーキアシストの異常です。 (V S C装着車)
	A B Sの異常です。 (V S C装着車を除く)
	エンジン電子制御システムなどの異常です。
	充電系統の異常です。
	ディスチャージヘッドライトオートレベルリング警告灯 ディスチャージヘッドライトのオートレベルリング(上下照射方向自動調整)システムの異常です。



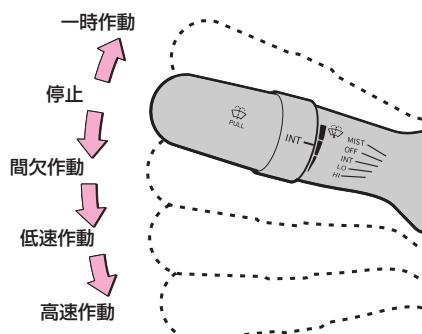
夜間や雨天時などの走行

フロントワイパーの使い方

(雨滴感知式)



(間欠時間調整式)





早基
本
か
り作

運
転
装
置
の
取
り
扱
い

取
り
扱
い
の
室
内
装
備
の

の安
全・
快適
装
備
と
注
意
説
明

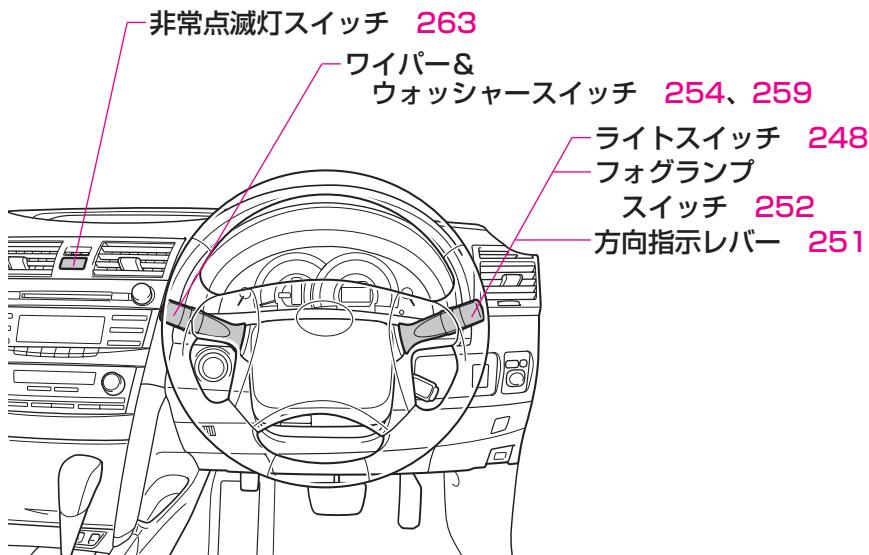
付
き
合
い
の
上
手
な
方

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
とき

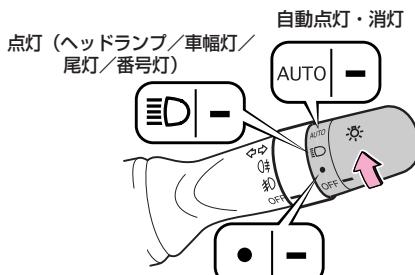
索
引

スイッチに関する詳しい紹介は



夜間や雨天時などの走行

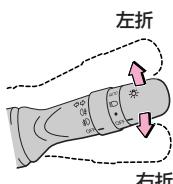
ランプのつけ方



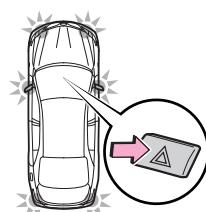
点灯 (車幅灯／尾灯／番号灯)

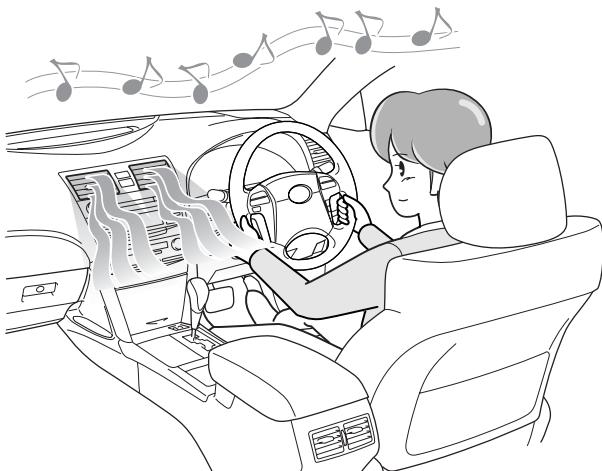
他車への合図

方向指示灯



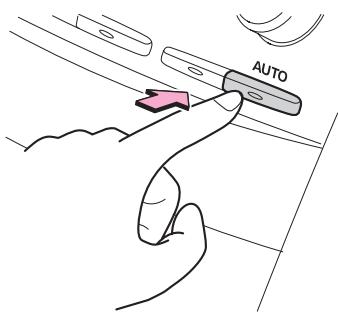
非常点滅灯





オートエアコンの使い方

1 AUTOスイッチを押します。



2 希望温度に合わせます。



早基
わ本
かり作運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱い安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い

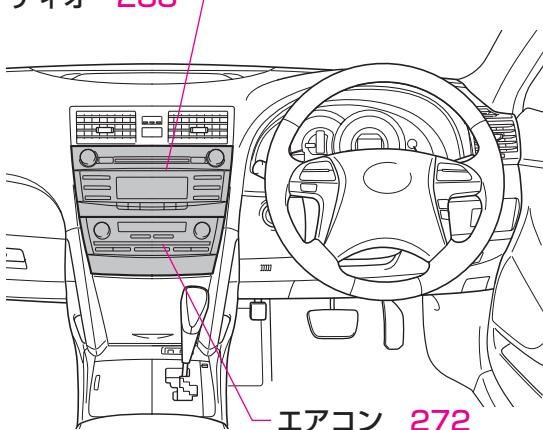
メンテナンス

万一のとき

索引

エアコン・オーディオに関する詳しい紹介は

オーディオ 288

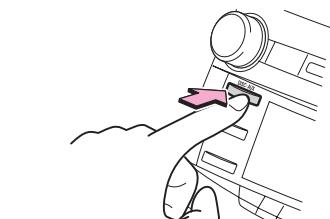
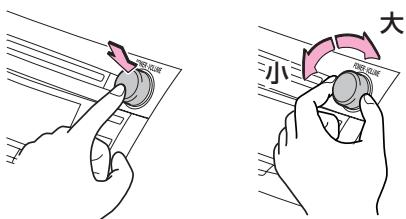


オーディオの使い方

電源の入れ方と音量の調整

CDを聞くには

電源入、切 音量

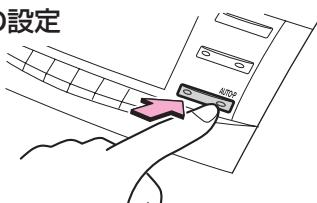
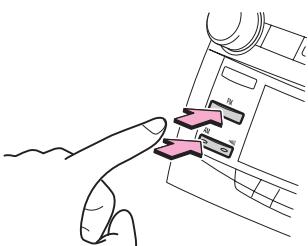


CDが入っているときは、DISCスイッチを押します。

ラジオを聞くには

AM、FM放送の切り替え

放送局の設定



AUTO・Pスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動でプリセットスイッチに放送局がセットできます。

3

運転装置の取り扱い

スマートエントリー & スタートシステム	110	シートの調整	167
スマートエントリー & スタートシステムについて	110	正しい運転姿勢	167
電子キー	112	フロントシートの調整	169
ドアの施錠・解錠のしかた	116	リヤシートの調整	174
トランクの解錠しかた	120	シートベルトの着用	178
エンジン（イグニッション）スイッチの切り替え方	121	シートベルトの 正しい着用	178
エンジン始動・停止のしかた	124	シートベルトの着用の しかた	181
その他の機能	129	シートベルト肩部高さ調整の しかた	183
警報・防止機能および警告表示	130	チャイルドシートの固定	186
こんなときは	139	I S O 対応チャイルドシート 固定専用バー&トップテザー アンカーでの固定	186
メカニカルキー	141	シートベルトでの固定	191
ドア・ドアガラスなどの開閉	142	ハンドル・ミラーの調整	194
ドアの開閉	142	ハンドルの調整	194
ドアガラスの開閉	151	インナーミラーの調整	195
ムーンルーフの開閉	155	ドアミラーの調整	198
トランクの開閉	159	シフトレバーの使い方	202
フューエルリッド（燃料補給口）の開閉	162	5速ゲート式シフトレバーの 取り扱い	202
ボンネットの開閉	165	4速ゲート式シフトレバーの 取り扱い	204

早基
わかり作
り取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備の安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万ーのとき

索引

オートマチック車の運転のしかた	206
発進のしかた	206
走行のしかた	208
停車・駐車のしかた	210
パーキングブレーキペダルの使い方	212
パーキングブレーキペダルの使い方	212
メーター・表示灯・警告灯の見方	214
メーター	214
表示灯	218
警告灯	224
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	236
マルチインフォメーション	
ディスプレイでできること	236
各表示の切り替えのしかた	237
クルーズインフォメーション	
ディスプレイ	238
警告表示	242

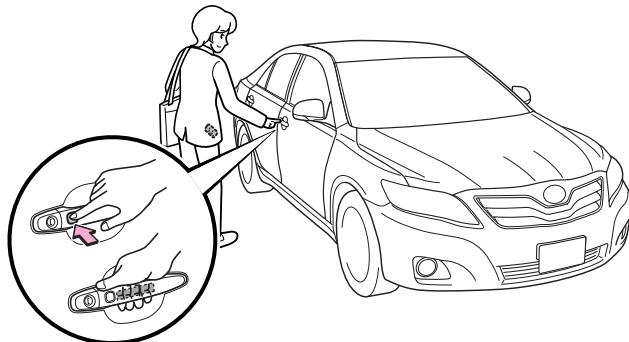
スイッチの使い方	248
ライトスイッチの使い方	248
方向指示レバーの使い方	251
フォグランプの使い方	252
雨滴感知式ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方	254
間欠時間調整式ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方	259
リヤウインドウデフォッガー(曇り取り)スイッチの使い方	261
フロントワイパーデアイサー	
スイッチの使い方	262
非常点滅灯スイッチの使い方	263
ホーンの使い方	264
クルーズコントロールスイッチの使い方	265

スマートエントリー & スタートシステム

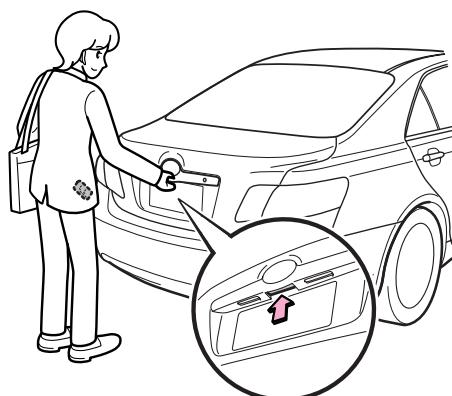
スマートエントリー & スタートシステムについて

スマートエントリー & スタートシステムは電子キーを携帯しているだけで、ドアの施錠・解錠、“エンジンスタートストップ”スイッチの切り替え、エンジンの始動をすることができます。

ドアの施錠・解錠 (P.116参照)

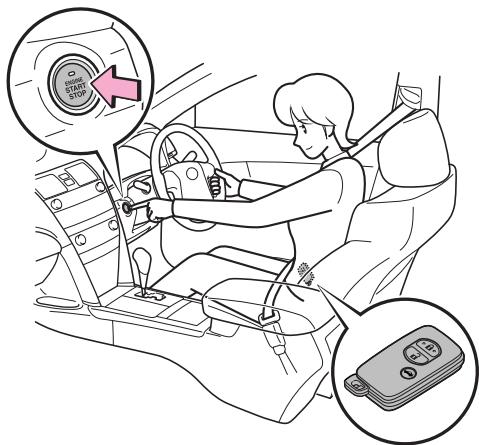


トランクの解錠 (P.120参照)

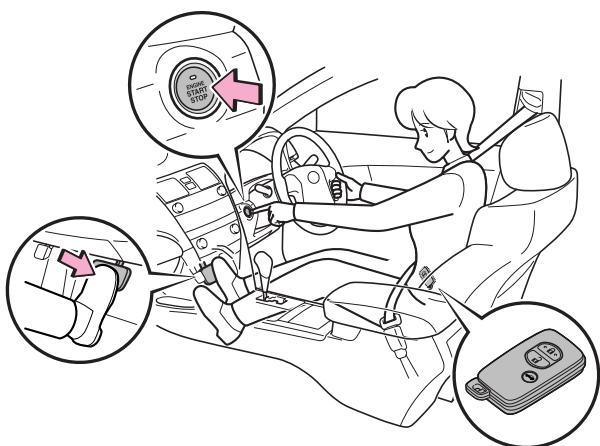


早
基
本
か
り
作運
転
装
置
の
取
り
扱
い取
り
扱
い
室
内
装
備
の安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え (P.121参照)

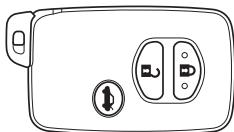


エンジンの始動・停止 (P.124参照)



電子キー

電子キーと車両が通信を行い、スマートエントリー & スタートシステムが作動します。

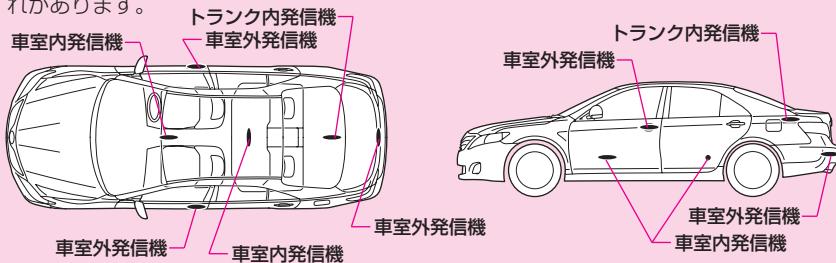


電子キーは運転者が必ず携帯してください。



警告 植え込み型心臓ペースメーカーを装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22cm以内に植え込み型心臓ペースメーカーが近づかないようにしてください。

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器を装着されているかたは、車室内発信機・車室外発信機から約22cm以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび、植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。
- スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障の原因となりますので、以下のことをお守りください。

- ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
- 分解しないでください。
- 無理に曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをつけないでください。
- 電子キーの表面にシールなどを貼らないでください。
- テレビ、オーディオなどの磁気を帯びた機器、または低周波治療器などの医療電気機器の近くに置かないでください。
- 超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
- 電子キーにガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着すると、電子キーが変形したり、ひび割れたりすることがあります。
- 車から離れるときは、
 - 1.シフトレバーをPにし、
 - 2.パーキングブレーキをかけ、
 - 3.“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにして、
 必ず電子キーを携帯していることを確認してからドアを施錠してください。
- スマートエントリー & スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンが正常に作動しない場合があります。その場合は、P.452「電子キーが正常に働かないときは」を参照してください。
 - 電子キーのバッテリー（電池）が消耗しているとき。
 - 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき。
 - 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき。
 - 電子キーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき。
 - 複数の電子キーが近くにあるとき。
 - 他の車の電子キー、電波式ワイヤレスキー、パソコンなど電波を発信する製品を同時に携帯または使用しているとき。
 - リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき。
- 電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。
 - 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
 - 必ず日本国内でご使用ください。



知識

電子キーについて

- 電子キーは2個あります。
- 電子キーはドアの施錠・解錠の他、エンジンの始動などに使います。
- ワイヤレスドアロックリモコンの操作についてはP.142を参照してください。
- 電子キーを紛失しないように十分注意してください。電子キーを紛失した場合は、電子キーの作製にコンピューターの交換が必要となるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
- 電子キーの作製には特殊な加工が必要になりますので、トヨタ販売店以外では購入できません。
- スマートエントリー & スタートシステムの故障等でトヨタ販売店に車両を持っていく場合は、車両に装備されている電子キーをすべてお持ちください。
- 盗難防止システムについてはP.360を参照してください。

電子キーのバッテリーについて

- 電子キーのバッテリー（電池）は常に消耗しています。
電子キーは車両との通信のために常に受信動作をしており、電子キーに内蔵されたバッテリーを消費しています。電池の寿命は使用状況によりますが約1～2年程度です。（まったく使用しなくても電池は消耗します。）バッテリー電圧が低下した場合、新しい電池と交換してください。電池交換は、お客様ご自身で交換することができますが（P.394参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。
- “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをOFFにしたとき、電子キーのバッテリーが低下していると、キーバッテリー低下警告表示が表示されます。（P.133参照）

航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

電子キーの保管について

電子キーを家電製品の近くに保管しないでください。家電製品の電磁波により、電子キーが誤作動したり、常時通信状態となり電池が著しく消耗する場合があります。
影響のある主な電化製品（常時約1m以上離すのが望ましいものの例）
テレビ、パソコン、電磁調理器、電気スタンド、充電中のコードレス式電話および携帯電話

 知識

電子キーの使用数について

同じ車両で使用できる電子キーの数を変更することができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

キーナンバープレートについて



キーナンバー

お客様以外にキーナンバーがわからないように、電子キーではなくプレートにキーナンバーを打刻しました。

- キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
- 万一、電子キーを紛失した場合、キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りの電子キーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しい電子キーをつくることができます。
- 万一、電子キーを1個でも紛失した場合、盗難・事故などを防ぐため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー & スタートシステムの解除について

スマートエントリー & スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

! 警告

早基
本
か
り
作取
運
転
装
置
の取
り
扱
い
室
内
装
備
のの安
全
解
説
・快
適
装
備
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
の
交
互
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

ドアの施錠・解錠のしかた

施錠・解錠のしかた



■施錠するときは

電子キーを携帯し、すべてのドアが閉まっている状態で、フロントドアハンドルのロックスイッチを押します。

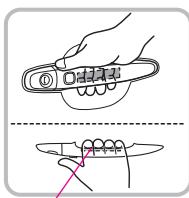
- すべてのドアの施錠ができます。
- 施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。
- 必ず施錠されたことを確認してください。



■解錠するときは

電子キーを携帯し、フロントドアハンドル裏側のセンサー部に触れるようにドアハンドルを握ります。

- すべてのドアの解錠ができます。
- 解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。





車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。

- 車内に電子キーがある場合は、ロックスイッチを押さないでください。電子キーが車内に閉じ込められる可能性があります。
- ドア施錠時に、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがある場合は、電子キーと車両は定期的に通信を行うため、長時間その状態で放置すると、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。車両を使用しないときは、電子キーを車両付近（約2m以内）に置かないでください。

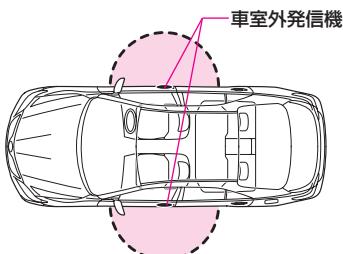


作動範囲について

車室外発信機の検知エリア内（各フロントドアから周囲約70cm以内）

- ドアガラスやドアハンドルに近づきすぎた場合などは作動しないことがあります。

検知エリア
各ドアハンドルから周囲約70cm以内



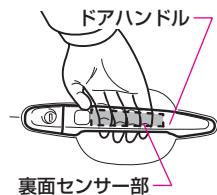
作動条件について

- 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に電子キーを携帯して入ると、自動的にIDコードの照合を行い、照合が一致したときのみドアが解錠されます。降車後、すべてのドアが閉まっている状態でロックスイッチを押すと、車室内外で、IDコードの照合を行い車内に電子キーがなく、車外に電子キーがあると判断されると施錠されます。
- 電子キーを検知しているドアハンドルでのみ、ドアの施錠・解錠を行うことができます。
- 車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときやドアガラスやドアハンドルに近づきすぎたときは正常に作動しない場合があります。
- 電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのドアの施錠・解錠はできません。この場合は、P.452の「電子キーが正常に動かないときは」を参照してください。

知識

施錠・解錠について

- ロックスイッチを早押しした場合、施錠されないことがあります。
- 施錠後、約3秒間はスマートエントリー & スタートシステムで解錠することはできません。
- 次のようなときは、ロックスイッチを押さないでください。ロックスイッチを押してもドアは施錠されず、半ドア警報（P.131参照）が鳴ります。
 - いずれかのドアが開いているとき
 - ドアの開閉中
- 解錠するときは、フロントドアハンドル裏側のセンサー部を確実に握り、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
 - ドアハンドル裏側のセンサー部以外に触れても解錠されません。
 - 皮手袋、スキーハンドルなどを手に装着してドアハンドル裏側のセンサー部に触れた場合は、解錠が遅れたり、解錠されないことがあります。
 - 他の車の電子キー、電波を発信するような製品などを同時に携帯した場合、作動時間が通常よりも長くなることがあります。
- 急な車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内への接近や急なドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 電子キーが車室内発信機の検知エリア内（車両室内）にある場合でも、ワイヤレスドアロックリモコン（P.142参照）、メカニカルキー（P.452参照）、ドアロックスイッチ（P.145参照）での施錠はできますが、その後スマートエントリー & スタートシステムでの解錠はできません。
- 解錠後、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。
- 電子キーが車室外発信機（フロントドア）の検知エリア内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに多量の水がかかるとスマートエントリー & スタートシステムが働き、ドアが解錠することがありますが、ドアの開閉操作がなければ、約30秒後に自動的に施錠されます。





知識

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの開閉、解錠・施錠、“エンジンスタートストップ”スイッチの状態、電子キーを携帯した状態での検知エリア内への進入と連動して“エンジンスタートストップ”スイッチ照明、ルームランプ（DORの位置のとき）が点灯・消灯します。

- 電子キーを携帯し、車室外発信機（フロントドア）の検知エリア外から検知エリア内に入ると点灯し、約15秒後に消灯します。ただし、検知エリア内から検知エリア外へ出て、約3秒以内に検知エリア内にもどった場合や、検知エリア内に留まっている場合は作動しません。※
- いずれかのドアを開けると点灯し、すべてのドアを閉めると約15秒後に消灯します。またムーンルーフ装着車では、リヤドアを開けると開けた側のリヤ室内灯が点灯し、閉めると消灯します。※
- “エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにすると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- “エンジンスタートストップ”スイッチがOFFのとき、運転席ドア、助手席ドアを解錠すると点灯し、約15秒後に消灯します。※
- 次のような場合は、ただちに消灯します。
 - すべてのドアを閉め、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしたとき
 - “エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにして、すべてのドアを閉めたとき
 - すべてのドアを閉め、フロントドアを施錠したとき

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.430の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

バッテリーあがり防止機能

いずれかのドアが開いた状態で“エンジンスタートストップ”スイッチ照明、ルームランプ（DORの位置のとき）が約20分以上点灯し続けると、バッテリーあがり防止機能が働き自動的に消灯します。

早基本
わ本
かり作取り扱い
装置の取り扱い
室装備のの安全
解説・
注意装備付き合いの上
手な

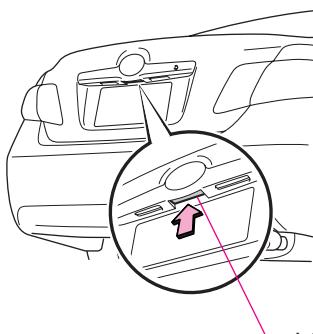
メンテナンス

万ーのとき

索引

トランクの解錠のしかた

開け方



電子キーを携帯し、トランクオープンスイッチ（車室外）を押すと開きます。

- 電子キーが車内にあるとき、トランクを施錠しているとき（P.159参照）は、スイッチを押しても開きません。

知識

作動条件について

- 車室外アンテナ（トランク）の検知エリア内に電子キーを携帯して入り、トランクオープنسイッチ（車室外）を押すと自動的にIDコードの照合を行い、照合が一致したときのみ解錠されます。
- 電子キーが車室外アンテナ（トランク）の検知エリア内にあれば、電子キーを携帯している人以外でもトランクオープンスイッチ（車室外）を押すことにより、トランクを解錠することができます。
- 車室外アンテナ（トランク）の検知エリア内に入っていても、電子キーが地面の近くや高い場所にあるときやリヤバンパー中央に近づけすぎた場合は正常に作動しない場合があります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスドアロックリモコンでのトランクの解錠はできません。この場合は、P.452の「電子キーが正常に働かないときは」を参照してください。

作動範囲について



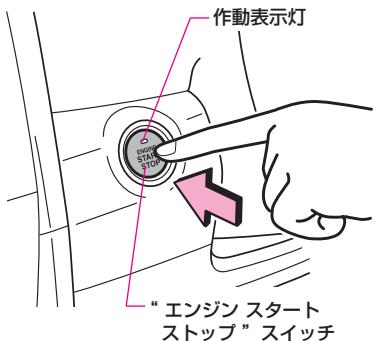
車室外アンテナの検知エリア内（トランクオープンスイッチから周囲約70cm以内）

- リヤバンパー中央に近づけすぎた場合などは作動しないことがあります。

検知エリア

トランクオープンスイッチから周囲約70cm以内

“エンジンスタートストップ”スイッチの切り替え方



1 電子キーを携帯し、運転席に座ります。

2 ブレーキペダルを踏まずに “エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

“エンジンスタートストップ”スイッチを押すごとに、スイッチが
OFF⇒アクセサリーモード⇒イグニッションONモード⇒OFF…
の順に切り替わります。

- アクセサリーモード、イグニッションONモードのときは作動表示灯が橙色に点灯します。
- イグニッションONモード⇒OFFは車両が停止しているときに切り替わります。
- “エンジンスタートストップ”スイッチを早く押すと、切り替わらないことがあります。目的のスイッチの状態になるまで、1回ごと確実に押してください。

“エンジンスタートストップ”スイッチの状態	作動表示灯の色	エンジンの状態	各状態の働き
OFF	消灯	停止	電装品が停止している状態です。
アクセサリーモード	橙色	停止	オーディオなどの電装品が使用できます。
イグニッションONモード	橙色	停止	すべての電装品が使用できます。 (メーターが点灯します。)
	消灯	回転中	すべての電装品が使用できます。 通常運転中の状態です。

目次

警告

早基
本
か
り
作取
運
転
装
置
の
取
扱
い室
内
装
備
の
取
扱
いの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
使
いメンテナ
ンス万
一
の
とき

索引



注意

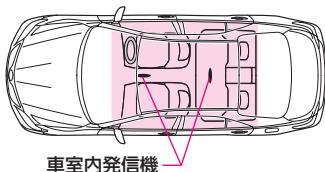
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置しないでください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードまたはアクセサリーモードのまま長時間放置すると、車両のバッテリーがあがる原因となります。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
- 車幅灯が点灯しても、“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

作動範囲について



車室内発信機

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）

- 車外でもドアガラスや屋根の上などに近づきすぎた場合などは、“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替えが可能となることがあります。

● 検知エリア

車両室内

作動条件について

- 車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチを切り替えることができません。この場合、スイッチを押すと、キーなし警告表示が表示されます。(P.134参照)
- 電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、パッケージトレイ上、グローブボック内(P.322参照)などに置かないでください。“エンジン スタート ストップ”スイッチが切り替わらないことがあります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムで“エンジン スタート ストップ”スイッチを切り替えることはできません。この場合は、P.452の「電子キーが正常に働かないときは」を参照してください。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを早押しした場合、スイッチが切り替わらないことがあります。



知識

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより“エンジンスタートストップ”スイッチが切り替わらないことがあります。(P.360参照)

便利機能について

オートOFF機能

シフトレバーがPにあるとき、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードにした状態で約1時間放置するとバッテリーあがり防止のために、自動的にスイッチがOFFになります。

車両バッテリー脱着時について

車両は常に“エンジンスタートストップ”スイッチの状態（アクセサリーモードまたはイグニッションONモード）を記憶しているため、車両バッテリーを再接続したときは、バッテリーをはずす前のスイッチの状態に復帰します。修理などで車両バッテリーをはずすときは、必ずスイッチをOFFにしてから行ってください。

車両バッテリーあがり時に、バッテリーがあがる前のスイッチの状態がわからないときは、とくに注意してください。

! 警告

早基本
わ本
かり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全・
解説・
快適装備
と注意付き合い
車との上手な
方

メンテナンス

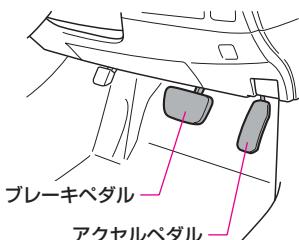
万一のとき

索引

エンジン始動・停止のしかた

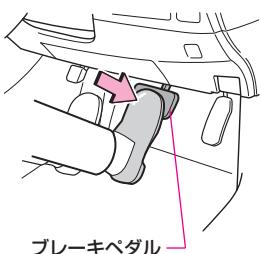
エンジン始動のしかた

1 電子キーを携帯し、運転席に座ります。



2 ペダルの位置を確認します。

正しい運転姿勢（P.167参照）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認します。



3 パーキングブレーキがかかっていることを確認します。

4 シフトレバーの位置を確認します。

シフトレバーが**P**にあることを確認します。

●**N**でも始動できますが、安全のため**P**で行ってください。

5 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。

●作動表示灯が点灯するまで強く踏んでください。

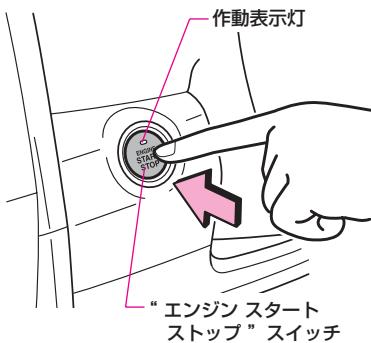
●作動表示灯が緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



6 ブレーキペダルを踏みながら“エンジンスタートストップ”スイッチを押して、エンジンを始動します。

エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。

- 完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
- ブレーキペダルを踏みながら“エンジンスタートストップ”スイッチを押せば、どのスイッチの状態からでもエンジンを始動することができます。
- エンジンが始動しない場合、ブレーキペダルが重くなることがあります、その際には通常よりも強くペダルを踏んでください。
- クランкиングホールド機能（P.128 参照）が作動します。



● エンジン停止のしかた

車両を完全に停止させ、シフトレバーをPに入れて“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

スイッチがOFFになります。エンジンが停止します。

- シフトレバーがP以外でエンジンを停止しないでください。

万一、シフトレバーが、P以外でエンジンを停止した場合、“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモードになります。そのときは、シフトレバーをPに入れ、スイッチを2回押して、スイッチをOFFにします。（確実にスイッチがOFFになっていることを確認してください。）



警告

車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。

- 車外からのエンジンの始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険ですので、必ず運転席に座って行ってください。
- 走行中は、“エンジンスタートストップ”スイッチにさわらないでください。誤って“エンジンスタートストップ”スイッチを押し続け、エンジンが停止すると、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングが動かず、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車を少し移動させるときも、必ずエンジンを始動してください。エンジンをかけず、坂道を利用して車を動かすと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンの始動操作をしたときに、“エンジンスタートストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅したときは、絶対に車両を走行させないでください。ステアリングロックが解除されていないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

“エンジンスタートストップ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。

- “エンジンスタートストップ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅しているときは、システムの異常が考えられます。いったんスイッチをOFFにすると、エンジンを再始動できなくなることがありますので、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 走行中、エンストなどで車両が滑走状態になったときは、安全な状態で車両が停止するまで、ドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停車させたあと、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。

早基
本
か
り作取運
搬装置
の取り扱い
車内装備のの安全
解説と注意
装備車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引



“エンジン スタート ストップ”スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチに引っ掛かりがあるときは、スイッチを操作せず、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを油などのついた手でさわらないようにしてください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに飲料水などをこぼさないよう注意してください。万一、こぼしたあと異常を感じたら、すみやかにトヨタ販売店に連絡してください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチの表面が熱くなっている場合があります。やけどをしないよう気をつけてください。
- 車幅灯が点灯しても、“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明が点灯しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

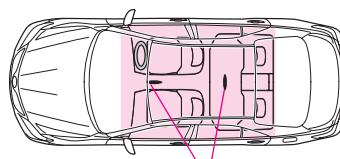
知識

作動範囲について

車室内発信機の検知エリア内（車両室内）

- 車外でもドアガラスや屋根の上などに近づきすぎた場合などは、エンジンの始動が可能となることがあります。

検知エリア
車両室内



エンジンの緊急停止について

走行中、“エンジン スタート ストップ”スイッチを約3秒以上押し続けると、エンジンを停止することができます。緊急時以外は走行中にエンジンを停止しないでください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチはアクセサリーモードになります。
- この状態ではオートOFF機能は作動しません。（P.123参照）

エンジンの緊急始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、シフトレバーをPにしてから、“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態をアクセサリーモードにしてブレーキを踏み、スイッチを約15秒以上押し続けると、エンジンが始動する場合があります。

- 緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

知識

作動条件について

- 車室内発信機の検知エリア内（車両室内）に電子キーがないと判断すると、エンジンを始動することはできません。この場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、キーなし警告表示が表示されます。（P.134参照）
- 電子キーをインストルメントパネル上、フロア上、パッケージトレイ上、グローブボックス内（P.322参照）などに置かないでください。エンジンが始動できないことがあります。
- 電波の状況が悪いときや電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー & スタートシステムでエンジンを始動することはできません。この場合は、P.452の「電子キーが正常に働かないときは」を参照してください。
- エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷により、ステアリングロックが解除されていません。ハンドルを左右に動かしながら、ブレーキペダルを踏み、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し直してください。
- エンジンの始動と停止を短い間隔で繰り返した直後は、エンジンを始動できない場合があります。この場合は約10秒以上待ってから再びエンジンの始動操作をしてください。
- 車両のバッテリーがあがっている場合はステアリングロックが作動しないので注意してください。
- 電子キーの持ち方により作動しにくいことがあります。
- 車両の形状により電子キーが作動しにくい場所があります。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを早押しした場合、エンジンが始動・停止しないことがあります。

盗難防止システムについて

盗難防止システムにより、エンジンが始動しないことがあります。（P.360参照）

車両バッテリー脱着時について

- 車両のバッテリー脱着後、“エンジン スタート ストップ”スイッチを一度押すだけではエンジンが始動しないことがあります。その場合は、もう一度スイッチを押してください。
- 車両のバッテリー脱着後、すぐにはエンジンが始動しないことがあります。その場合は、バッテリー接続から約10秒以上待ってからエンジンを始動してください。

クランкиングホールド機能について

エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大で約18秒間保持します。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約30秒間です。
約30秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

その他の機能

目次

早基
わ本
かり作取運
り転
装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説と
注意装備付き合いの上
手な方メンテナ
ンス

万ーのとき

索引

節電機能について

車室外発信機の検知エリア内（フロントドア）に長時間電子キーを放置していると、電子キーと車両が定期的に通信を行うため、電子キーおよび車両のバッテリーがあがるおそれがあります。

そのため、電子キーおよび車両のバッテリーあがりを防止するため、次のときはスマートエントリー & スタートシステムが自動で停止します。

●14日以上、電子キーから応答がないとき

●10分以上、車室外発信機の検知エリア内に電子キーがあるとき

スマートエントリー & スタートシステムを復帰させるには、次のいずれかの操作を行ってください。

●車両に近づいて電子キーのワイヤレスドアロックリモコンスイッチを押す。

●フロントドアハンドルのロックスイッチを押し、施錠操作をする。

●メカニカルキーを運転席ドアのキーシリンダーに差し込み、施錠または解錠操作をする。（P.452参照）

ドアガラス・ムーンルーフ（ムーンルーフ装着車） の閉機構

スマートエントリー&スタートシステムを使ってドアハンドル上のロックスイッチを押してドア施錠後、そのまま約3秒以上ロックスイッチを押し続けると、押している間すべてのドアガラスとムーンルーフを閉じることができます。*

●ロックスイッチから手を離すと停止します。

●閉じはじめるとビザーが鳴ります。

*この機能を変更することができます。詳しくは、P.430の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。



ロックスイッチの不必要的な長押しや、ドアハンドルへの寄りかかりはしないでください。無意識のうちに閉機能が作動してしまいドアガラスやムーンルーフに手や頭などを挟まれて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

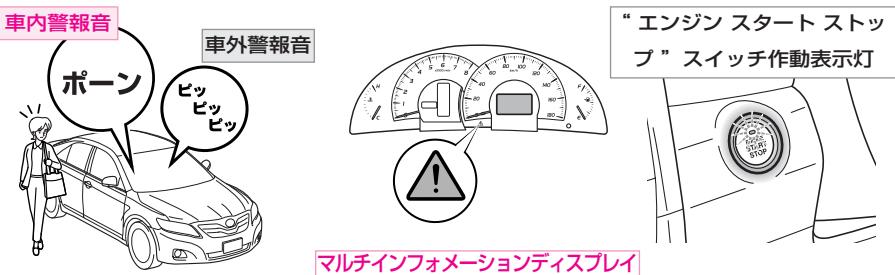


ドアガラス・ムーンルーフの全閉後にロックスイッチを押し続けないでください。故障の原因になります。

警報・防止機能および警告表示

スマートエントリー & スタートシステムでは、予期せぬ車両の動き出し、車両盗難などをふせぐため、警報音を鳴らしたり、マルチインフォメーションディスプレイへの警告表示、または“エンジンスタートストップ”スイッチの作動表示灯の点滅で注意をうながします。

警報音が鳴ったり、警告の表示が点灯したときは、必ず車両および電子キーの確認を行ってください。



警報音による防止機能

■電源切り忘れ防止機能

車内警報音

ポン、ポン・・・(連続吹鳴)

“エンジンスタートストップ”スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモードのとき、シフトレバーをPにして運転席ドアを開けると、スイッチの切り忘れを警告する車内警報音が“ポン、ポン…”と鳴ります。ただし、スイッチがイグニッションONモードのときは鳴りません。

また、スイッチがOFFのときにステアリングがロックされていないときにも車内警報音が鳴ります。

警報が鳴ったら、スイッチをOFFにして運転席ドアを閉めてください。

車外警報音

ピー(約60秒間連続吹鳴)

“エンジンスタートストップ”スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“エンジンスタートストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーをPにしてすべてのドアを閉め、スマートエントリー&スタートシステムを使ってドアハンドル上のロックスイッチを押して施錠しようとするとスイッチの切り忘れを警告する車外警報音が“ピー”と鳴り、施錠できません。

警報が鳴ったら、スイッチをOFFにしてください。



車内警報音

ピー (連続吹鳴)

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り忘れをお知らせしています。

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーをP以外で運転席ドアを開けると、スイッチの切り忘れを警告する車内警報音が“ピー”と鳴ります。

警報が鳴ったら、シフトレバーをPに入れてください。

■半ドア警報

車外警報音

ピー (約10秒間連続吹鳴)

いずれかのドアが開いていることをお知らせしています。

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFのとき、いずれかのドアが開いている状態で、スマートエントリー&スタートシステムを使ってドアハンドル上のロックスイッチを押すと、車外警報音が“ピー”と約10秒間連続して鳴ります。次のいずれかの方法で警報音が止まります。

●すべてのドアを閉めます。

●電子キーの戻スイッチを押します。

警報が鳴ったら、すべてのドアを閉めてから、もう一度ドアロック操作をしてください。



知識

半ドア警報について

ドアを開閉するときにロックスイッチに触れると、半ドア警報が作動します。ドアを開閉するときはロックスイッチに触れないでください。

■キー閉じ込み防止機能

車外警報音

ピー (約2秒間連続吹鳴)

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFのとき、車内に電子キーを置いたまま、すべてのドアを閉め、スマートエントリー&スタートシステムを使ってドアハンドル上のロックスイッチを押して施錠しようとしても車外警報音が“ピー”と鳴り、施錠することができません。(ロックレバーを施錠側に倒した状態でドアを閉めて施錠しようとしても施錠できません。)

警報が鳴ったら、車内にある電子キーを携帯して、もう一度ドアロック操作をしてください。

知識

キー閉じ込み防止機能について

- 電子キーをインストルメントパネル上、パッケージトレイ上、フロア上、グローブボックス内などに置いた場合、キー閉じ込み防止機能が作動しないことがあります。
- 電子キーが車外にあっても、ドアガラスやドアハンドルに近づけすぎた場合、キー閉じ込み防止機能が作動することがあります。

■トランク内キー閉じ込み防止機能

車外警報音

ピー（約2秒間連続吹鳴）

すべてのドアがロックされており、トランク内に電子キーを入れたままトランクを閉めると、車外警報音が“ピー”と約2秒間連続して鳴ります。この場合トランクは閉まりますが、トランクオープنسイッチ（P.120参照）を押すことにより、トランクを開けることができます。

- 車外警報音が鳴っているときにトランクオープنسイッチを押すと、車外警報音を止めることができます。



注意

トランク内に電子キーを置かないでください。

- 電子キーの場所（スペアタイヤ付近、トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、また周囲の電波環境によってはキー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
- トランク内に電子キーを閉じ込めたままにしておくと、キー閉じ込み防止機能により、トランクを開けることが可能なため、車両盗難などのおそれがあります。
- トランクを閉めて車外警報音が鳴ったときは必ずトランク内の確認を行ってください。

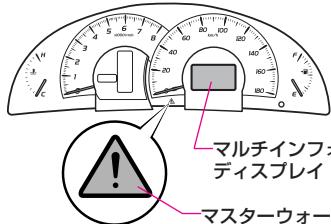
知識

トランク内キー閉じ込み防止機能について

トランクを閉めるとき、電子キーがトランクのすぐ近くにあると車外警報音が鳴ることがありますので注意してください。



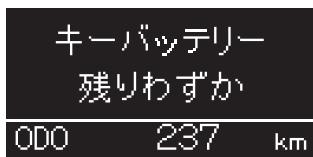
●警告表示・警報音による防止機能



車内に電子キーがないときなどにマルチディスプレイに警告表示します。

- (マスターウォーニング)が点滅します。

■キーバッテリー低下警告表示



“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしてから約20分以上経過し、その後スイッチをOFFにしたときに、電子キーのバッテリー電圧が低下していることをお知らせしています。

- 約5秒間表示されます。
- “ポン（1回吹鳴）”も同時に鳴ります。

知識

警告表示について

電子キーのバッテリー電圧が2V（通常3V）近くになったとき表示されます。表示されたときは、電子キーの電池を交換してください。（P.394参照）

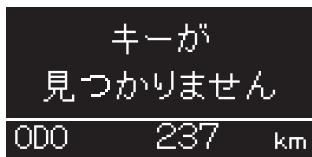
■シフトレバー位置警告表示



“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがP以外で、運転席ドアを開けると表示されます。

- **車内警報音** “ピー（連続吹鳴）”も同時に連続して鳴ります。
このとき、キーを持って車外に出てドアを閉めると **車外警報音** “ピー（連続吹鳴）”が連続して鳴ります。
 - **キーが見つかりません**も交互に表示されます。
- 次のいずれかの方法で警報音が止まります。
- 電子キーを車内に入れる。(車室内でのIDコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき)
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにする。
 - シフトレバーをPにする。

■キーなし警告表示



以下のとき、車内に電子キーがないことをお知らせします。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチを押したときに、車室内でのIDコードの照合により電子キーが車内にないと判断したとき
 - **車内警報音** “ポン（1回吹鳴）”も同時に鳴ります。
-
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがPにあるときに運転席ドアが開閉され、車室内でのIDコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき
 - **車内警報音** “ポン（1回吹鳴）”、**車外警報音** “ピッ、ピッ、ピッ（3回吹鳴）”も同時に鳴ります。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。

- 電子キーを車内に入れる。(車室内でのIDコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき)
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにする。



- “エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、運転席ドア以外のドアが開閉され、車室内でのIDコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき
 - **車内警報音** “ポン（1回吹鳴）”、**車外警報音** “ピッ、ピッ、ピッ（3回吹鳴）”も同時に鳴ります。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。

- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのIDコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにする。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがP以外で、運転席ドアを開閉され、車室内でのIDコードの照合により、電子キーが車内にないと判断したとき
 - **車内警報音** “ピー（連続吹鳴）”、**車外警報音** “ピー（連続吹鳴）”も同時に連続して鳴ります。
 - **Pレンジに入れてください**も交互に表示されます。

次のいずれかの方法で警報音が止まります。

- 電子キーを車内に入れる。（車室内でのIDコードが照合され、電子キーが車内にあると判断したとき）
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにする。
- シフトレバーをPにする。

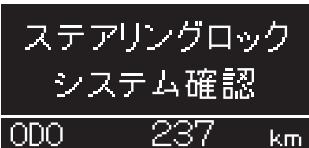


知識

車内警報音について

走行開始までに車室内でのIDコードの照合により、車内に電子キーがないと判断したときは、走行開始時に再度警報音が鳴ります。

■ステアリングロックシステム確認警告表示



ステアリングロックのシステムに異常があることをお知らせします。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅します。

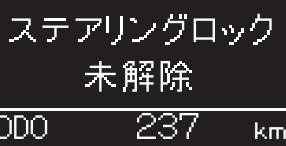


作動表示灯が点滅し、警告表示がでたときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告表示について

スマートエントリー＆スタートシステムが作動しない状態でも異常があれば表示されます。



エンジン始動操作時、ステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかったとき
● “エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が15秒間緑色に点滅します。

知識

警告表示について

- スマートエントリー＆スタートシステムが作動しない状態でも異常があれば表示されます。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを押してエンジンを始動したときに表示が消えます。エンジンが始動しないときは、ハンドルを軽く左右にまわしながら、ブレーキペダルを踏み、スイッチを押し直します。

表示灯点滅による防止機能

電源システム異常警告表示



電源システムの異常を検知すると、“エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が橙色に点滅します。



注意

作動表示灯が点滅したときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

早基本
わ本
かり作取運転装置の
取り扱い取り扱い
室内装備のの安全
解説・
と注意
装備付車との
上手な
付き合いメンテナ
ンス

万ーのとき

索引

■警報音およびディスプレイ警告表示・表示灯の作動一覧表

車内警報音	車外警報音	マルチインフォ メーションディ スプレイ表示	状況
ローン、 ローン… (断続吹鳴)	—	—	“エンジン スタート ストップ”スイッチが アクセサリーモードで、シフトレバーがPのとき、運転席ドアを開けた。
—	ピー ^(2秒間吹鳴)	—	● “エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFのとき、電子キーを車内に置き忘れた状態でロックスイッチを押した。 ●すべてのドアがロックされた状態でトランク内に電子キーをいたままトランクを開めた。
—	ピー ^(60秒間 吹鳴)	—	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外の状態でロックスイッチを押した。
ピー ^(連続吹鳴)	—	—	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがP以外のとき、運転席ドアを開けた
—	ピー ^(10秒間 吹鳴)	—	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFのとき、いずれかのドアが半ドアの状態または、フロントドアを開閉中にロックスイッチを押した。
ローン (1回吹鳴)	—	表示	電子キーのバッテリー電圧が低下した。
ピー ^(連続吹鳴)	ピー ^(連続吹鳴)	表示	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがP以外のとき、運転席ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した。
ローン (1回吹鳴)	—	表示 (8秒間)	“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき、車室内的IDコード照合で、電子キーがないと判断した。
ローン (1回吹鳴)	ピッ、ピッ、ピッ (3回吹鳴)	表示	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがPのとき、運転席ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した。
ローン (1回吹鳴)	ピッ、ピッ、ピッ (3回吹鳴)	表示	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFF以外で、シフトレバーがPのとき、運転席以外ドアを開けて電子キーを車外に持ち出した。

“エンジン スタート ストップ”スイッチ 作動表示灯	マルチインフォメー ションディスプレイ 表示	状況
緑色に点滅 (15秒間)	表示	エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されず、エンジンが始動しなかった。
橙色に点滅	表示	ステアリングロックシステムの異常を検知した。
橙色に点滅	—	電源システムの異常を検知した。

こんなときは

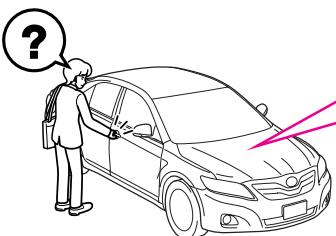
ここでは、様々な「こんなときは」の場面を想定して、操作および対処方法の例を記載しています。スマートエントリー & スタートシステムを扱ううえでの参考にしてください。

● 警報音が鳴っているときは／警告表示が表示されているときは



P.130の「警報・防止機能および警告表示」を参照して該当する指示にしたがってください。

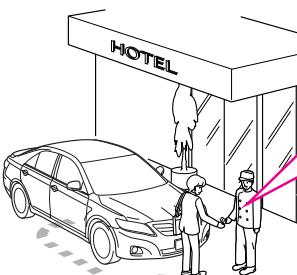
● スマートエントリー & スタートシステムが作動しないときは



以下のことを確認してください。

- 電子キーが通信できない状況にある。
(P.113参照)
- 電子キーのバッテリー（電池）がない。
(P.394参照)
- 節電機能が働いている。(P.129参照)

● ホテルなどでキーを預けるときや、他人に車を貸すときは



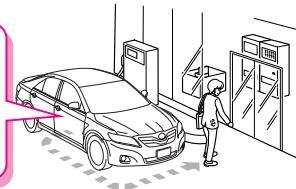
以下の要領で、キーを渡してください。

- 1 電子キーからメカニカルキーを抜く。(P.141 参照)
- 2 必要に応じて、トランク、グローブボックスを施錠(P.159、322参照)する。
- 3 メカニカルキーを携帯したまま、電子キーの本体を渡す。

● ガソリンスタンドやお店などで車から離れるときは

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFFにして、電子キーを携帯し、ドアを施錠してください。

●必ず施錠されていることを確認してください。

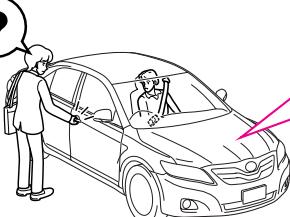


● 正規の別の電子キーを携帯した人が乗車するときは



スマートエントリー & スタートシステムでの解錠ができないときは、ワイヤレスドアロッククリモコン (P.142参照) またはメカニカルキー (P.452参照) を使って解錠してください。

● 正規の別の電子キーを携帯した人が乗車しているときは

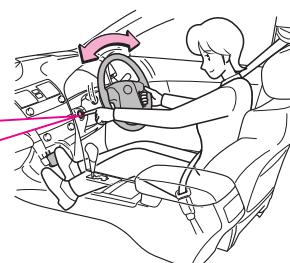


スマートエントリー & スタートシステムでの施錠ができません。
車外から施錠するときは、ワイヤレスドアロッククリモコン (P.142参照) またはメカニカルキー (P.452参照) を使って施錠してください。

● エンジン始動操作後に作動表示灯が 緑色に点滅しているときは

エンジン始動操作をしたときに、エンジンが始動せず “エンジン スタート ストップ”スイッチの作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ハンドルの負荷によりステアリングロックが解除されていません。

ハンドルを軽く左右にまわしながら、エンジン始動操作をしてください。

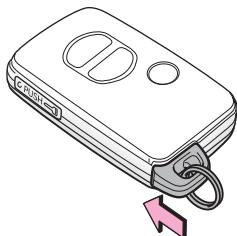


メカニカルキー



■メカニカルキーの取り出し方

ノブのPUSHマーク側の突起部を押しながら、メカニカルキーを取り出します。



■メカニカルキーの格納のしかた

メカニカルキーを図のように差し込みます。

知識

メカニカルキーについて

- トランクの施錠（P.159参照）、グローブボックスの施錠・解錠（P.322参照）ができるのはメカニカルキーのみです。
- メカニカルキーを使用したときは、必ず電子キーに格納しておいてください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー & スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（P.452参照）

目次

警告

早基本
わかり操作取り扱い
運転装置の取り扱い
車内装備のの安全・
解説・
注意
と注意
装備付き合い
車との上手なメンテナ
ンス

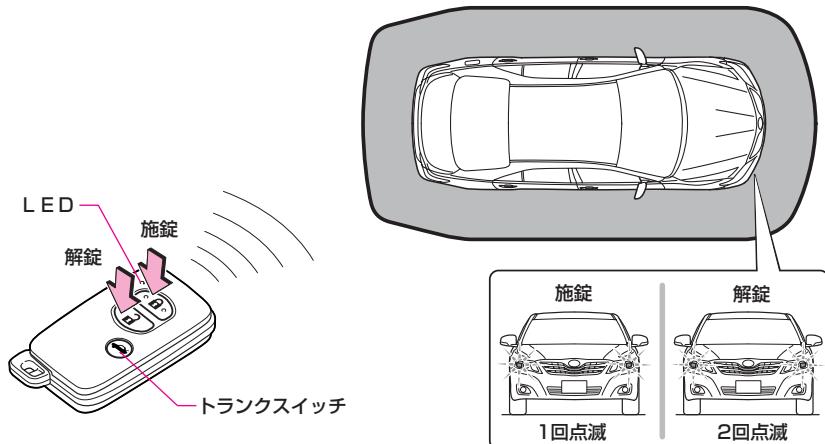
万ーのとき

索引

ドア・ドアガラスなどの開閉

ドアの開閉

ワイヤレスドアロックリモコンでの施錠・解錠のしかた



①スイッチを押すとすべてのドアが施錠されます。

②スイッチを押すとすべてのドアが解錠されます。

●施錠したときは、非常点滅灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。*

●解錠したときは、非常点滅灯が2回点滅し、ブザーが2回鳴ります。*

●スイッチを押すと電子キーのLEDが点灯します。

●スイッチは、ゆっくりと確実に押してください。

●施錠操作をしたときは、必ず施錠作動したことを確認してください。

*この機能を変更することができます。詳しくは、P.430の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

スマートエントリー & スタートシステムを使った施錠・解錠のしかた

P.116の「ドアの施錠・解錠のしかた」を参照してください。

早基
わ本
かり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・
快適装備付き合いの上手な
車との方

メンテナンス

万ーのとき

索引

● トランクの開け方

トランクスイッチを約1秒間押し続けると、トランクが解錠されます。※

- 作動が完了するとブザーが鳴ります。

- トランクスイッチはゆっくりと確実に押してください。

- うまく解錠されなかったとき、トランクスイッチを約1秒以上押し続けても解錠操作は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.430の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

● ドアガラス、ムーンルーフ (ムーンルーフ装着車) の開閉のしかた

■スイッチを約3秒以上押し続けるとすべてのドアガラスとムーンルーフが閉まり、■スイッチを約3秒以上押し続けるとすべてのドアガラスとムーンルーフが開きます。※

- スイッチから手を離すと停止します。

- 開閉しはじめるとブザーが鳴ります。

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.430の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。



注意

リモコンスイッチは電子部品です。強い衝撃などを与えると故障の原因となりますので、以下の点にご注意ください。

- ダッシュボードの上など高温になる所に置かないでください。
- 分解しないでください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 水にぬらさないでください。



知識

作動条件について

- リモコンスイッチは、周囲の状況により作動可能距離がかわることがあります。確実に作動させるためには、車から約1mまで近づいて操作してください。
 - ワイヤレスリモコンは微弱な電波を使用しているため、状況によっては正常に作動しない場合があります。詳しくは、P.113を参照してください。
 - ウインドウガラス部に次のものを貼りつけると、車外からリモコンスイッチの操作をした場合、受信器への電波がさえぎられて受信感度が低下し、作動可能距離が短くなるおそれがあります。
 - 金属を含有するウインドウフィルム
 - その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）
 - スイッチはいずれかのドアが開いているときは作動しません。
 - 半ドア警報（P.131参照）が鳴ります。
 - スイッチ、スイッチを押し続けても、ドアの施錠・解錠は繰り返されません。スイッチを押しなおしてください。
 - スイッチを押して解錠操作をしたあと、約30秒以内にドアを開けなかったときは、自動的に施錠されます。（非常点滅灯が1回点滅します。）※
- ※この機能を変更することができます。詳しくは、P.430の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

便利機能について

イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの施錠・解錠などと連動して、“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明、ルームランプ（D O O R の位置のとき）が点灯・消灯します。詳しくはP.119を参照してください。

電池交換について

リモコンを操作しても作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、またはLEDが暗くなったり、点灯しなくなった場合、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。

- 電池交換は、お客様自身で交換することができますが（P.394参照）、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

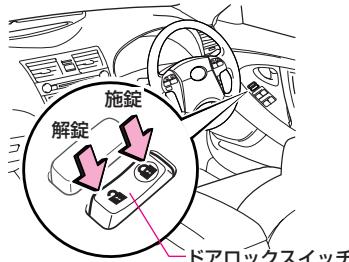
航空機内へのキーの持ち込みについて

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。



ドアロックスイッチでの施錠・解錠のしかた

運転席ドア



スイッチの右側を押すと施錠、左側を押すと解錠されます。

- すべてのドアの施錠・解錠が同時にできます。

知識

作動条件について

- “エンジンスタートストップ”スイッチに関係なく使用できます。
- スイッチを押し続けると、作動しないことがあります。いったんスイッチから指を離し、押しなおしてください。

セキュリティ機能について

車両盗難などを防ぐため、ドアロックスイッチでの解錠作動を停止する機能です。
(窓枠とドアガラスのすき間からドアロックスイッチを押して解錠されるのを防止します。)
以下的方法で施錠したとき自動的に機能します。

- 運転席ドアのキーシリンダーにキーを差し込んでの施錠 (P.452参照)
- リモコンスイッチを使っての施錠 (P.142参照)
- リモコンスイッチによる解錠操作後のドアを開けなかったときの再施錠 (P.144参照)
- スマートエントリー & スタートシステムによる施錠 (P.116参照)
- スマートエントリー & スタートシステムによる解錠操作後のドアを開けなかったときの再施錠 (P.118参照)
- 運転席ロックレバーによる車外からの施錠 (次ページ参照)

便利機能について

車速感応オートドアロック*

車速が約20km/h以上になると、自動的に施錠されます。

シフト運動オートドアアンロック*

シフトレバーをP以外からPにすると、自動的に解錠されます。

*この機能を変更することができます。詳しくは、P.431の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

衝撃感知ドアロック解除システム

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、車両が前後左右から強い衝撃を受けると、数秒後に全ドアが自動的に解錠されます。

*SRSエアバッグが作動しないような弱い衝撃のときや、事故の形態によっては作動しないことがあります。



知識

ユーザーカスタマイズについて

ドアロックスイッチの各機能の設定をお客様のご希望により変更することができます。すべてのドアを閉め、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFまたはアクセサリーモードからイグニッションONモードにして、約10秒以内に下表の変更方法にしたがってシフトレバーとドアロックスイッチを操作してください。

- 下表の変更方法にしたがって操作するたびに、各機能の設定が有効・無効に切り替わります。(現状の各機能の設定が有効ならば無効に、無効ならば有効に切り替わります。)
- 変更操作が完了すると、施錠・解錠動作が1回繰り返されます。

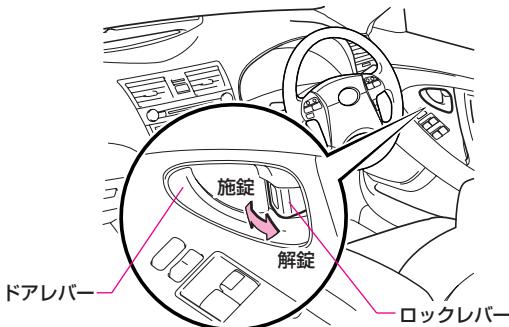
機能	内容	変更方法	
		シフトレバー位置	ドアロックスイッチ
シフト連動 オートロック※	エンジン回転中で、すべてのドアが閉まっているとき、シフトレバーをPからP以外にすると、すべてのドアを施錠する。	Pの位置	スイッチの施錠側を約5秒押して離す。
シフト連動 オートアンロック	“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードで、シフトレバーをP以外からPにすると、すべてのドアを解錠する。		スイッチの解錠側を約5秒押して離す。
車速感応 オートドアロック	車速が約20km/h以上になるとすべてのドアを施錠する。	P以外の位置	スイッチの施錠側を約5秒押して離す。
運転席ドア連動 オートアンロック ※	“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードからアクセサリーモードまたはOFFにしたあと、約10秒以内に運転席ドアを開けると、全てのドアを解錠する。		スイッチの解錠側を約5秒押して離す。

※の機能は、初期設定（工場出荷時）では無効に設定されています。



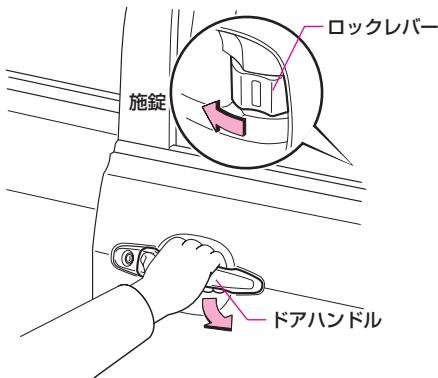
● ロックレバーでの施錠・解錠のしかた

■ 車内での施錠・解錠



ロックレバーを車面前方に押し込むと施錠、後方に引き出すと解錠されます。

■ 車外からの施錠のしかた



フロントドアはロックレバーを施錠側にして、ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。

リヤドアはロックレバーを施錠側にして、ドアを閉めます。

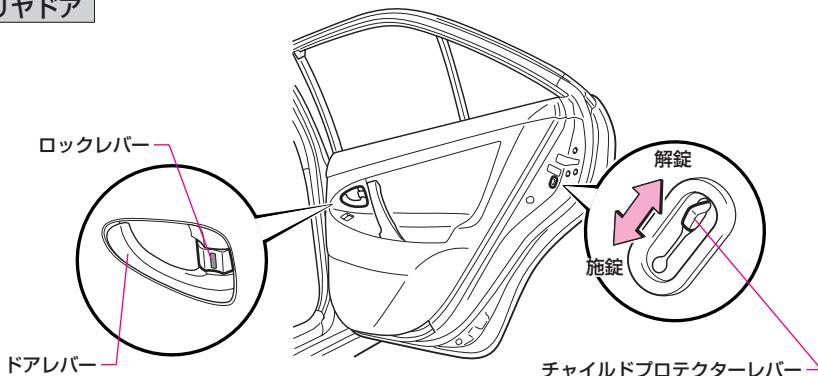
知識

便利機能について

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと、ドアが開きます。

● チャイルドプロテクターの使い方

リヤドア



チャイルドプロテクターレバーを施錠側にしてドアを閉めます。

●車内のドアレバーで、リヤドアを開けることができなくなります。



知識

チャイルドプロテクターについて

走行中などに、お子さまが誤ってドアを開けたりしないように、ロックレバーの位置に関係なく、車内のドアレバーの操作では、リヤドアが開かないように施錠できます。

チャイルドプロテクターが働いているときのドアの開け方

ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて開けます。万一、車内から開けるときは、ドアガラスを開け、ロックレバーを解錠状態にして、車外のドアハンドルを引いて、開けます。


警告

走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。

- 走行前にすべてのドアが確実に閉まっていることを確認してください。ドアが確実に閉まっているないと、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はドアレバーを引かないでください。
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまにドアの操作をさせないでください。
 - 閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - 走行中にドアを開け、お子さまが車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


知識
便利機能について
イルミネーテッドエントリーシステム

ドアの施錠・解錠などと連動して、“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明、ルームランプ（D O O R の位置のとき）が点灯・消灯します。詳しくはP.119を参照してください。

バッテリーあがり防止機構

“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFの状態で、いずれかのドアを開けたまま放置すると、バッテリーあがりを防止するため、“エンジン スタート ストップ”スイッチ照明、ルームランプ（D O O R の位置のとき）が約20分後に消灯します。

- 半ドア警告灯も消灯します。

 早
基
本
操
作

 取
運
輸
搬
装
置
の

 取
室
内
装
備
の

 の
安
全
解
説
・
快
適
装
備

 付
車
と
の
上
手
な

 メ
ン
テ
ナ
ン
ス

 万
一
の
とき

 索
引



知識

乗車中の施錠・解錠の効果について

乗車中の施錠、解錠についてはそれぞれ次のような効果がありますので、選択してください。

〈乗車中、施錠している場合〉

- 同乗者が誤ってドアを開けることを防ぎます。
- 車外からの不意の侵入者を防ぎます。
- シートベルトの着用と併せて、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。

〈乗車中、解錠している場合〉

- 万一の場合に車外からの救援活動が受けやすくなります。
車から離れるときは、必ずエンジンを止め施錠することが法律で義務づけられています。また車両盗難や車内の物を盗まれるおそれがありますので、車内に貴重品などを置かないようにしてください。

ドアガラスの開閉



パワーウィンドウの使い方

早
基
本
か
り
作

取
運
転
装
置
の

取
室
内
装
備
の

の安
全
・快
適
装
備
の解
説・
注意

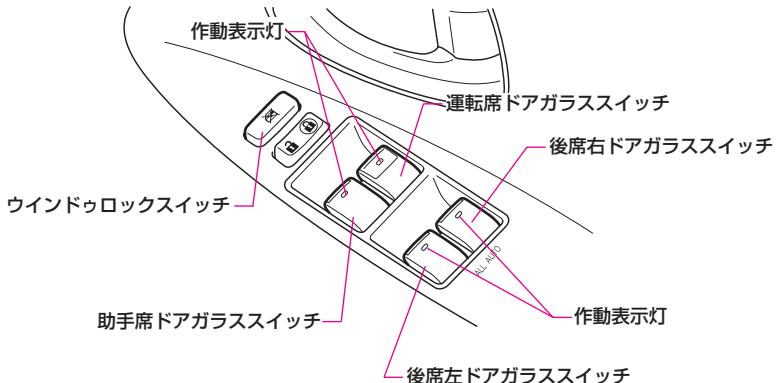
付
車
と
の上
手な
方
な

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
のとき

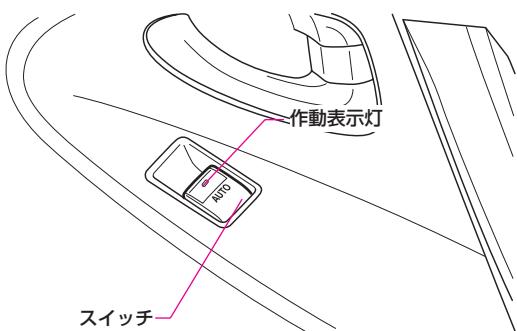
索
引

運転席スイッチ



運転席スイッチですべてのドアガラスの開閉が行えます。

助手席スイッチ・後席スイッチ



自席のドアガラスの開閉が行えます。

■ ドアガラスの開閉のしかた

スイッチを下に押している間は開き、上に引いている間は閉まります。
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。

■ ドアガラスの自動開閉のしかた

- 全開するときは、スイッチを下に強く押して手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く引き上げます。
- 全閉するときは、スイッチを上に強く引き上げて手を離します。
途中で止めたいときは、スイッチを軽く押します。



知識

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。
ただし、助手席スイッチ、後席スイッチはウインドウロックスイッチがON（P.153参照）
になっているときは作動しません。

安全機能について

挟み込み防止機構

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスの間に異物の挟み込みを感じると、ドアガラスの上昇を停止し、自動で少し開き、止まります。

- 挟み込み防止機構はキーOFF後作動によりドアガラスを閉めているときも作動します。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がドアガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

パワーウィンドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機構が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードの状態で、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機構の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間引き続けます。
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒間押し続けます。
- 3 度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間引き続けます。

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

目次

早
基
本
操
作取
運
搬
装
置
の
扱
い取
室
内
装
備
の
扱
いの
安
全
解
説
・
快
適
装
備付
車
と
の
上
手
な
方
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

知識

便利機能について

キーOFF後作動機能

ドアガラスは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしたあとでも、約45秒間に開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ドアガラスの開閉はできなくなります。

ドアキー連動開閉機構

運転席ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、解錠側へいっぱいにまわしたまま保持するとすべてのドアガラスが開き、施錠側へいっぱいにまわしたまま保持するとすべてのドアガラスが閉まります。※

ワイヤレスドアロックリモコンスイッチ連動開閉機構

ワイヤレスドアロックリモコンスイッチの \square スイッチを約3秒以上押し続けるとすべてのドアガラスが閉まり、 \square スイッチを約3秒以上押し続けるとすべてのドアガラスが開きます。(P.143参照) ※

スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機構 (P.129参照)

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.430の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

ウインドウロックスイッチの使い方

ウインドウロックスイッチを押すごとに、ONとOFFに切り替わります。スイッチをONにすると、運転席ドアガラス以外のパワーウィンドウは開閉しません。

ウインドウロックスイッチ	運転席スイッチ	助手席・後席スイッチ
ON 	運転席ドアガラスの開閉ができます。	開閉できません。
OFF 	すべてのドアガラスの開閉ができます。	開閉できます。



走行中は窓から手や顔を出さないでください。また、ドアガラスを開閉するときは手・腕・頭・首などを挟まないようにしてください。

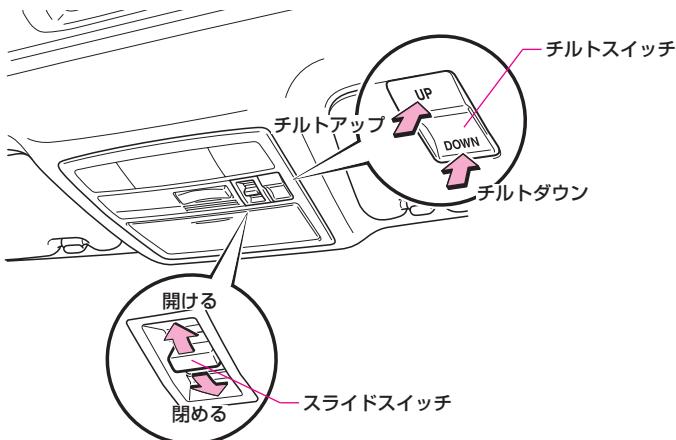
- 走行中は窓から手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアガラスを開閉するときは、他の人の手・腕・頭・首などを挟まないように注意してください。とくにお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さんにドアガラスの操作をさせないでください。開けるときや閉めるとき手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込まれたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ドアガラスを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感じていない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機構は、スイッチを強く引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機構を故意に作動させるため、手などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 万一、挟み込み防止機構が作動してしまい、ドアガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けると、閉めることができます。



運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。

- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさないでください。パワーウィンドウの故障の原因となります。
- ドアガラスの全開・全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けないでください。パワーウィンドウの故障の原因となります。

ムーンルーフの開閉★



スライド開閉のしかた

■開けるときは

スライドスイッチを手前に引くと、ムーンルーフが自動で開きます。

全開前にいったん作動を停止します。スイッチをもう一度押すと全開します。

●途中で止めるときは、スライドスイッチまたはチルトスイッチを押します。

●室内への風の巻き込みを防ぐディフレクターが自動的に上がります。

●スイッチを押してすぐに手を離すと、ルーフを少し開けることができます。

■閉めるときは

スライドスイッチを前側に押すと、自動で全閉します。

●途中で止めるときは、スライドスイッチまたはチルトスイッチを押します。

●スイッチを押してすぐに手を離すと、ルーフを少し閉めることができます。

チルトアップ／ダウンのしかた

■チルトアップするときは

ムーンルーフが閉まっているとき、チルトスイッチのUP側を押します。

●ルーフが自動でチルトアップします。

●途中で止めるときは、スライドスイッチまたはチルトスイッチを押します。

●スイッチを押してすぐに手を離すと、ルーフを少し閉めることができます。

■チルトダウンするときは

ムーンルーフがチルトアップしているとき、チルトスイッチのDOWN側を押します。

●ルーフが自動でチルトダウンします。

●途中で止めるときは、スライドスイッチまたはチルトスイッチを押します。

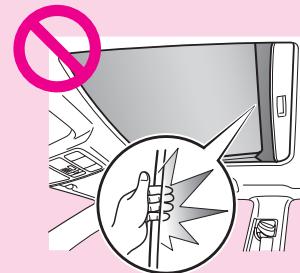
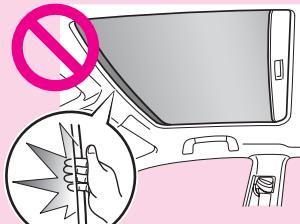
●スイッチを押してすぐに手を離すと、ルーフを少し閉めることができます。

★印はグレード等により装着の有無が異なります。



**走行中はムーンルーフから手や顔を出さないでください。
またムーンルーフを閉めるときは他の人の手・頭・首などを挟まないようにしてください。**

- 走行中はムーンルーフから手や顔を出さないでください。車外のものなどに当たったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ムーンルーフを閉めるときやチルトダウンするときは、他の人の手・頭・首などを挟まないように注意してください。ムーンルーフに挟まれて、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機構を故意に作動させるために、手などを挟んだりしないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機構は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ムーンルーフを確実に閉めるため、閉じ切り直前の部分では挟み込みを感知していない領域があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまにムーンルーフの操作をさせないでください。閉めるとき手・頭・首などを挟んだりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 開口部に腰かけないでください。ルーフがへこんだり、万一のとき車から投げ出され、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



ムーンルーフから荷物がはみ出すと、車外のものに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ムーンルーフから荷物がはみ出さないようにしてください。車外のものに当たるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときや、洗車時にはムーンルーフが完全に閉まっていることを確認してください。また、ルーフ上に水や雪がないことを確認してから開けてください。水や雪が室内に入り、オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると、火災や故障の原因となるおそれがあります。
- ムーンルーフが全開、全閉したあとにスイッチを押し続けないでください。ムーンルーフの故障の原因となります。
- 故障などで挟み込み防止機構が作動してしまい、ムーンルーフが自動で閉めることができないときは、スイッチを押し続けると、閉めることができます。



知識

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

安全機能について

挟み込み防止機構

ムーンルーフを自動でスライドさせて閉めるとときと、自動でチルトダウンさせて閉めるととき、ルーフが異物の挟み込みを感じると、作動を停止し自動で少し開き止まります。

- 挟み込み防止機構は、キーOFF後作動やスマートエントリー & スタートシステム、リモコンスイッチまたはドアキー操作によりムーンルーフを閉めているときにも作動します。
- 環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じ衝撃や荷重がムーンルーフに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

サンシェードについて

- 手動で開閉できます。
- ムーンルーフを開けると連動して開きます。

全開前停止機能について

ムーンルーフを自動で開けると、全開前にいったん作動を停止します。この位置で走行すると、全開状態に比べて、風切音が小さくなります。

便利機能について

キーOFF後作動機能

ムーンルーフは、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしたあとでも約45秒間は開閉することができます。ただし、約45秒間に運転席ドアを開けてからいったん閉めると、ムーンルーフの開閉はできなくなります。

スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機構（P.129参照）

ドアキー連動開閉機構

運転席ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、解錠側へいっぱいにまわしたまま保持するとムーンルーフが開き、施錠側へいっぱいにまわしたまま保持するとムーンルーフが閉まります。※

ワイヤレスドアロックリモコンスイッチ機能連動開閉機構

キーの△スイッチを約3秒以上押し続けるとムーンルーフが閉まり、△スイッチを約3秒以上押し続けるとムーンルーフが開きます。（P.143参照）※

ムーンルーフ閉め忘れ警告機能

“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFまたはアクセサリーモードのとき、ムーンルーフが開いている状態のまま運転席ドアを開けると、“ポーン”という音が鳴るとともにメーター内に警告内容が表示されます。（P.243参照）

※この機能を変更することができます。詳しくは、P.430の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照して



知識

ムーンルーフが反転して閉じ切らない場合の復帰操作について

下記の操作をおこなってください。

■スライドクローズ時に反転し、閉じ切らない場合

1.車を停止します。

2.スイッチの“閉める”側を押し続けます。※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3.ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなします。

■チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1.車を停止します。

2.スイッチの“チルトアップ”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にします。その後スイッチから一度手をはなし、再度“チルトアップ”側を押し続けます。※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で10秒間停止します。※2 微調節後1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3.ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手をはなします。

※1 途中でスイッチから手をはなすと最初からやり直しとなります。

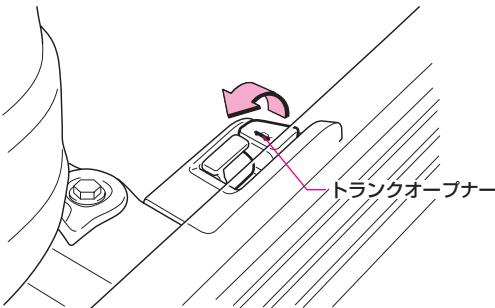
※2 10秒間停止した後にスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“チルトアップ”または、“閉める”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手をはなしてください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

早
基
本
操
作取
運
転
裝
置
の
取
扱
い取
り
扱
い
装
備
のの
安
全
・
快
適
裝
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

トランクの開閉

車内からの開け方



トランクオープナー (➡) を引くと開きます。

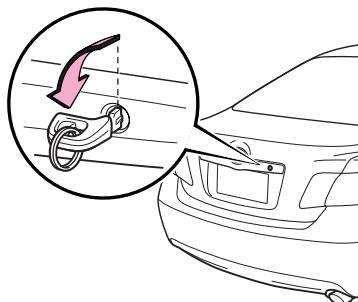
ワイヤレスドアロックリモコンでの開け方

P.143の「トランクの開け方」を参照してください。

スマートエントリー & スタートシステムを使った解錠のしかた

P.120の「トランクの解錠のしかた」を参照してください。

施錠のしかた



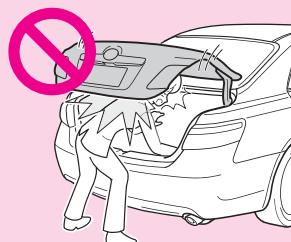
キーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、左に90°まわしてキーを抜きます。

●車内のトランクオープナー、ワイヤレスドアロックリモコン、スマートエントリー & スタートシステムでトランクを開けることができなくなります。



走行中はトランクを閉じてください。また、トランク内には絶対に人を乗せないでください。

- 走行中はトランクを閉じてください。開けたまま走行すると、トランクが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- お子さまを乗せているときは以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
 - トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
 - お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときには手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。
- トランクの使用にあたって以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
 - トランクを開ける前にトランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
 - トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
 - 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
 - 強風時の開閉には十分注意してください。トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
 - 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では平坦な場所よりもトランクの開閉がしつぶく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。
 - トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
 - トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
 - トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重たくなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。



**注意**

エンジンを停止しているときは、トランクを長時間開けたままにしないでください。

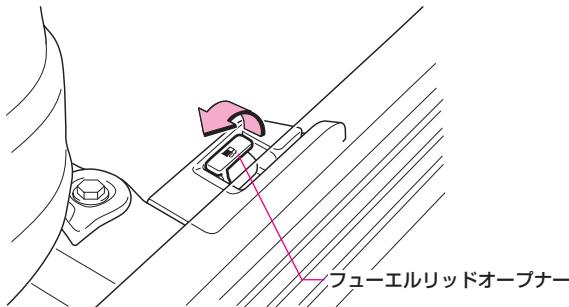
- エンジンを停止しているときは、トランクを長時間開けたままにしないでください。トランク灯が点灯したままになり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。
- トランク内に電子キーを置き忘れないように注意してください。

**知識****便利機能について****トランク灯**

トランクを開けると、トランク灯が点灯します。夜間などの荷物確認に便利です。

フューエルリッド（燃料補給口）の開閉

フューエルリッドの開閉

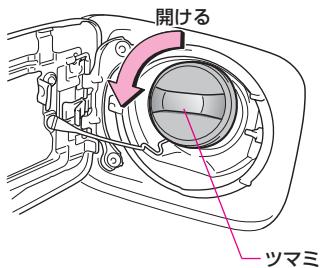


運転席右下にあるフューエルリッドオープナー（図）を引くと開きます。閉めるときは、フューエルリッドを手で“カチッ”と音がするところまで閉めます。

フューエルキャップの開閉

■開けるときは

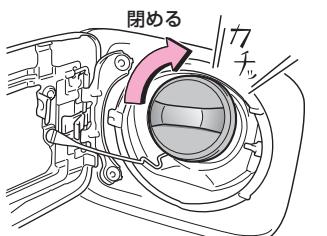
キャップのツマミを持ち、左にまわして開けます。



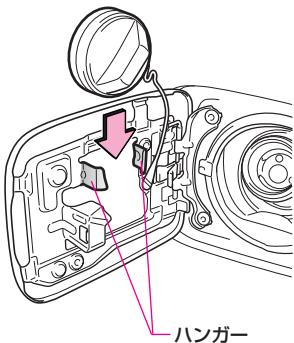
■閉めるときは

キャップのツマミを持ち、“カチッ”と音がするまで右にまわして閉めます。

●手を離すと若干もどります。



● フューエルキャップの置き場所



給油中は、フューエルキャップをハンガーにかけておきます。



燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。

- 燃料補給時には、次のことを必ずお守りください。
 - エンジンは必ず停止してください。
 - 車のドア、ドアガラスは閉めてください。
 - タバコなど火気を近づけないでください。
 - フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作を行う前に、車体などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があり、やけどをするおそれがあります。
 - フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミを持ち、ゆっくりと開けてください。気温が高いときなどに、燃料タンク内の圧力が高くなっていると、給油口から燃料が吹き返すことがあります。フューエルキャップを少しゆるめたときに“シュー”という音がする場合は、それ以上開けないでください。その音が止まってからゆっくり開けてください。
 - 給油中、再び車内のシートにもどったり、帶電している人やものに触れないでください。(再帯電することができます)
 - 給油口には静電気除去を行ったかた以外の人を近づけないでください。
 - 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
 - 給油終了後、フューエルキャップを閉める場合、“カチッ”と音がするまで右にまわしてください。
 - 車に合ったトヨタ純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
 - その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの係員の指示にしたがってください。
- 給油時に、気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものがありますので、ご注意ください。



注意

指定以外の燃料を使用しないでください。

- 指定燃料は無鉛レギュラーガソリンです。給油時に、指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノックングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使用すると、エンジンの故障や燃料系部品の損傷による燃料もれなどの原因となるおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。
- 給油中に燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。



知識

フューエルリッドの位置について

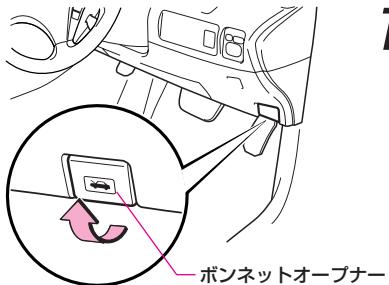
フューエルリッド（燃料補給口）は車両助手席側後方にあります。

燃料タンク容量について

燃料タンク容量はFF車は約70L、4WD車は約65Lです。

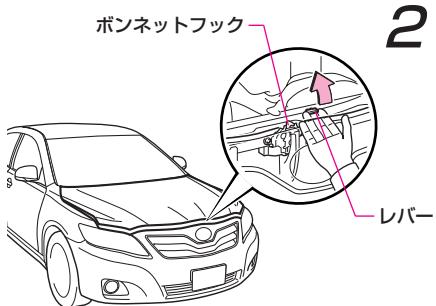
ボンネットの開閉

開け方



1 ボンネットオープナーを引きます。

運転席インストルメントパネル右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



2 ボンネットフックをはずします。

ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押し上げ、ボンネットフックをはずして、ボンネットを持ち上げます。

閉め方

1 ボンネットをおろします。

2 ボンネットを押さえつけます。

ボンネットの前端を押さえつけロックします。

3 ロックされていることを確認します。

ボンネットの前端を上下にゆすり、確実にロックされていることを確認します。



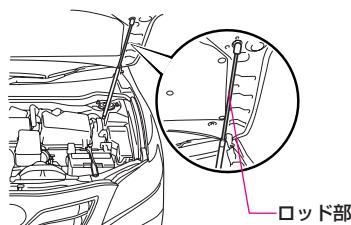
走行前にはボンネットがロックされていることを確認してください。ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ボンネットがしっかりとロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取りつけられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物がステーのロッド部（伸縮部）に付着しないようにしてください。また、繊維などの付着を防止するため、ロッド部を軍手などで触れないでください。異物が付着すると、ステーが円滑に動かなくなったり、開けたとき保持力が損なわれるおそれがあります。
 - ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取りつけないでください。ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときに、ステーが支えきれなくなるおそれがあります。
 - ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、ボンネットが開閉できなくなるおそれがあります。



シートの調整

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢が取れるように、次の事項に注意してシートを調整します。



走行中は運転席シートの調整をしないでください。

- 走行中は運転席シートの調整をしないでください。調整中にシートが突然動くなどして、運転を誤り、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。
- フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まってシートが固定されず、思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。また、ロック機構の故障の原因となります。
- 背もたれと背中の間にクッション（座布団）などを入れないでください。正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストの効果が十分に発揮されず生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがSRSサイドエアバッグ展開部を覆うと、SRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。
 - フロントシート表皮の張り替えやフロントシートの取りつけ・取りはずし・修理が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造などはしないでください。
 - フロントシート側面などSRSエアバッグ展開部を強くたたくなど過度の力を加えないでください。

目次

警告

早基
本
か
り
作

取
運
り
装
置
の

取
室
内
装
備
の

の安
全
解
説
・快
適
装
備

付
車
と
の
上
手
な

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
とき

索
引



警告

助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。

- 助手席や後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員に当たったり、荷物を損傷したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、身体が慣性力で飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

シートを調整するときは同乗者や荷物などまわりの状況に注意してください。

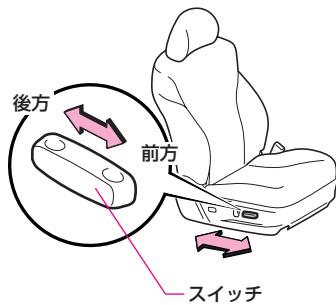
- シートを調整するときは、同乗者や荷物に当たないように注意してください。同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。
- 室内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなどは、シートの下に手を入れると、シートレール・シートフレーム（シートの土台部分）などに当たり、けがをするおそれがありますので、十分に注意して行ってください。
- パワーシート装着車では、シートの前後位置・背もたれのリクライニング位置・シートの上下位置・背もたれの腰部硬さ位置が終点まで移動したあとに、スイッチを同一方向に押し続けないでください。パワーシートの故障の原因となります。

早
基
本
操
作取
り
扱
い
運
転
装
置
の取
り
扱
い
室
内
装
備
のの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意付
き
合
い
方
な
車
と
の
上
手
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

フロントシートの調整

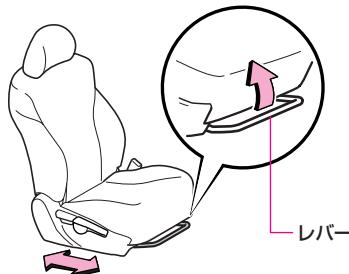
前後位置調整のしかた

パワーシート



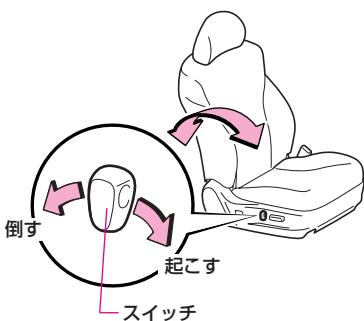
スイッチを前後に操作している間作動します。

マニュアルシート



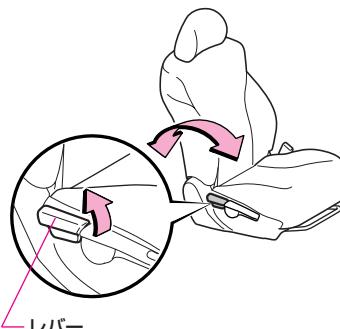
レバーを引いたまま、シートを前後に動かして調整します。

パワーシート



スイッチを前後に操作している間作動します。

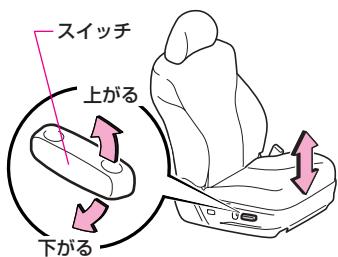
マニュアルシート



レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かして調整します。

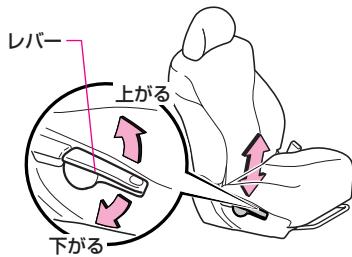
● 上下調整のしかた

パワーシート（運転席）

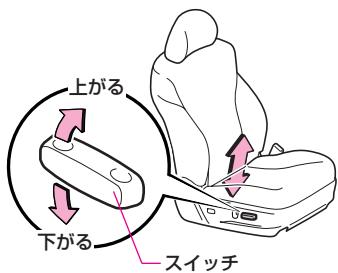


スイッチ前側の上下操作でシートクッショントン前端の高さを調整します。

マニュアルシート（運転席）



レバーを上または下に動かすごとに、シート全体の高さを調整します。



スイッチうしろ側の上下操作でシート全体の高さを調整します。

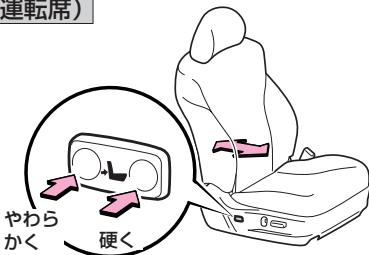
早基本
わかり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全・
解説と注意
快適装備付き合いの上手な
車との方メンテナ
ンス

万ーのとき

索引

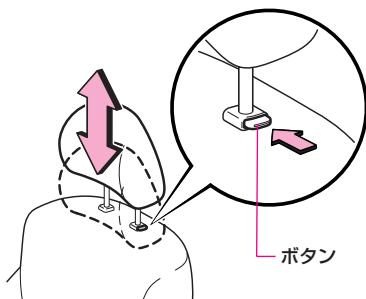
● 腰部硬さ調整のしかた

パワーシート（運転席）



スイッチを前後に操作している間作動します。

● ヘッドラストの上下位置調整のしかた



- 上げときは、そのまま引き上げます。
- 下げときは、ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。



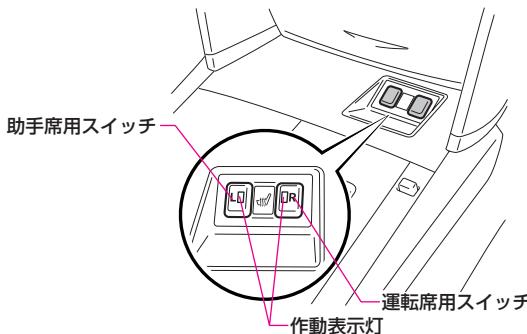
警告

ヘッドラストをはずしたまま走行しないでください。

- ヘッドラストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドラスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- フロントシートのヘッドラストはフロントシート専用です。取り付けるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドラストを間違って取り付けると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

シートヒーターの使い方

本革シート装着車



運転席を暖めるときは運転席用スイッチを、助手席を暖めるときは助手席用スイッチを押します。

- スイッチを押すと作動し、作動表示灯が点灯します。
シートが暖まると、自動的に「弱」になります。
- 止めるときは、もう一度スイッチを押します。



シートヒーターを使用するときは、次の点に十分注意してください。

- 下記に相当される方がご使用になる場合は、熱すぎたり低温やけど（紅斑、水ぶくれ）を起こすことがありますので十分注意してください。
 - 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、身体の不自由な方
 - 皮膚の弱い方
 - 疲労の激しい方
 - 深酒やねむけをさそう薬（睡眠薬、かぜ薬など）を使用された方
- 毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどやシートの故障につながるおそれがあります。
- 仮眠するときは使用しないでください。シートが異常過熱し、低温やけどをするおそれがあります。

**注意**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。

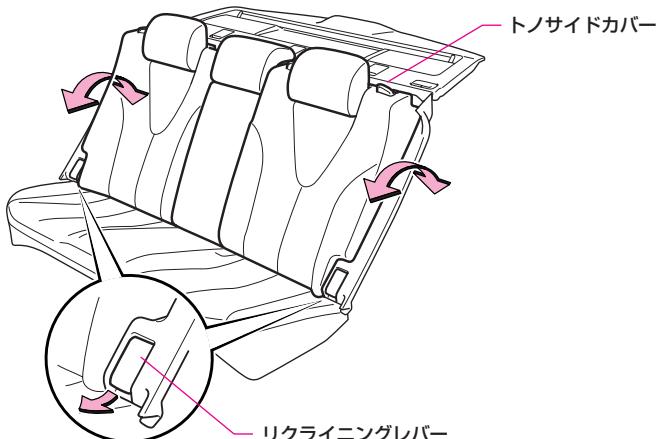
- 凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針など鋭利なものを突きさしたりしないでください。故障の原因になります。
- シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

**知識****作動条件について**

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

リヤシートの調整

リクライニング調整のしかた



リクライニングレバーを引いたまま、リヤシートのヘッドレストまたは背もたれの上端部を持ち、前後に動かして調整します。



トノサイドカバーの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないでください。

- 後席に荷物を積み重ねたりしないでください。急ブレーキをかけたときや車が旋回しているときなどに荷物が飛び出して、乗員にあたったり、荷物を損傷したり、荷物に気をとられたりして思わぬ事故につながりおそれがあり危険です。また、トノサイドカバーの上に荷物を置いたり、お子さまが乗ったりしないでください。トノサイドカバーが破損し、荷物が損傷したり、お子さまが生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。
- リヤシートをリクライニング操作するときは、トノサイドカバーとまわりの部品の間に指や腕などを入れないように注意してください。指や腕などを挟み、重大な障害を受けるおそれがあります。
- シートを調整したあとは、シートを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとシートが動き、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。
- 背もたれをもどすときは、シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあり、傷ついたまま使用すると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 走行中、シート以外の場所への乗車や車内の移動はしないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、体が飛ばされ、頭などを強く打ち、生命にかかわる重大な障害を受けるおそれがあり危険です。



注意

背もたれにもたれかかったままリクライニング調整をしないでください。背もたれに力が加わっていると、レバー操作が重かったり、突然背もたれが倒れるおそれがあります。



知識

リクライニング調整について

- 左右に分割されているシートをそれぞれ調整することができます。
- シートをリクライニングさせると、リクライニングさせた側のトノサイドカバーが連動して折りたたまれます。

警告

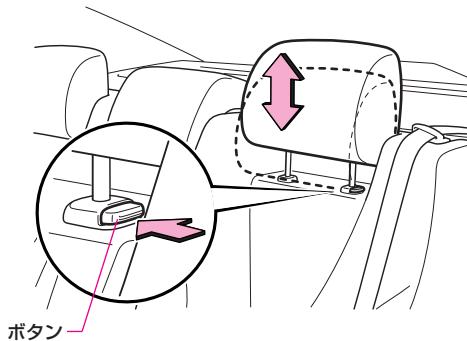
早基本
わかり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・
快適装備
と注意付き合い
車との上手な
方

メンテナンス

万一のとき

索引

●ヘッドレスト上下調整のしかた



- 上げるときは、そのまま引き上げます。
- 下げるときは、ボタンを押したまま押し下げます。
- 取りはずすときは、ボタンを押したまま引き抜きます。



警告

ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。

- ヘッドレストをはずしたまま走行しないでください。衝突したときなどに、首に大きな衝撃が加わり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- リヤシートのヘッドレストはリヤシート専用です。取りつけるときは、“カチッ”と音がして固定されたことを確認してください。ヘッドレストを間違って取りつけると、固定することができず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

早基本
わかり操作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備の安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

メンテナンス

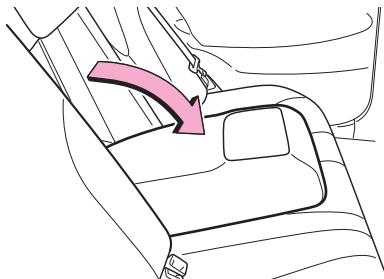
万一のとき

索引

知識

便利機能について

アームレスト

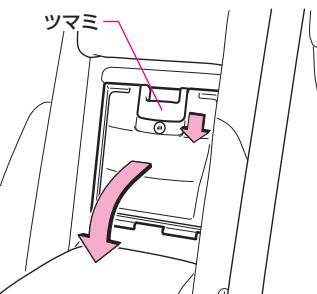


中央席の背もたれ部分を手前に倒すと、アームレストとして使用できます。

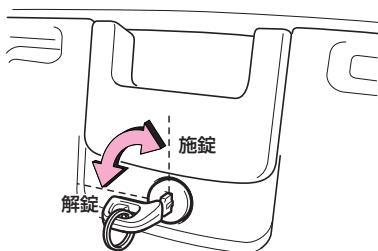
トランクスルー機構

アームレストを倒し、フタを開ければ、長いものを積むことができます。

- 使用するときは、ツマミを押してフタを開けます。



- メカニカルキーを使用して施錠することができます。



シートベルトの着用

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

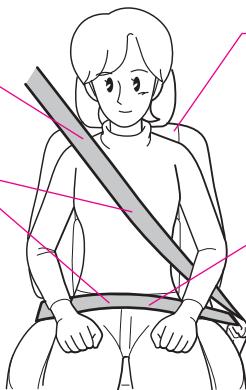
肩部ベルト

肩に十分かけること。(首にかかること、肩からはずれないこと。)

ねじれていないこと。

背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座ること。

腰部ベルト
必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させること。



警告

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- 車に乗る場合は、全員がシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに身体がシートに保持されず、身体をぶつけたり、ぶくらむSRSエアバッグに飛ばされたり、車外に投げ出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰かけた状態で着用してください。正しい姿勢については、P.167を参照してください。
 - 肩部ベルトは、首にかかったり脇の下を通したりして着用しないでください。必ず肩に十分かかるように着用してください。
 - 腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。腰部ベルトが腰骨からずれていると、衝突したとき腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
 - シートベルトはねじれがないように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができません。
 - シートベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使用しないでください。
 - シートベルトを着用する場合は、洗たくばさみやクリップなどでたるみをつけないでください。
 - シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに身体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
 - ハンドルやインストルメントパネルに必要以上に近づいて運転しないでください。



必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトやプレートをシートやドアに挟まないようにしてください。シートベルトが傷ついた場合、十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを必ず着用させてください。ひざの上でお子さまを抱いていると、急ブレーキや衝突したときなどに支えきれず、お子さまが放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 妊娠中の女性も必ずシートベルトを着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)
- 妊娠中のシートベルトの着用については、基本的に通常着用するときと同様ですが、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用するようしてください。
また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
- ベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児までが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 疾患のあるかたも必ずシートベルトを着用してください。
(ただし、医師に注意事項をご確認ください。)



警告

必ずシートベルトを着用してください。また、着用するときは必ず次のことをお守りください。

- シートベルトが首やあごに当たったり、腰骨にからないうような小さなお子さまには、チャイルドシート・ジュニアシートを使用してください。使用しない場合、衝突したときなどに強い圧迫を受け、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、ひとり座りのできない小さなお子さまは、ベビーシートを使用してください。なお、子供専用シートについてはトヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトのバックルには異物が入らないようにしてください。異物が入ると、ブレーキがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ほつれ、すりきれができたり、正常に作動しなくなったシートベルトは、すぐにトヨタ純正の新品と交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷のついたシートベルトは、使用しないですぐに新品と交換してください。そのまま使用すると、衝突したときなどに正常に働くかず、シートベルトが十分な効果を発揮せず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートベルトの改造や分解・取りつけ・取りはずしなどをしないでください。衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。シートベルトの取りつけ・取りはずし・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突したときなどに、シートベルトが十分な効果を発揮せず、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。



シートベルトの着用のしかた

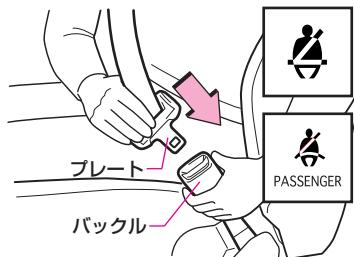
シートベルトの脱着のしかた



1 シートベルトを引き出します。

プレートを持って引き出し、ねじれていなことを確認します。

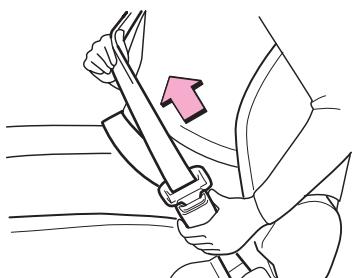
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてから、ベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。



2 プレートをバックルに差し込みます。

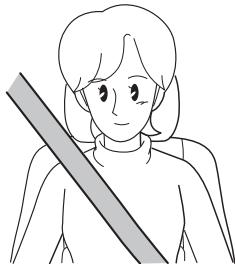
プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。

フロントシートベルトは、シートベルト非着用警告灯（P.235参照）が消灯したことを確認してください。



3 腰部ベルトを密着させます。

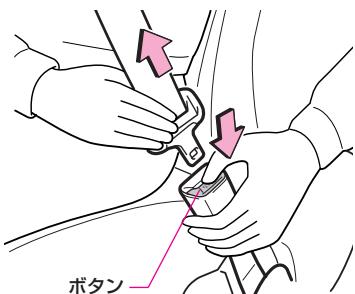
腰部ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。



4 肩部ベルトをかけます。

肩部ベルトは、必ず肩に十分かかるようにします。

このとき、ベルトが首に当たったり、肩からはずれないようにしてください。



5 ベルトの高さを調整します。(次ページ参照)

6 はずすときは、バックルのボタンを押します。



知識

リヤシートベルトインナーバックルについて

リヤシートベルトのバックルは、バックルの上に座るとシートに格納されます。





シートベルトの肩部高さ調整のしかた

フロントシートベルトの調整のしかた (アジャスタブルショルダーベルトアンカー)



アジャスタブルショルダーベルトアンカーでベルトの高さを調整します。

調整するときは、ベルトができるだけ肩の中央にかかるようにしてください。

- 上げるときはアンカーハーネスを上側に移動させ、最適な位置で手を離します。
 - 下げるときは、ロックボタンの上下をつかみ、アンカーハーネスを下側に移動させ、最適な位置で手を離します。
- “カチッ”と音がし、確実に固定されていることを確認します。

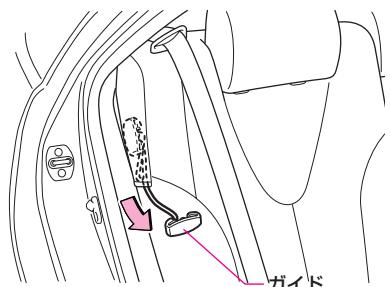


ショルダーベルトアンカーを調整するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないとい衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトが首に当たらないように、また肩の中央に十分かかるようできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

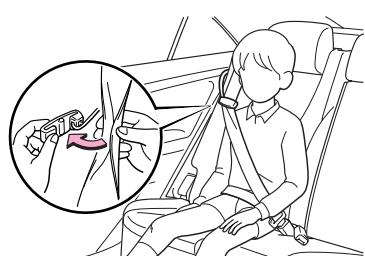
● リヤシートベルトの調整のしかた (リヤシートベルトリルーター機構)

左右席



1 ガイドを取り出します

リヤシート左右にあるポケットからガイドを取り出します。



2 ベルトをつまみ、ガイドの溝に通して使用します。



リヤシートベルトリルーター機構について

お子さまや身長の低いかたなど、ベルトが首に当たってしまうときに使用します。
● 使用しないときは、ガイドをリヤシートのポケットに格納しておいてください。

MEMO

目次



基本操作
早わかり

運転装置
取り扱い

室内装備
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

チャイルドシートの固定

I SOF I X対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーでの固定

リヤシート左右席

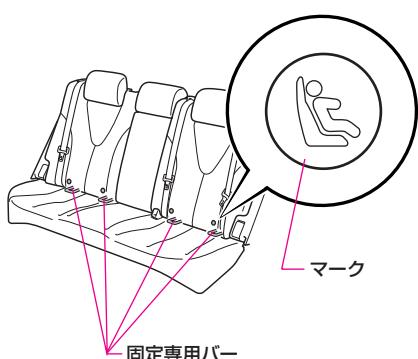
このI SO * F I X 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーには、I SO F I X対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のチャイルドシート・ベビーシートのみ取りつけることができます。

お子さまに最適な子供専用シートについては、トヨタ販売店にご相談ください。

※ International Organization for Standardization の略で「国際標準化機構」の意味

取りつけ位置について

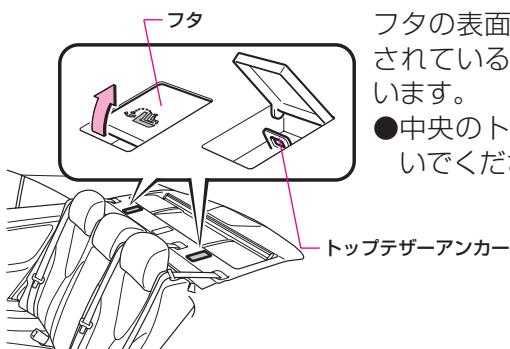
■ I SO F I X対応チャイルドシート固定専用バーの取りつけ位置



シートクッションと背もたれの間にあります。

- 固定専用バーが装備されていることを示すマークがシートについています。

■ トップテザーアンカーの取りつけ位置



フタの表面にトップテザーアンカーが装備されていることを示すマークが刻印されています。

- 中央のトップテザーアンカーは使用しないでください。



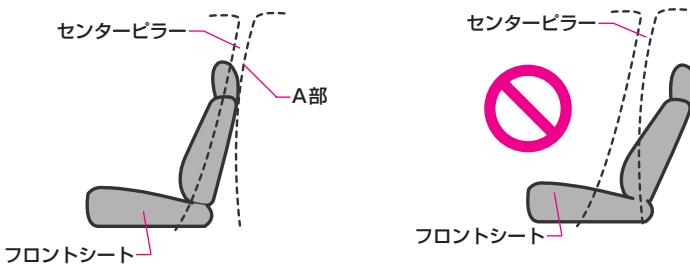
注意

トップテザーアンカーを使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

早
基
本
操
作取
運
転
装
置
の
取
扱
い取
り
扱
い
の
室
内
装
備
のの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意付
き
合
い
方
な
車
と
の
上
手
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

子供専用シートを取りつけるときは

- 1 リヤシートのヘッドレストをいちばん下まで押し下げます。また、リヤシートがリクライニングしていないことを確認します。(P.174参照)
- 2 ISO FIX対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーの位置を確認します。(前ページ参照)
- 3 フロントシートの前後位置・リクライニング調整をします。
シートの背もたれ後端が、センターピラーうしろ側（A部）より前になるように調整してください。
P.169参照



4 子供専用シート（チャイルドシート・ベビーシート）を取りつけます。

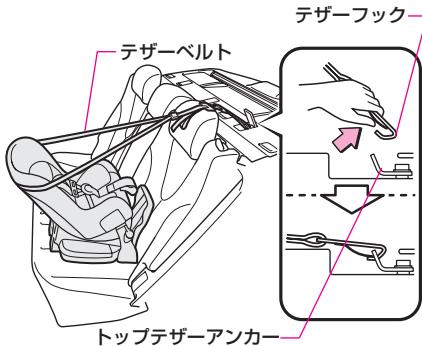
適合する子供専用シートの取りつけ金具を、固定専用バーに取りつけます。次にテザーベルトをトップテザーアンカーに取りつけます。

*取りつけ方法および取りはずし方は、それぞれの商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

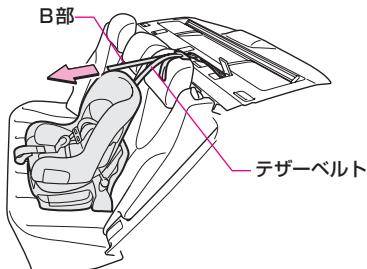
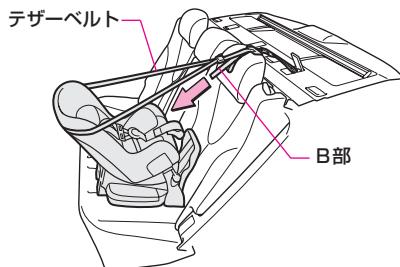
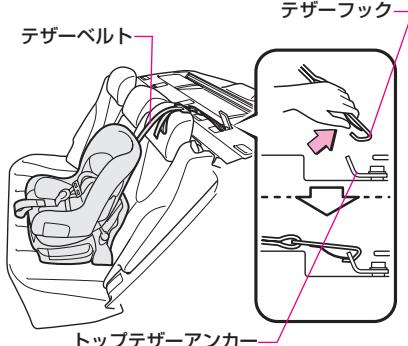
- シートの背もたれおよびシートクッションと子供専用シートとの間にすき間がないように、シートの背もたれの角度を調整してから取りつけてください。
- テザーベルトがねじれないように下図のようにヘッドレストの上を通して、テザーフックを車両側トップテザーアンカーに掛けます。
- テザーベルトがピンと張るまでB部を強く引っ張って、子供専用シートを固定します。

■子供専用シートの取りつけ例

ベビーシート



チャイルドシート



※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。



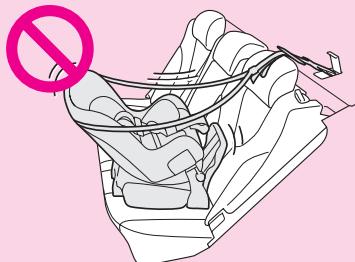
5 確実に固定されていることを確認します。

取りつけた子供専用シートを軽くゆさぶり、確実に取りつけられていることを確認します。



子供専用シートが固定されていることを必ず確認してください。

- 正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。
- 子供専用シートを取りつけるときは、ISOFIX対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むと、子供専用シートが固定されず、衝突したときなどに飛ばされて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 子供専用シートを取りつけるときは、必ずテザーベルトがピンと張るまで張力を掛けてください。テザーベルトが正しく張っていないと、衝突したときなどに生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

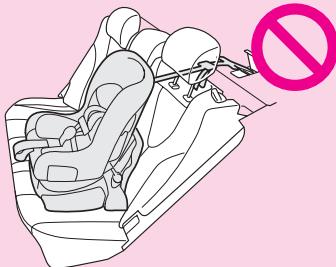
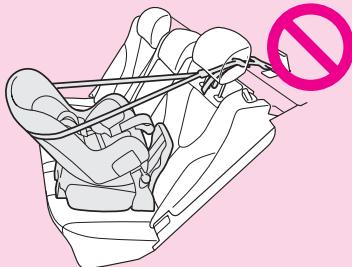




警告

テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通してください。

- テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通してください。ヘッドレストの下を通すと、子供専用シートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかる重大な障害を受けるおそれがあります。



- 子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取はずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。



注意

子供専用シートを取りつけたあとに、リヤシートのヘッドレスト位置およびリクライニング調整をしないでください。リヤシート、または子供専用シートが破損するおそれがあります。



I SOF I X対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーについて

このI SOF I X対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーには、カムリ指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（I SOF I X対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート・ベビーシート）のみ取りつけることができます。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

シートベルトでの固定

取りつけるときは

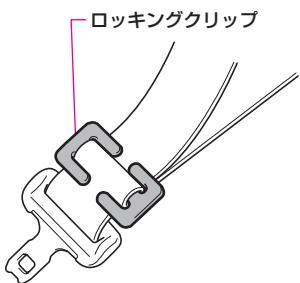


チャイルドシートにシートベルトを取りつけ、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込みます。

その際ベルトがねじれていなことを確認します。

- チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は



チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定します。

- ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取りつけたあとはチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

※ イラストは説明のためのものであり、実際の子供専用シートの形状とは異なります。



警告

子供専用シートの取りつけは、必ず商品に付属の取り扱い説明書をよくお読みのうえ、正しく取りつけてください。

- 正しく取りつけられていないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。なお、子供専用シートによっては、取りつけができない、または取りつけが困難な場合があります。
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。お子さまがシートベルトで遊んで万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- 子供専用シートの取り扱いについては、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両に子供専用シートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取りつけてください。子供専用シートを使用しない場合でも、シートにしっかりと固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取はずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。



早基
わ本
かり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・快適装備
と注意付き合い
車との上手な

メンテナンス

万一のとき

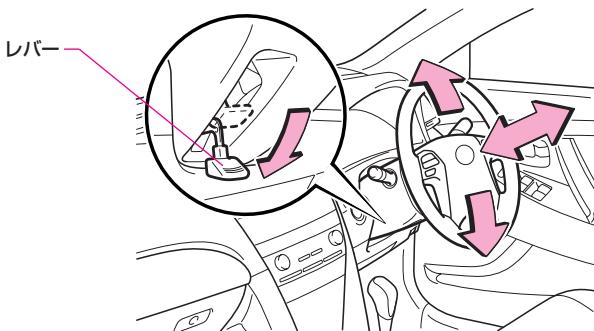
索引

道路運送車両の保安基準に適合する ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカー対応のトヨタ純正子供専用シートは、ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー & トップテザーアンカーで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

(ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについては、P.186の「ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーでの固定」を参照してください。)

ハンドル・ミラーの調整

ハンドルの調整



レバーを押し下げ、ハンドルを上下、前後に動かし適切な位置にして、レバーを引き上げると固定されます。



警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

- 走行中はハンドル位置の調整をしないでください。調整中に運転を誤り、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

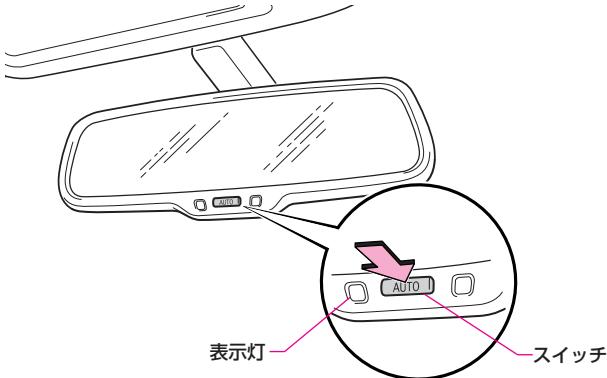
ハンドル位置を調整したあとは、確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、ホーンが鳴らない場合があります。

インナーミラーの調整



自動防眩機能

自動防眩機能付きミラー装着車



後続車のヘッドライトのまぶしさの度合いにより自動的に防眩機能が作動します。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると常に自動防眩機能が作動します。
- 自動防眩機能作動中は、表示灯が点灯します。
- 自動防眩機能の作動をやめたいときは、スイッチを押します。もう一度押すと、防眩機能が作動します。

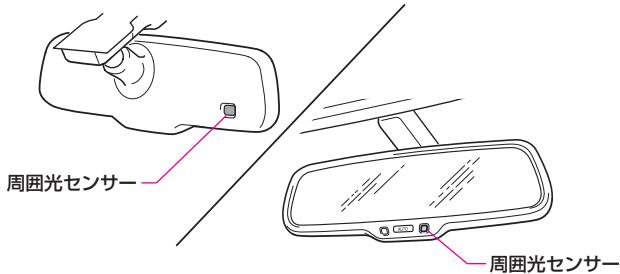


走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わず事故につながるおそれがあり危険です。

知識

周囲光センサーについて

インナーミラーの表側と裏側にある周囲光センサーを、カバーやステッカーなどで覆わないでください。自動防眩機能の誤作動の原因となります。



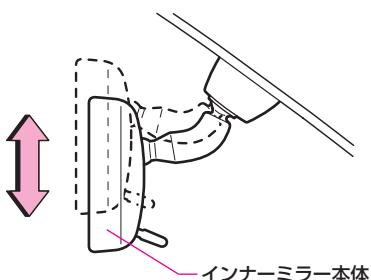
切り替え速度について

外気温が低いとき、自動防眩機能の切り替え速度が多少遅くなることがあります。



● 調整のしかた

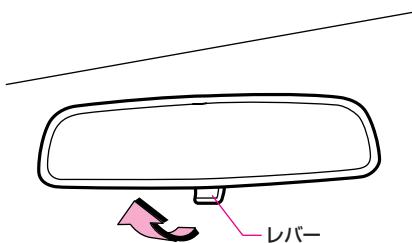
自動防眩機能付きミラー装着車を除く



インナーミラー本体を持って調整します。

● 防眩切り替えのしかた

自動防眩機能付きミラー装着車を除く



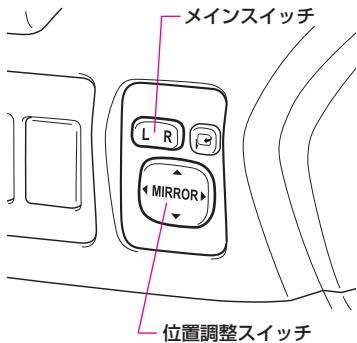
通常はミラー下側のレバーを前に押した状態で使用します。
後続車のヘッドライトがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。



走行中は、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わず事故につながるおそれがあり危険です。

ドアミラーの調整

鏡面角度調整のしかた



1 調整する側のメインスイッチを押します。

R…右側ドアミラー
L…左側ドアミラー

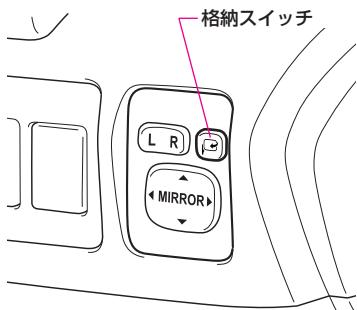
2 角度を調整します。

位置調整スイッチでミラーの角度を調整します。

3 メインスイッチを中立にします。

調整したあとは、メインスイッチを中立の位置にもどします。

格納のしかた



	スイッチの状態	ミラーの状態
ON (格納)		
OFF (復帰)		

格納スイッチを押すごとに、ON（格納）とOFF（復帰）に切り替わります。

“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFのときは、手で格納・復帰させることもできます。



警告

走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。

- 走行中は、ドアミラーの調整をしないでください。運転を誤り思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ドアミラーを倒したまま走行しないでください。ドアミラーによる後方確認ができず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

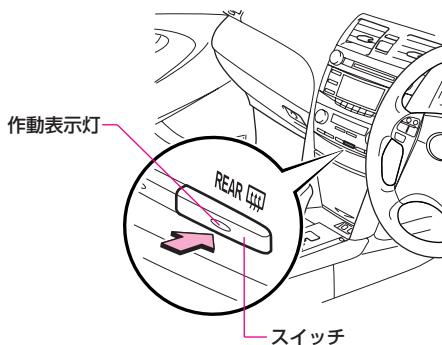
ドアミラーが動いているときは手を触れたりしないでください。手を挟んだけがをしたり、ドアミラーの故障などの原因となるおそれがあります。

知識

作動条件について

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき使用できます。
- ドアミラー格納作動中に、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにするとき、格納作動が停止します。
- 次の場合は、ドアミラーを手で格納・復帰させても、ミラーは格納スイッチの状態にもどります。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき。
 - 手動で操作したあとに、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしたとき。
- 格納スイッチがOFF（復帰）の状態で、手でドアミラーを前方に倒したときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしても、ミラーは復帰しません。一度格納スイッチをON（格納）にしてから、再度格納スイッチをOFFにして復帰させてください。

● ミラーヒーターの使い方



スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

- 作動中は作動表示灯が点灯します。



警告

作動中はドアミラーの表面が熱くなりますので、手を触れないでください。
やけどをするおそれがあり危険です。



注意

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。



知識

ミラーヒーターについて

- ドアミラーの鏡面を暖めて、霜、露、雨滴などを取り除きます。
- ミラーヒーターと一緒にリヤウインドウデフオッガー（P.261参照）も作動します。

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

MEMO

目次



基本操作
わり作

運転装置
取り扱い

室内装備
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

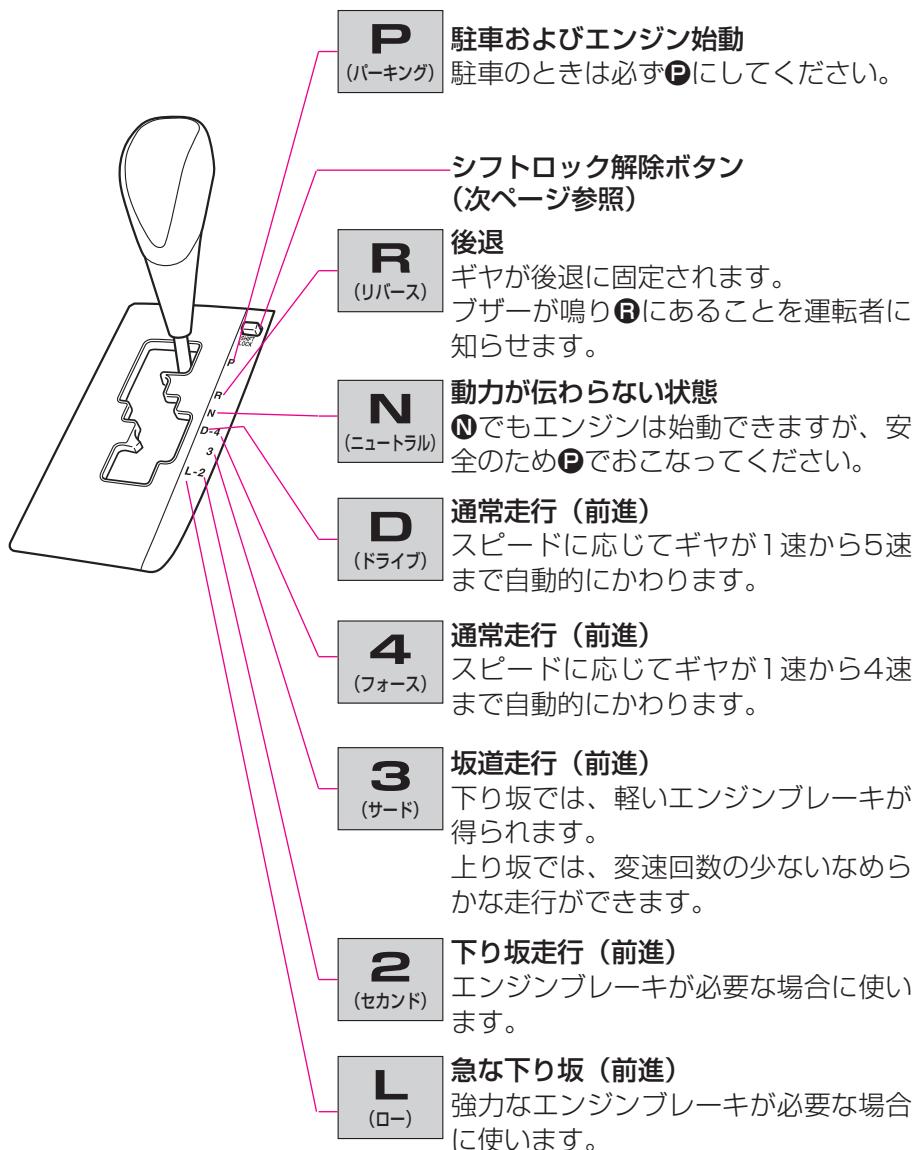
索引

シフトレバーの使い方

5速ゲート式シフトレバーの取り扱い

FF車

シフトレバーの働き





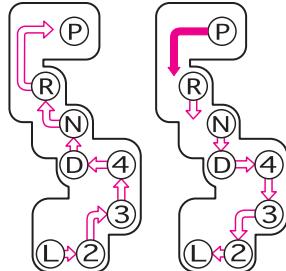
シフトレバーの取り扱い

■シフトレバーの操作

Pと**D**の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かすことができます。

シフトレバーをゲートにそってそのまま動かすことができます。



知識

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車でのシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーを**P**からレバー操作できません。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFまたはアクセサリーモードのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 - シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、操作してください。
- シフトレバーが**P**以外では“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすることはできません。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにするときは、シフトレバーを**P**に入れてください。
 - **P**以外で“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すとスイッチはアクセサリーモードになります。
- シフトレバーを**R**に入れるとブザーが鳴ります。
 - ブザーが鳴り、**R**にあることを運転者に知らせます。
 - 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
(車外の人に対する警告音ではありません。)

シフトロック解除ボタンの使い方

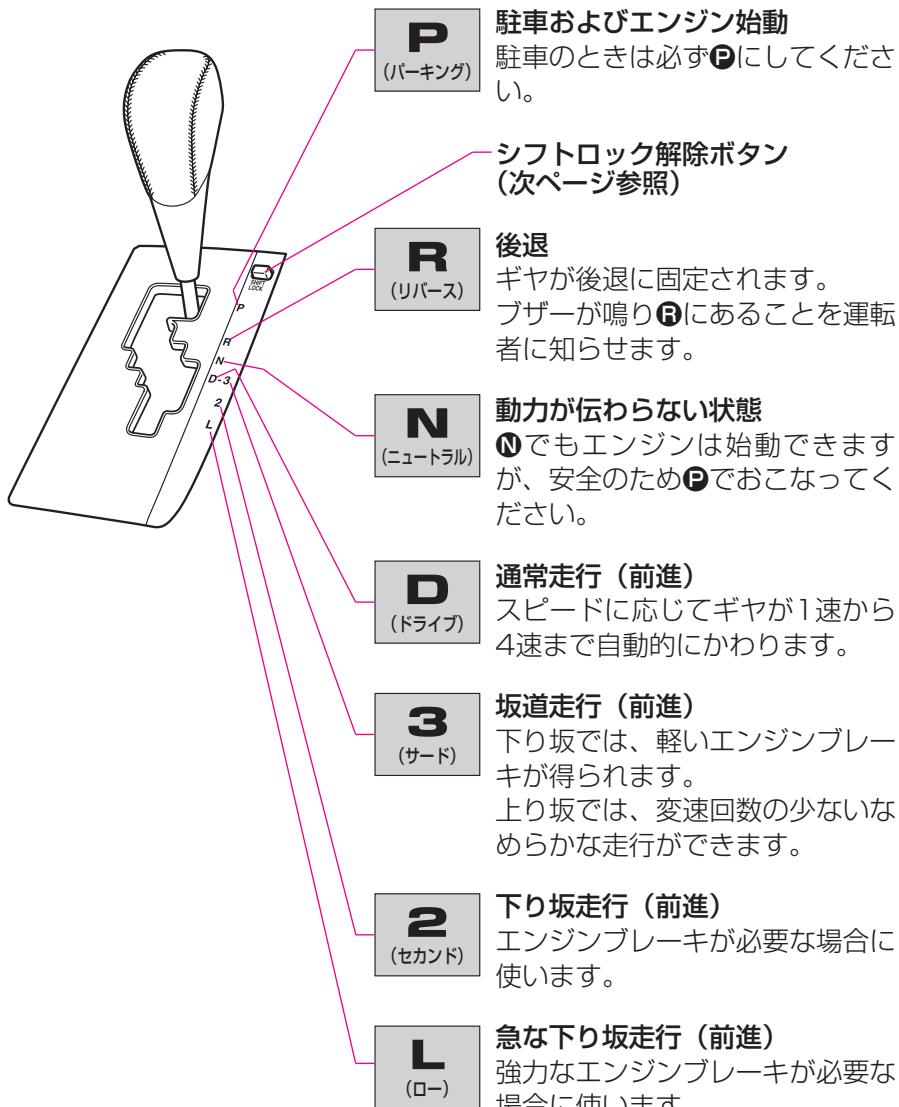
万一、シフトレバーが**P**からレバー操作できないときは

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしてシフトロック解除ボタンを押しながら、レバー操作してください。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

4速ゲート式シフトレバーの取り扱い

4WD車

シフトレバーの働き



早
基
本
操
作取
運
転
裝
置
の
取
り
扱
い室
内
裝
備
の
取
り
扱
いの
安
全
解
説
と
快
適
裝
備付
車
と
の
上
手
な
方メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

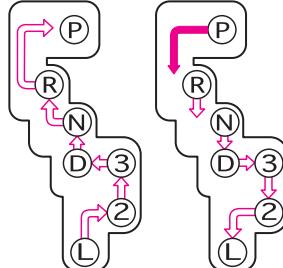
シフトレバーの取り扱い

■シフトレバーの操作

Pと**D**の間の操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをゲートにそって動かすことができます。

シフトレバーをゲートにそってそのまま動かすことができます。



知識

安全機能について

シフトロックシステム

オートマチック車でのシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- ブレーキペダルを踏んだ状態でなければシフトレバーを**P**からレバー操作できません。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFまたはアクセサリーモードのときは、ブレーキペダルを踏んでも操作できません。
 - シフトレバーを助手席側に倒したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、操作してください。
- シフトレバーが**P**以外では“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすることはできません。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにするときは、シフトレバーを**P**に入れてください。
 - **P**以外で“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すとスイッチはアクセサリーモードになります。
- シフトレバーを**R**に入れるとブザーが鳴ります。
 - ブザーが鳴り、**R**にあることを運転者に知らせます。
 - 車外の人には音は聞こえませんのでご注意ください。
(車外の人に対する警告音ではありません。)

シフトロック解除ボタンの使い方

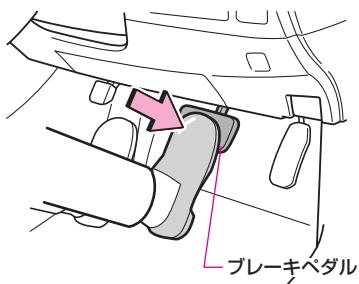
万一、シフトレバーが**P**からレバー操作できないときは

- ブレーキペダルを踏んだ状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしてシフトロック解除ボタンを押しながら、レバー操作してください。
- シフトロックシステム等の故障が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

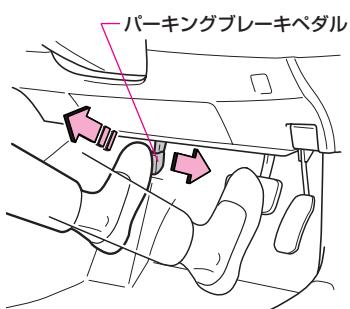
オートマチック車の運転のしかた

発進のしかた

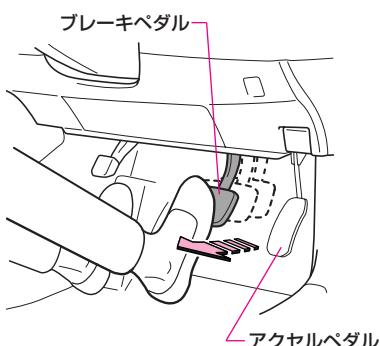
通常発進のしかた



- 1 ブレーキペダルを右足でしっかりと踏ん
だまま、シフトレバーをⒶに入れます。



- 2 左足でパーキングブレーキを解除しま
す。
P.212参照



- 3 ブレーキペダルを徐々にゆるめてから、
右足でアクセルペダルをゆっくり踏み
発進します。

早基
本
か
り作取運
搬装置の取り扱い
室装備のの安全
解説・
注意装備付車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万ーのとき

索引

● 上り坂の発進のしかた

- 1** パーキングブレーキがしっかりとかかっていることを確認してから、シフトレバーを①に入れます。
- 2** 右足でアクセルペダルをゆっくり踏みます。
- 3** 車が動き出す感触を確認してから、左足でパーキングブレーキを解除し、発進します。



警告

ブレーキペダルをしっかりと踏んだままシフトレバーを操作してください。

- 発進するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、シフトレバーを操作してください。とくにエンジン始動直後やエアコン作動時などは、クリープ現象が強くなるため、よりしっかりとブレーキペダルを踏んでください。
- 運転するときは、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を必ず確認して、踏み間違いのないようにしてください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏み込んだまでのシフトレバー操作は絶対に行わないでください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

走行のしかた

通常の走行

シフトレバーを①に入れたまま走行します。

- アクセルとブレーキの操作だけで、加速・減速します。

急加速するには

アクセルペダルをいっぱいに踏み込みます。キックダウンし、急加速します。

■上り坂

アクセルペダルを踏み込んでいくとキックダウンし、急にエンジン回転が上がることがあります。あらかじめシフトレバーを④または③（4WD車では③または②）にしておくと、エンジン回転数の変化をおさえることができます。

■下り坂

フットブレーキを使いすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。シフトレバーが①のままでスピードが出すぎるときは、坂道に応じて③、②または④（4WD車では②または④）に入れエンジンブレーキを併用します。

- シフトレバーを④（4WD車では③）にすることによっても軽いエンジンブレーキが得られます。



走行中にはシフトレバーをNに入れないでください。

- 走行中にはシフトレバーをNに入れないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 前進で走行中は、シフトレバーをRに入れないでください。車輪がロックして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、オートマチックトランスミッションに無理な力が加わり、故障するおそれがあります。
- ブレーキペダルはアクセルペダルと同じ右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 坂道などでは、シフトレバーをDまたは4、3、2、L（4WD車ではDまたは3、2、L）を入れたまま惰性で後退したり、Rを入れたまま惰性で前進することは絶対に止めてください。エンストして、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、故障や思わぬ事故の原因となるおそれがあり危険です。



シフトレバーをNに入れたままで走行すると、トランスミッションの故障の原因となるおそれがあります。



クルーズコントロール装着車のエンジンブレーキについて

クルーズコントロールを使用しているときに、シフトレバーをDから4（4WD車はDから3）にシフトダウン操作しても、クルーズコントロールが解除されていないため、エンジンブレーキは効きません。減速が必要なときの操作方法はP.266を参照してください。

停車・駐車のしかた

停車のしかた

1 車を止めます。シフトレバーは①のまま、右足でブレーキペダルをしっかりと踏みます。

エアコンは温度変化により断続的に作動します。作動中は自動的にアイドルアップし、クリープ現象が強くなりますので、車が動き出さないようにとくに注意してください。

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかけます。

上り坂での停車は、クリープ現象で前へ進もうとする力よりも、車が後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退するおそれがあります。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏み、左足でしっかりとパーキングブレーキをかけてください。

3 長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNに入れます。

駐車のしかた

1 車を完全に止めます。

2 パーキングブレーキをかけます。

右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだまま、左足でパーキングブレーキをしっかりとかけます。

3 シフトレバーをPに入れます。

車が動き出さないためにも、必ずPに入れてください。

4 エンジンを停止します。

車を離れるときは、必ずエンジンを停止して、ドアを施錠してください。

早
基
本
操
り
作取
運
転
装
置
の取
室
内
装
備
のの安
全
解
説・
快適
装
備
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

警告

走行中は、シフトレバーをPに入れないでください。

- 走行中はシフトレバーをPに入れないでください。オートマチックトランスミッションの内部が機械的にロックされ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車中は空ぶかしをしないでください。シフトレバーがP・N以外にあると、車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

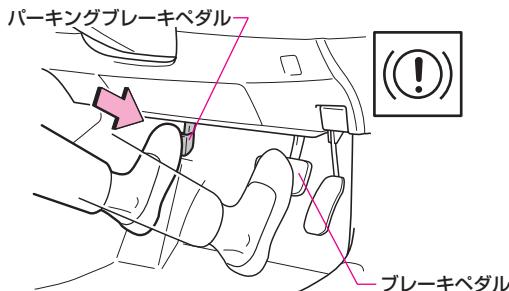
車から離れるときは、必ずエンジンを停止してドアを施錠してください。

- エンジンをかけたままにしておくと、万一、シフトレバーがP以外にあるときに、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でDまたは4、3、2、L(4WD車ではDまたは3、2、L)に入れたままアクセルペダルをふかしながら止まらないでください。オートマチックトランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

パーキングブレーキの使い方

パーキングブレーキペダルの使い方

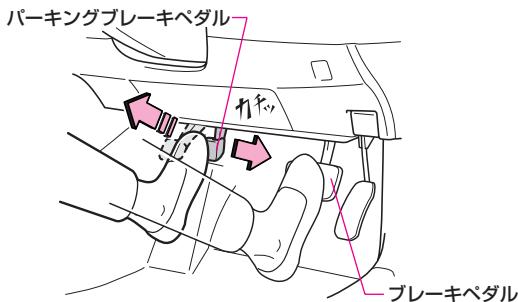
パーキングブレーキをかけるには



右足でブレーキペダルをしっかりと踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぽいまで踏み込みます。

- ブレーキ警告灯が点灯します。

パーキングブレーキを解除するには



右足でブレーキペダルをしっかりと踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み込み、ゆっくり離します。

- ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。



注意

パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。



知識

かけなおすときは

パーキングブレーキをかけたあと、かけなおしたい場合は、一度解除してから踏みなおします。

警告ブザーについて

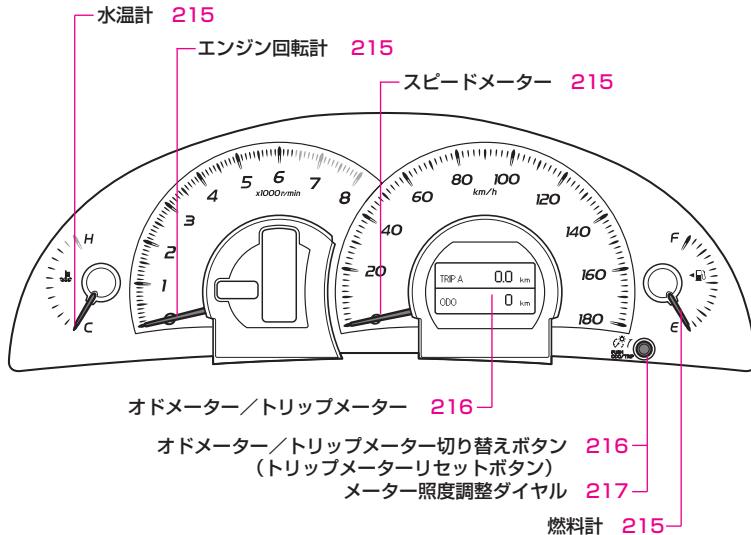
パーキングブレーキをかけた状態で、約5km/h以上で走行したとき、警告ブザーが鳴るとともに、メーター内に警告内容が表示されます。(P.244参照)

冬期のパーキングブレーキの使用についてについて

P.376の「駐車するときは」をお読みください。

メーター・表示灯・警告灯の見方

メーター



知識

メーターについて

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたときなどに、メーター内の指針がゼロ目盛り付近で短時間微動する場合がありますが、異常ではありません。

早基
本
か
り作取運
搬装置の取り扱い
室装備のの安全
解説・
注意装備付車との
上手な
付き合いメンテナ
ンス

万ーのとき

索引

燃料計

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、燃料残量を示します。

燃料タンク容量はFF車は約70L、4WD車は約65Lです。



知識

燃料計について

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針がふれることがあります。
- 燃料補給後、指示が安定するまで少し時間がかかります。
- “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示できません。
- 燃料計にある印はフューエルリッド（燃料補給口）が助手席側にあることを示しています。

スピードメーター

車両の走行速度を示します。

エンジン回転計

毎分のエンジン回転数を示します。



注意

指針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないように運転してください。指針がレッドゾーンに入る運転を続けると、エンジンなどに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがあります。

水温計

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、エンジン冷却水の温度を示します。



注意

指針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、P.460の「オーバーヒートしたときは」にしたがって処置をしてください。

● オドメーター／トリップメーター

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、次の表示をします。

■ オドメーター

走行した総距離をkmの単位で示します。

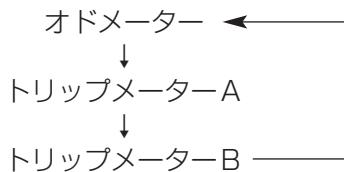
■ トリップメーター

2種類の区間距離（トリップA、トリップB）をkmの単位で示します。

● オドメーター／トリップメーター切り替えボタン（トリップメーターリセットボタン）

■ オドメーターとトリップメーターの表示の切り替え方

切り替えボタンを押すごとに、次のように表示が切り替わります。



■ トリップメーターを0（ゼロ）にもどすときは

トリップメーターA、トリップメーターBのうち0にしたいほうを表示させてから、リセットボタンを表示が0になるまで押し続けます。

バッテリーとの接続が断たれたときは、トリップメーターは0になります。

早基本
わ本
かり作取り
運転
装置の
扱い取り
室內
扱い
装備のの安全
解説・
快適装備
と注意付き
車との上手な
合い方メンテナ
ンス万
一のとき

索引

メーター照度調整ダイヤル

メーター照度調整ダイヤルをまわすことにより、メーター照明の明るさを調整できます。



知識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

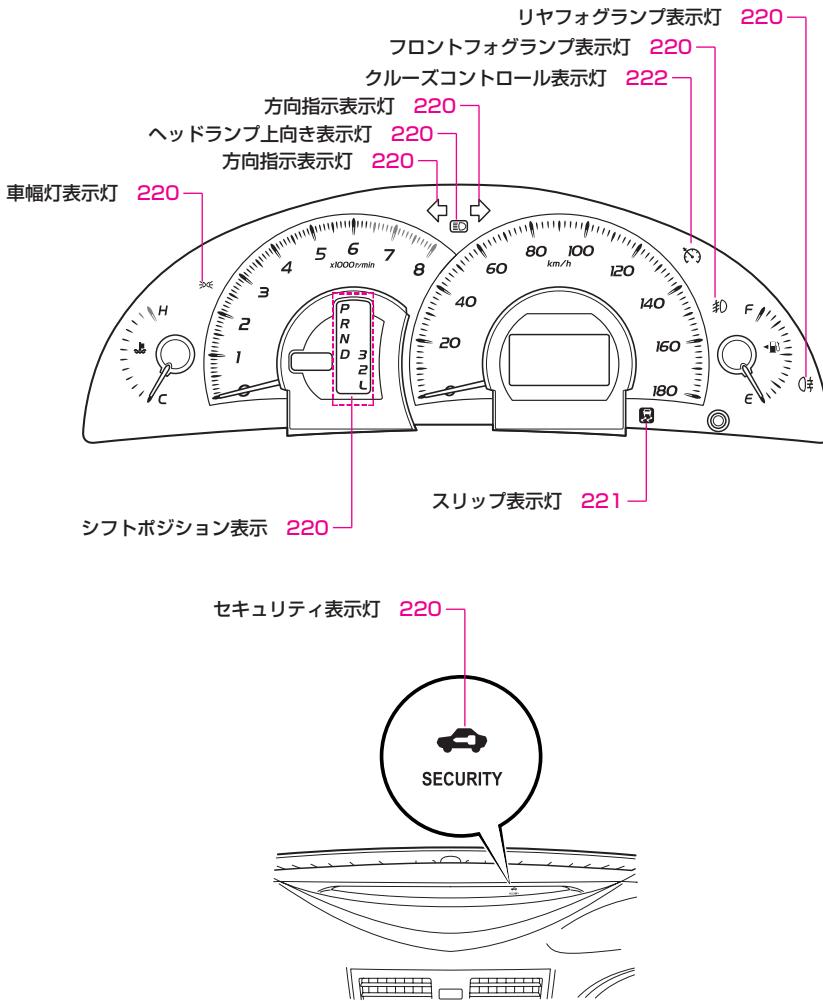
メータ照度の調整について

ダイヤルを右にまわすとメーター照明が明るくなり、左にまわすと暗くなります。

減光について

ライトスイッチがOFFになるとメーター照明が減光されます。なお、“カチッ”と音がするまで右いっぱいにまわすと、ライトスイッチがOFFになったとき、メーター照明が減光されません。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）にライトを点灯しても、メーター照明は減光されません。

表示灯



図ではすべてのグレード等における表示灯を掲載しています。実際の車に設定される表示灯はグレード等により異なります。

早
基
本
操
作取
運
転
装
置
の取
り
扱
い
の
室
内
装
備
のの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
・
注
意
事
件付
車
と
の
上
手
な
方
の
行
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
時
間索
引

〈表示灯一覧表〉

表示灯	表示灯名	表示灯	表示灯名
	方向指示表示灯		セキュリティ表示灯
	車幅灯表示灯		リヤフォグランプ表示灯
	ヘッドライト上向き表示灯		スリップ表示灯
	フロントフォグランプ表示灯		クルーズコントロール表示灯

● シフトポジション表示

選択されているシフト位置を表示します。



● 方向指示表示灯

方向指示灯、非常点滅灯を作動させると点滅します。
(P.251、263参照)



点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。



● 車幅灯表示灯

車幅灯、尾灯を点灯させると点灯します。(P.248参照)



● ヘッドライト上向き表示灯

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。(P.250参照)



● フロントフォグランプ表示灯

フロントフォグランプを点灯させると点灯します。(P.252参照)



● リヤフォグランプ表示灯

寒冷地仕様車

リヤフォグランプを点灯させると橙色に点灯します。
(P.253参照)



SECURITY

● セキュリティ表示灯

盗難防止システムが作動中に点滅します。(P.360参照)

早基本
わかり作取り扱い
装扱いの取り扱い
室装備のの安全
解説・
注意装備付き合いの上
手なメンテナ
ンス

万ーのとき

索引



スリップ表示灯

VSC装着車

エンジン回転中の次のときには点滅します。

- VSC、TRCが作動したとき
(P.362、363参照。)



注意

表示灯が次のようにになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき



表示灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

VSCシステム異常

VSCシステムに異常があると、点灯します。

- 表示灯が点灯しているときは、VSC、TRCは作動しませんが、通常の走行には支障ありません。



注意

表示灯が点灯したときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。



● クルーズコントロール表示灯

クルーズコントロール装着車

クルーズコントロールのメインスイッチを押して、待機状態にすると点灯します。(P.265参照)



注意

定速走行中に表示灯が点滅したときは、メインスイッチを一度OFFにしてから再度セットしてください。
以上の操作をしても、セットできない、またはセットしてもすぐ解除される場合は、システムの異常が考えられます。
走行上支障はありませんが、トヨタ販売店で点検を受けてください。

MEMO

目次



早基本
わかり操作

取り扱い
運転装置の

取り扱い
室内装備の

安全・快適装備
の解説と注意

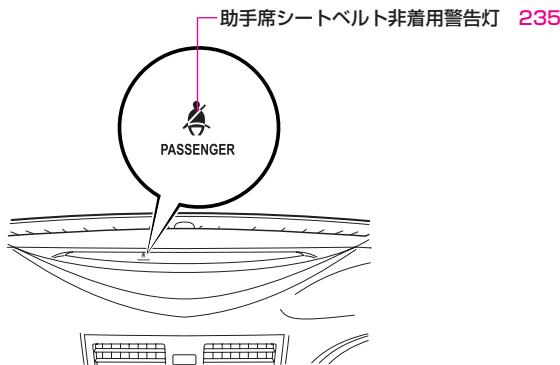
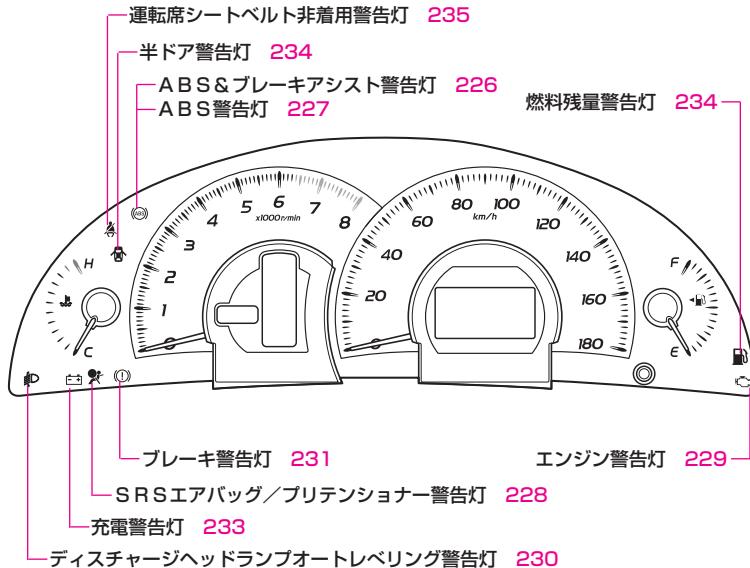
付き合い方
車との上手な

メンテナンス

万ーのとき

索引

警告灯



図ではすべてのグレード等における警告灯を掲載しています。実際の車に設定される警告灯はグレード等により異なります。



〈警告灯一覧表〉

警告灯	警告灯名	警告灯	警告灯名
(ABS)	A B S & ブレーキアシスト 警告灯 (V S C 装着車) A B S 警告灯 (V S C 装着車を除く)		充電警告灯
	S R S エアバッグ／ プリテンショナー警告灯		燃料残量警告灯
	エンジン警告灯		半ドア警告灯
	ディスチャージヘッド ランプオートレベリング 警告灯		運転席シートベルト 非着用警告灯
(!)	ブレーキ警告灯	 PASSENGER	助手席シートベルト 非着用警告灯

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



● A B S & ブレーキアシスト警告灯

VSC装着車

A B S & ブレーキアシストシステム（P.348）に異常があると点灯します。

- 警告灯が点灯しているときは、A B S & ブレーキアシストシステムは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
- 警告灯が点灯しているときは、A B S が作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。



ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

- 警告灯がブレーキ警告灯と一緒に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、A B S に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になることがあります。
 - 警告灯が次のようにになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。
- ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。



次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



● ABS警告灯

VSC装着車を除く

ABS (P.348) に異常があると点灯します。

- 警告灯が点灯しているときは、ABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されています。
- 警告灯が点灯しているときは、ABSが作動しないため急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時には、タイヤがロックすることがあります。



注意

ブレーキ警告灯と同時に点灯したままのときはただちに停車してください。

- 警告灯がブレーキ警告灯と一緒に点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。この場合、ABSに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になることがあります。
- 警告灯が次のようにになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードで点灯したまま消灯しないとき、または走行中点灯したままのとき。
 なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。

次の警告灯が点灯・点滅したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



● SRSエアバッグ／ プリテンショナー警告灯

SRSエアバッグシステム（P.332参照）、またはプリテンショナー付シートベルトシステム（P.346参照）に異常があると、点灯・点滅します。



注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。衝突したときなどにSRSエアバッグ、またはプリテンショナー付シートベルトが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき、または点灯・点滅したままのとき。
- 走行中に点灯・点滅したとき。



知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。



次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



● エンジン警告灯

エンジン回転中、エンジン電子制御システム、オートマチックトランスミッション電子制御システムに異常があると点灯します。



エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- エンジン回転中に点灯したときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - 警告灯が点灯しアクセルペダルを踏んでもエンジン回転数の上昇が鈍いときは、電子制御系の異常が考えられます。このときは、車体振動が増える場合もありますが、低速で走行できます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- なお、この低速走行中に万一電子制御系の異常が解消した場合でも、エンジンを停止するまでは、正常状態に復帰することはありません。



知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



ディスチャージヘッドライト オートレベルリング警告灯

ディスチャージヘッドライトのオートレベルリング（上下照射方向自動調整）システムに異常があると点灯します。（P.361参照）



注意

走行中に警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、いったんエンジンを止めてください。“エンジンスタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたときに、警告灯が数秒点灯したあとに消灯すればそのまま使用できます。消灯しないとき、または再度点灯するときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

警告灯について

“エンジンスタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後に消灯します。



次の警告灯が点灯したままのときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。



● ブレーキ警告灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで次のときに点灯します。

- パーキングブレーキをかけたままのとき。

●パーキングブレーキが解除されても、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると、数秒間点灯します。

- ブレーキ液が不足しているとき。



警告

警告灯が次のようになったときは、ただちに安全な場所に停車してトヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジン回転中にパーキングブレーキを解除しても点灯したままのとき。
この場合、ブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。効きが悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。

- 警告灯がABS & ブレーキアシスト警告灯と同時に点灯したままのとき。
この場合、ABS、ブレーキアシスト（VSC装着車）に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。



注意

警告灯が次のようになったときは、システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで、パーキングブレーキをかけても点灯しないとき。

- パーキングブレーキが解除された状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしても点灯しないとき。

なお、走行中に点灯しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると（パーキングブレーキが解除されていても）点灯し、エンジンをかけると消灯します。

早
基
本
操
作取
運
転
装
置
の取
り
扱
い
の
室
内
装
備
のの
安
全
・
快
適
装
備
と
注
意
説
と付
車
と
の
上
手
な
方
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

次の警告灯が点灯したままのときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。



充電警告灯

エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、Vリブドベルトの切れなどが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へご連絡ください。



知識

警告灯について

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

次の警告灯が点灯したときは、すみやかに対処してください。



● 燃料残量警告灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、残量がFF車は約11L以下、4WD車は10L以下になると点灯します。点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。

- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。



● 半ドア警告灯

いずれかのドア、トランクが確実に閉まっていないときに点灯します。

■半ドア警告ブザー

いずれかのドア、トランクが確実に閉まっていない状態（警告灯が点灯しているとき）で、約5km/h以上で走行したとき警報ブザーで警告します。



警告

警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないため、走行中にドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

早
基
本
か
り
作取
運
転
装
置
の
取
り
扱
い取
室
内
装
備
の
取
り
扱
いの
安
全
解
説
・
快
適
装
備
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
使
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

次の警告灯が点滅したときは、すみやかに対処してください。



● 運転席シートベルト非着用警告灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、運転席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■ 運転席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が最大で約120秒間鳴ります。(ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。)

- シートベルトを装着すると消音します。



PASSENGER

● 助手席シートベルト非着用警告灯

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで、かつ助手席シート表面の乗員検知センサーが乗員を検知したときに、助手席シートベルトを着用していないと点滅します。ただちにシートベルトを着用してください。

■ 助手席シートベルト非着用警告ブザー

警告灯が点滅している状態で、車速が約20km/h以上になると、断続音が最大で約120秒間鳴ります。(ブザーが鳴りはじめてから、約30秒後にブザーの音がかわります。)

- シートベルトを装着すると消音します。

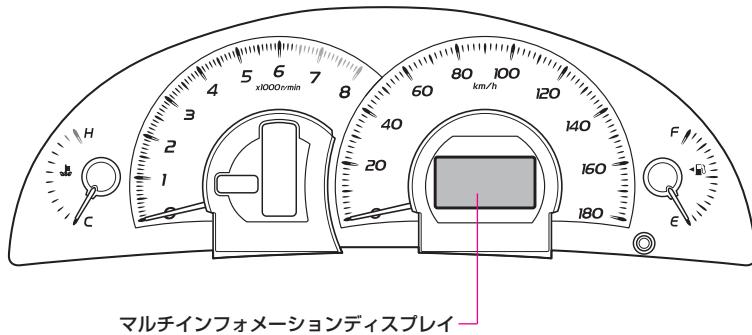


警告灯について

- センサーは、助手席シート表面（うしろ半分）に、ある一定以上の重量がかかったときに検知します。したがって、荷物などを置いた場合にも検知し、警告灯が点滅することがあります。
- 助手席シート表面上にクッション（座布団）などを敷くと、重量が分散され、センサーが乗員を検知しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイでできること



マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報が表示されます。

クルーズインフォメーションディスプレイ P.238参照

警告表示 P.242参照

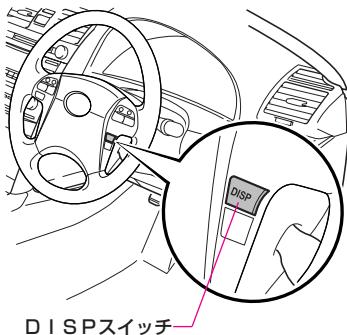


知識

マルチインフォメーションディスプレイについて

外気温度が低い場合、画面が暗くなったり表示が薄くなることや、表示の切り替わりが遅くなることがあります。

各表示の切り替えのしかた



D I S Pスイッチを押すごとに「クルーズインフォメーションディスプレイ」の表示を切り替えることができます。(P.238参照)

- スイッチを長押しすると、外気温表示 (P.239参照) になります。

知識

ディスプレイの表示について

警告する項目が発生すると、「クルーズインフォメーションディスプレイ」の項目が表示されても、警告表示に切り替わります。

目次

警告

早基本
わかり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・
快適装備付き合い
車との上手な

メンテナンス

万一のとき

索引

クルーズインフォメーションディスプレイ

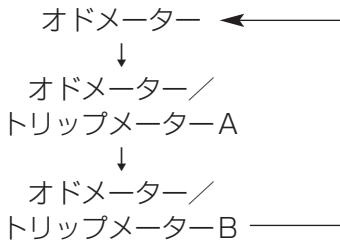
D I S Pスイッチを押すごとに、次のように表示が切り替わります。



○ オド／トリップ拡大表示

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき、オドメーター、トリップメーターを拡大して表示します。

●オドメーター／トリップメーター切り替えボタン（P.216参照）を押すごとに次のように切り替わります。





外気温

外気温度を表示します。

知識

外気温度表示について

- ほかの計測装置により、計測した外気温度とは異なることがあります。
- 次の場合は、正しい外気温度が表示されないことがあります。
 - 外気温度が約-40°C以下、または約50°C以上のとき。
 - 停車しているときや低速走行（約20km/h以下）しているとき。
 - 外気温度が急激に変化したとき（トンネルの出入口付近など）。
- 実際の外気温度が変化していくくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温度表示が変動することがあります。



航続可能距離

現在の燃料残量と燃費から航続可能距離を表示します。



注意

航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計がEに近づか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。

知識

航続可能距離表示について

- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 表示される航続可能距離は、過去の燃費をもとに計算しているため、運転方法・道路状況により増減することがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
- 燃料計が異常検出したときは、しばらく表示が「—km」になることがあります。
- バッテリーターミナルの脱着を行ったときは、学習した燃費はリセットされます。



給油後平均燃費

給油後、エンジンを始動してからの平均燃費を約10秒ごとに更新して表示します。

- 給油すると、数値がリセットされます。

知識

給油後平均燃費について

- 必ず車を停止して、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFまたはアクセサリーモードにして給油してください。
また以下の場合、数値がリセットされないことがあります。
 - “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードの状態での給油時
 - 少量給油時
- 燃料を補給したあと発進するまでは、前回エンジンが停止したときの値を表示します。



始動後走行距離

エンジンを始動してからの走行距離表示します。
●エンジンを始動すると、数値がリセットされます。

知識

始動後走行時間について

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのときは、前回エンジンを停止したときの値が表示されます。
- バッテリーターミナルの脱着を行ったときは、走行距離はリセットされます。

早基
わ本
かり操
り作取り
運転
装置の取り扱い
室內装備のの安全
解説・
注意と
装備車との
付き合い
上手な
方メンテナ
ンス万
一のとき

索引



始動後平均車速

エンジンを始動して走行し始めてからの平均車速を、約10秒ごとに更新して表示します。



知識

始動後平均車速について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのときは、前回エンジンを停止したときの値が表示されます。

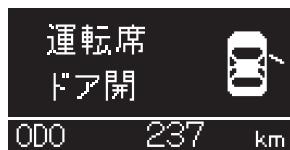
警告表示



車両の各システムに、システムの異常などのお知らせしたい情報が発生すると、“ポン”という警告音が鳴るとともにマスター ウォーニングが点灯または点滅して、マルチインフォメーションディスプレイに警告内容などの情報が表示されます。

なお、システムによっては、マルチインフォメーションディスプレイに情報が表示されるのみの場合もあります。

- 警告表示が2つ以上ある場合には、自動的に表示が切り替わり、繰り返して表示します。
- 警告表示の要因が解消されると、警告表示は消えます。

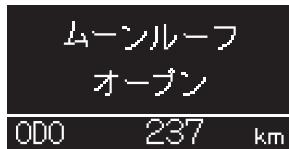


半ドア警告表示

いずれかのドア、トランク、またはボンネットが開いていると、開いているドア、トランク、ボンネットが文字と絵で表示されます。この状態のまま走行し、車速が約5km/h以上になると、“ポン”という音が鳴るとともにマスター ウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。



警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドア、トランク、またはボンネットが確実に閉まっていないため、走行中に突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



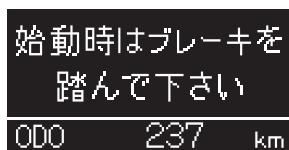
● ムーンルーフオープン 警告表示

ムーンルーフ装着車

“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFまたはアクセサリーモードのとき、ムーンルーフが開いている状態のまま運転席ドアを開けると、“ポン”という音が鳴るとともにマスターウォーニングが点滅し、警告内容が表示されます。

車から離れる場合は、ムーンルーフを閉めてください。

- 車から離れるときや、洗車時には完全に閉まっていることを確認してください。



● エンジン始動時警告表示

ブレーキを踏まずに“エンジンスタートストップ”スイッチを押してスイッチの切り替えを2回繰り返すと、警告内容が数秒表示されます。ただし、マスターウォーニングは点滅または点灯しません。



早基
本
か
り作

取
運
転
装
置
の

取
り
扱
い
の
室
内
装
備
の

の安
全
・快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

付
車
と
の
上
手
な
方
な

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
とき

索
引

エンジン油圧
不足

ODO 237 km

エンジンオイル油圧
警告表示

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力に異常があると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターオーニングが点滅し、警告内容が表示されます。



注意

警告表示がでたときは、ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、エンジンオイル量を点検してください。(P.415参照) エンジンオイルが減っていないのに表示されてされているときや、エンジンオイルを補給しても表示されるときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

パーキングブレーキ
未解除

ODO 237 km

パーキングブレーキ
未解除警告表示

パーキングブレーキがかかったまま、車速が約5km/h以上になると、“ポーン”という音が鳴るとともにマスターオーニングが点滅し、警告内容が表示されます。



注意

警告表示がでたときは、車を止め、パーキングブレーキを解除してから走行してください。



水温異常

ODO 237 km

水温異常警告表示



注意

警告表示がでたときは、オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、P.460の「オーバーヒートしたときは」にしたがって処置をしてください。

エンジン始動時アドバイス表示

ブレーキを踏みながら
キーでエンジンスイッチ
に触れて下さい

ODO 237 km

以下のとき、“ローン”という音が鳴るとともに表示されます。ただし、マスターオーナーングは点滅または点灯しません。

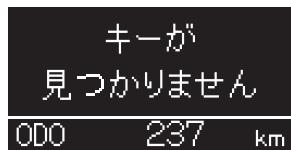
- メカニカルキーでドアを解錠後、“エンジンスタート ストップ”スイッチを押したときに車室内に電子キーがないと判断されたとき。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを押したときに、車室内に電子キーがないと2回連続で判断されたとき。

始動するにはブレーキを
踏みながらエンジン
スイッチを押して下さい

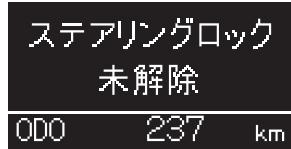
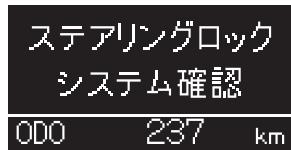
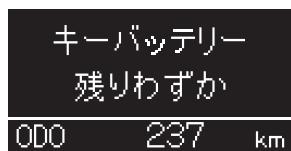
ODO 237 km

電子キーを“エンジン スタート ストップ”スイッチに触れさせ、電子キーが認識される旨表示されます。

●スマートエントリー & スタートシステム 警告表示



スマートエントリー & スタートシステムの警告表示については、P.133を参照してください。



MEMO

目次



基本操作
わかり作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

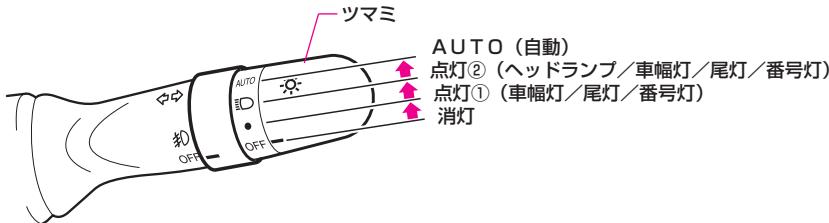
万一のとき

索引

スイッチの使い方

ライトスイッチの使い方

ランプの点灯・消灯



■自動で使うときは

ツマミをAUTOにまわすと周囲の明るさに応じて、ヘッドライト・車幅灯などが自動で点灯・消灯します。

- エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、自動的に消灯します。“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると、再び点灯します。
- 車幅灯、尾灯が点灯すると、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

■手動で使うときは

ツマミを点灯①・点灯②にまわすと、点灯します。

- メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。



注意

完全に充電されたバッテリーでも、エンジンを停止した状態で長時間ランプ類を点灯すると、バッテリーあがりの原因となります。

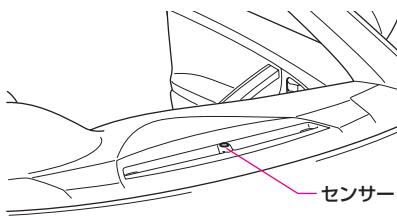
 知識

作動条件について

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。(AUTOで使用するとき)
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに関係なく使用できます。(点灯①・点灯②で使用するとき)

コンライトセンサー※について

- 自動で使用しているときのランプの点灯・消灯が早いまたは遅いと感じたときは感度の調整ができますのでトヨタ販売店にご相談ください。
- コンライトのセンサーの上にものを置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。



※詳しくは、P.430の「ユーザーカスタマイズ機能」を参照してください。

システムの異常について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードでライトスイッチがAUTOのとき、システムに異常があると、コンライトが次のように制御されます。

- ランプが点灯しているときは、点灯したままになります。
この場合は、ライトスイッチをAUTO以外にするか、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFまたはアクセサリーモードにするとランプが消灯します。
- ランプが消灯しているときは、自動点灯しなくなります。
この場合は、ライトスイッチをいったんAUTO以外にするか、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFまたはアクセサリーモードにしてからイグニッションONモードにしてください。

以上の操作をしても正常に復帰しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

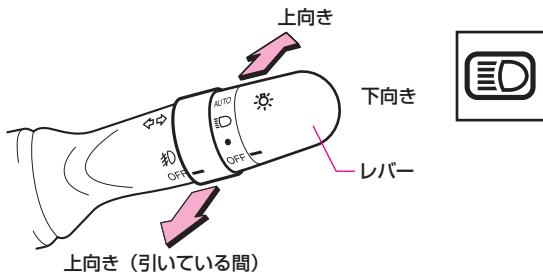
便利機能について

ランプオートカットシステム

ライトスイッチが点灯①・点灯②のまま“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにして、運転席側ドアを開けると自動的に消灯します。次のいずれかの操作をすると、再び点灯します。

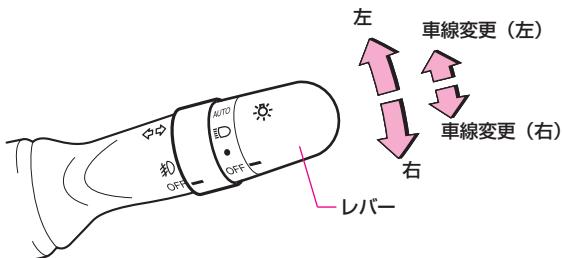
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにする。
- ライトスイッチをOFFにし、もう一度ONにする。(この場合、ドアを開けてもランプは消灯しません。)

● 前方を遠くまで照らしたいときは



- ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押します。
- ヘッドライトが消灯していても、レバーを手前に引いている間、ヘッドライトが上向きになります。
- ヘッドライトが上向きのときは、メーター内のヘッドライト上向き表示灯（P.220参照）が点灯します。

方向指示レバーの使い方



- レバーを上、または下へ操作すると、左、または右側の方向指示灯が点滅し、メーター内にある方向指示表示灯も点滅します。レバーはハンドルをもどすと自動的にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。
- 車線変更のときには、レバーを軽く上（または下）へ押さえている間、それぞれの方向指示灯および方向指示表示灯が点滅し、手を離すと消灯します。



知識

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球切れが考えられます。すべての方向指示灯が点滅するか確認してください。

目次

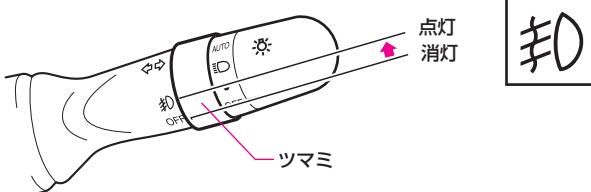
警告

早基
本
か
り作取り
運
転
装
置
の取
り
扱
い
室
内
装
備
のの安
全
解
説
・快
適
装
備付
車
と
の
上
手
なメンテナ
ンス万
一
の
とき

索引

フォグランプの使い方

フロントフォグランプの使い方



ツマミを丸の位置にまわすと点灯し、OFFの位置にまわすと消灯します。

- フロントフォグランプが点灯しているときは、メーター内のフロントフォグランプ表示灯（P.220参照）が点灯します。



知識

フロントフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに、ヘッドライトの補助として使用します。

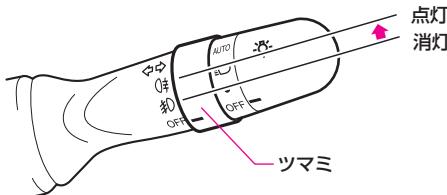
作動条件について

車幅灯が点灯しているときに使用できます。

早
基
本
操
作取
運
搬
装
置
の
取
扱
い取
車
内
装
備
の
取
扱
いの
安
全
解
説
・
快
適
装
備付
車
と
の
上
手
な
使
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

リヤフォグランプの使い方

寒冷地仕様車



ツマミを $\text{○}\text{フ}$ の位置にまわすと点灯し、OFFにまわすと消灯します。

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内のリヤフォグランプ表示灯（P.220参照）が橙色に点灯します。
- リヤフォグランプが点灯しているときに、ツマミを再度 $\text{○}\text{フ}$ にまわすとリヤフォグランプが消灯します。



知識

リヤフォグランプについて

雨や霧などで視界が悪いときに後続車に、自分の車の存在を知らせるために使用します。

- 視界が悪いとき以外に使用すると、後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

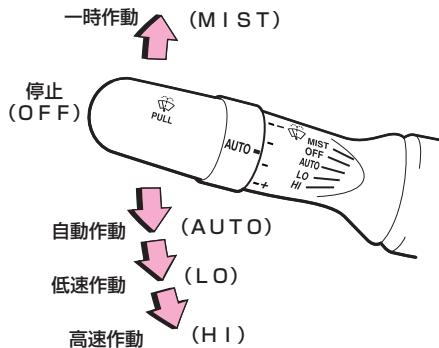
作動条件について

- ヘッドライト、またはフロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。
- リヤフォグランプが点灯しているときに、ヘッドライトを消灯させても、車幅灯が点灯していれば、リヤフォグランプは消灯しません。
- リヤフォグランプが点灯しているときに、ライトスイッチをOFFにして車幅灯を消灯させると、リヤフォグランプも消灯します。
- リヤフォグランプが点灯しているとき、エンジンを停止し、運転席ドアを開けると、リヤフォグランプは消灯します。
- リヤフォグランプが消灯したあとに、再度点灯させるためには、リヤフォグランプスイッチの操作が必要です。

雨滴感知式ワイパー&ウォッシャースイッチの使い方★

● ワイパーの動かし方

■ フロント



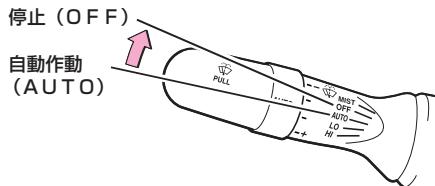
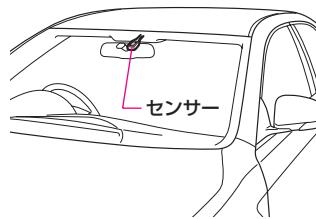
レバーを操作すると、上図のように作動します。

- レバーがAUTOの位置のときは、フロントウインドウガラスのセンサーが検出した雨滴量に応じてワイパーが自動的に次の作動の中から最適な作動を選択します。（雨滴感知オート作動）
 - 停止
 - 間欠作動（間欠時間が可変します。）
 - 低速作動
 - 高速作動
- ワイパーを使用する必要がないときは、OFFの位置にしておいてください。
- レバーがLOの位置のときは走行中、低速作動を行い、停車すると、しばらく低速作動を行ったあと、間欠作動に切り替わります。（車速切り替え機能）
 - 停車時、LO以外の位置からLO位置にレバーを切り替えたときは、しばらくLO作動を行ったあと、間欠作動に切り替わります。
 - ツマミを下側いっぱいにまわしたときは、停車しても間欠作動になりません。
- 一時作動（MIST）は、レバーをOFFから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとOFFにもどります。



ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。

- ウィンドウガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。ガラスに張りついたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めて、ワイパー スイッチを OFF、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF またはアクセサリーモードにし、ワイパーが作動できるように、積雪などの障害物を取り除いてください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードでレバーを AUTO の位置にしているとき、次の場合には、ワイパーが自動で作動することがありますので、手などを挟まないように注意してください。
 - センサー上部のフロントウィンドウガラスに手で触れたとき。
 - センサー上部のフロントウィンドウガラスをタオルなどで拭いたとき。
 - フロントウィンドウガラスに振動を与えたとき。
 - 車内側からセンサー本体に触れるなどして振動を与えたとき。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF またはアクセサリーモードのとき、フロントウィンドウガラスの清掃などでセンサー本体に触れると、次の場合には、ワイパーが自動で作動することがありますので、手を挟まないように注意してください。
- レバーを AUTO の位置にしてるときに、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF またはアクセサリーモードからイグニッションONモードにしたとき。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF またはアクセサリーモードからイグニッションONモードにしたあと、レバーを AUTO の位置にしたとき。
- 雨滴感知式オートワイパー装着車ではフロントウィンドウガラスなどの清掃時には、センサーに洗浄液やクリーナーがかからないようにしてください。故障の原因になります。
- 自動洗車機を使用するときは、レバーを 停止 (OFF) の位置にしてください。
レバーが自動作動 (AUTO) の位置にあると、不意に作動してワイパーなどが損傷するおそれがあります。



知識

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

保護機能について

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

作動の切り替りについて

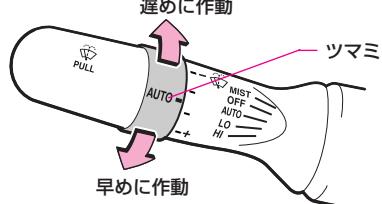
次のときは、雨滴量などを正しく感知できないため、レバーがAUTOの位置でも、オート作動を中断し、間欠作動に切り替わります。

- 雨滴感知センサーの温度が極高温（約80°C以上）または極低温（約-10°C以下）のとき。
- システムに異常が生じたとき。

センサーの感度調整について

自動で使用しているときのワイパーの作動が、早いまたは遅いと感じたときは感度の調整ができます。

- ツマミを一側（上側）にまわすと遅め、另一側（下側）にまわすと早めに作動させることができます。



車速感応間欠時間作動について

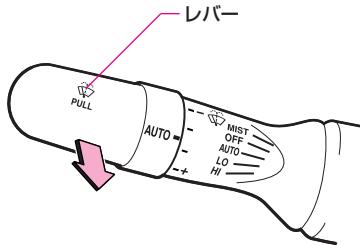
レバーがAUTOの位置のとき、センサーに異常が生じると、雨滴感知オート作動から車速感応間欠時間作動に切り替わり、車速に応じた間欠作動となります。

- 車速が速くなると間欠時間が短くなります。

雨滴感知式ワイパーの動作確認作動について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのときにレバーをAUTOの位置にすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。

● ウォッシャー液の噴射のしかた



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射され、噴射停止後ワイパーが数回作動します。

- 数秒後（車速に応じて可変します。）液だれ防止のためワイパーが1回作動します。（液だれ防止作動）



警告

寒冷時は、ウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドウガラスに凍りつき視界不良を起こして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。

- 必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまっている場合は、トヨタ販売店にご相談ください。



知識

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

ガラスについた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

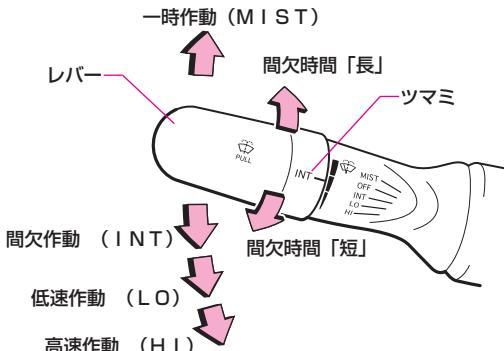
ウォッシャー液の補給については、P.416を参照してください。

間欠時間調整式ワイパー＆ウォッシャー スイッチの使い方★

目次

早
基
本
操
り
作取
運
転
装
置
の
取
扱
い室
内
装
備
の
取
扱
いの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
使
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

ワイパーの動かし方



レバーを操作すると、上図のように作動します。

- 間欠作動（INT）のときツマミをまわすと、間欠時間を約3～12秒の間で調整できます。
- 一時作動（MIST）は、レバーをOFFから押し上げている間、ワイパーが低速作動します。手を離すとOFFにもどります。



ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。

- ウインドウガラスが凍結しているときや長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに張りついていないことを確認してください。ガラスに張りついたまま作動させると、ワイパーゴムを損傷するおそれがあります。
- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めて、ワイパースイッチをOFF、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFまたはアクセサリーモードにし、ワイパーが作動できるように、積雪などの障害物を取り除いてください。



知識

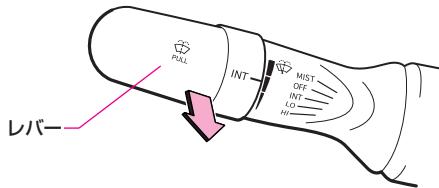
作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

保護機能について

ワイパームーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。約10分ほどすると、ブレーカーが復帰して、通常どおり使用できるようになります。

● ウオッシャー液の噴射のしかた



レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射されます。

- ウォッシャー液噴射後、ワイパーが数回作動します。



注意

寒冷時はウォッシャー液を使用しないでください。視界不良を起こすおそれがあります。

- 寒冷時は、ウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がウインドウガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- 必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを作動させてください。ガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、ガラスを傷つけるおそれがあります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。また、ノズルがつまっている場合は、トヨタ販売店にご相談ください。



知識

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッシュONモードのとき使用できます。

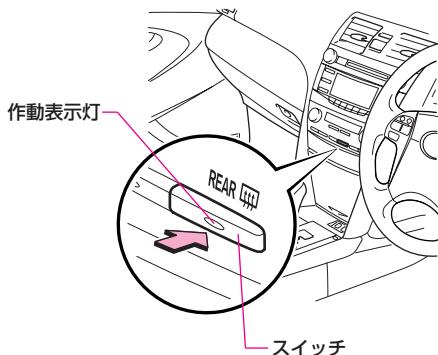
ガラスについた油膜について

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにしてください。

ウォッシャー液の補給について

ウォッシャー液の補給については、P.416を参照してください。

リヤウインドゥデフォッガー (曇り取り) スイッチの使い方



スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。

- 作動中は作動表示灯が点灯します。



連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

知識

リヤウインドゥデフォッガーについて

- リヤガラスを熱線で暖めて曇りを取ります。
- スイッチを押すとミラーヒーターも同時に作動します。(P.200参照)

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

目次

警告

早基本
わかり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・快適装備付き合いの上手な
車

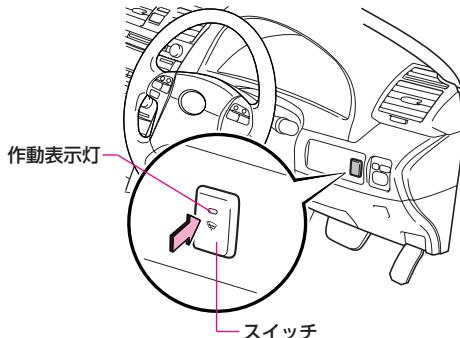
メンテナンス

万一のとき

索引

フロントワイパーアイサースイッチの使い方

寒冷地仕様車



スイッチを押すと約15分間作動し、作動中にもう一度押すと停止します。
●作動中は作動表示灯が点灯します。



警告

作動中はフロントウインドウ下部の表面が熱くなりますので、手を触れないでください。やけどをするおそれがあり危険です。



注意

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。



知識

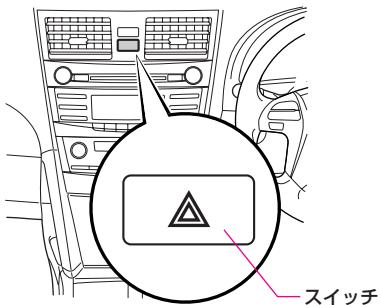
フロントワイパーアイサースイッチについて

フロントウインドウガラス下部の表面を暖めてガラスとワイパー刃の凍結を防止します。

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

非常点滅灯スイッチの使い方



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、点滅中にもう一度押すと消灯します。

●点滅中はメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。



注意

バッテリーがあがるのを防ぐため、エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

知識

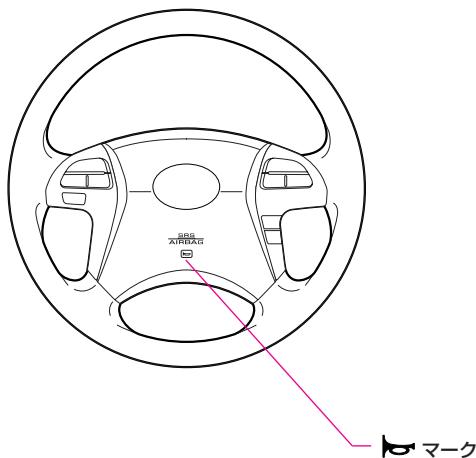
非常点滅灯について

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチに関係なく使用できます。

ホーンの使い方



▶ マーク

ハンドルの▶マーク周辺部を押すと、ホーン（警音器）が鳴ります。



知識

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチに関係なく使用できます。

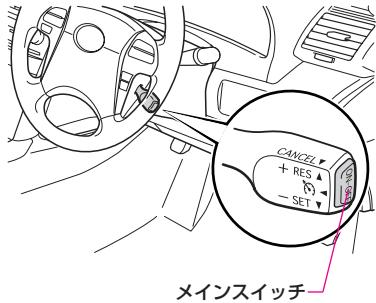


クルーズコントロールスイッチの使い方★

クルーズコントロールとは、シフトレバーが①または④（4WD車は①または③）のとき、アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度（約40km/h～100km/h）で走行できるシステムです。

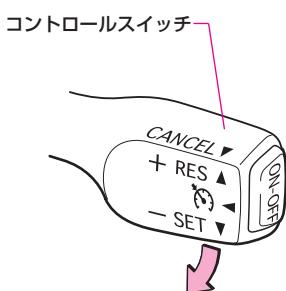
● セット（定速走行）のしかた

1 メインスイッチを押します。



クルーズコントロールが作動待機状態になり、メーター内のクルーズコントロール表示灯（P.222参照）が点灯します。

2 希望速度まで加速または減速します。



3 希望速度になったら、コントロールスイッチを下げ、手を離します。

以上の操作で定速走行を開始します。

●一時的に加速、減速したいときは

■加速したいとき

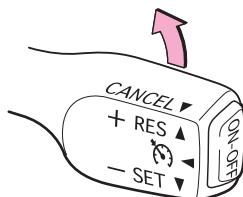
アクセルペダルを踏みます。

アクセルペダルを離せば、もとの定速走行状態にもどります。

■減速したいとき

ブレーキペダルを踏みます。

ブレーキペダルを踏むと、定速走行が解除されます。



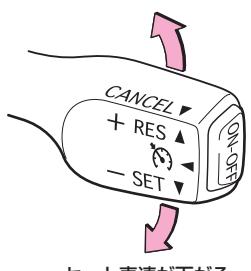
もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

●セット車速のかえ方

前ページの「セットのしかた」の2、3の手順で替える方法と、次のコントロールスイッチで替える方法があります。

1 コントロールスイッチを操作します。

- 上げ続けるとセット車速が上がりま
- す。
- 下げ続けるとセット車速が下がりま
- す。



2 希望速度になったら、コントロールスイッチから手を離します。

コントロールスイッチを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度の微調整（約1.5km/h）ができます。



早
基
本
操
り
作

取
運
転
装
置
の
取
扱
い

室
内
装
備
の
取
扱
い

の
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意

付
車
と
の
上
手
な
使
合
い

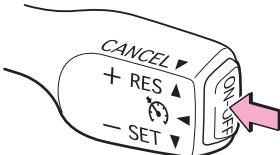
メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
とき

索
引

●解除のしかた

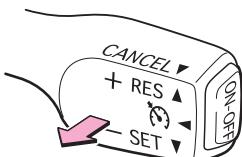
■使用を中止するときは



メインスイッチを押してOFFにします。

- メーター内のクルーズコントロール表示灯が消灯します。
- 再度、定速走行するには、P.265の「セットのしかた」をお読みください。

■使用を一時的に中断するときは



コントロールスイッチを手前に引きます。

- 作動待機状態にもどります。
- もとの定速走行状態にもどしたいときは、コントロールスイッチを上げ、手を離します。

●システムの自動解除

次の場合は、自動的に定速走行が解除されます。

- ブレーキペダルを踏んだとき。
- セットした速度より車速が約16km/h以上低下したとき。
- 車速が約40km/h以下になったとき。
- コントロールスイッチを下げ続けて車速が約40km/h以下になったとき。
- VSCの作動によりスリップ表示灯が点滅したとき。（車両が横すべりしそうになったときはP.221を参照してください。）

次の方法で定速走行状態が解除された場合は、コントロールスイッチを上げ、手を離すとともに定速走行状態にもどります。

ただし、車速が約40km/h以下になったとき、またはセットした速度より車速が約16km/h以上低下したときは、解除する前の定速走行状態にはもどりません。

- コントロールスイッチを手前に引いての解除。
- ブレーキペダルを踏んでの解除。
- VSCの作動による解除。



警告

クルーズコントロールを使用しないときは、メインスイッチをOFFにしてください。

- クルーズコントロールを使用しないときはメインスイッチをOFFにしてください。誤ってクルーズコントロールを作動させてしまい、思わぬ事故や生命にかかる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 次のような状況のときはクルーズコントロールを使用しないでください。使用すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 交通量の多い道や急カーブのある道
道路の状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
 - 凍結路や積雪路などのすべりやすい路面
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
 - 急な下り坂
急な下り坂ではエンジンブレーキが十分効かないため、セットした速度を越えてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

定速走行中に表示灯が点滅したときは、メインスイッチを一度OFFにしてから再度セットしてください。
以上の操作をしても、セットできないまたはセットしてもすぐ解除される場合はシステムの異常が考えられます。走行上支障はありませんがトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

セット条件について

- セット車速は約40km/h～100km/hの間で設定できます。
- シフトレバーが①または④（4WD車は①または③）以外にあるときはセットできません。

エンジンを停止したときは

メインスイッチは自動的にOFFになります。

横すべりしそうになったときは

運転状況によっては横すべりしそうになったとき、スリップ表示灯で警報する前に制御が解除することができます。

エンジンブレーキについて

クルーズコントロールを使用して定速走行しているときは、シフトレバーを①から④（4WD車は①から③）に操作してもクルーズコントロールが解除されないため、エンジンブレーキは効きません。

減速が必要なときは、コントロールスイッチで減速の操作をするか、またはブレーキペダルを踏んでください。

MEMO

目次



基本操作
早わかり

運転装置
取り扱い

室内装備
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

MEMO



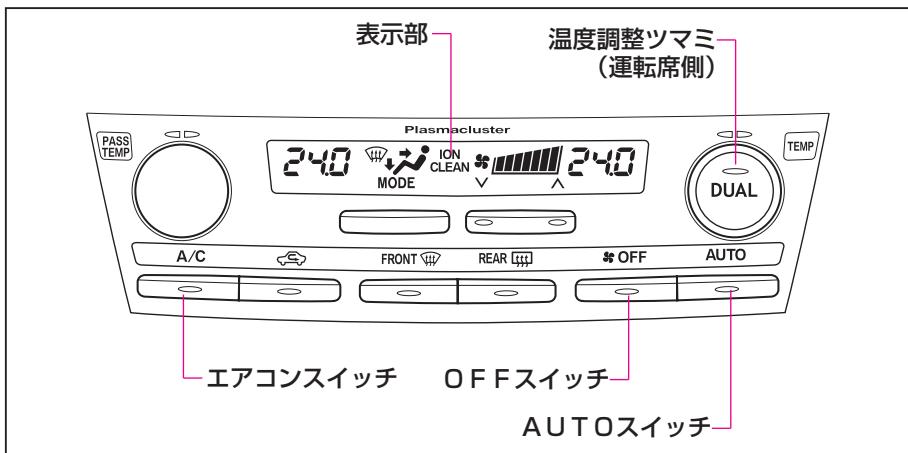
4

室内装備の取り扱い

エアコンの取り扱い	272	室内装備の使い方	318
オートエアコンの		サンバイザー	318
使い方	272	フロントパーソナルランプ	318
吹き出し口の調整	282	ルームランプ	319
ステアリングスイッチの		リヤ室内灯	320
使い方	283	ドアカーテシランプ	320
オーディオの取り扱い	288	オーバーヘッドコンソール	
電源、音量、音質調整	289	321	
ラジオの使い方	292	灰皿	321
CDプレーヤーの使い方	296	グローブボックス	322
AUX端子の使い方	308	小物入れ	322
ステアリングスイッチの		アクセサリーボックス	323
使い方	310	コンソールボックス	323
アンテナ	314	コートフック	324
使用上の留意点	315	カップホルダー	325
		リヤサンシェード	326
		アクセサリーソケット	327
		時計	328
		グロッサリーフック	329
		ユーティリティボックス	329
		フロアマット	330

エアコンの取り扱い

オートエアコンの使い方



● オート (AUTO) での使い方

AUTOスイッチを押すと、ファンが作動し、吹き出し口・風量が自動的に調整され、設定温度となります。

自動調整にする

AUTO 作動表示灯

AUTOスイッチを押します。

- 作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

温度を調整する



温度調整ツマミで調整します。

上げるときは右側、下げるときは左側にまわします。(0.5℃ずつ調整できます。)

- 設定温度を18°C～32°Cの間で調整することができます。
- 設定温度は表示部に表示されます。
 - 最大冷房にするとLO
 - 最大暖房にするとHIの表示になります。

早
基
本
操
作取
運
転
裝
置
の取
室
内
裝
備
のの安
全
・
快
適
裝
備
の
解
説
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
向
い
合
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

ファンを止める

OFF



OFFスイッチを押します。

- ファンを停止させることができます。

エアコンをONにする

A/C

作動表示灯



ファンが作動中のとき、エアコンスイッチを押すごとに、エアコン（冷房、除湿機能）がONとOFFに切り替わります。

- 作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。
- 外気温が0°C近くまで下がると、エアコンは作動しない場合があります。



注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

- バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。
- エアコンスイッチの作動表示灯が点滅した場合は、システムの異常が考えられますので、安全な場所に車を止めて、いったんエアコンスイッチをOFFにしてから、もう一度ONしてください。点滅がさらに続く場合は、スイッチをOFFにしてトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

車内の温度が高いときは

駐車のあと車内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

AUTOスイッチについて

AUTOスイッチをONにしているとき、次のような機能があります。

- 吹き出しが「♪」または「♪♪」のとき、冬場などの寒いときは温風の準備ができるまで、しばらくの間ファンを停止します。
- 吹き出しが「♪」または「♪♪」のとき、夏場などの暑いときは冷風の準備ができるまで、数秒間ファンを停止します。

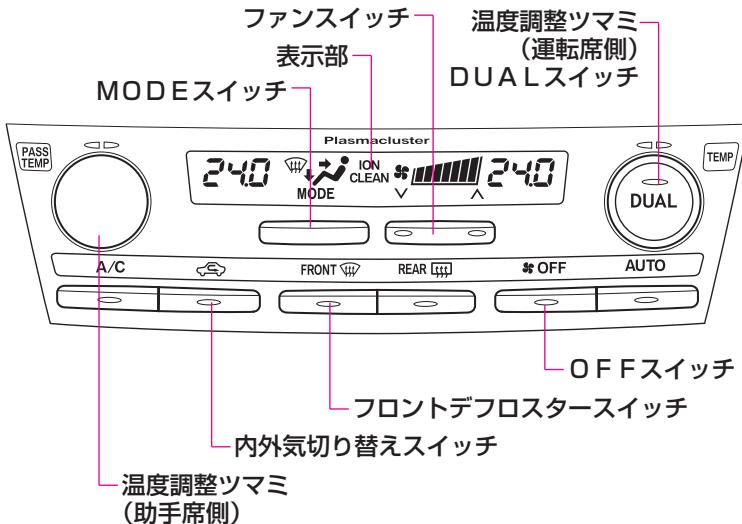
AUTOスイッチについて

AUTOスイッチをONにしているときに

- MODEスイッチ（次ページ参照）を操作したときは設定した吹き出しがなり、AUTOスイッチの作動表示灯が消灯します。（風量は自動調整を継続します。）
- ファンスイッチ（次ページ参照）を操作したときは設定した風量になり、AUTOスイッチの作動表示灯が消灯します。（吹き出しが自動調整を継続します。）

エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出しが風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

早
基
本
操
作取
り
扱
い
の
運
転
装
置
の取
り
扱
い
の
室
内
装
備
のの
安
全
解
説
・
快
適
装
備
と
注
意
事
件付
き
合
い
方
な
どメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

お好みの状態にするには

各スイッチを押すことで、それぞれの設定で使用することができます。

風量をかえる



ファンスイッチで風量を7段階に切り替えます。

風量を強くするときは▲側、弱くするときは▼側を押します。

- 風量は表示部に表示されます。
- ファンが停止しているときに、スイッチを押すと、ファンが作動します。

吹き出し口をかえる

MODE

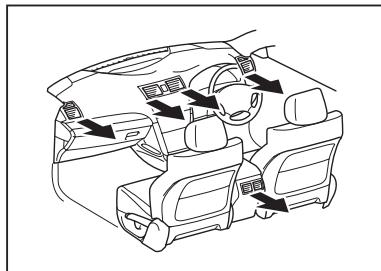
MODEスイッチで吹き出し口を選択します。(次ページ参照)

スイッチを押すごとに吹き出し口が切り替わります。

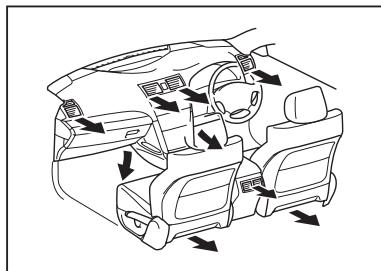
- 吹き出し口は表示部に表示されます。

<吹き出し口選択の目安>

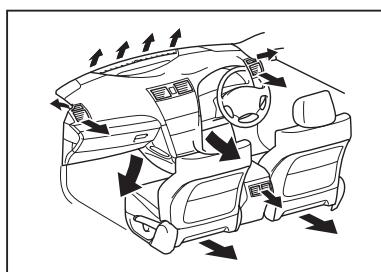
上半身に送風するときは



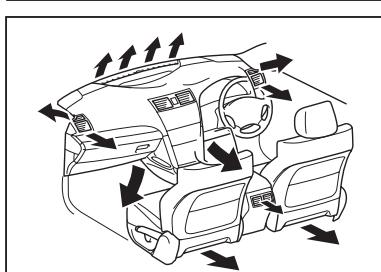
上半身と足元に送風するときは



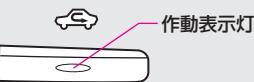
足元に送風するときは



足元への送風と
ガラスの曇りを
取るときは



外気導入・内気循環の切り替えをする



内外気切り替えスイッチを押すごとに、外気導入と内気循環に切り替わります。

作動表示灯が

- 消灯しているときは外気導入
- 点灯しているときは内気循環になります。

作動表示灯	モード
	外気導入 外気を導入している状態です。通常はこの位置でお使いください。
	内気循環 外気をしゃ断している状態です。トンネルや渋滞など外気が汚れてているときや早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を早めたいときに使いください。

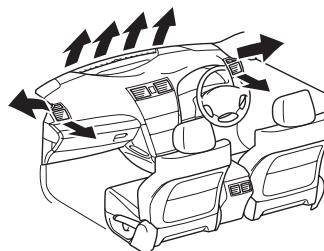
ガラスの曇りを取り



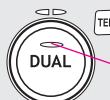
フロントデフロスター スイッチを押し、内外気切り替えスイッチを外気導入にします。

- ファンが停止中のとき、スイッチを押すと、ファンが自動的に作動します。
- エアコンが自動的にONになります。
- 作動中はスイッチの作動表示灯が点灯します。

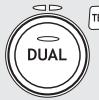
<吹き出し口>



運転席・助手席で それぞれ温度調整をする



作動表示灯



助手席側



運転席側

DUALスイッチを押すごとに、運動モードと独立モードに切り替わります。

作動表示灯が

- 消灯しているときは運動モード
- 点灯しているときは独立モードになります。

表示	モード
 消灯	運動モード 運転席側スイッチ操作により運転席と助手席の設定温度を同じにします。
 点灯	独立モード 運転席と助手席の設定温度を独立してかけることができます。

独立モードのときに運転席は運転席側ツマミ、助手席は助手席側ツマミをまわして、希望する室内温度に設定することができます。

上げるときは右側、下げるときは左側にまわします。(0.5℃ずつ調整できます。)

- 運転席と助手席でそれぞれ独立した温度調整をることができます。



湿度が非常に高いときにエアコンを作動させている場合は、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とウインドウの温度差でウインドウ外側表面が曇り視界をさまたげる場合があります。



バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に作動させないでください。

知識

内外気切り替えについて

- トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。
- 長時間、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

より早くガラスの曇りを取るには

ガラスの曇りを取る操作（P.277）と併せて、次の操作を行います。

- 風量を増す。（ファンスイッチを操作する。）
- 設定温度を上げる。（温度調整スイッチを操作する。）

温度調整について

- 独立モードから連動モードにもどすとき、運転席と助手席で設定温度が異なる場合は運転席側の設定温度になります。
- 連動モードのとき、助手席側温度調整スイッチを操作すると、自動的に独立モードに切り替わります。

● プラズマクラスター[®]の使い方

エアコンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）からの送風にプラズマクラスターイオンを含ませ、車内の空気質を整えます。

■作動させるには

ファンが作動すると自動的にプラズマクラスターが作動します。

- クリーンモード、イオン kontrole モードが自動的に切り替わります。
- エアコン表示部にモードが表示されます。

作動表示灯	モード
	クリーンモード 同量のプラスイオンとマイナスイオンを放出して、車内に浮遊するカビ菌の活動を抑制します。
	イオン kontrole モード マイナスイオンの比率を高く放出して空気中のイオンバランスを整えます。

■作動を停止させるには

 OFF



OFFスイッチを押します。

**警告**

プラズマクラスターイオン発生器は高電圧を利用しています。危険ですので、修理等は必ずトヨタ販売店にご相談ください。

**注意**

プラズマクラスターの取り扱いについては、次の点にご注意ください。

- プラズマクラスターイオンの吹き出し口（運転席側吹き出し口）には、スプレー（洗浄剤、整髪料など）の噴霧、また棒などの異物を挿入しないでください。故障の原因となります。
- 運転席側吹き出し口付近に汚れが付着することがあります。この場合は、ファンをOFFにしてから清掃してください。

**知識****作動条件について**

ファンが作動中、次の条件で効果を発揮します。

- 吹き出し口が、 または のとき。

(、 以外のときも送風されますが、高い効果は得られません。)

- 運転席側吹き出し口が開いているとき。

プラズマクラスターについて

プラズマクラスター、プラズマクラスターイオンおよび Plasmacluster はシャープ株式会社の商標です。

作動音について

プラズマクラスターイオン発生器作動時には、微少な作動音が発生する場合がありますが、



早基
本操
り作

取
運
転
裝
置
の

取
室
内
裝
備
の

の安
全
解
説・
快適
裝
備

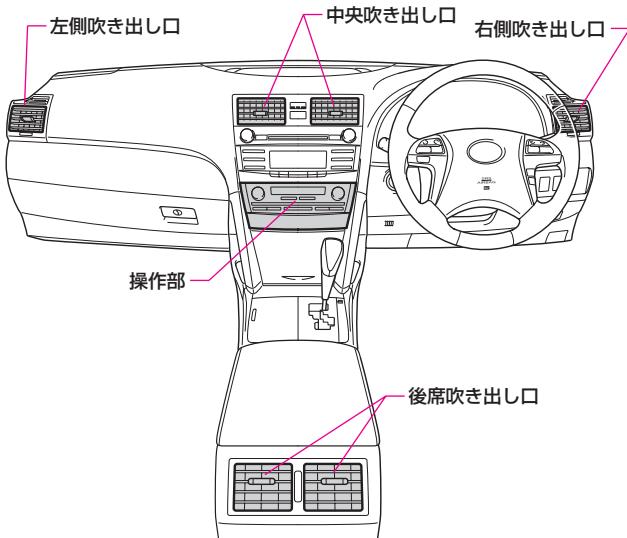
付
車
と
の上
手
な

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
とき

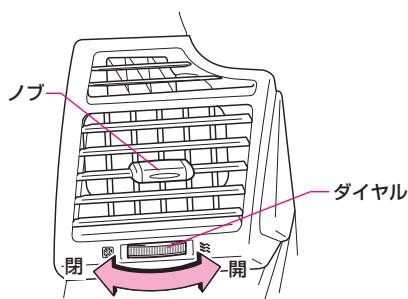
索
引

吹き出し口の調整

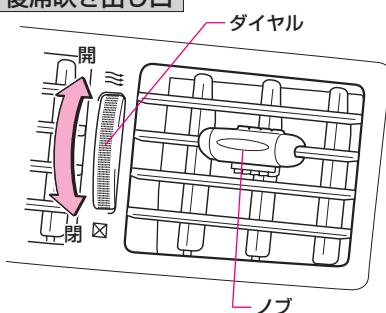


● 風向きのかえ方・吹き出し口の開閉のしかた

【左右吹き出し口】下図は右側



【後席吹き出し口】



吹き出し口は、ノブを動かすと風向きの調整ができます。

- 左右吹き出し口、後席吹き出し口は、ダイヤルをまわして吹き出し口を開閉することができます。



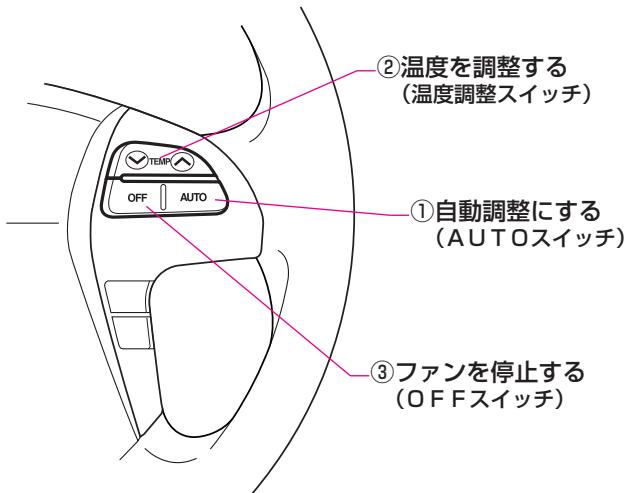
知識

吹き出し口について

冷房時、まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがあります、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので異常ではありません。

早基
本
か
り作運
転
装
置
の
取
り
扱
い取
り
扱
い
の
室
内
装
備
のの安
全
解
説・
快
適
装
備
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
の
使
い
か
た
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

ステアリングスイッチの使い方



ハンドル内右側にあるスイッチで、次の操作をすることができます。

- エアコンの自動調整→P.284参照
- 温度の調整→P.285参照
- 作動の停止→P.286参照



知識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき使用できます。

● エアコンの自動調整

① 自動調整にする



AUTOスイッチを押すと、ファンが作動し、吹き出し口・風量が自動的に調整され設定温度となります。

●操作部のAUTOスイッチ作動表示灯が点灯します。

基本
わかれ
操作運転装置の
取り扱い取り扱い
室内装備のの安全
と注意
説明・快適装備車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

● 温度の調整

② 温度を調整する



温度調整スイッチで設定温度を調整します。

上げるときは↑側、下げるときは↓側を押します。
(0.5°Cずつ調整できます。)

- 設定温度は表示部に表示されます。
- DUALスイッチがONのときは、運転席側の設定温度を調整します。

●作動の停止

③ファンを停止する



OFFスイッチでファンを停止します。

MEMO

目次



基本操作
わかれり

運転装置
取り扱い

室内装備
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

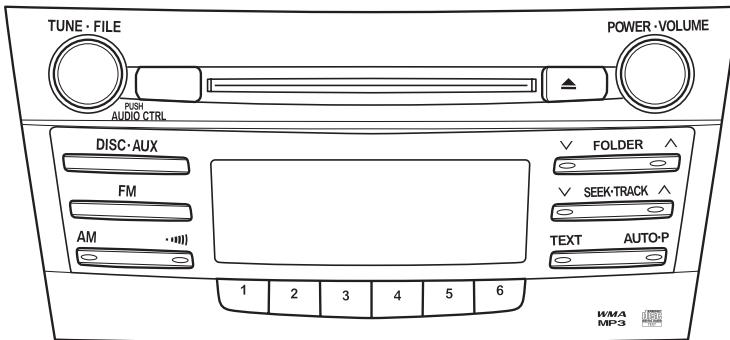
メンテナンス

万一のとき

索引

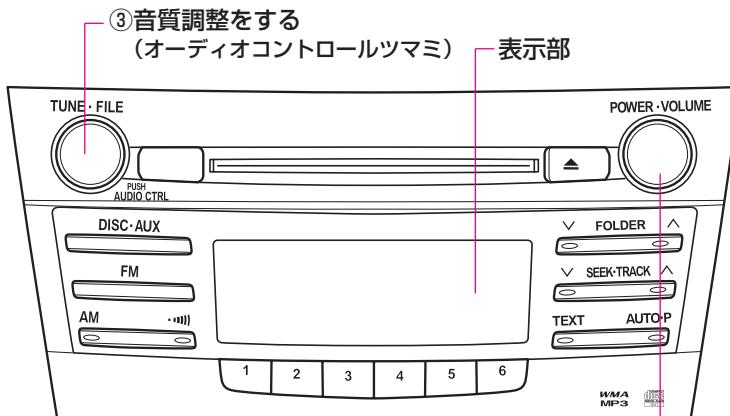
オーディオの取り扱い

メーカーオプションのナビゲーションを装着されたかたは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。



CD一体AM／FMラジオ★

電源、音量、音質調整



- ①オーディオ電源を入れる・切る (パワースイッチ)
②音量調整をする (音量調整ツマミ)

● 基本操作

①オーディオ電源を
入れる・切る



パワースイッチを押すごとに、
入・切になります。

②音量調整をする



音量調整ツマミを右へまわすと音
量が大きくなり、左へまわすと小
さくなります。



知識

作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき使用できます。



応用操作

③音質調整をする



■モードの切り替え方

音量バランスと音質の調整モードを切り替えることができます。

オーディオコントロールツマミを押すごとに、FAD・BAS・TRE・BAL・ASLの順にモードが切り替わります。

- 選択したモードが表示部に表示されます。

■レベル調整のしかた

オーディオコントロールツマミで選択したモードのレベル調整をすることができます。

オーディオコントロールツマミをまわして調整します。

- 調整レベルがモード表示の右側に表示されます。

調整モード	モード表示	調整レベル範囲	左へまわす	右へまわす
前後音量バランス	FAD	R7～F7	後側大	前側大
低音	BAS	-5～5	弱	強
高音	TRE	-5～5		
左右音量バランス	BAL	L7～R7	左側大	右側大
音量補正	ASL	OFF	左へまわす ↑ OFF ↓ LOW ↓ MID ↓ HIGH ↓ 右へまわす	右へまわす
		LOW		
		MID		
		HIGH		



知識

ASL[※]（音量補正）について

車速に応じて音量、周波数特性を自動的に制御し、いつも最適な音量・音質を実現するシステムです。

- HIGH、MID、LOWの順に補正量が小さくなります。

※A S LはAutomatic Sound Levelizerの略

商標について

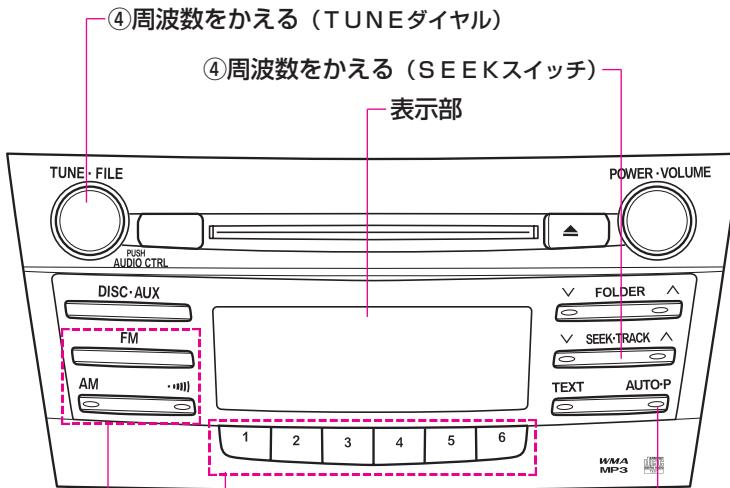
本製品はAMラジオモードを除き、SRS Labs, Inc.のSRS FOCUS[®]、SRS TruBass[®]の技術を使用しています。

FOCUS、TruBass、SRSと記号はSRS Labs, Inc.の商標です。

FOCUS、TruBass技術はSRS Labs,Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

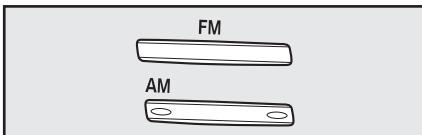


ラジオの使い方



● 基本操作

① AM・FMを切り替える

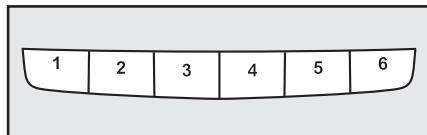


AMスイッチ・FMスイッチを押します。

AMスイッチを押すとAM放送に、
FMスイッチを押すとFM放送に
切り替わります。

●表示部にモードが表示されます。

② 放送局を選ぶ



1~6までのプリセットスイッチ
の1つを押します。記憶されてい
る放送局が選択されます。

放送局の記憶のしかたについては、
P.293、294を参照してください。

早基本
わかり作取り転装置
の扱い取り扱い
室装備のの安全
解説・
快適装備

付き合いの上手な

メンテナンス

万ーのとき

索引

応用操作

③自動で放送局を記憶する



自動で受信可能な周波数を一時的にプリセットスイッチに記憶させることができます。

旅先などで放送局の周波数がわからないときに便利です。

AUTO・Pスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、受信感度の良い周波数を低い順に6局まで自動的に記憶します。

- 表示部に「AUTO・P」の表示が出ます。
- 受信周波数が6局未満のときは、残りのプリセットスイッチには何も記憶されません。
- 周波数の記憶操作が終了すると、“ピピッ”と音がして記憶した中で一番低い周波数を受信します。
- AUTO・Pスイッチを押すたびに、新たに周波数を記憶しなおします。
- 自動で周波数を記憶させても、AUTO・Pスイッチを押す前（「AUTO・P」の表示が出ていないとき）に記憶させた周波数は消去されません。

AUTO・Pを押す前の状態にしたいときは

AUTO・Pスイッチを押して、すぐ手を離します。

- 表示部の「AUTO・P」の表示が消え、以前に記憶させた周波数になります。

AUTO・Pスイッチで記憶させた周波数を変更するには

- 1** SEEKスイッチまたはTUNEダイヤルで記憶させたい周波数を選択します。
- 2** 変更したい周波数が記憶されているプリセットスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

④周波数をかえる



周波数はS E E Kスイッチを押すと自動で受信可能な周波数を選択します。

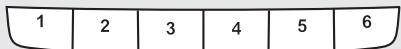
- 高い方へ選択するときは^側、低い方へ選択するときは^側を押します。
- 受信感度が良く、現在表示部に表示されている周波数に一番近い周波数を自動で選択します。
- 途中で止めたいときは、もう一度S E E Kスイッチを押します。
- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で選択できないことがあります。



周波数はT U N Eダイヤルをまわすと微調整することができます。

- 高い方へ選択するときは右側、低い方へ選択するときは左側にまわします。

⑤変更した周波数を記憶させる



記憶させたいプリセットスイッチの1つを“ピッ”と音がするまで押し続けると、聞いていた周波数を記憶させることができます。

- AM・FM各6局まで周波数を記憶させることができます。
1つのプリセットスイッチにAM・FM各1局ずつ周波数を記憶させることができます。
- バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、記憶されていた周波数はすべて消去されます。



⑥交通情報を聞く



交通情報放送を行っている地域で交通情報放送局を受信することができます。

- 交通情報スイッチを押すと、交通情報放送局が受信されます。
- 解除するときは、もう一度交通情報スイッチを押します。

■周波数を変更したいときは

1 AMを選択します。

2 記憶させたい周波数を選択します。

3 交通情報スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けます。

- 新車時には1620kHzにセットしてあります。
- 交通情報スイッチを押してラジオを受信しているときは、SEEKスイッチ、TUNEダイヤル、プリセットスイッチ、AUTO・Pスイッチを押しても周波数は切り替わりません。
- バッテリー交換やヒューズ交換などでオーディオとバッテリーとの接続が断たれたときには、1620kHzになります。

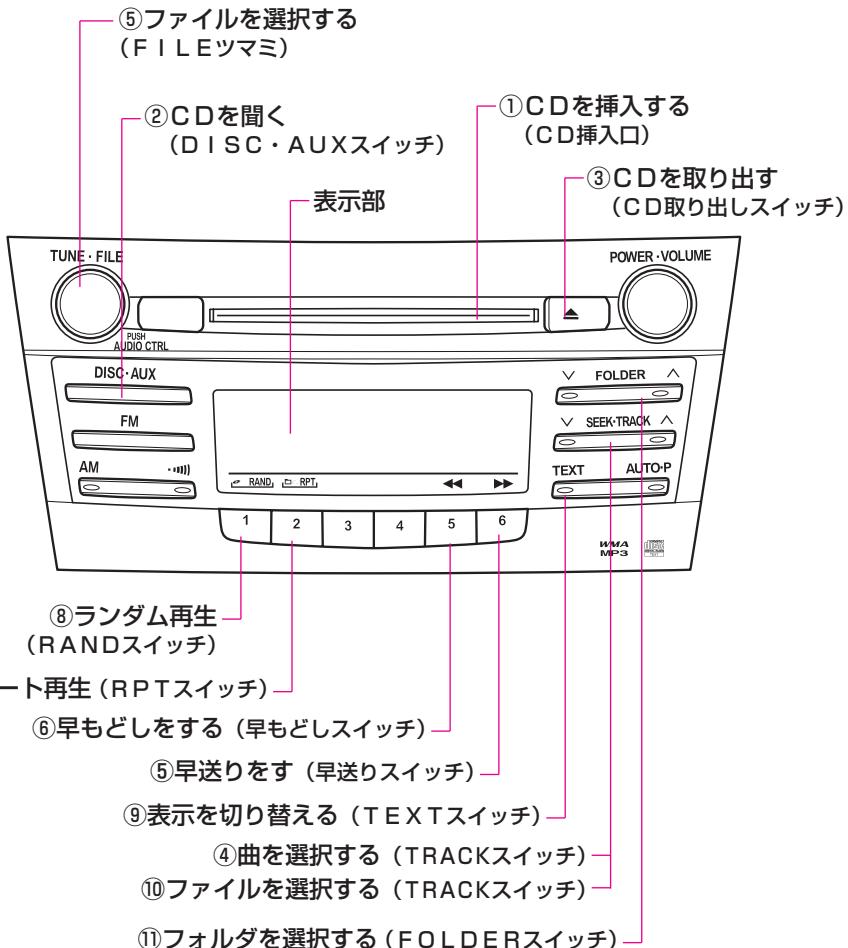


知識

AUTO・Pスイッチについて

- 地域や車の向きなどの条件により、すべての周波数の受信感度が悪い場合、自動で記憶できないことがあります。
- AUTO・Pスイッチによる周波数の記憶操作を同じ場所で繰り返しても、受信感度の状態によっては、操作ごとに記憶される周波数が異なることがあります。
- 同じ放送局からの受信でも、SEEKスイッチまたはTUNEダイヤルで選択し、記憶させた周波数とAUTO・Pスイッチで記憶させた周波数は一致しないことがあります。

CDプレーヤーの使い方



● 基本操作

① CDを挿入する

CD挿入口にCDを挿入します。

- CDを挿入するときは、ラベル面を上にして挿入します。
 - CD挿入口にCDを入れると、CDが再生されます。

③ CDを取り出す



CD取り出しスイッチを押します。

② CDを聞く



C Dが入っている場合は、D I S C・AUXスイッチを押すとCDが再生されます。

●応用操作（音楽CDを聞く）

④曲を選択する

▼ SEEK・TRACK ▲

聞きたい曲がうしろにあるときは、
TRACKスイッチの▲側前にあるときは▼側を押して曲を選択します。

●表示部に曲番が表示されます。

⑤早送りをする



早送りスイッチを押している間、CDが早送りされます。
早送りスイッチから手を離すと、その位置から再生を始めます。

⑥早もどしをする

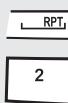


5

早もどしスイッチを押している間、
CDが早もどしされます。

早もどしスイッチから手を離すと、
その位置から再生を始めます。

⑦リピート再生

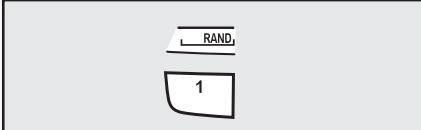


2

RPTスイッチを押すと、解除するまで同じ曲を繰り返して再生します。

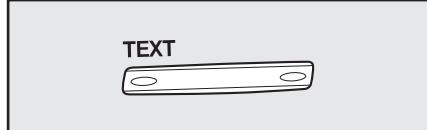
●表示部に「RPT」の表示が出ます。
解除するときは、もう一度RPTスイッチを押します。

⑧ランダム再生

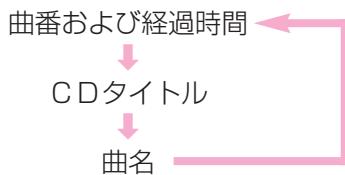


RANDスイッチを押すと、CDの中から曲を順不同に再生します。
●表示部に RAND の表示が出ます。
解除するときは、もう一度RANDスイッチを押します。

⑨表示を切り替える



CDテキスト対応のCDを演奏しているときは、TEXTスイッチを押すごとに、次のように表示部の表示が切り替わります。



早
基
本
か
り
作取
運
転
装
置
の取
室
内
装
備
のの安
全
説
と注
意
装
備付
車
と
の上
手な
方メン
テナ
ンス万
一
のとき

索引

●応用操作 (MP3/WMAを聞く)

⑩ファイルを選択する



FILE ツマミをまわしてファイルを選択します。

●うしろのファイルを選択したいときは右側、前のファイルを選択したいときは左側にまわします。

⑪フォルダを選択する



FOLDERスイッチの△側または▽側を押してフォルダを選択します。

▽側を“ピッ”と音がするまで押し続けると、最初のフォルダを選択することができます



聞きたいファイルがうしろにあるときは、TRACKスイッチの△側前にあるときは▽側を押して曲を選択します

⑤早送りをする



早送りスイッチを押している間、
早送りされます。

早送りスイッチから手を離すと、
その位置から再生を始めます。

⑥早もどしをする



早もどしスイッチを押している間、
早もどしされます。

早もどしスイッチから手を離すと、
その位置から再生を始めます。

⑦リピート再生



■同一ファイル繰り返しモード

RPTスイッチを押すと、解除するまで同じファイルを繰り返して再生します。

●表示部に \square_{RPT} の表示が出ます。
解除するときは、もう一度RPTスイッチを押します。

■同一フォルダ繰り返しモード

RPTスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、解除するまで同じフォルダを繰り返して再生します。

●表示部に \square_{RPT} の表示が出ます。
解除するときは、もう一度RPTスイッチを押します。

⑧ランダム再生



■同一フォルダランダムモード

RANDスイッチを押すと、再生中のフォルダの中からファイルを順不同に再生します。

●表示部に の表示が出ます。解除するときは、もう一度RANDスイッチを押します。

■ディスク内ランダムモード

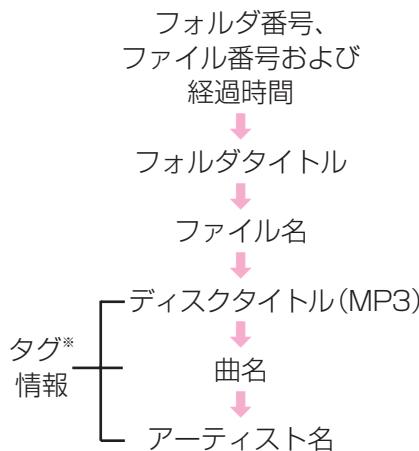
RANDスイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、ディスクの中からファイルを順不同に再生します。

●表示部に の表示が出ます。解除するときは、もう一度RANDスイッチを押します。

⑨表示を切り替える



TEXTスイッチを押すごとに、次のように表示部の表示が切り替わります。



※タグについては、P.306参照



知識

表示について

- 表示できる情報が記録されていない場合は「**NO TITLE**」と表示されます。
- 表示部に一度に表示できるのは12文字までです。また、記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。
情報が13文字以上の場合は、TEXTスイッチを約1秒以上押し続けると13文字目以降が表示されます。ただし、表示できるのは最大で24文字です。
- 13文字目以降表示時に約6秒以上操作しないと、1文字目～12文字目までの表示にもどります。
- 13文字目以降表示時TEXTスイッチを約1秒以上に押し続けると、次の表示に切り替わります。
- 記録してある文字数が25文字以上ある場合でも、表示できるのは24文字までです。
- ディスク内にMP3／WMAファイルが収録されていないと、「**NO MUSIC**」と表示されます。

CDプレーヤーに異常が生じたときは

- 表示部に次の表示でプレーヤーの状態を知らせます。
- ディスクが汚れているなど読み取りができないとき。

「ERROR 1」

- プレーヤーに異常があるとき。

「ERROR 3」

「ERROR 4」

- プレーヤーの温度異常を検出すると、表示部に次の表示が出て自動的にプレーヤーの機能が停止します。この場合、しばらくしてプレーヤーの温度が常温に復帰すると表示が消えて使用可能になります。

「WAIT」



知識

MP3/WMAファイルについて

MP3 (MPEG Audio LAYER3) は音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。MP3を使用すれば、元のファイルを約1／10のサイズに圧縮することができます。WMA (Windows Media™ Audio) はマイクロソフト社の音声圧縮フォーマットです。MP3よりも小さいサイズに圧縮することができます。使用できるMP3/WMAファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

■再生可能なMP3ファイルの規格について

●対応規格

MP3 (MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3)

●対応サンプリング周波数

MPEG1 LAYER3: 32、44.1、48 (kHz)

MPEG2 LSF LAYER3: 16、22.05、24 (kHz)

●対応ビットレート

MPEG1 LAYER3: 64、80、96、112、128、160、192、224、256、
320 (kbps)

MPEG2 LSF LAYER3: 64、80、96、112、128、144、160 (kbps)

*VBRに対応しています。

●対応チャンネルモード：ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

■再生可能なWMAファイルの規格について

●対応規格

WMA Ver.7、8、9

●対応サンプリング周波数

32、44.1、48 (kHz)

●対応ビットレート

Ver.7、8: CBR 48、64、80、96、128、160、192 (kbps)

Ver.9: CBR 48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)

*2ch再生のみ対応しています。

■使用できるメディアについて

MP3/WMAの再生に使用できるメディアはCD-Rおよび、CD-RWです。

CD-R、CD-RWの状態によっては再生できない場合があります。また、ディスクに指紋や傷をつけた場合、再生できることや、音飛びすることがあります。



知識

■使用できるディスクのフォーマットについて

使用できるメディアのフォーマットは下記のとおりです。

- ディスクフォーマット：CD-ROM Model1, Model2

CD-ROM XA Model2 Form1, Form2

- ファイルフォーマット：ISO9660レベル1、レベル2、(Romeo joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれたMP3／WMAファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されない場合があります。

規格ならびに制限事項は次のとおりです。

- 最大ディレクトリ階層：8階層

- 最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角32文字

- 最大フォルダ数：192（ルート含む）

- ディスク内最大ファイル数：255

■ファイル名について

MP3／WMAと認識し再生するファイルはMP3／WMAの拡張子“.mp3”／“.wma”がついたものだけです。

■マルチセッションについて

マルチセッションに対応しており、MP3／WMAファイルを追記したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

■ID3タグ／WMAタグについて

MP3ファイルには、ID3タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。

ID3 Ver.1.0, 1.1, ID3 Ver.2.2, 2.3のID3タグに対応しています。（文字数はID3 Ver.1.0, 1.1に準拠します。）

WMAファイルには、WMAタグと呼ばれる付属文字情報を入力することができ、ID3タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

■MP3／WMAの再生について

MP3／WMAファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初のMP3／WMAファイルを再生します。ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3／WMAファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。

音楽データとMP3、またはWMA形式のデータが混在しているディスクは、再生できません。



知識

拡張子について

MP3／WMA以外のファイルに“.mp3”／“.wma”的拡張子がついていると、MP3／WMAファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損する場合があります。

再生について

- 安定した音質で再生するために、MP3の場合、128kbpsの固定ビットレート、44.1kHzのサンプリング周波数を推奨します。
- CD-R、CD-RWはディスクの特性により再生できない場合があります。
- MP3／WMAは市場にフリーウェア等、多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質の劣化や再生開始時のノイズの発生、また再生できない場合もあります。
- ディスクにMP3／WMA以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかり、再生できない場合があります。
- Microsoft、Windows、Windows Mediaは米国マイクロソフトコーポレーションの米国、およびその他の国における登録商標および商標です。

警告

早基本
わ本
かり作取運転
取り扱い
装置の取室内
取り扱い
装備のの安全
解説・
快適装備
と注意付車との
付き合い
上手な方

メンテナンス

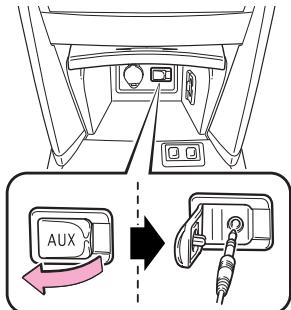
万ーのとき

索引

AUX端子の使い方★

携帯音楽プレーヤーなどの機器をミニプラグで接続して、車両のスピーカーで聞くことができます。

● 携帯音楽プレーヤーなどを再生する



1 AUX端子のフタを開き、携帯音楽プレーヤーなどを、AUX端子に接続します。

- 小物入れの中にAUX端子があります。
- 市販のミニプラグを使用して、接続する機器の音声出力端子と車両のAUX端子を接続します。
- 接続するときは、接続する機器の電源をOFFにしてください。
- 接続する機器は、走行中に動かないように固定してください。



2 DISC・AUXスイッチを押します。

3 携帯音楽プレーヤーなどの電源をONにします。

携帯音楽プレーヤーなどの操作方法については、接続する機器に添付されている取り扱い説明書を参照してください。

4 携帯音楽プレーヤーなどを再生します。

再生する前に、接続した機器の音量設定を確認してください。

5 接続した機器および車両の音量調整ツマミを操作して、お好みの音量にします。

音質の設定は、接続した機器側で行ってください。

早
基
本
操
り作取
運
転
装
置
の取
室
内
装
備
のの安
全
解
説
・快
適
装
備付
車
と
の
上
手
な
方メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

●携帯音楽プレーヤーなどを停止する

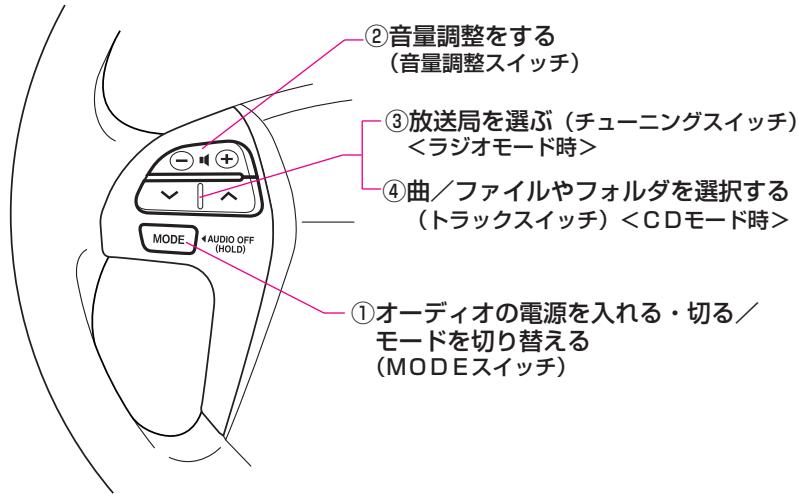
- 1** 接続している機器で停止操作を行い、電源をOFFにします。
- 2** 接続している機器を取りはずし、AUX端子のフタを閉めます。

**注意**

AUX端子を使用するときは、以下のことに注意してください。

- 携帯音楽プレーヤーなどの接続は、接続する機器の電源をOFFにした状態で行ってください。また、再生を開始する前に、接続する機器の音量を確認し、いきなり大音量が出ないように注意してください。
- AUX端子を使用しないときは、フタを閉めておいてください。異物が端子に入ったり、飲料水などがかかったりすると、機器が故障するおそれがあります。
- 携帯音楽プレーヤーなどを車内に放置したままにしないでください。車内が高温になり、携帯音楽プレーヤーなどが損傷するおそれがあります。

ステアリングスイッチの使い方★



ハンドル左側にあるスイッチで、次のオーディオ操作することができます。

- オーディオ電源のON・OFF、モードの切り替え、音量調整

→P.311参照

- ラジオの操作→P.312参照

- CDの操作→P.313参照



知識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき使用できます。

早
基
本
操
作取
運
転
裝
置
の取
室
内
裝
備
のの安
全
解
説
・快
適
裝
備
の付
車
と
の
上
手
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

● オーディオ電源のON・OFF、モードの切り替え、音量調整

- ①オーディオ電源を入れる、切る／モードを切り替える



オーディオ電源のON・OFFとモード切り替えをすることができます。

■オーディオ電源ON

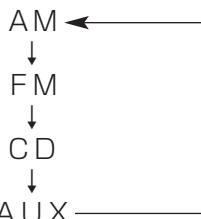
オーディオ電源がOFFのときは、スイッチを押すとオーディオ電源がONになります。

■オーディオ電源OFF

オーディオ電源がONのときは、スイッチを“ピッ”と音がするまで押すとオーディオ電源がOFFになります。

■モード切り替え

オーディオ電源がONのときは、スイッチを押すごとに、次のようにモードを切り替えることができます。



なお、CDが挿入されていないときは、CDモードが飛ばされて選択できません。

- ②音量調整をする



音量を調整することができます。

音量を

- 大きくするときはスイッチの+側
- 小さくするときはスイッチの一側
- を押します。
- スイッチを押してすぐ（約1秒未満）に手を離すと、音量を1ステップずつ調整できます。
- スイッチを約1秒以上押し続けると、音量を連続して調整できます。



ラジオの操作

③放送局を選ぶ



放送局の周波数（チャンネル）を選択することができます。

■プリセットスイッチに記憶されている周波数（チャンネル）を選択するには

スイッチを押して、すぐに手を離すと、プリセットスイッチに記憶されている周波数（チャンネル）を選択することができます。

周波数（チャンネル）を

- 高い（大きい）方へ選択するときはスイッチの▲側
- 低い（小さい）方へ選択するときはスイッチの▼側を押します。

■自動で周波数（チャンネル）を選択するには

スイッチを“ピッ”と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数（チャンネル）を選択します。

周波数（チャンネル）を

- 高い（大きい）方へ選択するときはスイッチの▲側
- 低い（小さい）方へ選択するときはスイッチの▼側を押します。
- 受信感度が良く、現在選ばれている周波数（チャンネル）に一番近い周波数（チャンネル）を自動で選択します。
- 途中で止めたいときは、もう一度スイッチを押します。

CDの操作

④曲／ファイルやフォルダを選択する



曲／ファイルやフォルダの選択をすることができます。

■曲／ファイルを選択するには

スイッチを押すと、曲／ファイルを選択することができます。

希望の曲／ファイルが

- うしろにあるときはスイッチの△側
 - 前にあるときはスイッチの▽側
- を押します。

MP3／WMAディスク再生時

■フォルダを選択するには

MP3／WMAディスク再生時にスイッチを“ピッ”と音がするまで押すと、
フォルダを選択することができます。

再生したいフォルダが

- うしろにあるときはスイッチの△側
 - 前にあるときはスイッチの▽側
- を押します。

アンテナ

リヤガラスに埋め込まれています。



注意

アンテナの取り扱いにはご注意ください。

- アンテナ入りガラス（室内側）の清掃は湿った布で線にそって拭いてください。ガラスクリーナーなどはアンテナを傷めますので使用しないでください。
- リヤガラスのアンテナ線部に次のものを貼りつけないでください。受信感度が低下したり、ノイズ（雑音）が入るおそれがあります。
 - 金属を含有するウインドウフィルム
 - その他の金属物（トヨタ純正品以外のアンテナなど）

使用上の留意点

安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。

オーディオを聞いているときに車内、または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。故障ではありません。



エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。
- 走行中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないように十分注意しておこなってください。

ラジオについて

ラジオの受信は、アンテナの位置が刻々とかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により、最良な受信状態を維持することが困難な場合もあります。

CDについて

■プレーヤーについて



上のマークのついた音楽用CDやCD-R (CD-Recordable)、CD-RW (CD-ReWritable) が使用できます。

- コピーコントロールCDなどの正式なCD規格に準拠していない特殊ディスクには対応していません。
- CD-R (CD-Recordable)、CD-RW (CD-ReWritable) は、記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、長時間の車室内環境における劣化により再生できない場合があります。また、ファイナライズ処理されていないCD-R、CD-RWは再生できません。

目次

警告

早基本
わかり作取り運転
装置の取り室
内装備のの安全
解説・快適
装備と注意付車との上
手なメンテナ
ンス

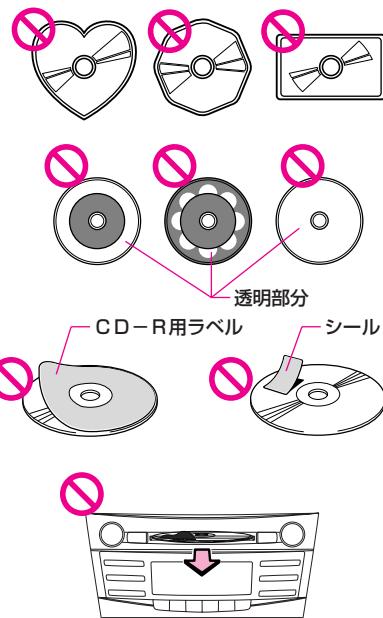
万のとき

索引



CDの取り扱いにはご注意ください。

- CD取り出しボタンを押して、CDが飛び出た状態のまま長時間放置しないでください。CDがそり、使用できなくなるおそれがあります。
- CDは直射日光を避けて保管してください。CDがそり、使用できなくなるおそれがあります。
- CDを扱うときは、中心の穴と端を挟んで持ち、ラベル面を上にしてください。
- 直径12cm、または8cmの円形以外のCDは再生できません。特殊形状のCDは機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。
- DualDiscには対応していません。機器の故障の原因となりますので、使用しないでください。
- 記憶部分に透明または半透明部分があるCDは、正常に出し入れや再生ができないおそれがありますので使用しないでください。
- レンズクリーナーを使用すると、プレーヤーのピックアップ部の故障の原因となるおそれがありますので使用しないでください。
- セロハンテープ、シール、CD-R用ラベルなどが貼ってあるCDや、はがしたあとのあるCDは使用しないでください。プレーヤーが正常に作動しなくなったり、CDが取り出せなくなるなど、故障の原因となるおそれがあります。
- CDの汚れは、プラスチック用メガネ拭きなどの柔らかく乾いた布で軽く拭き取ってください。手で強く押したり、かたい布でこすると表面に傷がつくことがあります。また、レコードスプレー・帯電防止剤・アルコール・ベンジン・シンナーなどの溶剤や化学ぞうきんなどを使用すると、CDが損傷し使用できなくなるおそれがあります。
- 変形したディスクは機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



MEMO

目次



基本操作
わかれり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

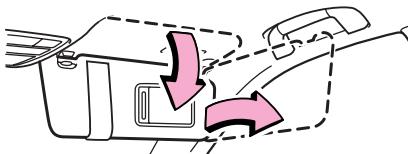
メンテナンス

万一のとき

索引

室内装備品の使い方

サンバイザー



日差しがまぶしいときに使用します。

側面にまわして使用することもできます。



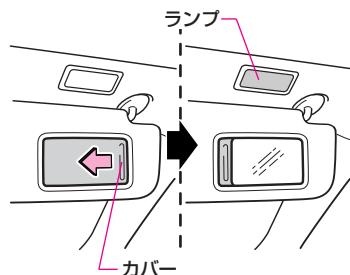
便利機能について

バニティ（化粧用）ミラー

サンバイザーの裏側にあります。

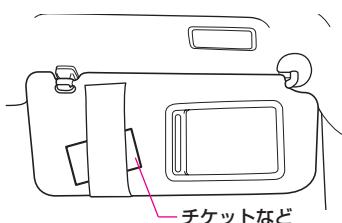
カバーをスライドさせて使用します。

- カバーをスライドさせると、バニティランプが点灯します。

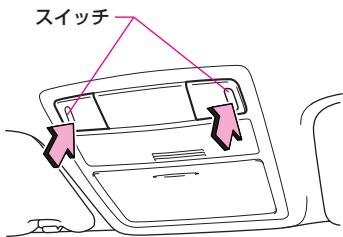


チケットホルダー

運転席サンバイザーの裏側に、チケットなどを収納することができます。



フロントパーソナルランプ



スイッチを押すと、押した側のライトが点灯し、もう一度押すと消灯します。



バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。



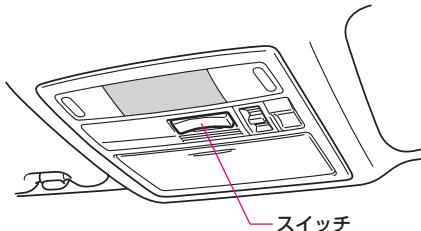
作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチに関係なく使用できます。

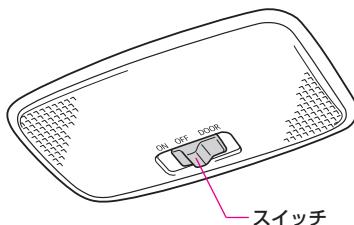
早
基
本
操
作取
運
転
裝
置
の取
室
内
裝
備
のの安
全
解
説
・快
適
裝
備付
車
と
の
上
手
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

ルームランプ

ムーンルーフ装着車



ムーンルーフ装着車を除く



- 常に点灯させるには、ONにします。
- 常に消灯させるには、スイッチをOFFにします。
- スイッチをDOORにしておくと、ドアの開閉により点灯・消灯します。詳しくはP.119の「イルミネーテッドエントリーシステム」を参照してください。



注意

バッテリー上がりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

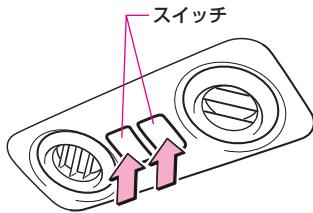


作動条件について

“エンジンスタートストップ”スイッチに関係なく使用できます。

リヤ室内灯

ムーンルーフ装着車



- リヤドアを開けると、開けたドア側のランプが点灯し、閉めると消灯します。
- ドアが閉まっているとき、スイッチを押すとランプが点灯し、もう一度押すと消灯します。
- レンズ部分の周囲を押すとレンズ部分が動きます。

! 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。



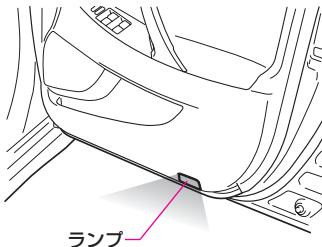
知識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチに関係なく使用できます。

ドアカーテシランプ

フロントドア



ドアを開けると、開けたドアのランプが点灯し、閉めると消灯します。

! 注意

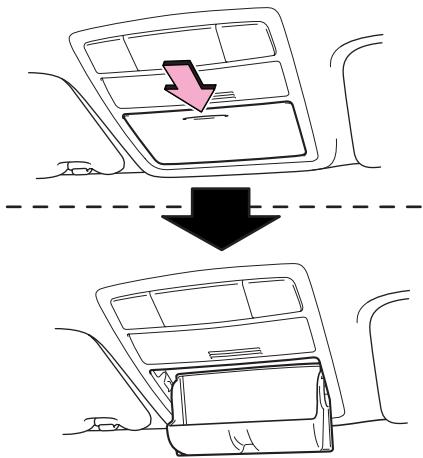
バッテリーあがりを防ぐために、エンジン停止中に長時間点灯させないでください。

! 知識

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチに関係なく使用できます。

オーバーヘッドコンソール

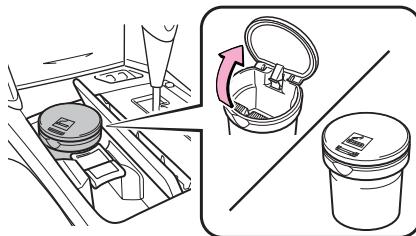


使用するときは、矢印部分を押し
て開きます。

警告

- オーバーヘッドコンソールを開けたま
ま走行しないでください。急ブレーキ
をかけたときなどに荷物が飛び出し、
思わぬ事故につながるおそれがあり危
険です。
- メガネやライターを放置したまま、車
から離れないでください。
オーバーヘッドコンソール内に放置し
たままにしておくと、ライターが爆発
したり、プラスチックレンズ・プラス
チック素材のメガネの変形・ひび割れ
を起こすことがあります。

灰皿



使用するときは、フタを開けます。
●カップホルダーに収納するこ
とができます。

警告

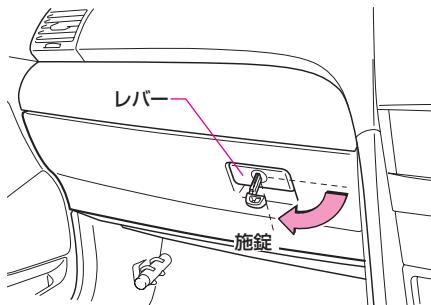
- 出火を防ぐため、次のことをお守りくだ
さい。
- マッチ、タバコなどの火は完全に消し
てから灰皿の中に入れ、確実に閉めて
ください。
 - 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいも
のを入れないでください。

目次

警告

早
基
本
操
作取
運
転
裝
置
の取
室
内
裝
備
のの安
全
解
説
・快
適
裝
備
と注
意事
件付
車
と
の
上
手
な
方
の
使
い
か
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
と
き索
引

グローブボックス



レバーを引いて開けます。

- 閉めるときは“カチッ”と音がするまで確実に閉めます。

!**警告**

グローブボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

便利機能について

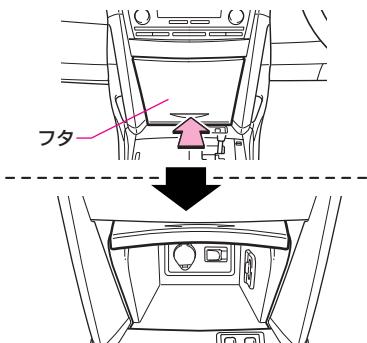
グローブボックスランプ

ライツスイッチがONのときは、グローブボックス内のランプが点灯します。

施錠について

メカニカルキーを差し込み右にまわしたまま抜きます。

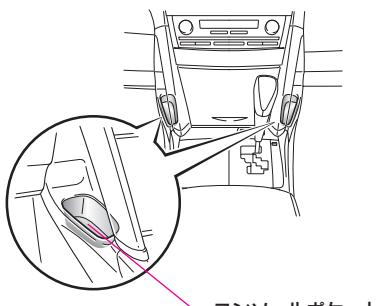
小物入れ



使用するときは、矢印の部分を押してフタを開けます。

- 使用しないときは、閉めておいてください。

■コンソールポケット

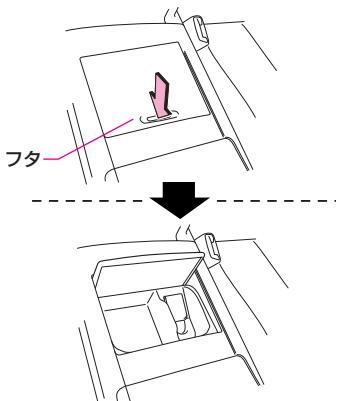


コンソールポケット

!**警告**

小物入れのフタを開けたまま走行したり、ポケット内に転がりやすいものや凹面より高さのあるものを置かないでください(おそれがあり危険です)。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アクセサリーボックス



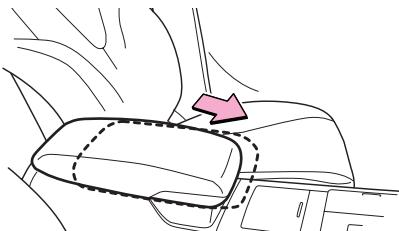
使用するときは、矢印の部分を押してフタを開けます。

- 使用しないときは、閉めておいてください。

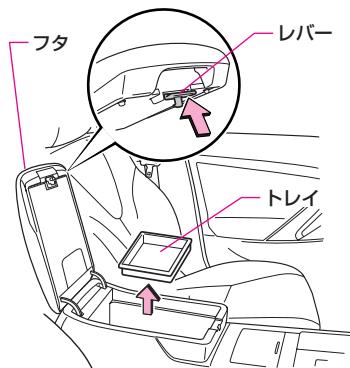
警告

アクセサリーボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス



アームレスト上部をスライドさせることができます。



使用するときは、レバーを引いてフタ開けます。

- トレイを取りはずすこともできます。

警告

コンソールボックスのフタを開けたまま走行しないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

目次

警告

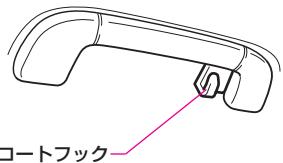
早基本操作
かり作運転装置の
取り扱い取り扱いの
室内装備の安全・快適装備
解説と注意付き合いの上手な
車との

メンテナンス

万ーのとき

索引

コートフック



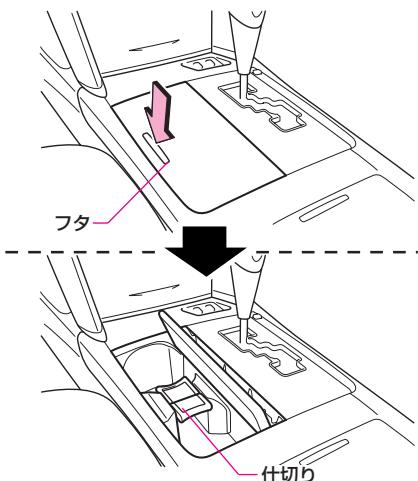
後席のアシストグリップにコートフックがあります。



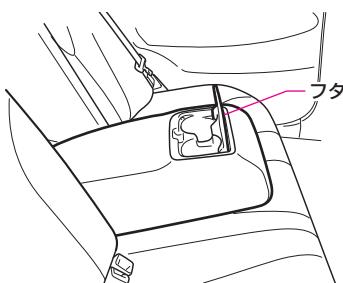
コートフックには、ハンガー・重いもの・とがったものをかけないでください。服をかけるときは、ハンガーを使用せずに直接コートフックにかけてください。SRSカーテンシールドエアバッグが展開したときに飛ばされて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

フロント



リヤ



リヤシートのアームレストにあります。

- 使用するときは、フタを開けます。

使用するときは、矢印の部分を押してフタを開けます。

- 仕切りを取りはずすこともできます。



警告 カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。

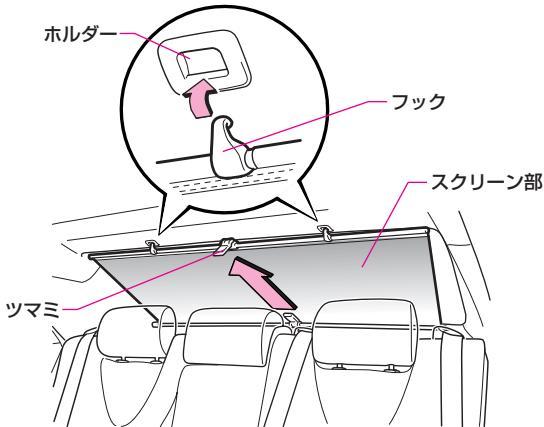
- カップホルダーには、カップや飲料缶以外のものを入れないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタをしてください。
- 急ブレーキをかけたときや衝突時に、カップホルダーに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。カップホルダーを使用しないときはフタを閉めておいてください。



注意 カップホルダーを破損から守るため、カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。

リヤサンシェード★

● 使用するときは



ツマミを持って引き出し、フックをホルダー（2力所）にかけます。

● 収納するときは

ツマミを持ちながらホルダーからフックをはずし、そのままゆっくりと引き下げます。



注意

サンシェードの開口部にものを入れないでください。

- サンシェードの開口部（サンシェードが収納されている溝）にものを入れないでください。サンシェードにものが引っかかり、サンシェードが破損するおそれがあります。
- サンシェードにものをかけないでください。サンシェードが破損するおそれがあります。
- サンシェードを収納するときは、必ずツマミを持ちながらまっすぐにゆっくり引き下げてください。ツマミを持たずに収納すると、内部でサンシェードが巻き込まれたりするなどして、サンシェードが破損するおそれがあります。また、傾けたまま収納すると、スクリーン部にシワが入るおそれがあります。



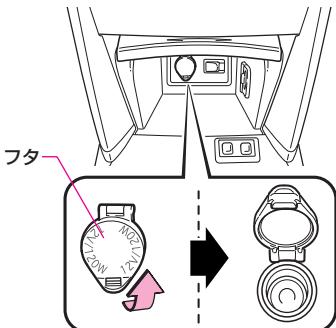
知識

リヤサンシェードについて

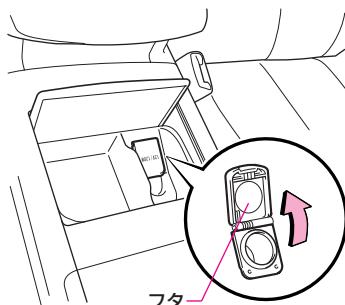
日差しがまぶしいときなどに使用します。

アクセサリーソケット

小物入れ内



アクセサリーボックス内



車内で電気製品を使用することができるソケットです。

- 使用するときは、フタを開けます。



注意 アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。

- アクセサリーソケットを使用しないときは、フタを閉めておいてください。異物がソケットに入ったり、飲料水等がかかったりすると、故障したり、ショートするおそれがあります。
- エンジンが止まった状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。また、エンジンがかかっていてもアイドリング状態で長時間使用するとバッテリーがあがることがあります。

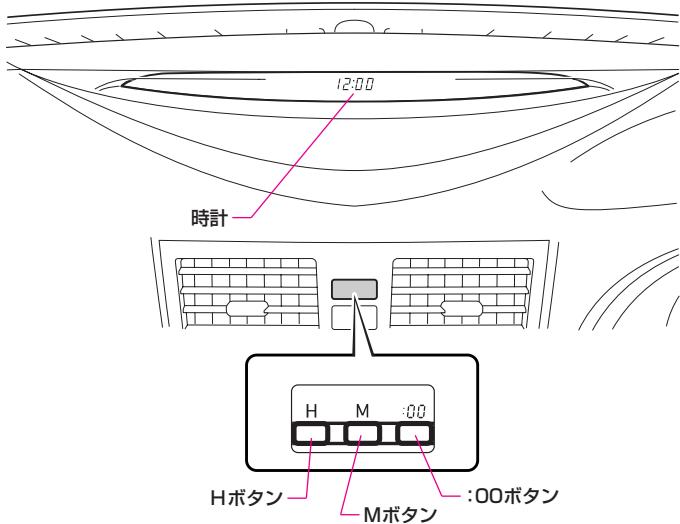


知識

アクセサリーソケットについて

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき使用できます。
- 使用する電気製品は、必ずDC12Vでフロントとリヤの合計が最大10A（最大消費電力120W）以下の電気製品を使用してください。
- 規定容量をこえる電気製品を使用すると、車両ヒューズが切れことがあります。

時計



● “時” “分” を調整するときは

Hボタンを押すと“時”、Mボタンを押すと“分”が調整されます。

● 時報に合わせるときは

時報と一緒に:00ボタンを押すと、時報に合わせることができます。

- 0～29分は切り下げられます。
- 30～59分は切り上げられます。

(例) 1:00～1:29の場合は、1:00に1:30～1:59の場合は、2:00になります。



知識

時計の表示について

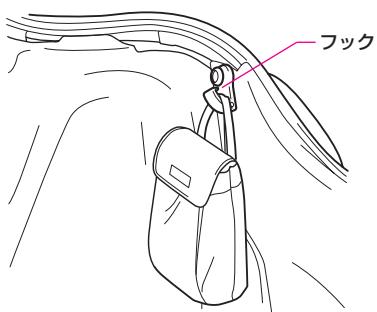
秒表示はありませんが、次の場合は0秒から作動を開始します。

- :00ボタンを押したとき
- Mボタンを押して分を調整後、Mボタンから手を離したとき

作動条件について

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのとき表示されます。

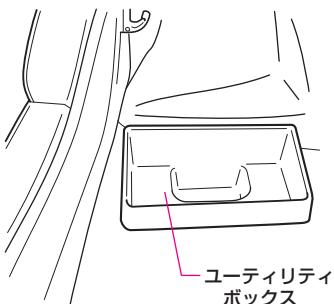
グロッサリーフック



トランク内左右にあります。

- カバンや買い物袋などをつり下げておくことができます。

ユーティリティボックス



トランク内左側にあります。

目次

警告

早基本操作
かり作

取り扱い運転装置の

取り扱い室内外装備の

の安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

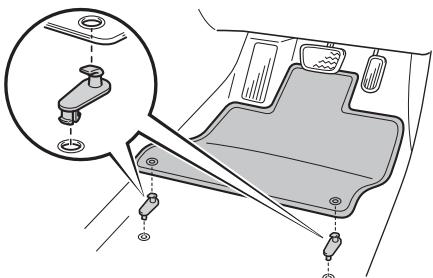
メンテナンス

万一のとき

索引

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定して使用してください。



フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をお読みください。



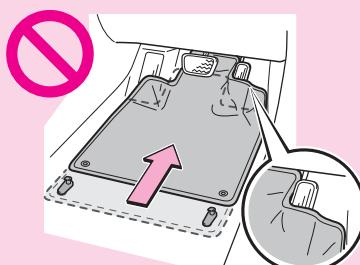
警告
運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●運転席にフロアマットを敷くときは、以下のことをお守りください。

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しないでください。
- 運転席専用のフロアマットを使用してください。
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定してください。
- 他のフロアマット類と重ねて使用しないでください。
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しないでください。

●運転する前に、以下のことを確認してください。

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、とくに洗車後は必ず確認をおこなってください。
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認してください。



早
基
本
操
作運
転
裝
置
の
取
り
扱
い室
内
裝
置
の
取
り
扱
いの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方

メンテナンス

万
一
の
とき索
引

5

安全・快適装備の解説と注意

SRSエアバッグ 332	Vフレックス
SRSエアバッグとは 332	フルタイム4WD 354
SRSエアバッグの作動のしくみ 334	Vフレックス
SRSエアバッグが作動するとき 335	フルタイム4WDとは 354
シートベルト関係 346	ミラー・ガラス関係 356
シートベルトの働き 346	レインクリアリングミラー 356
EBD付ABS&ブレーキ	ワイドビュードアミラー 358
アシスト 348	撥水機能付ガラス 359
ABS&ブレーキ	盗難防止システム 360
アシストとは 348	盗難防止システムとは 360
ABS&ブレーキアシストが作動しているとき 349	ディスチャージ
EBDの働き 350	ヘッドランプ 361
トランスミッション 352	ディスチャージ
5 Super ECTとは 352	ヘッドランプとは 361
Super ECTとは 353	VSC・TRC 362
	VSCとは 362
	TRCとは 363

SRS *エアバッグ

SRSエアバッグとは

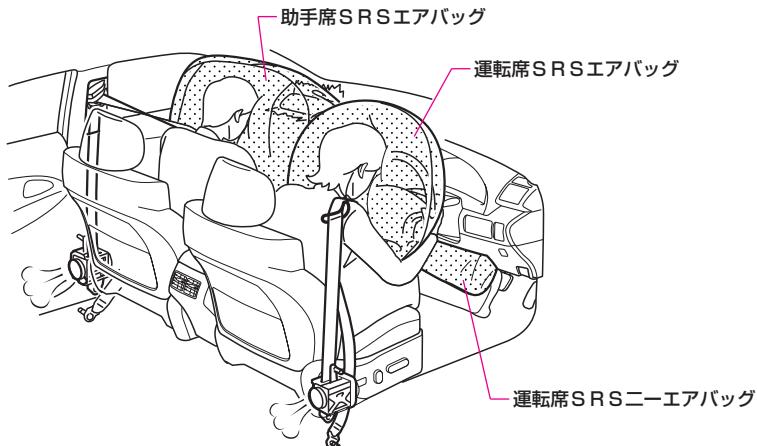
SRSエアバッグは、あくまでも乗員保護の補助装置でシートベルトの補助をするもので、SRSエアバッグの効果を発揮させるためには、正しい姿勢と正しいシートベルトの着用が絶対条件です。

また、正しく取り扱えば効果のあるSRSエアバッグも、誤った取り扱いをすると効果を発揮しないばかりか、かえって乗員に傷害または死亡の危険を与えるおそれがあります。

● SRSエアバッグ（運転席・助手席） & SRSニーエアバッグ（運転席）

運転席SRSエアバッグ・助手席SRSエアバッグは、運転者または助手席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、乗員の頭や胸などに作用する衝撃を分散・緩和させる働きをするものです。

SRSニーエアバッグは、運転者の挙動の適性化により、乗員の衝撃緩和を補助するものです。



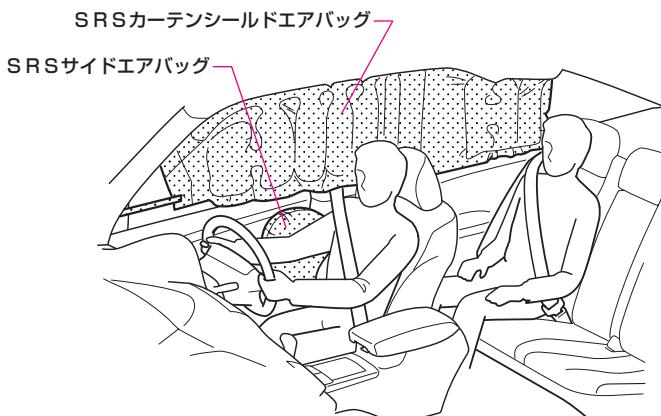
* Supplemental Restraint Systemの略で「乗員保護補助装置」の意味。



SRSサイドエアバッグ・ SRSカーテンシールドエアバッグ

SRSサイドエアバッグは前席乗員、SRSカーテンシールドエアバッグは前後席乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を側方から車両客室部に受けたときに、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグがふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、SRSサイドエアバッグは前席乗員の胸などの上体に、SRSカーテンシールドエアバッグは前後席乗員のおもに頭部に作用する衝撃力を分散、緩和させる働きをするものです。

SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグは乗員がいなくともふくらみます。

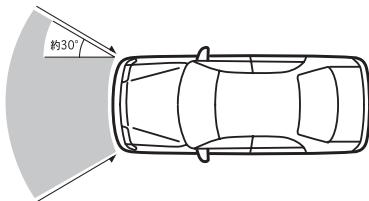


SRSエアバッグの作動のしくみ

SRSエアバッグ（運転席・助手席）& SRSニーエアバッグ（運転席）の作動

車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

衝撃は車両前方・車両中央床部に取りつけられたセンサーで感知し、運転席・助手席SRSエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、SRSエアバッグが作動します。



車両前方にグリルガードなどを装着すると、センサーが正常に衝撃を感じできなくなり、運転席・助手席SRSエアバッグの正常な作動を損なうおそれがあります。

SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグの作動

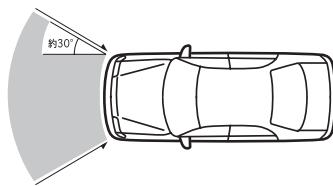
車両側面方向から乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

衝撃はセンターピラー、リヤホイールハウス付近に取りつけられたセンサーで感知し、SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグをふくらませるようコンピューターに信号を送り、SRSエアバッグが作動します。

SRSエアバッグが作動するとき

シートベルトを正しく着用している乗員が、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあるような強い衝撃があった場合に作動し、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれの少ない衝撃では作動しにくくなっています。

作動する場合



SRSエアバッグおよびSRSニーエアバッグは、車両前方左右約30°以内の方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグは、車両側面方向から乗員に重大な傷害がおよぶような強い衝撃を受けたときに作動します。

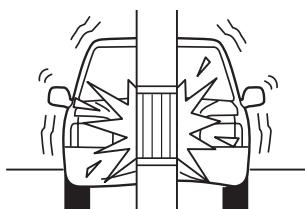
作動しにくい場合

■SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグ

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しない場合があります。



●衝突時に変形・移動しないコンクリートのような固い壁に正面衝突したときであっても、衝突速度が約25km/h以下のときは作動しない場合があります。



●衝突時に変形・移動しない電柱や立木などの狭い範囲に正面衝突したときであっても、衝突速度が約30km/h以下の場合は作動しない場合があります。

目次

警告

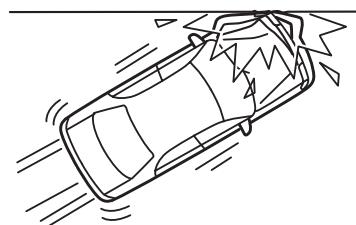
早基
本
か
り
作取
り
運
転
機
械
の取
り
室
内
装
備
のの安
全
解
説
と快
適装
備付
車
と
の上
手
な
方
法メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき

索引

次のような場合にも衝突による衝撃が緩められるため、作動しない場合があります。



- トラックの荷台下などへもぐりこみ衝突した場合。

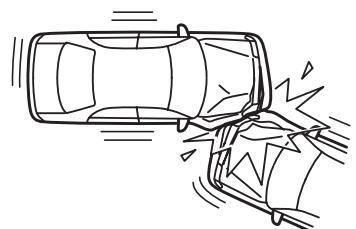


- 斜め前方から衝撃を受けた場合。

衝突したものが変形したり移動した場合は、衝突による衝撃が緩められるため、作動する車速は高くなります。



- 例えば、停車中の同程度の重さの車へ正面から衝突した場合には、約50km/h程度の速度であっても、作動しない場合があります。



- 衝突の方向（角度）や片側衝突（オフセット衝突）などによっては、さらに高い速度であっても、作動しない場合があります。

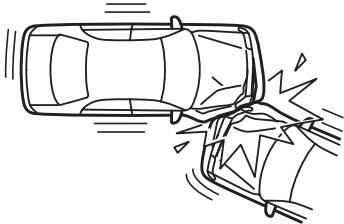
早基本
わかり作
り運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱いの安全
解説・
快適装
備と注
意車との上
手な
付き合いメンテナ
ンス万
一のとき

索引

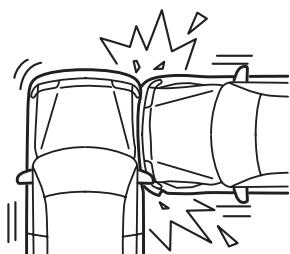
■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグ

次のようなボディが受ける衝撃が弱い場合には、作動しないことがあります。

●斜め側面から衝撃を受けた場合。



●客室部以外の側面に衝撃を受けた場合。

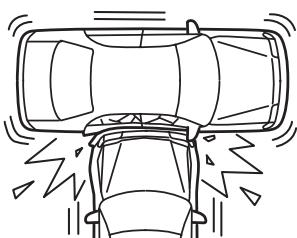


●本来の効果を発揮しない場合

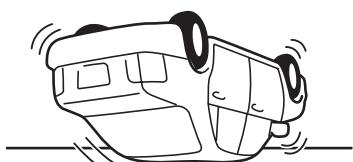
次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

●側面や後方から衝撃を受けた場合。

(SRSエアバッグ・SRSニーエアバッグ)



●車両が横転・転覆した場合。



●車両下部に衝突を受けた場合

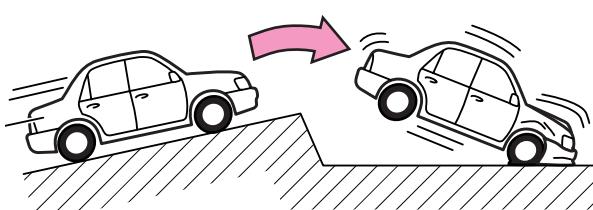
次のような車両下部に強い衝撃を受けたときには、作動する場合があります。



●縁石などにぶつかった場合。



●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえた場合。



●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下した場合。



SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。

乗車するときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと衝突したときなどにSRSエアバッグの効果を十分に発揮させることができないばかりでなく、SRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

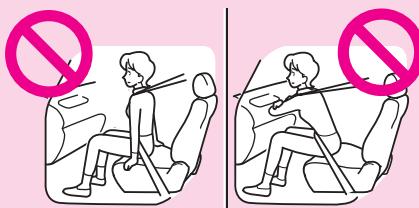
- シートベルトを正しく着用してください。シートベルトを着用していないと、急ブレーキなどで前方に放り出されると同時にSRSエアバッグがふくらみ、強い衝撃を受け危険です。シートベルトの正しい着用については、P.178を参照してください。
- シートを正しい位置に調整し、背もたれに背中をつけた正しい姿勢でシートに座ってください。SRSエアバッグに近づきすぎた姿勢で乗車していると、SRSエアバッグがふくらんだときに強い衝撃を受け、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

<運転者のかたは>

運転操作ができる範囲でできるだけハンドルに近づきすぎないようにして座ってください。

<助手席乗員のかたは>

助手席SRSエアバッグからできるだけ離れて後方に座ってください。シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったりしないでください。シートの調整、正しい運転姿勢についてはP.167を参照してください。



- ドアにもたれかかったり、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部や天井に近づかないようにしてください。SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに頭部などに強い衝撃を受け生命にかかるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。



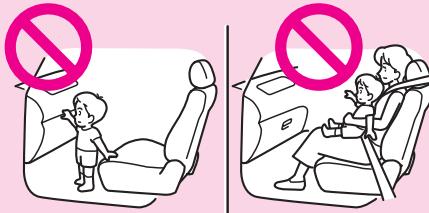


SRSエアバッグの効果を十分に發揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- ひざの上にものをかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグがふくらんだときにものが飛ばされ顔に当たったり、SRSエアバッグの正常な作動がさまたげられ、生命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまを乗せるときには、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSRSエアバッグがふくらんだときの強い衝撃で生命にかかる重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - お子さまはリヤシートに座らせて、必ずシートベルトを着用させてください。
 - シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまには、子供専用シートをリヤシートに装着してご使用ください。
 - 助手席には子供専用シートをうしろ向きに絶対に取りつけないでください。助手席SRSエアバッグがふくらんだとき、子供専用シートの背面に強い衝撃が加わり危険です。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。併せてご覧ください。(P.46参照) なお、やむを得ず前向きにして助手席に子供専用シートを取りつける場合には、シートの前後調整位置をいちばんうしろにして取りつけてください。



- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。





SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- 車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。これらの作業が必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- SRSエアバッグおよびインストルメントパネルの取りはずし・取りつけ・分解・修理などをしないでください。



- フロントシートの表皮の張り替えやフロントシートの取りはずし・取りつけ・分解・修理などが必要なときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。また、フロントシートの改造はしないでください。
- フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部や天井の取りはずし、取りつけなどSRSカーテンシールドエアバッグ格納部周辺を分解・修理しないでください。

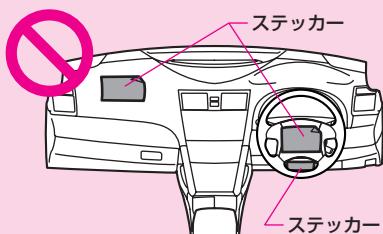


- サスペンションを改造しないでください。車高がかわったり、サスペンションの硬さがかわると、SRSエアバッグの誤作動につながります。
- 車両前部、または車両客室部の修理をしないでください。不適切な修理を行うと、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグが正常に作動しなくなります。



SRSエアバッグの効果を十分に發揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

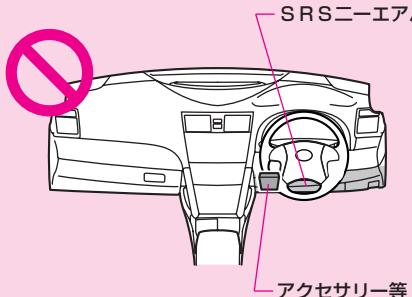
- カー用品などを装着するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグの展開部をカバーやステッカーなどで覆わないでください。



- インストルメントパネル上部に芳香剤などのものを置いたり、傘などを立てかけないでください。助手席SRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、ふくらんだときに飛ばされて危険です。



- インストルメントパネル下部のSRSニーエアバッグ展開部周辺にアクセサリーなどを取りつけないでください。SRSニーエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



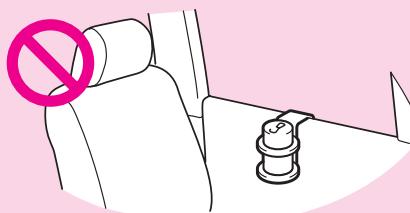


SRSエアバッグの効果を十分に発揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- フロントシートにこの車専用のトヨタ純正用品（シートカバーなど）以外のものを取りつけないでください。この車専用のトヨタ純正用品以外のものがSRSサイドエアバッグ展開部を覆うと、SRSサイドエアバッグの正常な作動のさまたげとなります。なお、トヨタ純正シートカバーなどを装着するときには、商品に付属の取扱書をよくお読みになり、正しく取りつけてください。



- フロントドアやその周辺にカップホルダーなどのカー用品を取りつけないでください。SRSサイドエアバッグがふくらんだときに飛ばされて危険です。



- フロントウインドウガラス、サイドドアガラス、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップや天井などSRSカーテンシールドエアバッグ展開部周辺にアクセサリー・ハンズフリーマイク・ハンガーなどを取りつけないでください。SRSカーテンシールドエアバッグがふくらんだときに、飛ばされて危険です。



- 無線機の電波などは、SRSエアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがありますので、無線機などを取りつけるときは、トヨタ販売店にご相談ください。



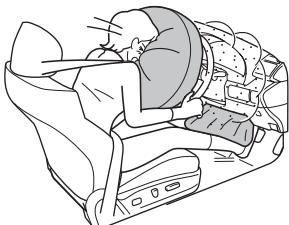
SRSエアバッグの効果を十分に發揮させるために、以下の項目を必ずお守りください。

- 車両前部にグリルガードやウインチなどを装着するときは、トヨタ販売店にご相談ください。車両前部の改造をすると、SRSエアバッグセンサーに伝わる衝撃がかわり、SRSエアバッグの誤作動につながります。
- ステアリングパッド、インストルメントパネル上部、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部、フロントシート側面などSRSエアバッグ展開部は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



SRSエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

- SRSエアバッグは非常に速いスピードでふくらむため、SRSエアバッグとの接触により打撲やすり傷などを受けることがあります。



- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。このガスを吸うと、喘息などの呼吸器系を患った経緯のある人は、呼吸が苦しくなることがあります。

この場合は、乗員が車外に出ても安全であることを確認して、車外に出てください。なお、車外に出れない場合は、窓やドアを開けて新鮮な空気を入れてください。

また、SRSエアバッグ作動時の残留物（カスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたは、まれに皮膚を刺激する場合があります。

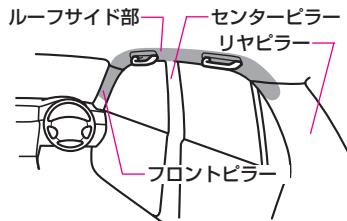
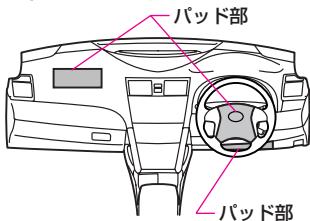
- 衝突したときなどに、助手席SRSエアバッグがふくらむことによって、車両のフロントウインドウガラスが破損することがあります。

- 一度作動したSRSエアバッグは、2回目以降の衝突では再作動しません。必ずトヨタ販売店で交換してください。同様に連続して衝突した場合、1回目の衝突でSRSエアバッグが作動すれば、2回目の衝突ではSRSエアバッグは作動しません。



SRSエアバッグが正常に作動した場合でも次のような場合があります。

- 車やSRSエアバッグを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。
- SRSエアバッグが収納されているパッド部およびフロント・センター・リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。



- エンジン停止時およびSRSエアバッグ作動時はフューエルポンプ制御が作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。燃料供給の停止を解除するとときは、燃料もれがないことを十分確認してから、“エンジン スタート ストップ”スイッチを一度OFFにします。

シートベルト関係

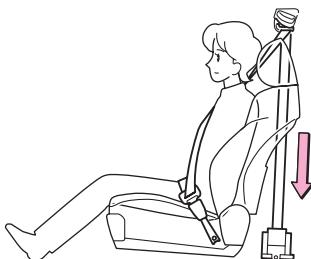
シートベルトの働き

プリテンショナー&フォースリミッター付シートベルト

フロントシートベルト

- プリテンショナー機構は、前席の乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を車両前方から受けたときに、シートベルトを瞬時に巻き取り、適切な乗員拘束効果の確保に役立ちます。
- フォースリミッター機構は、シートベルトの荷重を規定値に維持することで胸部への衝撃を緩和します。

プリテンショナー機構



【衝突初期にシートベルトを瞬時に巻き取る】

フォースリミッター機構



【衝突時規定荷重を維持しながらシートベルトを引き出す】

E L R 機構付シートベルト

シートベルトは身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときは、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。



プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。

- プリテンショナー付シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとプリテンショナーが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - シートベルトを正しく着用する。(P.178参照)
 - シートを正しい運転姿勢の取れる位置に調整する。(P.167参照)
- プリテンショナー付シートベルトの取りつけ・取りはずし・分解などをしないでください。また、プリテンショナー付シートベルトを修理するときは、必ずトヨタ販売店で行ってください。プリテンショナー付シートベルトを不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤って巻き取り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。



車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

- プリテンショナー付シートベルトが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが火災ではありません。また、人体への影響もありません。
- 車やプリテンショナー付シートベルトを廃棄するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。プリテンショナー付シートベルトが思いがけなく作動し、けがをするおそれがあります。



プリテンショナー付シートベルトの作動条件について

プリテンショナー付シートベルトは、車両前方から強い衝撃を受けたときに作動します。次のような衝撃が弱いときには、作動しない場合があります。

- コンクリートの壁に約25km/h以下の速度で正面衝突したとき。

なお、次のような場合は作動する場合もありますが、本来の効果を発揮しません。

- 側面や後方から衝撃を受けたとき。
- 車両が横転、転覆したとき。

作動後について

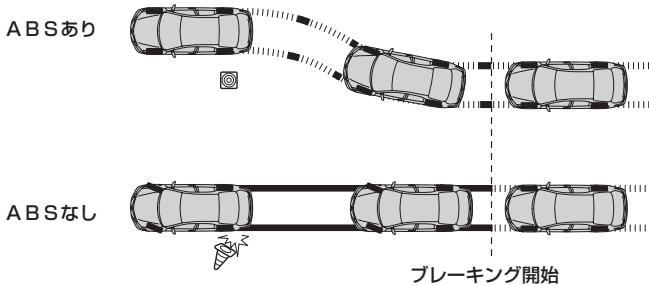
プリテンショナー付シートベルトは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

EBD^{*1}付ABS^{*2}&ブレーキアシスト

ABS&ブレーキアシストとは

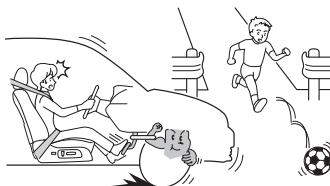
ABSの働き

ABSは、急ブレーキをかけたときや、すべりやすい路面でブレーキをかけたときに起こるタイヤのロック（回転が止まること）を防ぐことによりスリップを抑制します。



ブレーキアシストの働き

ブレーキアシストは、緊急制動時の運転に不慣れな運転者がパニック状態に陥ったときなどに、ブレーキペダルが強く踏めず、ブレーキ性能を十分に発揮できない場合や、定員乗車で坂道を降りるときなどにドライバーのペダル踏力を増加させ、制動力を確保する装置です。しかし、ABS & ブレーキアシストはスリップの抑制やハンドルの効き方には限界がありますので、過信することなく安全運転を心がけましょう。



ドライバーの踏力での制動力
+
ブレーキアシストの制動力



ABSの効果

ブレーキ性能の
十分な発揮

また、ABS & ブレーキアシストは、車輪に取りつけられたセンサーによりタイヤのロックを検出します。タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.74の「タイヤについての注意」をよくお読みください。

*1 EBDは、Electronic Brake force Distribution（エレクトロニック・ブレーキフォース・ディストリビューション）の略で「電子制動力配分制御」の意味。

*2 ABSは、Antilock Brake System（アンチロック・ブレーキ・システム）の略。

ABS&ブレーキアシストが作動しているとき

● 運転について

- 急ブレーキ時は、ABS&ブレーキアシストが効果を発揮するように、ブレーキペダルをできるだけ早く、強く踏み続けることが必要です。



- 急ブレーキ時にポンピングブレーキ*をしないでください。ポンピングブレーキをすると制動距離が長くなります。

* ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方。



思いきり踏む。



踏み続ける。



ゆるめたり、ポンピングはしない。

● 作動について

ABSが作動すると、次のような現象が発生することがあります、異常ではありません。

- ABSの作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルに振動を感じたり、車両停止後もモーター音が聞こえることがあります。

- ABSの作動が終了すると、ブレーキペダルが少し奥に入ったりすることがあります。

ブレーキアシストが作動すると、次のような現象が発生することがあります、異常ではありません。

VSC装着車

ブレーキペダルを急速度で踏んだときブレーキが強くかかるようになり、作動音とともにブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。また、ABSが作動することがあります。

VSC装着車を除く

ブレーキペダルを急速度で踏んだとき、ブレーキが強くかかるようになり、ABSが作動することがあります。

目次

警告

早基本操作
かり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・
と注意
快適装備付き合いの上手な
車との上手な

メンテナンス

万ーのとき

索引

EBDの働き

A B Sの制御技術を応用して、車両の走行状態に応じた適切な制動力を前後輪に配分します。これにより、積載時や減速度による荷重変化に応じ、4輪の制動力配分を適切に行い、高いブレーキ性能を確保します。さらに、旋回中の制動時にも左右輪の制動力をコントロールして走行安定性を確保します。



EBD付A B S & ブレーキアシストを過信しないでください。

● EBD付A B S & ブレーキアシストを過信しないでください。

EBD付A B Sやブレーキアシストが作動した状態でもスリップの抑制やハンドルの効き方には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。EBD付A B S & ブレーキアシストを過信せず速度を抑え、車間距離を十分に取って安全運転に心がけてください。

- EBD付A B Sはタイヤのグリップ限界をこえたり、ハイドロブレーニング現象*が起こった場合は、効果を発揮できません。

* 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。

● EBD付A B Sは制動距離を短くするための装置ではありません。

次の場合などは、EBD付A B Sのついていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにして車間距離を十分にとってください。

- 砂利道、新雪路を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗りこえるとき。
- 凸凹道や石だらみなどの悪路を走行しているとき。

● ブレーキアシストは、ブレーキ本来の能力をこえた性能を引き出す装置ではありません。

車両・車間距離などに十分注意して安全運転に心がけてください。

目次

 知識

作動条件について

- EBD付ABS&ブレーキアシスト(VSC装着車)は、車速が約10km/hをこえると作動できるようになります。また、車速が約5km/hまで下がると作動を止めます。
- 雨の日に、マンホールのフタ・橋の継ぎ目・工事中の鉄板などの上でブレーキを踏むとすべりやすいため、EBD付ABSが作動しやすくなります。

作動音について

- エンジン始動時や始動後の発進直後に、エンジルームからモーター音や“カチッ”という音が聞こえることがあります。これは、EBD付ABSの作動をチェックしているときの音で異常ではありません。
- ブレーキペダルを踏んだとき小さな打音が聞こえることがあります。これは、ブレーキアシストの機構が作動しているときの音で異常ではありません。(VSC装着車を除く)

警告

早基本
操作
かり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・
快適装備
と注意付き合い
車との上手な
方

メンテナンス

万ーのとき

索引

トランスミッション

5 Super ECTとは

FF車

5 Super ECTは、フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。

● フレックスロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。

- シフトレバーが①にあれば、自動的に作動します。

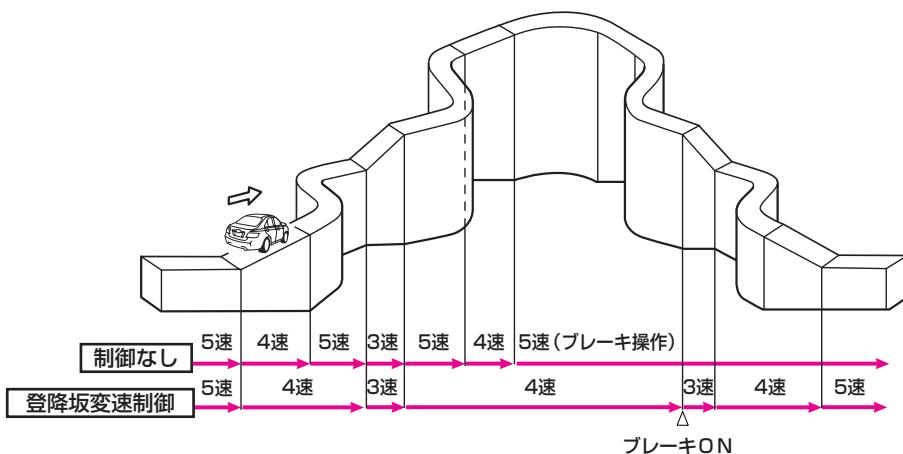
● 登降坂変速制御システムの働き

- 登坂路では変速回数を減らし、滑らかに走行することができます。

- 例えば、5速で走行しているときに、登坂していると判断されたときは、4速にシフトダウンしたあと5速への頻繁なシフトアップを防止します。

- 降坂路ではシフトダウンにより、エンジンブレーキを積極的に利用し、ブレーキの負担を軽減します。

- 例えば、5速で走行しているときに、降坂していると判断されたときは、ブレーキを踏むと4速にシフトダウンします。



注意

走行中、エンジン警告灯（P.229参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

Super ECTとは

4WD車

Super ECTは、フレックスロックアップシステムや登降坂変速制御システムなどにより、燃費性能と快適な走行を両立した電子制御オートマチックトランスミッションです。

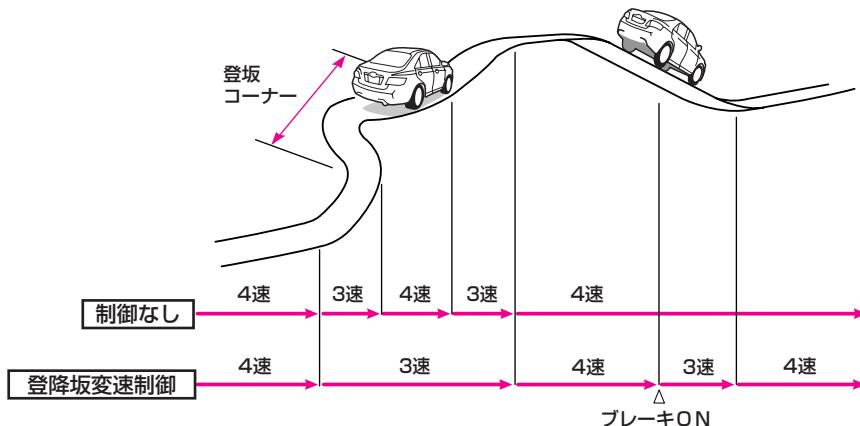
フレックスロックアップシステムの働き

トランスミッションの伝達効率を上げ、燃費性能を高めるシステムです。

- シフトレバーが□にあれば、自動的に作動します。

登降坂変速制御システムの働き

- 登坂路では変速回数を減らし、滑らかに走行することができます。
 - 例えば、4速で走行しているときに、登坂していると判断されたときは、3速にシフトダウンしたあと4速への頻繁なシフトアップを防止します。
- 降坂路ではシフトダウンにより、エンジンブレーキを積極的に利用し、ブレーキの負担を軽減します。
 - 例えば、4速で走行しているときに、降坂していると判断されたときは、ブレーキを踏むと3速にシフトダウンします。



注意

走行中、エンジン警告灯（P.229参照）が点灯したときは、オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

目次

警告

早基
本
か
り
作取
運
転
装
置
の取
り
扱
い
の
室
内
装
備
のの安
全
解
説
・
快
適
装
備
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
の
交
互
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき

索引

Vフレックスフルタイム4WD

Vフレックスフルタイム4WDとは

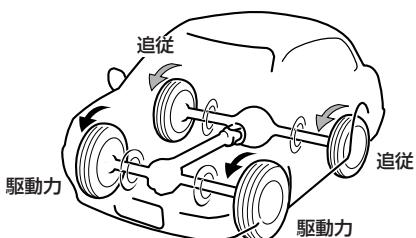
4WD車

通常はほぼFF走行をし、コーナリング時や雪道、登坂時、発進時、加速時など前輪と後輪の回転差が発生するとビスカスカップリングの作用により、自動的に後輪に駆動力が伝達され、四輪駆動として走行します。

Vフレックスフルタイム4WDは、さまざまな路面に対応した駆動力を自動的に全輪に与え、安定した操縦性に寄与する装置です。

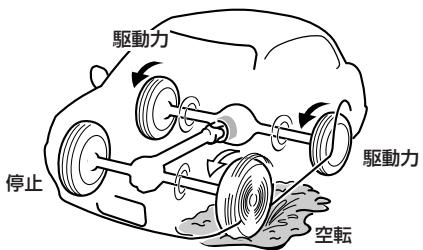
Vフレックスフルタイム4WDの取り扱い上の注意がP.67の「4WD車についての注意」に記載されています。よくお読みになり、正しい取り扱いを理解して安全運転に心がけるようにしましょう。

● 通常時（FF走行）



通常の直線走行など、前・後輪に回転差が微小な場合は、2WD（FF）に近い状態で走行します。

● コーナリング時や雪道（4WD走行）



コーナリング時や雪道など前・後輪間に回転差が発生するとビスカスカップリングが作動し、後輪に駆動力が伝達され、4WD状態になります。

通常走行にもどると、2WDになります。

● タイヤについて

Vフレックスフルタイム4WDは、タイヤの状態が車の性能に大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.74の「タイヤについての注意」をよくお読みください。



警告

宙に浮いたタイヤを、むやみに空転させないでください。

- 脱輪などにより、いずれかの車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動部品に無理な力が加わり焼きつきなどの損傷を受けたり、焼きつきにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤはすべて指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。また、摩耗差の著しいタイヤを混せて装着しないでください。タイヤを混在使用すると、前後左右のタイヤで常時異常な回転差が発生し、駆動系部品（ディファレンシャルギヤ）に無理な力がかかり、オイルの温度が上昇するなどしてオイル漏れや焼きつきなどにより、最悪の場合、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 次の場合もタイヤの混在使用と同様、駆動系部品に悪影響を与えるので、タイヤの空気圧の点検は必ず実施してください。
 - 4輪の空気圧の差が著しいとき。
 - 空気圧が指定値からはずれているとき。
- タイヤの摩耗を4輪とも均等にし、寿命をのばすためにタイヤのローテーションを行ってください。（P.393参照）
- ディスクホイールを交換するときも、指定以外のディスクホイールを装着しないでください。（P.429参照）

!警告

早基
わ本
かり作取り
転装置
の取り
扱い
装備
のの安全
解説・
快適装備付車との
上手な
付き合い方メンテナ
ンス万
一のとき

索引

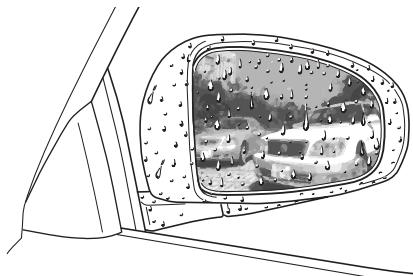
ミラー・ガラス関係

レインクリアリングミラー

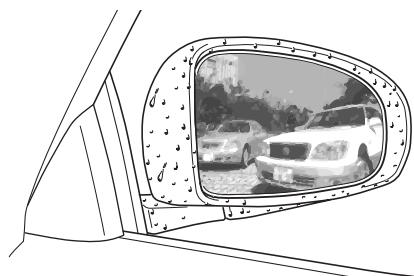
レインクリアリングミラーとは？

ドアミラーの鏡面には親水膜のコーティングがしてあり、雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる（親水効果）ことにより、後方を見やすくなります。

普通のドアミラー



レインクリアリングミラー



※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

- ミラーヒーターを作動させると、水膜が晴れ、よりクリアな視界が得られます。ミラーヒーターの操作については、P.200を参照してください。
- 通常の手入れは水洗いをするだけです。
- 霧雨や小雨などの少量の水滴に対しては親水効果が低下します。
- 次の場合、一時的に親水効果が失われますが、徐々に回復します。親水効果をすぐに回復させたいときは、カーシャンプーやガラスクリーナーなどで洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・コンパウンドが入っているものもありますので、成分表をよくお読みください。）
 - ミラーの汚れを拭き取ったとき。
 - ミラーが曇ったとき。
 - 自動洗車機でワックス洗車をしたとき。
 - 長期間、地下駐車場など日の当たらない場所に駐車していたとき。

早基
わ本
かり作取り
運転
装
置の取
室內
り扱い
裝備のの安
全・快
適装
備の解
説と注
意事項付
車との上
手な方
との合
いメンテナ
ンス万
一のとき

索引



親水効果を持続させるため、またドアミラーの傷つきを防止するため、次の注意事項を必ず守ってください。

- 撥水剤（シリコーン入りのスプレー・溶剤など）・油膜取り剤（コンパウンド入りのスプレー・溶剤など）は使用しないでください。また、ドアガラスやボディに撥水剤・油膜取り剤・ワックスを使用するときは、ドアミラーの鏡面をタオルなどで覆い、ドアミラーに付着しないようにしてください。万一付着したときは、カーシャンプーやガラスクリーナーなどで洗浄したあと、多量の水で洗い流してください。（カーシャンプーやガラスクリーナーの中には、シリコーン・コンパウンドが入っているものもありますので、成分表をよくお読みください。）
- ドアミラーが凍結したときは、プラスチックの板などで削り落とさずに、ミラーヒーターを作動させるか、温水をかけるなどして、解氷してください。
- ドアミラーの汚れを拭き取るときは、きれいなタオルで拭き取ってください。

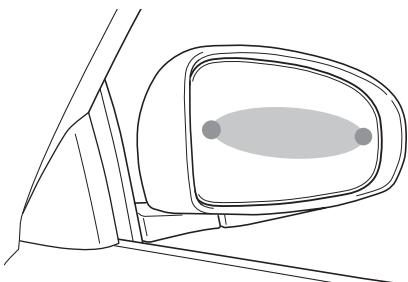
ワイドビュードアミラー

ワイドビュードアミラーとは？

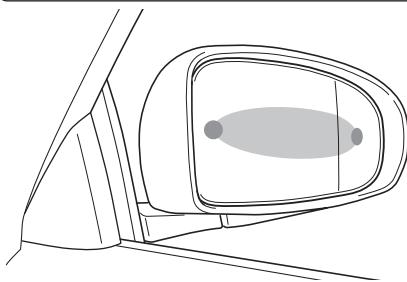
運転席側ドアミラー

ミラーの境界線の内側と外側で曲率をかえたもので、境界線の内側は通常のミラーと同じですが、境界線より外側は通常のミラーよりも広い範囲まで視界が確保できるようになっています。

普通のドアミラー



ワイドビュードアミラー



※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。

ミラーの内側と外側では、映るものの距離感覚が異なります。

- 境界線より外側に映るものは、内側に映るものに比べて、実際よりも遠くにあるように見えます。(通常のドアミラーに比べて、遠くにあるように見えます。)

撥水機能付ガラス

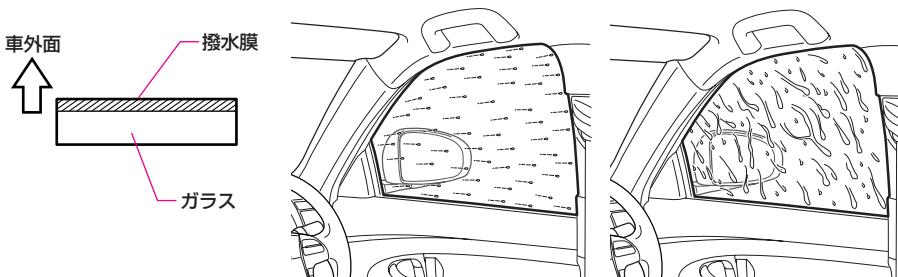
撥水機能付ガラスとは？

フロントドアガラスには、撥水膜のコーティングがしてあり、ガラスについた雨水などをはじき、雨天時の視界を良くします。また、コーティングにより、泥・油膜・水アカがつきにくくなり、霜や着氷も落としやすくなります。

断面構造

撥水ガラス

普通ガラス



※イラストはイメージで表わしたもので、実際のものとは異なります。



注意 水滴をはじく持続期間には限りがあります。長持ちさせるために次の注意事項を必ず守ってください。

- 撥水機能付ガラスが汚れているときは、なるべく早めにやわらかい湿った布などで清掃してください。
- ガラスの泥などの汚れがひどいときは、汚れを取り除いてから、フロントドアガラスの開閉を行ってください。
- 撥水機能付ガラスを清掃するときは、コンパウンド（みがき粉）の入ったガラスクリーナー やワックスは使用しないでください。また、ガラスクリーナー使用時に白曇りする場合は、湿った布で拭き取ってください。
- 自動洗車機を使用するときは、撥水機能付ガラス表面の泥などの汚れを落としてから洗車してください。
- 金属製のもので霜取りなどをしないでください。
- 撥水機能付ガラスは消耗品です。水滴のはじきが悪くなったときは、補修が必要です。また、コーティングを除去することもできます。詳しくは、トヨタ販売店におたずねください。

盗難防止システム

盗難防止システムとは

車両の盗難防止のために、電子キーに信号発信機を内蔵しており、あらかじめ登録された電子キー以外ではエンジンを始動できないようにしたシステムです。

- 電子キーに登録された信号は車ごとに異なります。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすると、システムが作動し、セキュリティ表示灯（P.220参照）が点滅します。
- 登録された電子キーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、システムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。
- 車両から離れる場合は、車内に電子キーを残さないでください。



注意

盗難防止システムの故障を防ぐために次のことをお守り下さい。

- 電子キーは信号発信機を内蔵している電子部品です。故障を防ぐために次のことをお守りください。
 - 電子キーを無理に曲げたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
 - ダッシュボードの上など高温になる場所に置かないでください。
 - 磁気を帯びたキー ホルダーなどをつけないでください。
 - 電子キーを超音波洗浄機などでは洗浄しないでください。
- システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。



知識

メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

ディスチャージヘッドライト

ディスチャージヘッドライトとは

ディスチャージヘッドライトは、バルブ管内のガスと金属ヨウ化物を使って発光させ、通常のランプより白い光と伸び、広がりのある配光を持つランプです。



警告

ディスチャージヘッドライトを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な障害を受けるおそれがあり危険です。



知識

オートレベリング（上下照射方向自動調整）システムについて

荷物の積みおろし時などの車両姿勢の変化に対応して、ヘッドライトの光軸を自動的に調整する装置です。

目次

警告

早基
本操
り作

取
運
転
装
置
の

取
室
内
装
備
の

の安
全
・快
適
装
備
の解
説・
と注
意

付
車
と
の上
手な
付き
合い
方

メン
テナ
ンス

万
一
の
とき

索引

VSC・TRC★

VSC*とは？

VSCは、急激なハンドル操作やすべりやすい路面での旋回時の横すべりなどを抑制するため、自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して、車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.74の「タイヤについての注意」をよくお読みください。



警告

VSCを過信しないでください。VSCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心掛け、スリップ表示灯（P.221参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。



知識

作動条件について

- VSCは車速が約15km/hをこえると作動できるようになります。
- ABS＆ブレーキアシスト警告灯（P.226参照）が点灯しているときや、スリップ表示灯（P.221参照）が点灯しているときは、VSCは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

* VSC は、Vehicle Stability Control（ビークル・スタビリティ・コントロール）の略。

TRC^{*}とは？

目次

TRCの働き

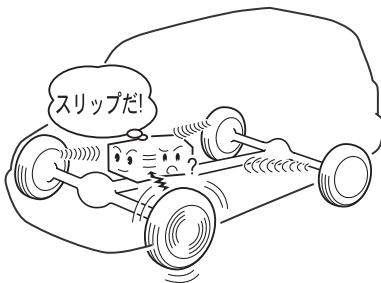
すべりやすい路面での発進時や加速時に、過剰な駆動力により生ずる駆動輪のホイールスピンを抑え、車両の方向安定性と駆動力を確保しようとする装置です。

- 車輪がスリップしはじめると車輪速センサーからの情報でコンピューターがスリップを感じし、エンジンに対して出力を一瞬下げるようにして、必要に応じてブレーキをかけます。これにより、過剰な駆動力を抑え、スリップを防止します。
- TRCが作動すると、スリップ表示灯（P.221参照）が点滅します。このとき、車両の振動を感じることがありますが、これはブレーキ制御によるもので、異常ではありません。

警告

早基
本
か
り
作取
運
転
装
置
の取
室
内
装
備
のの安
全
解
説
・快
適
装
備付
車
と
の
上
手
な
方
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき

索引



タイヤのスリップは4輪に取りつけられたセンサーからの信号を比較し、いずれかの信号のみほかの車輪より多い場合、スリップしているとコンピューターが判断します。それによって、スリップしているタイヤの駆動力を抑えようとブレーキをかけたり、エンジンの出力を一時的に抑えたりして、スリップを抑制させます。

^{*} TRCは、Traction Control（トラクション・コントロール）の略。

● TRCとタイヤの関係について

TRCは、車輪についているセンサーからの信号を基準に作動させるため、4輪の中で1輪でもタイヤの種類が異なると、信号の出方がかわり、コンピューターがスリップと判断します。

- タイヤの状態がシステムに大きく影響しますので、タイヤの状態には細心の注意をしてください。詳しくは、P.74の「タイヤについての注意」をよくお読みください。



警告

TRCを過信しないでください。TRCが作動した状態でも車両の方向安定性の確保には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながり、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。常に安全運転に心掛け、スリップ表示灯（P.221参照）が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。



知識

作動条件について

- 通常は“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにすると、TRCが作動可能状態になります。
- ABS＆ブレーキアシスト警告灯（P.226参照）が点灯しているときや、スリップ表示灯（P.221参照）が点灯しているときは、VSCは作動しません。

作動チェックについて

エンジン始動時や始動後の発進直後にエンジンルームから“カチカチ、トン”という音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

MEMO

目次

基本操作
わかり作運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱い安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

MEMO



6

車との上手な 付き合い方

雨の日の運転について	368
雨の日の運転	368
寒冷時の取り扱い	369
冬の前の準備・点検	369
運転する前に	371
走行するときは	373
駐車するときは	376
経済的な運転	378
環境にやさしく経済的な運転をするために	378
環境保護のために	380
使用済み部品・廃オイル類は 適正な処理をする	380

雨の日の運転について

雨の日の運転

すべりやすい路面は慎重に走行してください。

雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなるので、慎重に走行してください。

- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日はハイドロブレーニング現象^{*}でハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

* 雨天の高速走行などで、タイヤと路面の間に水膜が発生し、接地力を失ってしまう現象。



警告

すべりやすい路面では、慎重に運転してください。

- すべりやすい路面での急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

冠水した道路は走行しないでください。

大雨などで冠水した道路では、車両に重大な損傷を与えるおそれがあるので走行しないでください。



警告

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。万一、冠水した道路を走行し、水中に浸ってしまったときは必ずトヨタ販売店で下記の項目などを点検してください。

- ブレーキの効き具合。
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD車）、ディファレンシャルなどのオイル量および質の変化。（白濁している場合、水が混入していますので、オイルの交換が必要です。）
- プロペラシャフト（4WD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良。

寒冷時の取り扱い

冬の前の準備・点検

目次



早基
本
か
り
作

取
運
転
装
置
の

取
室
内
装
備
の

の安
全
・快
適
装
備
と
意
識
説
く

付
車
と
の上
手
な
方
が

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
のとき

索引

エンジンオイルを交換する

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。(P.428の「推奨するエンジンオイル」参照)

ウォッシャー液の濃度を調整する

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、購入されたウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

冷却水の濃度を調整する

冷却水の凍結を防ぐために冷却水濃度を調整してください。

使用地域	希釈割合	凍結保証温度
温暖地	30%	-12°C
寒冷地	50%	-35°C



アルコール系不凍液や真水だけの使用はしないでください。

バッテリーの液量・比重を点検する

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。バッテリーの液量・比重を点検し、必要に応じて液の補充や充電をしてください。



冬用タイヤ、タイヤチェーンを準備する

- タイヤを取り替えるときは、必ずP.74の「タイヤについての注意」を参考してください。
- タイヤサイズに合ったタイヤチェーンを準備してください。
- 必ずカムリ指定のトヨタ純正品を使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。



寒冷地用ワイパーべードを準備する

降雪期に使用する寒冷地用ワイパーべードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆っています。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパーべードよりガラスが拭き取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。
- 寒冷地用ワイパーべードを必要としない時季は、通常のワイパーべードを使用してください。



運転する前に

● 屋根に積もった雪は

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげになります。
走行する前に取り除いてください。

● ガラスについた雪や霜は

ガラス内外の雪や霜を落として視界を確保してください。
デフロスターを使うと、ガラスを傷つけずに落とすことができます。



注意

フロントウインドウガラスについた氷を除去するために、たたいて割らないでください。フロントウインドウガラス内側（車内側）が割れるおそれがあります。

● ランプ類についた雪や霜は

ランプ類についた雪や霜を落としてから走行してください。
夜間の走行時などに視界のさまたげとなったり、後続車などへの合図がわからにくくなるおそれがあります。また、走行中にもときどき点検してください。

● 足まわりなどについた氷塊は

車体などに傷をつけないように取り除いてください。

● 外気取り入れ口に積もった雪は

フロントウインドウ前部の外気取り入れ口に積もった雪を取り除いてから、エアコンのファンを作動させてください。

雪が積もったままで作動させると、ファンが故障したり、ガラスが曇ったりするおそれがあります。

● ワイパーなどが凍結したときは

ワイパー・ドアミラー・ドアガラスなどが凍って動かない場合は、無理に動かさないでください。

スイッチを押し続けたりすると、装置をいためたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。

● ドアが凍結したときは



お湯をかけて氷を溶かしてください。なお、すぐに水分を十分拭き取ってください。無理に開けようすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、損傷するおそれがあります。

● 靴についた雪をよく落とす



ペダル類を操作するときにすべったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったり、凍結することがあります。

走行するときは

すべりやすい路面では“急”のつく操作はしない

急発進・急ハンドル・急ブレーキなどは車両が思わぬ動きをして事故につながるおそれがあります。ゆっくり発進し、控えめな速度で、車間距離を十分とって走行してください。

橋の上や日陰など凍結しやすい場所ではあらかじめ減速し、慎重に走行してください。



警告

シフトアップ・シフトダウンによるエンジンブレーキやエンジン回転数の急激な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

フェンダー裏側についた氷は

ハンドル操作に影響しますので、ときどき確認し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキ装置についた氷は

ブレーキの効きが悪くなる場合があります。ときどき軽くブレーキペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

すべり止めは早めに

積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン、または冬用タイヤを装着してください。タイヤを取り替えるときは、必ずP.74の「タイヤについての注意」を参照してください。



警告

冬用タイヤ装着時は以下の点をお守りください。

- 指定サイズのタイヤを使用してください。
- 指定空気圧に調整してください。
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しないでください。



タイヤチェーン

- タイヤチェーンは前2輪に取りつけてください。
- タイヤチェーンの取り扱い方法はタイヤチェーンに付属の取り扱い説明書にしたがってください。
- タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
- 必ずカムリ指定のトヨタ純正品を使用してください。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンを使用すると車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤチェーンを取りつける前に

交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に移動し、パーキングブレーキをしっかりとかけます。以下の手順により準備作業を行います。

〈手順〉

1 エンジンを停止します。

シフトレバーをPの位置にし、エンジンを止めます。

2 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

3 工具を用意します。

ジャッキ・ジャッキハンドル・フルキャップ装着車はホイールナットレンチを用意します。（P.434の「ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所」参照）

4 タイヤチェーンを用意します。



5 輪止めを用意します。

タイヤチェーンを取りつける場合には、輪止めが必要です。

- 輪止めについては、トヨタ販売店にご相談ください。
- 輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

6 フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずします。

P.443の「タイヤ交換のしかた」参照。



警告

タイヤチェーン装着時は必ず慎重に運転してください。

- タイヤチェーン装着時は約30km/h、またはチェーンメーカー推奨の制限速度以下で走行してください。また、走行性に影響を与えるため、必ず慎重に走行してください。
 - タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗りこえたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などをしないでください。車両が思わず動きをして事故につながるおそれがあります。
- また、ABS作動時でも制動距離が長くなる場合がありますので、慎重に運転してください。



注意

タイヤチェーンを取りつけるときは、ホイールやホイールキャップに傷をつけないよう注意してください。

- フルキャップ装着車は、ホイールキャップをはずしてからタイヤチェーンを取りつけてください。ホイールキャップをつけたままタイヤチェーンを取りつけると、ホイールキャップに傷がつくことがあります。
- アルミホイール装着車は、アルミホイールにタイヤチェーンを取りつけると、ホイールに傷がつくことがあります。
- カムリ指定のトヨタ純正品以外を使用すると、車体側に当たり走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

駐車するときは

エンジンをかけたままにしない

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください。



警告

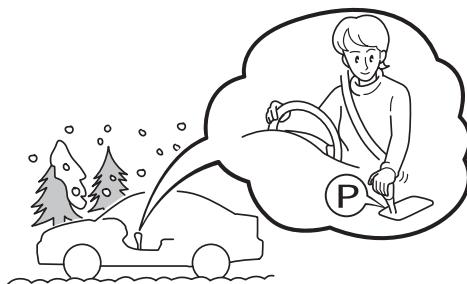
エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

パーキングブレーキはかけない

寒冷時はパーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結してパーキングブレーキが解除できなくなるおそれがあります。

■平らな場所に駐車するときは

パーキングブレーキをかけないで、シフトレバーをPにし、輪止めをします。



■やむを得ず坂道に駐車するときは

下り坂では前輪の前側、上り坂では後輪のうしろ側に輪止めをして、パーキングブレーキをかけず、シフトレバーをPの位置にします。

●輪止めについてはトヨタ販売店にご相談ください。

●輪止めがない場合は、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。



警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わず事故につながるおそれがあり危険です。

早基本
わ本
かり作取運転装置
の取り扱い取り扱い
室内装備のの安全
解説・快適装備
と注意付き合いの方
車との上手な

メンテナンス

万一のとき

索引

● ボンネット側を風下に向ける

風の当たる部分は、想像以上に低温となりますので、バッテリー性能低下を防ぐためにもボンネット側ができるだけ風下に向けて駐車してください。

● ウィパーアームは立てておく

降雪時は、寒さでウィパーがガラスに凍りついたりします。ウィパーアームは立てて駐車してください。

- ウィパーアームを立てるときは、運転席側を先に立てたあとに助手席側を立ててください。助手席側を先に立てると運転席側を立てるときにウィパーアームが干渉します。

経済的な運転

環境にやさしく経済的な運転をするために

長時間停車するときは、エンジンを停止します。

5分間のアイドリングをやめて、ガソリン約65ccの節約。

▶ CO₂ 約420g削減（10回／月）

不要な荷物はおろして走行。

10kgの荷物をおろして50km走ると、ガソリン約15ccの節約。

▶ CO₂ 約130g削減（650km／月）

空ぶかしは禁物。

空ぶかしを1回やめて、ガソリン約6ccの節約。

▶ CO₂ 約1150g削減（300回／月）

エアコンは少し控えめに。

エアコンを6分間停止して、ガソリン約70ccの節約。

▶ CO₂ 約1340g削減（3時間／月）

タイヤの空気圧は、こまめにチェック。

適正値で50km走ると50kPa {0.5kg/cm²} 減のときに比べて、ガソリン約150ccの節約。

▶ CO₂ 約1250g削減（650km／月）

発進・加速はスムーズに。

急発進を1回やめてガソリン約17cc、急加速を1回やめて約11ccの節約。

▶ CO₂ 約360g削減（各20回／月）

早基本
わ本
かり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・
快適装備
と注意付車との
付き合いの
上手な

メンテナンス

万ーのとき

索引

経済速度でロスなし走行。

一般道路で40～50km/h、高速道路では80km/hがベスト。

100km/hを80km/hにして、燃費が約10～30%向上。

- 法定速度を守り、安全運転を心がけてください。

たとえば加速

加速終了時にはアクセルを少し大きめにもどしてみましょう。

シフトアップやロックアップが確実にでき、効率が良くなります。

たとえば下り坂、減速

早めにアクセルをもどしエンジンブレーキを使いましょう。

ガソリンエンジンでは、燃料噴射の停止により、燃費が良くなります。

平地走行でも

アクセルペダルから思いきって足を離してみてください。

思ったほどスピードは落ちないものです。燃料噴射の停止を上手に活用しましょう。一定走行ならアクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど、低燃費となります。

環境保護のために

使用済み部品・廃オイル類は適正な処理をする

- バッテリーは、鉛や硫酸が使われていますので、特定産業廃棄物として適切な処理が法律で義務づけられています。
バッテリー交換時は、購入した販売店で処分を依頼してください。
- タイヤは個人が燃やすなどすると、亜硫酸ガスなど有毒なガスを発生させます。
購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルは、放置しておくといずれ流れ出し、地下に浸透したり、水に浮き、環境を悪くします。
購入した販売店に処分を依頼してください。
- 不凍液は、冷却水の凍結温度を下げるエチレングリコールが入っています。川などに流すと、水質汚濁の原因となりますので、不凍液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- エアコン冷媒用フロンガス（特定フロンガスCFC12）は、大気に放出されると、オゾン層の破壊を進めます。
トヨタでは、オゾン層を破壊しない代替フロンガス（HFC134a）に全車切り替えを完了しています（93年完了）。
それでも、代替フロンガス（HFC134a）は地球を温暖化する働きがあります。
エアコンの効きが悪い場合、ガスを充填するのみでなく、ガスもれの点検を併せて行い、もれ箇所を修理したうえで、ガス充填をしてください。

MEMO

目次



基本操作
わかり作

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

MEMO

早
基
本
操
作運
転
裝
置
の
取
り
扱
い室
内
裝
備
の
取
り
扱
い安
全
・
快
適
裝
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
付
き
合
い
方
法メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

7 メンテナンス

車の手入れ	384
日頃の手入れ	384
外装の手入れ	386
内装の手入れ	388
エアコンの手入れ	390
タイヤローテーション	393
キーの電池交換	394
ヒューズの点検・交換	396
外装の電球（バルブ）交換	403
日常点検	410
日常点検について	410
エンジンルームの点検	411
車のまわりの点検	418
運転席に座っての点検	421
走行しての点検	423
メンテナンスデータ	424
メンテナンスデータ	424
ユーザーカスタマイズ機能	430
ユーザーカスタマイズ機能	430

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

● 洗車・ワックス用品について

それぞれの用品に記載されている説明をよく読み、用途や注意事項などを必ずお守りください。

● 月に1度はワックス掛けを行ってください

月に1度、または水のはじきが悪くなったら行ってください。

● 保管・駐車について

風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。

早
基
本
操
り
作取
運
転
装
置
の取
室
内
装
備
のの安
全
・
快
適
装
備
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
の
付
き
合
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のことをお守りください。

- 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために、次のような場合はただちに洗車してください。
 - 海岸地帯を走行したあと
 - 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死骸などが付着したとき
 - ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、科学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ほこり、泥などで激しくよがれたとき
 - 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

外装の手入れ

洗車するときは

十分水をかけながら汚れを洗い落とし、洗い落としたあとは、水を拭き取ります。

- 車体、足まわり、下まわりと、上から下の順に行います。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗います。
- 汚れのひどいときは、カーシャンプーを使用し、水で十分洗い流してください。
- はん点が残らないように、水を拭き取ります。

自動洗車機を使うときは

- ミラーは格納し、前側から洗車してください。
- ときによりブラシの傷がつき、塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
- 雨滴感知式ワイパー装着車は、ワイパーレバーを停止（OFF）の位置にしてください。（P.254参照）

高圧洗車機を使うときは

- ノズルの先端をドアガラスなどに近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、室内に水が入るおそれがあります。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近づけすぎないでください。近づけすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

アルミホイールの手入れ

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。
- 光沢を失うおそれがあるので、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かかるないようにしてください。

ワックスかけをするときは

洗車後、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）に行います。



撥水機能付ガラス・レインクリアリングミラーについて

手入れについてはP.356の「レインクリアリングミラー」、P.359の「撥水機能付ガラス」の注意事項を必ず守ってください。



警告

エンジンルーム内に水をかけないでください。

- エンジンルーム内の電気部品に水などをかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品がショートして、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 寒冷時に洗車する場合は、ブレーキに直接水がかからないように注意してください。ブレーキ装置内に水が入ると、凍結してブレーキの効きが悪くなったり、ブレーキの固着につながるおそれがあり、走行できなくなる場合があります。
- 洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んで、ブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。



注意

洗車をするときは、けがをしないように注意してください。

- 下まわり、足まわりを洗うときは、手にけがをしないように注意してください。
- 洗車するときは、硬いブラシやたわしなどを使用しないでください。塗装などに傷がつきます。
- ランプのレンズ表面をワックス、ベンジンやガソリンなどの有機溶剤で拭いたり、硬いブラシなどでこすったりしないでください。破損したり、劣化を早めることができます。

内装の手入れ

室内の清掃

カークリーナーや電気掃除機などではこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭き取ります。



警告

車内に水をかけないでください。

- 車の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車の故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- 内装（特にインストルメントパネル）の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わず事故につながり、重大な傷害もしくは死亡につながるおそれがあります。



注意

クリーナーに含まれる成分に注意してください。

- 内装の手入れをするときは、ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸、またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因となります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますので、よく確認のうえ使用してください。
- 芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を、内装品（エアコンやオーディオなど）に直接触れさせたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
- リヤガラスの内側を清掃するときは、熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- リヤガラスの内側を掃除するときは、熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
- ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが入ったガラスクリーナーを使用しないでください。清掃は、水、またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- 内装の手入れをするときは、艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。



● 本革シートの取り扱い・お手入れ方法★

■ 砂・ほこりなどは、掃除機などで吸い取ってください。

シート表面についた砂・ほこりなどは、皮革表面の保護膜を傷つけ、早期摩耗の原因となります。砂・ほこりなどは掃除機などで吸い取ってください。

■ サンシェード（日よけ）を使用するなどして、皮革を直射日光から守ってください。

皮革を炎天下に長時間さらすと、色あせや硬化の原因となります。長時間炎天下に車を放置するときはボディにおおいをかけたり、サンシェード（日よけ）を使用するなどして、皮革を直射日光から守ってください。

■ シート表面についた汚れは、次の方法で取り除いてください。

1 汚れを軽く拭き取ります。

ウール用の中性または弱アルカリ性の洗剤を約5%の水溶液まで薄め、ガーゼなどのやわらかい布に含ませて、汚れを軽く拭き取ります。

2 洗剤を拭き取ります。

真水をひたした布を固くしぶり、シート表面に残った洗剤を拭き取ります。

3 日陰で乾燥させます。

乾いたやわらかい布でシート表面に水分を拭き取り、風通しの良い日陰で乾燥させます。



シート表面に過剰な水分が残ると、皮革の風合い低下（硬化、収縮）の原因となります。



本革シートについて

- 厳選された天然素材を使用しています。外観品質を長く保つために、年に2回程度は定期的にお手入れすることをおすすめします。
- 天然素材のため、シボ（皮革表面肌の凹凸）の不均一や、牛皮革本来の傷がわかる場合があります。

エアコンの手入れ

● エアコンガス（冷媒）の点検

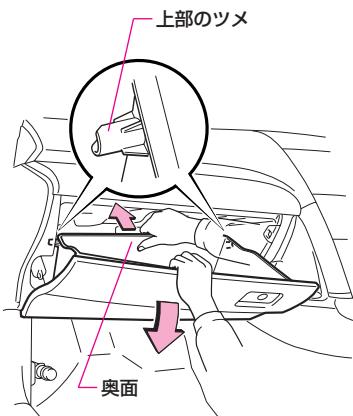
冷媒が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検・補充をしてください。

● クリーンエアフィルターの交換

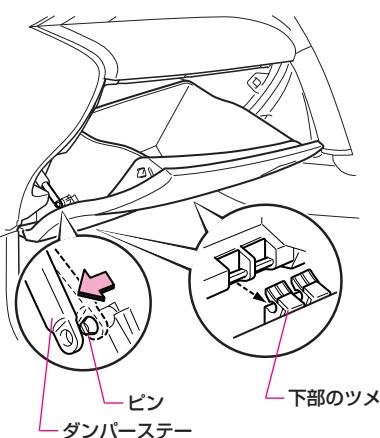
1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにします。

2 グローブボックスをはずします。

- ①グローブボックスを開け、奥面を車両前方に押しながら手前に引いて、上部のツメを片方ずつはします。



- ②ダンパーステーのピンをはずし、グローブボックスを軽く手前に引きながら徐々に下げ、下部のツメをはずして取りはずします。

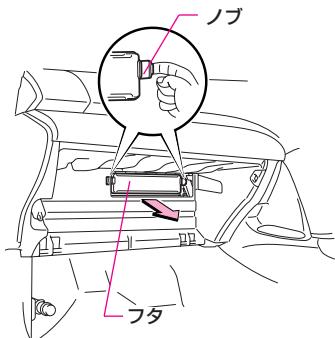


早基
本わ
かり作運転装置
の取り扱い室内装備
の取り扱い安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

メンテナシ

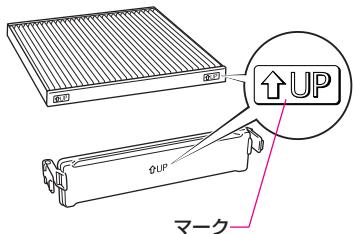
万ーのとき

索引



3 フィルターケースのフタをはずします。

フタの両側にあるノブをつまみながら手前に引いて、取りはずします。



4 フィルター交換時のみフィルターを交換します。

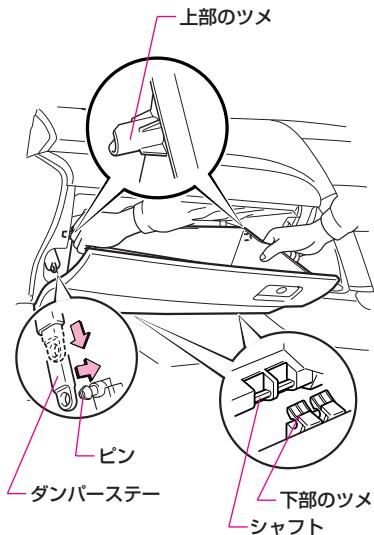
フィルターを取りはずし、新しいフィルターに交換します。

- フィルターにある「↑UP」のマークの矢印が上になるように確実に取りつけます。

5 フィルターケースのフタを取りつけます。

フィルターケースの切り欠きにフタのツメをあわせて取りつけます。

- フタの「↑UP」マークの矢印が上になるようにして確実に取りつけます。



6 グローブボックスを取り付けます。

グローブボックス下部のツメの切り欠きをシャフトの面に合わせてはめ込み、ダンパーステーにピンを取りつけてから、グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片方ずつはめて、グローブボックスを閉めます。



注意 エアフィルターの清掃・交換は、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてから行ってください。

- エアフィルターの清掃・交換は、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてから行ってください。
- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを清掃、または交換してください。なお、エアフィルターの清掃については、トヨタ販売店にご相談ください。
- エアフィルターの裏と表を間違えないように、エアフィルターを取りつけてください。
- 必ずエアフィルターを装着した状態で、エアコンを使用してください。エアフィルターを装着せずにエアコンを使用すると故障の原因となることがあります。



知識

エアフィルターの清掃・交換について

- エアコンにはエアフィルターが取りつけられています。快適にお使いいただくため定期的な清掃・交換をおすすめします。
- エアフィルターの交換は工具なしで行うことができます。
- エアフィルターの清掃、交換用エアフィルターについてはトヨタ販売店にご相談ください。

清掃の目安…15,000km【7,500km】ごと。

交換の目安…30,000km【15,000km】ごと。

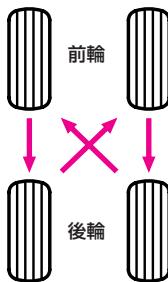
【 】は、多じん地区（大都市・寒冷地など、交通量・粉じんの多い地区）の場合。

早
基
本
操
作運
転
装
置
の
取
り
扱
い取
り
扱
い
室
内
装
備
のの
安
全
解
説
・
快
適
装
備
と
注
意付
き
合
い
方
な
車
と
の
上
手
なメンテナ
ンス万
一
の
とき索
引

タイヤローテーション

タイヤの摩耗を4輪ともに均等にし、寿命をのばすために、5,000kmごとにタイヤローテーションを行います。

- 搭載されているジャッキを使用してタイヤ位置交換を行うときは、スペアタイヤを使用して1輪ずつ交換してください。

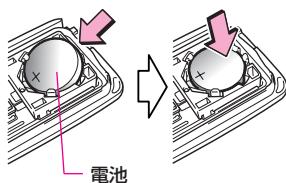
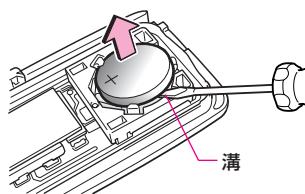
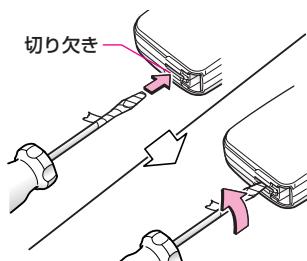


注意 日常点検として必ずタイヤを点検してください。

- 日常点検として必ずタイヤの点検を行ってください。(P.74の「タイヤについての注意」参照)
- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。(P.87の「その他の注意」参照)

キーの電池交換

電子キーの電池交換



1 メカニカルキーを取り出します。
ノブのPUSHマーク側の突起部を押しながら、メカニカルキーを引き出します。

2 キーカバーをはずします。
市販のマイナスドライバーの先端を電子キーの切り欠きに差し込み、ひねりながらカバーをはずします。
●傷付き防止のため、ドライバーの先端にビニールテープなどを巻いてください。

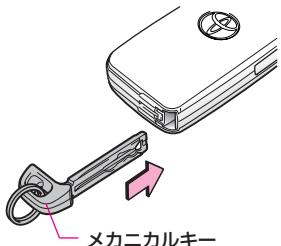
3 電池フタをはずします。
市販の精密ドライバーなどを溝に挿入し、電池を取り出します。

4 新しい電池を取り付けます。
電池を斜めに挿入し、上から押さえつけ、確実に取りつけます。
●電池の \oplus 側を上にして取りつけます。



5 キーカバーを取りつけます。

6 メカニカルキーを取りつけます。



メカニカルキー

7 作動確認をします。

いずれかのスイッチを押したとき、本体のLEDが点灯することを確認します。

**警告**

取りはずした電池や部品を（とくにお子さまが）飲み込まないようにご注意ください。飲み込むと重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

電池および取りはずした部品の取り扱いにはご注意ください。

- 電池交換時にはネジなどの部品を紛失しないようにご注意ください。
- 電池の \oplus 極と \ominus 極は必ず正しい向きにして取りつけてください。
- 電池以外の部分にふれたり、動かしたりしないでください。
- 電池挿入部の電極を曲げたり、モジュール内部にゴミや油などが付着しないように注意してください。
- 基盤などの内部部品を取り出さないでください。

知識

電池について

使用電池……リチウム電池CR1632

電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などでお求めください。

電池交換について

電池交換は、お客様ご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が動かないときは、ヒューズ切れやランプ自体の球切れが考えられます。

次の手順でヒューズの点検・交換を行ってください。

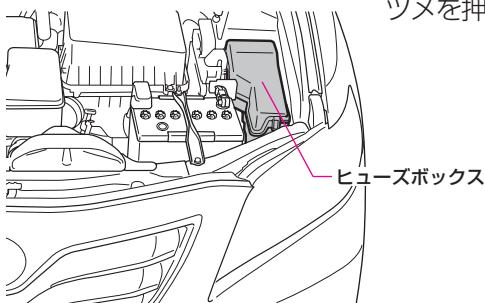
●ヒューズについてはトヨタ販売店にご相談ください。

1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにします。

2 ヒューズボックスを開けます。

●ヒューズラベルが、カバーに表示してあります。

■エンジンルーム内ヒューズボックス
ツメを押しながら、カバーを上に開けます。



早基本
わかり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全・
解説・
快適装備
と注意付き合いの上手な
車との方手な

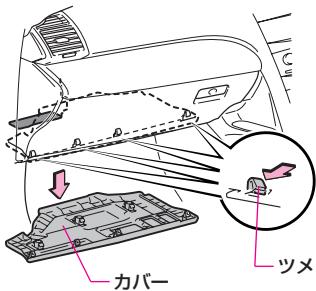
メンテナ

万ーのとき

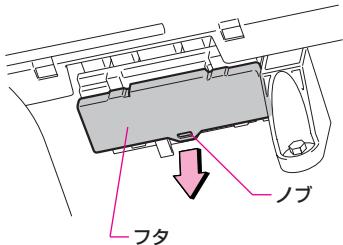
索引

■助手席足元ヒューズボックス

- ①グローブボックス下部のカバーを取りはずします。
 ●ツメ（4カ所）をはずしてカバーをはずします。



- ②フタを手前に引いてはずします。

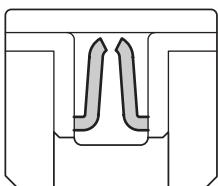


3 ヒューズの点検をします。

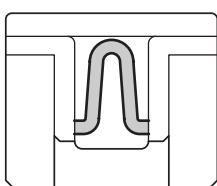
故障の状況から、点検すべきヒューズをヒューズラベルで確認し、ヒューズを引き抜き、ヒューズが切れていないいかを点検します。

- ヒューズは車の仕様によりないものもあります。
- ヒューズはずし、予備ヒューズは、エンジンルーム内ヒューズボックス内にあります。

切れた状態



切れていない状態



4 ヒューズを交換します。

ヒューズが切れていたら、ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

●ランプ類が点灯しないときは、電球切れも考えられます。

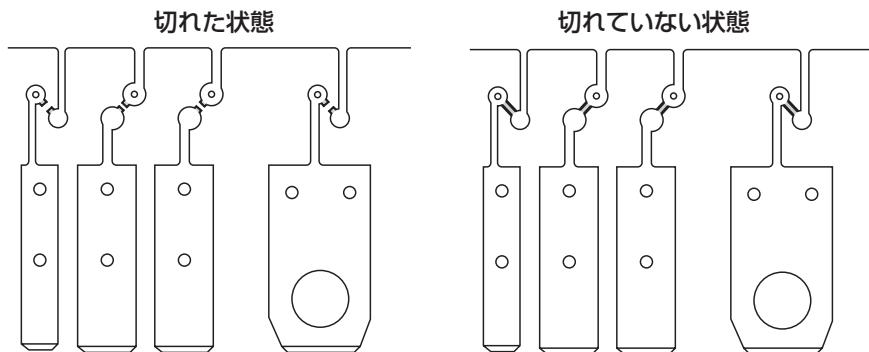
●以下の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 取り替えても再びヒューズが切れるとき。

- 取り替えても電気系統の装置が動かないとき。

- インテグレーテッドFLが切れているとき。

■インテグレーテッドFLの状態



警告

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災につながるおそれがあり危険です。

早基本
わ本
かり作運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱いの安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

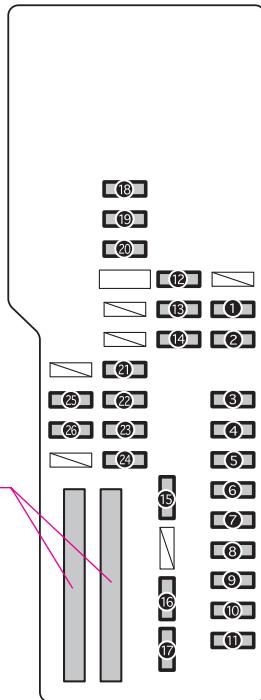
メンテナンス

万ーのとき

索引

ヒューズの表

■エンジンルーム内ヒューズボックス（運転席側）

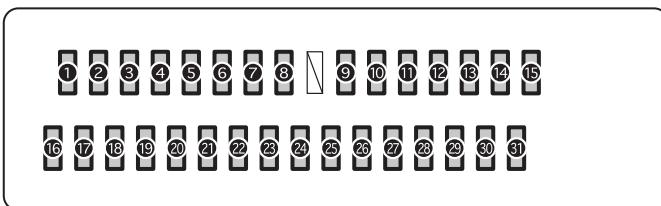


	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	EFI NO.3	10A	EFIコンピューター
②	EFI NO.2	15A	EFIコンピューター
③	S-HORN	7.5A	—
④	A/F	20A	—
⑤	MPX-B	10A	SRSエアバッグ
⑥	EFI NO.1	10A	EFIコンピューター
⑦	HORN	10A	ホーン
⑧	H-LP (R L)	15A	ヘッドライト (右) ロービーム
⑨	H-LP (L L)	15A	ヘッドライト (左) ロービーム
⑩	H-LP (R H)	15A	ヘッドライト (右) ハイビーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
⑪	H-LP (LH)	15A	ヘッドライト (左) ハイビーム
⑫	DOME	10A	室内灯
⑬	ECU-B NO.1	10A	ボディECU、メーター
⑭	RADIO NO.1	15A	オーディオ
⑮	DOOR NO.1	25A	ドアロックECU、ボディECU
⑯	AMP	25A	—
⑰	E F I M A I N	30A	EFIコンピューター
⑱	AM2	7.5A	“エンジンスタートストップ”スイッチ
⑲	A L T-S	7.5A	オルタネーター
⑳	MAYDAY/TEL	7.5A	—
㉑	ETCS	10A	電子制御スロットル
㉒	HAZ	15A	非常点滅灯
㉓	I G2	20A	“エンジンスタートストップ”スイッチ
㉔	S T R L O C K	20A	電気式ステアリングロック
㉕	R R F O G	10A	リヤフォグランプ
㉖	F R D E F	15A	フロントワイパードライバー



■助手席足元ヒューズボックス



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
①	RR DOOR RH	25A	パワーウィンドウ
②	RR DOOR LH	25A	パワーウィンドウ
③	FUEL OPN	7.5A	—
④	FR FOG	15A	フロントフォグランプ
⑤	OBD	7.5A	チェックコネクター
⑥	ECU-B NO.2	7.5A	ボデーECU
⑦	STOP	10A	制動灯
⑧	T I & T E	30A	—
⑨	AM1	7.5A	“エンジン スタート ストップ”スイッチ
⑩	A/C	7.5A	エアコン
⑪	PWR	25A	パワーウィンドウ
⑫	DOOR NO.2	25A	ドアロックECU、ボデーECU
⑬	S/ROOF	30A	ムーンルーフ
⑭	TAIL	15A	尾灯
⑮	PANEL	7.5A	室内灯
⑯	ECU IG NO.1	10A	エンジンコンピューター
⑰	ECU IG NO.2	7.5A	エンジンコンピューター
⑱	A/C NO.2	10A	エアコン
⑲	WASH	10A	ワイパー&ウォッシャー
⑳	S-HTR	20A	シートヒーター

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
㉑	GAUGE NO.1	10A	メーター
㉒	WIP	25A	ワイパー&ウォッシャー
㉓	H-LP LVL	7.5A	ヘッドランプレベリング
㉔	INJ	15A	エンジン制御部品
㉕	IGN	10A	エアバッグECU
㉖	GAUGE NO.2	7.5A	メーター
㉗	ECU-ACC	7.5A	ボディECU
㉘	CIG	20A	—
㉙	PWR OUTLET	20A	アクセサリーソケット
㉚	RADIO NO.2	7.5A	オーディオ
㉛	MIR HTR	10A	電動格納式ドアミラー、ミラーヒーター

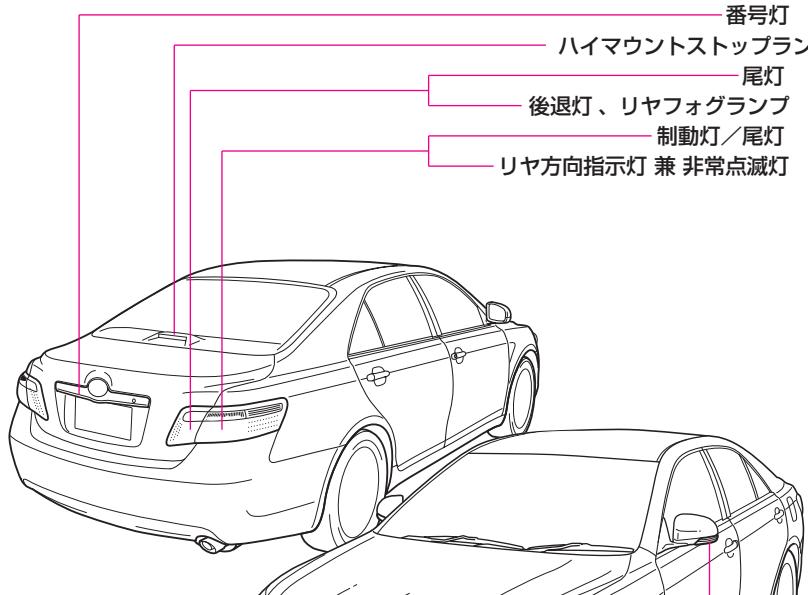
早基
本
か
り
作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
いの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意車
と
の
上
手
な
使
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

外装の電球（バルブ）交換

この車の外装には、下図で示した電球（バルブ）があります。

●ページ数が記載してある電球の交換については、該当ページをお読みください。

●※印が記載してある電球の交換については、トヨタ販売店にご相談ください。



ヘッドライト（ハイビーム） 404

ヘッドライト（ロービーム） ※

フロントフォグランプ ※

車幅灯 ※

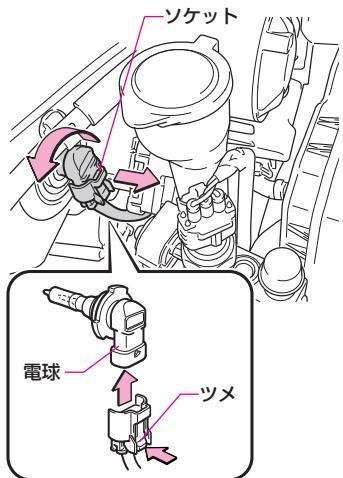
フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 ※

サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯 ※

ヘッドライト（ハイビーム）

■取りはずしかた

ボンネットを開け、ソケットを矢印の方向にまわして引き抜き、ツメを押してソケットから電球を取りはずします。



■取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取り付けます。

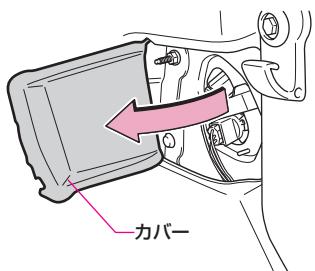
※ 図は運転席側で説明しています。

早
基
本
わ
か
り
作取
運
転
装
置
の
取
り
扱
い取
室
内
装
備
の
取
り
扱
いの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
の
使
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

● 制動灯／尾灯、リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯

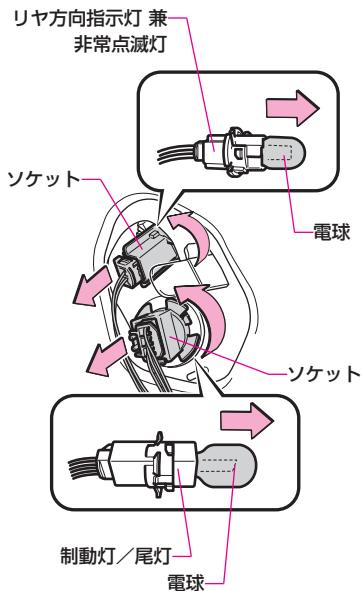
■ 取りはずしかた

1 トランクを開け、カバーをめくります。



2 交換したい電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。



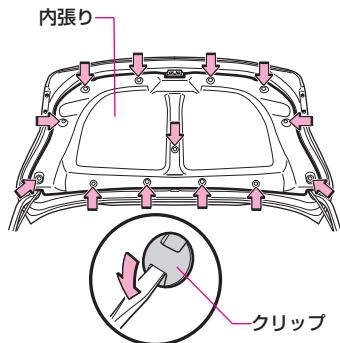
■ 取りつけかた

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。

● 番号灯、後退灯、尾灯、 リヤフォグランプ（寒冷地仕様車）

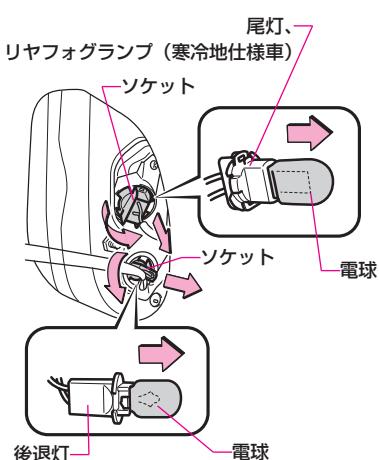
■取りはずしかた



1 トランクを開け、内張りをはずします。

内張りを固定しているクリップ（13個）をマイナスドライバーなどで取りはずし、内張りをはずします。

●取りはずしたクリップを紛失しないように注意してください。

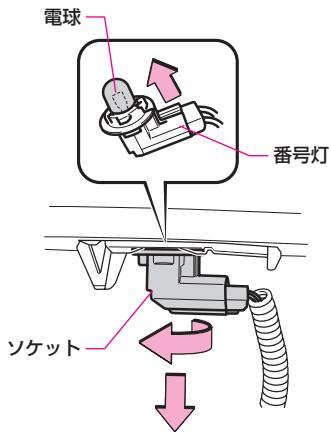


2 交換したい電球を取りはずします。

ソケットを矢印の方向にまわして取り出し、ソケットから電球を抜き取ります。

早基
本わ
かり作運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱いの安全
・快適装備
解説・注意車との上手な
付き合い方メンテナ
ンス万
一のとき

索引

**■取りつけかた**

取りはずしたときの逆の手順で取りつけます。

※ 図は運転席側で説明しています。



警告

電球の交換をするときは必ず次のことをお守りください。
守らないと重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

- ディスチャージヘッドライトランプを交換するとき（電球交換を含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。電球ソケットに触れた状態で点灯操作をすると、瞬間に20,000Vの高電圧が発生し、感電して生命にかかわるような重大な障害を受けるおそれがあり危険です。
- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。



注意

電球は十分注意して取り扱ってください。

- ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。また、素手で触れずにきれいな手袋を着用してください。
- 必ず同じワット数の電球を使用してください。（P.425参照）
- 電球および電球固定具の取りつけは確実に行ってください。取りつけが不完全な場合、水入りなどによる故障およびレンズ内面の曇りにつながるおそれがあります。
- 電球の交換をするときは、工具や電球、電球固定具、ソケットなどをなくさないように注意して作業してください。



ランプの曇りについて

ヘッドライト・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

MEMO

目次



基本操作
わかれり

運転装置
取り扱い

室内装備
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万ーのとき

索引

日常点検

日常点検について

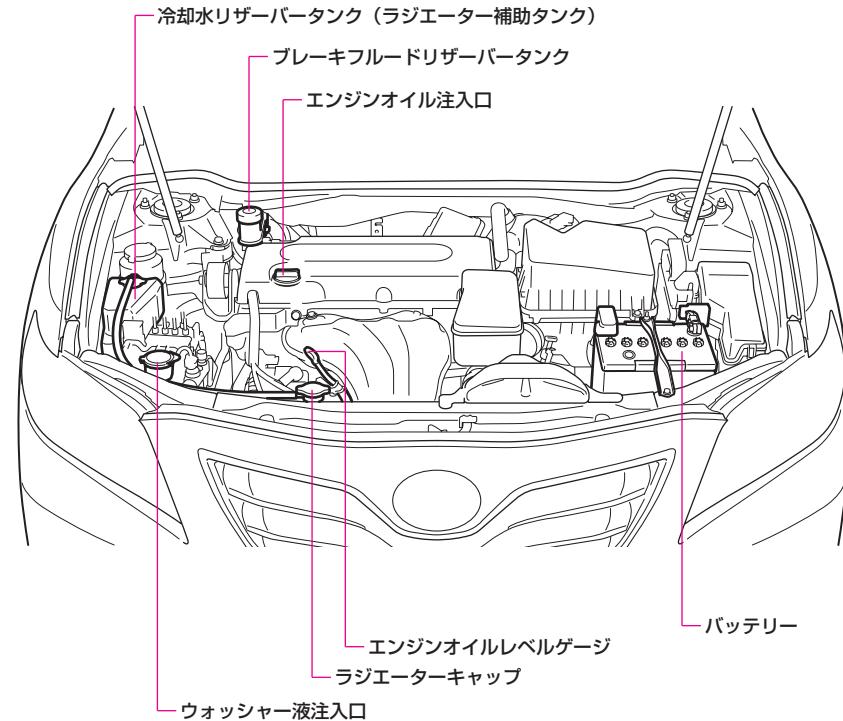
日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時・給油時などを目安に実施してください。

ここでは、点検内容を簡単に説明します。

- 基準値については、P.424の「メンテナンスデータ」を参照してください。
- 点検方法および実施時の注意事項は、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。

エンジンルームの点検

目次

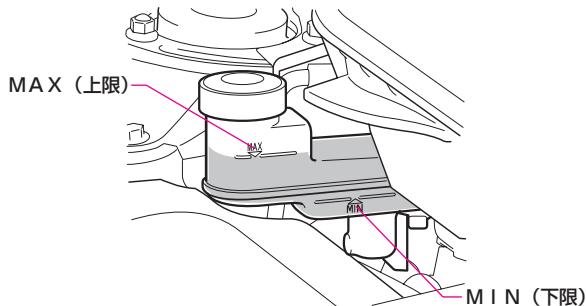
早基
本
か
り作運
転
装
置
の
取
り
扱
い取
り
扱
い
室
内
装
備
のの
安
全
・
快
適
装
備
と
注
意
説
明車
と
の
上
手
な
方
か
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

警告

点検や交換したあとは、工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れないことを確認してください。万一、置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。



ブレーキの液量



ブレーキフルードの量がリザーバータンクのMAX（上限）とMIN（下限）の間にあるかを点検します。



警告

ブレーキフルードが不足していると、ブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

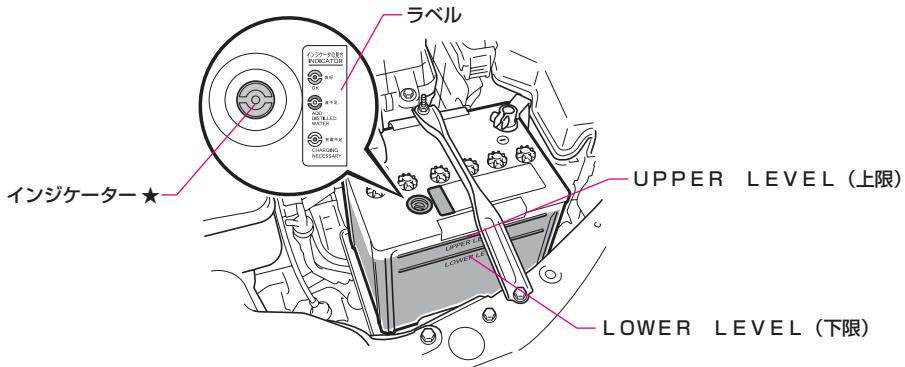
早基本
わかり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・
快適装備付き合いの上手な
車との方

メンテナンス

万ーのとき

索引

● バッテリーの液量



バッテリー液面が各液槽ともバッテリーのUPPER LEVEL（上限）と LOWER LEVEL（下限）の間にあるかを車両をゆするなどして点検します。



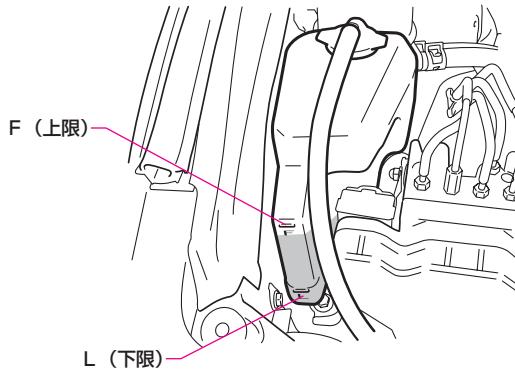
バッテリー液が不足すると、バッテリーあがりやバッテリー自体の損傷につながるおそれがあるため、定期的に点検してください。

知識

バッテリーについて

- UPPER LEVEL・LOWER LEVELの表示は搭載されるバッテリーにより、意匠が異なる場合があります。
- インジケーター付きバッテリーは、インジケーターに表示される色によって、バッテリーの状態を確認できます。詳しくはバッテリー上面についているラベルをご覧ください。

● 冷却水の量



冷却水の量がリザーバータンクのF（上限）とL（下限）の間にあるかを点検します。

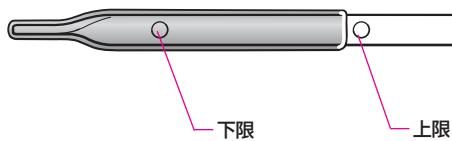


注意

冷却水の量が不足しているとラジエーターの腐食やオーバーヒートによるエンジン破損のおそれがあるため、定期的に点検してください。また、水のみで使用していると、寒冷時に凍結し、ラジエーターなどに損傷を与えるため、必ずロングライフクーラント（不凍液）を適切な濃度でご使用ください。

早基
本操
り作取
運
転
装
置
の
取
扱
い取
室
内
装
備
の
取
扱
いの安
全
解
説・
快適
装
備付
車
と
の
上
手
な
方
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

エンジンオイルの量



エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。



エンジンオイルを点検・交換するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないで重大な傷害ややけどにつながるおそれがあります。

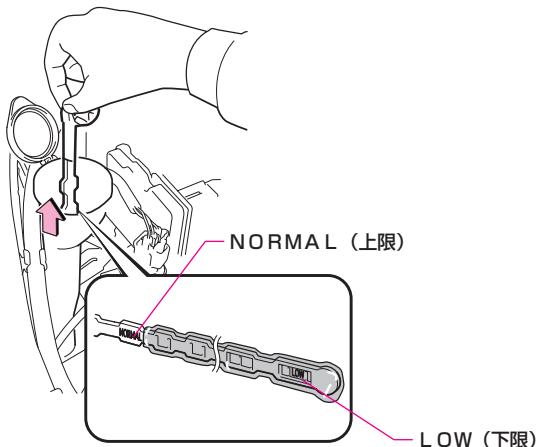
- エンジンを停止してください。
- エンジン回転中にベルトやファンなどの回転部分に触れたり付近にいたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジンオイルの温度が低いときに点検・交換してください。
- エンジンが止まっていても冷却水温が高いときは、エンジンオイルも高温になっており、やけどをするおそれがあり危険です。



エンジンオイルは、定期的に点検・交換してください。

- 定期的な点検を怠ると、オイル不足や劣化により回転部分が潤滑不良になり、焼きつきなどを起こしてエンジンに損傷を与えるため、定期的に点検・交換をしてください。
- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑・冷却などをする働きがあります。通常の運転をしても、ピストンおよび吸・排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるため、オイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- オイルを補給するときは、入れすぎないように注意してください。
- エンジンオイルを点検するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように、布などを当てて点検してください。万一、オイルが付着したときは、完全に拭き取ってください。

● ウィンドウウォッシャーの液量

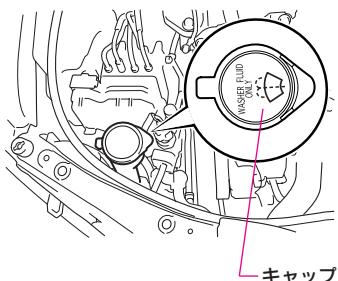


ウォッシャー液注入口のキャップを開け、液面がNORMAL（上限）とLOW（下限）の間にあることを、レベルゲージで確認します。

- 液面がLOWに近づいたらウォッシャー液を補給してください。



■ウォッシャー液を補給するには



1

キャップを開けます。

ウォッシャー液注入口のキャップを開けます。

2

ウォッシャー液を補給します。

補給が終わったら、ウォッシャー液注入口のキャップを確実に閉めてください。

**警告**

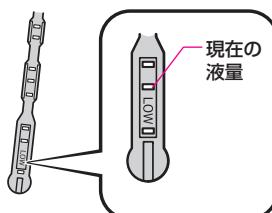
エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかるとお火するおそれがあり危険です。

**注意**

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみになるおそれがあります。

**知識****ゲージの使い方**

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわったら（LOWの位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

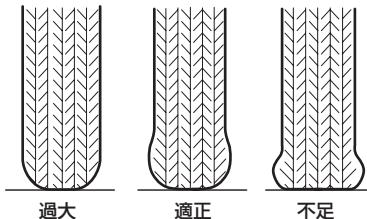


車のまわりの点検

タイヤの点検については、P.74の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

● タイヤの空気圧

タイヤが冷えている（走行前）状態でタイヤの接地部のたわみ状態（つぶれ具合）を見て、空気圧が適正であるかを点検します。



- 月に1回程度は空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。



指定空気圧より低いと、車両の走行安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象^{*}によりタイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。日常点検で、スペアタイヤも含め、必ずタイヤ空気圧が指定空気圧になっていることを点検してください。

^{*} 高速で走行している時に、タイヤが波うつ現象。

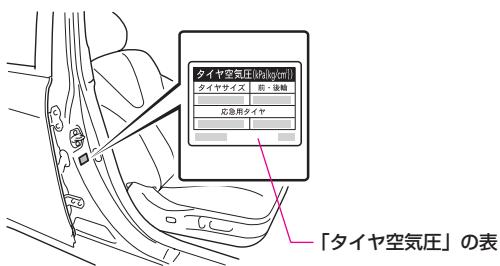


知識

指定空気圧について

指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはメンテナンスデータ（P.429参照）でご確認ください。

- スペアタイヤも点検してください。
- 指定空気圧でのたわみ状態を確認しておると、タイヤを目視点検するときに参考になります。
- 指定空気圧の調整はタイヤが冷えているときに行ってください。



早
基
本
か
り
作取
運
転
装
置
の取
室
内
装
備
のの安
全
・快
適
装
備
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
向
合
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

● タイヤのき裂・損傷

タイヤの側面や接地部全周に著しい傷やき裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検します。



警告

タイヤの側面などに傷やき裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。

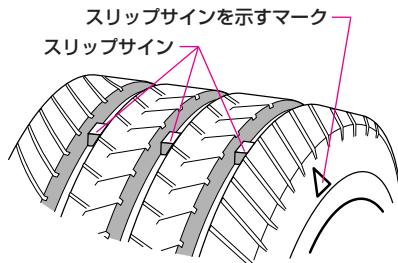
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じことがあります。

また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤに与えたり、タイヤが横すべりするなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

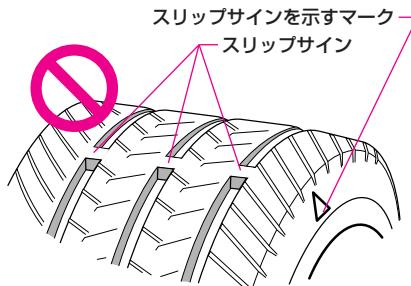
走行中、異常な振動を感じた場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の方向安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響を与えるなど故障の原因となることがあります。

● タイヤの溝の深さ、異常摩耗



〈例：スリップサインが出ていない状態〉^{*1}



〈例：スリップサインが出ている状態〉^{*1}

タイヤ接地面に表示されているスリップサイン（摩耗限度表示）が現われていないかを点検します。また、極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

※1 例のイラストは説明のためであり、実際とは異なります。



警告

摩耗限度をこえたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さがないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロブレーニング現象^{*2}により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。スリップサインが現れたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。
※2 水のたまつた道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

● 灯火装置・方向指示器の汚れ・損傷

各ランプのレンズに、汚れや破損・ヒビ割れなどがないかを点検します。



ランプの曇りについて

ヘッドライト・制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

早基
本わ
かり作運転装置の
取り扱い取り扱いの
車内装備の安全・快適装備
の解説と注意付き合いの上手な
車との上手な

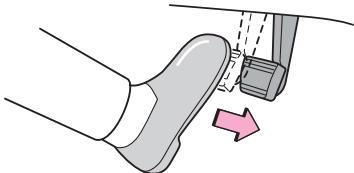
メンテナンス

万ーのとき

索引

運転席に座っての点検

パーキングブレーキの踏みしろ

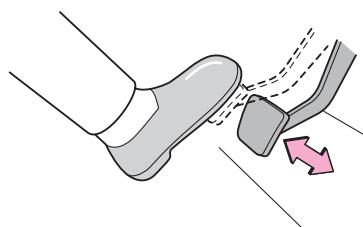


パーキングブレーキペダルが止まるまでゆっくりと踏み、“カチカチ”音が基準値の範囲で止まるかを点検します。

エンジンのかかり具合

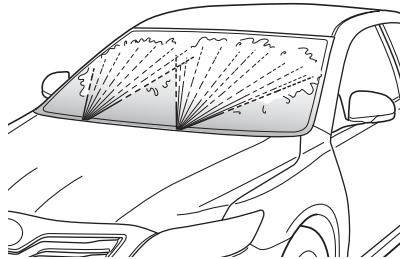
エンジン始動の際、異音がないか、かかり具合は良いかを点検します。また、アイドリング状態および少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。

ブレーキペダルの踏みしろ



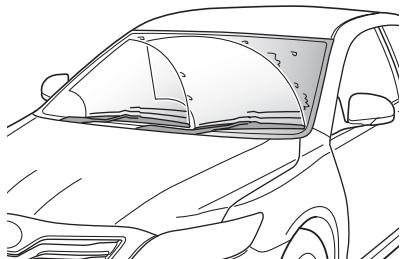
エンジンを始動し、ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、床板とのすき間を点検します。併せてペダルの感触に異常がないかを点検します。

● ウィンドウウォッシャーの噴射状態



エンジンを始動し、ウィンドウウォッシャーを作動させ、噴射の向きおよび高さがワイパーの作動範囲のほぼ中央に当たるかを点検します。

● ワイパーの払拭状態



エンジンを始動し、ウィンドウウォッシャーでガラスをぬらした状態でワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、拭き取り状態が良いか点検します。

● 灯火装置・方向指示器の作用

エンジンを始動し、各灯火装置・方向指示器を作動させ、ランプが点灯・点滅するか、明るさが不足していないかを点検します。

走行しての点検

● ブレーキの効き具合

通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。



警告

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音（“キーキー”音）が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなつて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



早基
本
か
り作

取
運
転
装
置
の

取
室
内
装
置
の

の安
全
・快
適
装
備
と
注
意

付
車
と
の上
手
な
方
い
方

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
とき

索
引

● エンジンの低速および加速の状態

通常走行で停車したとき、エンジン回転にむらがあつたり、止まつたりしないかを点検します。また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。

● 前日までの異常箇所の点検

前日までの使用時に異常があつた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

メンテナンスデータ

メンテナンスデータ

点検基準値

項目	メンテナンスデータ
ブレーキペダル	遊び [mm] (負圧なしの状態)
	踏み込んだときの床板との すき間 [mm] (踏力500N {50kgf}) (エンジンONの状態)
パーキング ブレーキ	踏みしろ (ノッチ*) (操作力300N {30kgf})
Vリブドベルト	たわみ量
	非調整式

*ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

早
基
本
操
作取
運
転
裝
置
の
取
扱
い室
内
裝
備
の
取
扱
いの
安
全
・
快
適
裝
備
の
解
説
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
法メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

電球のワット数

項目	メンテナンスデータ																																												
電球	<table> <thead> <tr> <th>ワット数</th><th>メンテナンスデータ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヘッドライト</td><td></td></tr> <tr> <td> ●ハイビーム</td><td>60W (バルブタイプ: HB3)</td></tr> <tr> <td> ●ロービーム</td><td>35W (バルブタイプ: D4S)</td></tr> <tr> <td>車幅灯</td><td>5W</td></tr> <tr> <td>フロントフォグランプ</td><td>55W (バルブタイプ: H11)</td></tr> <tr> <td>フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 (アンバーバルブ) *1</td><td>21W</td></tr> <tr> <td>サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯</td><td>LED*2</td></tr> <tr> <td>番号灯</td><td>5W</td></tr> <tr> <td>尾灯</td><td>5W</td></tr> <tr> <td>リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 (アンバーバルブ) *1</td><td>21W</td></tr> <tr> <td>後退灯</td><td>16W</td></tr> <tr> <td>制動灯／尾灯</td><td>21W／5W</td></tr> <tr> <td>リヤフォグランプ★</td><td>21W</td></tr> <tr> <td>トランク灯</td><td>3.8W</td></tr> <tr> <td>ルームランプ</td><td>8W</td></tr> <tr> <td>ドアカーテシランプ</td><td>5W</td></tr> <tr> <td>リヤ室内灯</td><td>8W</td></tr> <tr> <td>フロントパーソナルランプ</td><td>5W</td></tr> <tr> <td>グローブボックスランプ</td><td>1.2W</td></tr> <tr> <td>バニティミラーランプ</td><td>8W</td></tr> <tr> <td>ハイマウントストップランプ</td><td>LED*2</td></tr> </tbody> </table>	ワット数	メンテナンスデータ	ヘッドライト		●ハイビーム	60W (バルブタイプ: HB3)	●ロービーム	35W (バルブタイプ: D4S)	車幅灯	5W	フロントフォグランプ	55W (バルブタイプ: H11)	フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 (アンバーバルブ) *1	21W	サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯	LED*2	番号灯	5W	尾灯	5W	リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 (アンバーバルブ) *1	21W	後退灯	16W	制動灯／尾灯	21W／5W	リヤフォグランプ★	21W	トランク灯	3.8W	ルームランプ	8W	ドアカーテシランプ	5W	リヤ室内灯	8W	フロントパーソナルランプ	5W	グローブボックスランプ	1.2W	バニティミラーランプ	8W	ハイマウントストップランプ	LED*2
ワット数	メンテナンスデータ																																												
ヘッドライト																																													
●ハイビーム	60W (バルブタイプ: HB3)																																												
●ロービーム	35W (バルブタイプ: D4S)																																												
車幅灯	5W																																												
フロントフォグランプ	55W (バルブタイプ: H11)																																												
フロント方向指示灯 兼 非常点滅灯 (アンバーバルブ) *1	21W																																												
サイド方向指示灯 兼 非常点滅灯	LED*2																																												
番号灯	5W																																												
尾灯	5W																																												
リヤ方向指示灯 兼 非常点滅灯 (アンバーバルブ) *1	21W																																												
後退灯	16W																																												
制動灯／尾灯	21W／5W																																												
リヤフォグランプ★	21W																																												
トランク灯	3.8W																																												
ルームランプ	8W																																												
ドアカーテシランプ	5W																																												
リヤ室内灯	8W																																												
フロントパーソナルランプ	5W																																												
グローブボックスランプ	1.2W																																												
バニティミラーランプ	8W																																												
ハイマウントストップランプ	LED*2																																												

*1 アンバーバルブはオレンジ色の電球です。

*2 LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光素子です。

● 冷却水・油脂類の容量と銘柄

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

項目	容量(L) [参考値]	銘柄
冷却水	6.2	トヨタ純正スーパー ロングライフクーラント ●凍結保証温度 濃度30% -12℃ 濃度50% -35℃
オートマチックトランスアクスル フルード (FF車)	7.8	
オートマチック トランスアクスル フルード&トランス ファーオイル (4WD車)	トランスアクスル	8.1
	トランスファー	トヨタ純正ハイポイド ギヤオイルSX (API GL-5, SAE85W-90)
リヤディファレンシャルオイル (4WD車)	0.5	トヨタ純正ハイポイド ギヤオイルSX (API GL-5, SAE85W-90)
パワーステアリングフルード	1.0	トヨタ純正 パワーステアリング フルード
ブレーキフルード	—	トヨタ純正 ブレーキフルード2500H

早
基
本
操
作取
運
転
裝
置
の取
室
内
裝
備
のの
安
全
・
快
適
裝
備
の
解
説
・
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
法メン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

項 目	容量 [L] (参考値)		銘 柄
	オイルのみ 交換時 充てん量	オイルとオ イルフィル ター交換時 充てん量	
エンジンオイル	4.1	4.3	トヨタ純正モーターオイル SM OW-20 ※ (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE OW-20) トヨタ純正モーターオイル SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) トヨタ純正モーターオイル SM 10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) トヨタ純正モーターオイル SL 5W-20 (API SL, EC SAE 5W-20) トヨタ純正モーターオイル SL 10W-30 (API SL, EC SAE 10W-30)

※OW-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■推奨するエンジンオイル

API規格SM/EC、SL/ECかILSAC規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサック サーティフィケーション）マークがついています。



APIマーク



ILSAC CERTIFICATIONマーク

- 下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



*OW-20は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

●ウォッシャータンク容量

項目	容量 [L] (参考値)
ウォッシャータンク	4.8

●燃料の量と種類

項目	容量 [L] (参考値)	指定銘柄
燃料 (フューエルタンク)	FF車 70	無鉛レギュラーガソリン
	4WD車 65	

目次

!警告

早基
本
か
り
作取
り
転
装
置
の取
り
扱
い
の
室
内
装
備
のの安
全・快
適装
備
の解
説・注
意事
件付
車と
の上
手な
使
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき

索引

● タイヤ・ホイールの仕様

項目	ホイールサイズ			
	リムサイズ		P.C.D.	オフセット量
	スチールホイール	アルミホイール		
標準タイヤ	215/60R16 95H	16×6½J J	16×6½J	45mm 114.3mm ×5(穴)
応急用スペアタイヤ	T155/70D17 110M	17×4T		40mm

タイヤの種類	タイヤが冷えているときの空気圧 [kPa {kg/cm ² }]
標準タイヤ	220 {2.2}
応急用スペアタイヤ	420 {4.2}

● 車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式	グレード
カムリ	ACV40	2AZ-FE (2.4Lガソリン)	F F (前輪駆動)	G
	ACV45		4WD (4輪駆動)	

ユーザーカスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能

以下の機能を変更することができます。詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
ワイヤレス ドアロック機能 (P.142参照)	ワイヤレスドアロックリモコン機能	作動する ／作動しない
	ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅、ブザー音	点滅する、ブザー音あり ／点滅しない、ブザー音なし
	解錠後のドアを開けなかったときの再施錠するまでの時間	約30秒 ／約60秒
	トランクスイッチを押してのトランクの解錠操作	約1秒以上長押し ／1回押し／ 2回押し／解錠しない
	半ドア警報	警報あり ／警報なし
イルミネーテッド エントリーシステム (P.119参照)	ドアを開けてから閉めたときの消灯までのタイマー時間	約15秒 ／約7.5秒／約30秒
	“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしたときの点灯、消灯作動	約15秒間点灯 ／点灯しない
	“エンジンスタートストップ”スイッチがOFFのとき、運転席ドア、助手席ドアを解錠したときの点灯、消灯作動	約15秒間点灯 ／点灯しない
コンライト (P.249参照)	コンライトセンサーの感度調整	レベル3 ／レベル1～5
	コンライトシステムが車幅灯・尾灯・番号灯を点灯するまでの時間の調整	標準 ／長め
ドアガラス・ムーンルーフ連動開閉機構 (P.153、157 参照)	スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機構	閉作動あり ／閉作動なし
	ワイヤレスドアロックリモコンスイッチ連動開閉機構	ドアガラス・ムーンルーフ開閉作動あり ／ドアガラス開作動のみ／ドアガラス閉作動のみ／ドアガラス・ムーンルーフ開作動のみ／ドアガラス・ムーンルーフ閉作動のみ／
	ドアキー連動開閉機構	ドアガラス・ムーンルーフ開閉作動あり ／開作動のみ／閉作動のみ



以下の機能をお客様のご希望により変更することができます。詳しくは、P.146のユーザーカスタマイズについてを参照してください。

項目	機能の内容	設定（太字が初期設定）
シフト連動 オートロック	エンジン回転中で、すべてのドアが閉まっているときに、シフトレバーをPからP以外にすると、すべてのドアを施錠	施錠しない ／施錠する
シフト連動 オートアンロック	“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードで、シフトレバーをP以外からPにすると、すべてのドアを解錠	解錠する／解錠しない
車速感応 オートドアロック	車速が約20km/h以上になるとすべてのドアを施錠	施錠する ／施錠しない
運転席ドア連動 オートアンロック	“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードからアクセサリーモードまたはOFFにしたあと、約10秒以内に運転席ドアを開けると、すべてのドアを解錠	解錠しない／解錠する

8

万一のとき

工具・スペアタイヤ・発炎筒	434
ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所	434
ジャッキ・工具・スペアタイヤの取り出し方	435
発炎筒の使い方	438
故障したときは	440
路上で故障したときは	440
動けなくなったときは	441
パンクしたときは	442
タイヤの交換	442
電子キーが正常に働かないときは	452
ドアの施錠・解錠、トランクの解錠を するときは	452
エンジン（イグニッション）スイッチの 切り替え、エンジンを始動するときは	453
バッテリーがあがったときは	456
バッテリーあがりとは	456
オーバーヒートしたときは	460
オーバーヒートとは	460
けん引について	464
けん引のしかた	464
事故が起きたときは	468
あわてずに次の処置を行ってください	468
車両を緊急停止するには	469
緊急停止のしかた	469

目次

警告

早基本操作
かり運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱いの安全・快適装備
解説と注意付き合いの上手な
車との

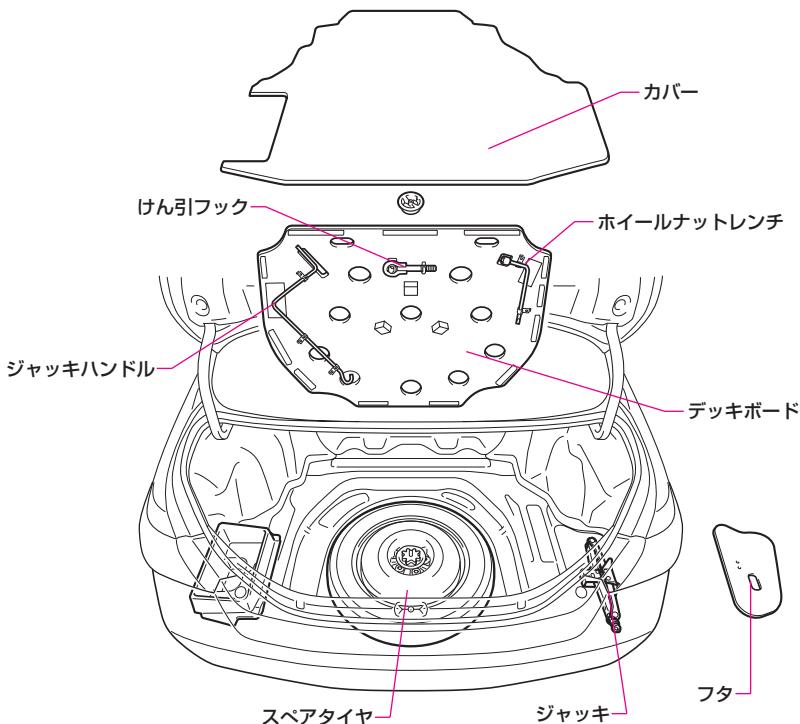
メンテナンス

万一のとき

索引

工具・スペアタイヤ・発炎筒

ジャッキ・工具・スペアタイヤの格納場所



工具・ジャッキ、スペアタイヤは、トランクに格納されています。工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使い方などは、万一のとき困らないようにあらかじめ確認しておきましょう。



工具やジャッキを使用したあとは、確実に格納してください。

- 工具やジャッキを使用したあとは、決められた場所に確実に格納してください。室内などに放置すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車に搭載されているジャッキは、お客様の車専用です。ほかの車に使用したり、ほかの車のジャッキをお客様の車に使用しないでください。ジャッキの取り扱いを誤ると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

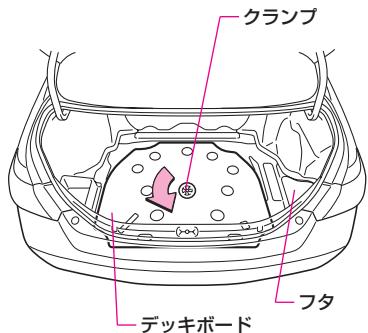


車に搭載されているジャッキはタイヤ交換やタイヤチェーン脱着以外、使用しないでください。



ジャッキ・工具・スペアタイヤの取り出し方

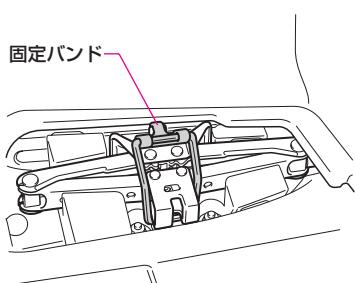
● ジャッキ・工具の取り出し方



1 カバーとデッキボードを取りはずします。

デッキボードは、クランプをまわして取りはずします。

- ジャッキハンドル、ホイールナットレンチはデッキボードの裏に格納されています。



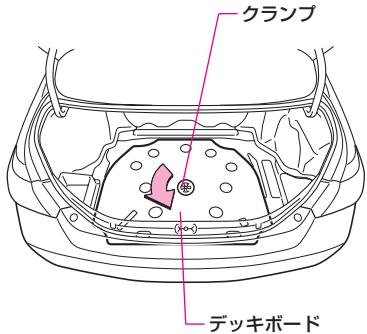
2 フタを取りはずし、ジャッキを取り出します。

固定バンドをはずして、ジャッキを取り出します。

- 格納するときは、ジャッキを格納し、固定バンドで固定します。

●スペアタイヤの取り出し方

■取り出すときは



1 カバーとデッキボードを取りはずします。

デッキボードは、クランプをまわして取りはずします。



2 スペアタイヤを取り出します。

ハンドルを左にまわして取りはずし、スペアタイヤを取り出します。

■格納するときは

逆の手順で取りつけます。

●タイヤが確実に固定されていることを確認します。



注意

必ずスペアタイヤの点検を行い、異常があるスペアタイヤは装着しないでください。なお、指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に貼られている「タイヤ空気圧」の表、またはP.429で正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。



● 応急用タイヤについて

応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。



応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。

- 応急用タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧が不足している状態で走行すると、タイヤの径の違いがさらに大きくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
タイヤが冷えているときの空気圧（ゲージ圧）：420kPa {4.2kg/cm²}
- 車に搭載されている応急用タイヤは、お客様の車専用です。ほかのタイヤやディスクホイールと組み合わせたり、ほかの車に使用したり、ほかの車の応急用タイヤをお客様の車に使用しないでください。走行に悪影響が出て、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

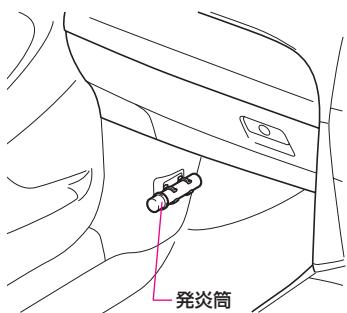


応急用タイヤは、標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。標準タイヤに比べて直徑が小さいので、次の事項に注意してください。

- 応急用タイヤを装着しているときは、100km/h以上で走行しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。応急用タイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。応急用タイヤはできるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用タイヤを装着して突起物などを乗りこえるときは、標準タイヤを装着しているときと同じ感覚で運転しないでください。応急用タイヤ装着時は、標準タイヤ装着時に車高が変化します。同じ感覚で運転すると、車をぶつけるおそれがあります。
- 応急用タイヤにタイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たったり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪に使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用タイヤを装着しているときは、正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
 - A B S & ブレーキアシスト
 - クルーズコントロール
 - V S C & T R C
 - G P S ボイスナビゲーション
 - マルチインフォメーションディスプレイ
 また、Vフレックスフルタイム4WDは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

発炎筒の使い方

格納場所

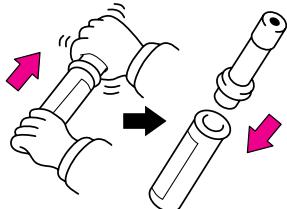


助手席足元に備えつけてあります。

発炎筒の使い方

1 発炎筒を組み立てます。

本体をひねりながら取り出し、逆にして差し込みます。



2 着火します。

キャップの頭部のすり薬でこすると、着火します。



早基
わ本
かり作取運
り転装
置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・
快適装備
と注意付き合い
車との上手な

メンテナンス

万ーのとき

索引



発炎筒は正しく取り扱ってください。

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を使用中は、顔や身体に向けたり、近づけたりしないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 発炎筒を燃料などの可燃物の近くで使用しないでください。引火して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



発炎筒をトンネル内などで使用しないでください。煙で視界を悪くするので、トンネル内などでは非常点滅灯を使用してください。

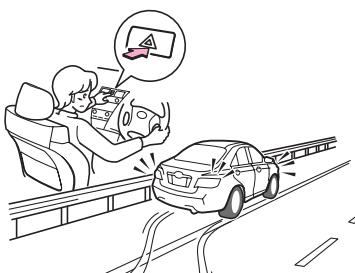


発炎筒について

- 発炎時間は約5分間ですので、非常点滅灯を併用してください。
- 発炎筒には有効期間があります。本体に表示してある有効期間の切れる前にトヨタ販売店でお求めください。

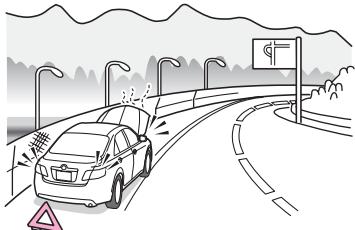
故障したときは

路上で故障したときは

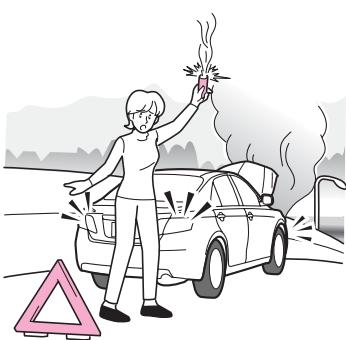


非常点滅灯（P.263の「非常点滅灯スイッチの使い方」参照）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



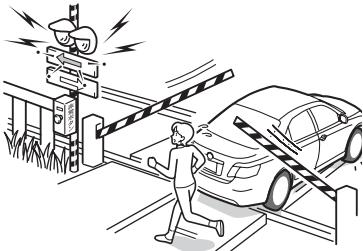
高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。（法的にも義務づけられています。）



緊急を要するときは発炎筒で合図します。
P.438の「発炎筒の使い方」参照。

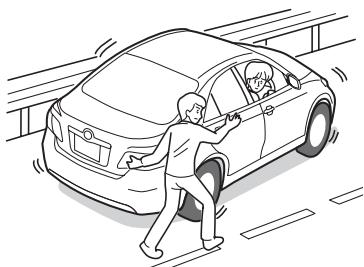
動けなくなったときは

● 踏切で動けなくなったときは



シフトレバーを❶にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。
脱輪などで動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
緊急を要するときは、発炎筒を使用してください。

● 道路で動けなくなったときは



シフトレバーを❶にして、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

- 困ったときは、トヨタ販売店へご連絡ください。
「メンテナンスノート」のサービス網／お客様相談テレホン網をお読みください。

パンクしたときは

タイヤの交換

タイヤの交換については、P.74の「タイヤについての注意」を併せてお読みください。

● タイヤ交換するまえに

1 平らな場所に移動します。

交通のじゃまにならず、安全に作業できる地面が平らで固い場所に移動します。

2 パーキングブレーキをしっかりかけます。

3 エンジンを停止します。

シフトレバーをPにし、エンジンを停止します。

4 車の存在を知らせます。

必要に応じて非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板（または停止表示灯）を使用します。

5 ジャッキ・工具を取り出します。

ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを用意します。
(P.434参照)

6 輪止めを用意します。

ジャッキアップする場合には輪止めが必要です。

輪止めについては、トヨタ販売店で購入できますのでトヨタ販売店にご相談ください。

なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

7 スペアタイヤを用意します。

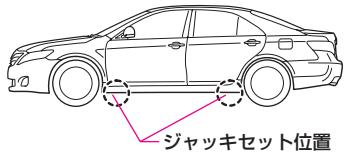
P.436参照

早
基
本
操
作取
運
転
裝
置
の取
り
扱
い
の
室
内
裝
備
のの
安
全
・
快
適
裝
備
説
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
方
の
使
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
時
き索
引

● タイヤ交換のしかた

1 ジャッキを置きます。

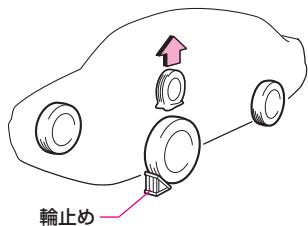
取り替えるタイヤに近いジャッキセット位置の下に置きます。地面が平らで固く、ジャッキが安定することを確認します。



2 輪止めをします。

ジャッキアップする位置と対角にあるタイヤに輪止めをします。

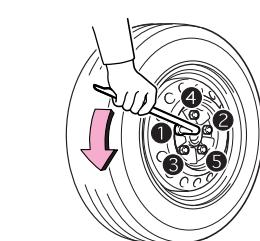
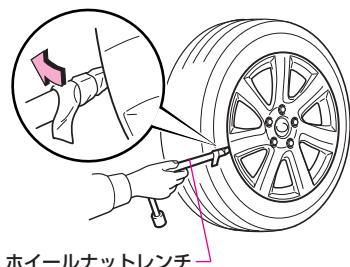
前輪を持ち上げるときは後輪のうしろ側に、後輪を持ち上げるときは前輪の前側に輪止めをします。(図は右側後輪を持ち上げる場合を示しています。)



3 ホイールキャップをはずします。

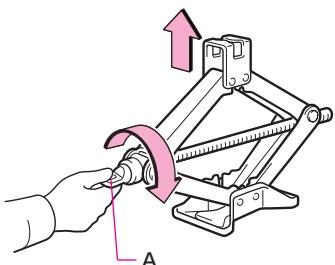
フルキャップ装着車は、ホイールナットレンチの先をホイールとキャップの間に差し込み、タイヤ側にこじるとはれます。(2~3力所、場所をかえて繰り返すと楽にはさせます。)

傷つき防止のため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いてください。



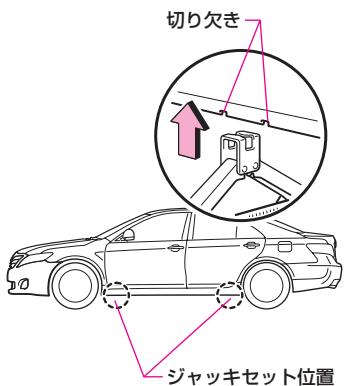
4 ナットをゆるめます。

ホイールナットレンチを使用して、図の順序でナットを左にまわし、手で少しまわるくらいまでゆるめます。



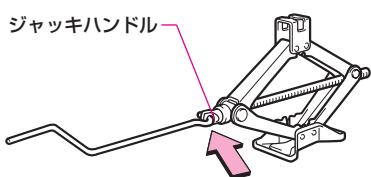
5 ジャッキを上げます。

ジャッキのAの部分を手で右にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。



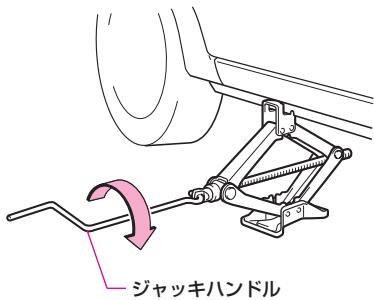
6 ジャッキセット位置（切り欠きの間）にジャッキをかけます。

ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認します。



7 ジャッキハンドルを取りつけます。

ジャッキハンドルをジャッキの穴部に確実に差し込みます。



8 ジャッキアップします。

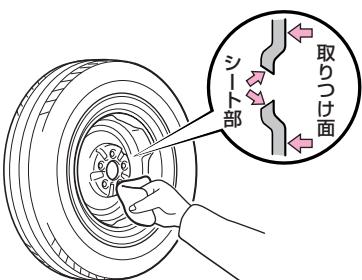
ジャッキハンドルを右にまわしてタイヤが地面から少し離れるまでジャッキアップします。

9 ナットを取りはずします。

手でナットを左にまわして、取りはずします。

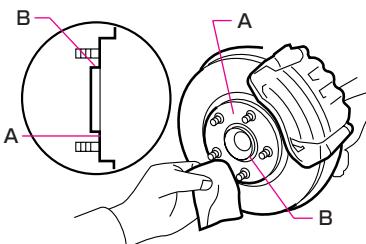
10 タイヤを取りはずします。

アルミホイールを直接地面に置くときは、傷がつかないように意匠面を上にして置いてください。



11 交換するタイヤを取り付けます。

●タイヤを取りつけるときは、ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面の汚れを拭き取ってから取りつけてください。



●図のA・B面の汚れを拭き取ります。

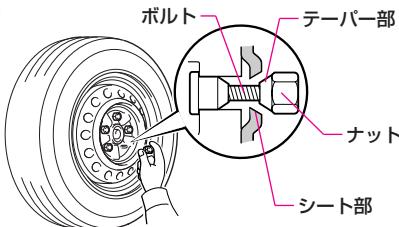
12 ナットを仮締めします。

タイヤががたつかない程度まで、手でナットを右にまわして仮締めします。

ディスクホイール取りつけボルト、ナットのねじ部や、ナットのテーパー部（アルミホイールの場合、座金の裏側）の汚れ、異物を取り除いてください。

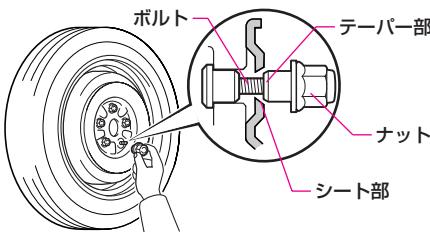
■スチールホイールからスチールホイール（応急用タイヤを含む）にかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。



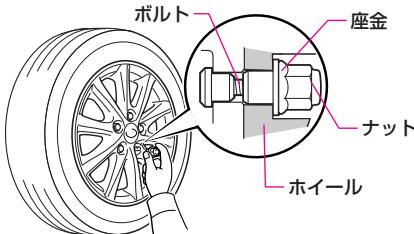
■アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部が、ホイール穴のシート部に軽く当たるまで仮締めします。



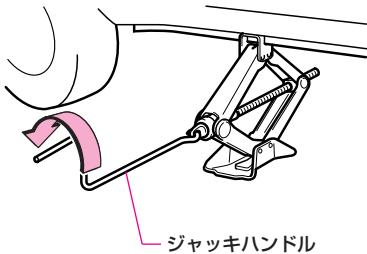
■アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールに当たるまで仮締めします。



13 車体をおろします。

ジャッキハンドルを左にまわして車体をおろします。

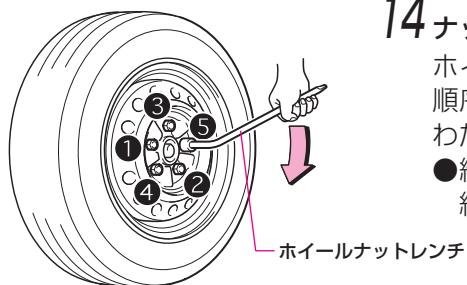


14 ナットを締めつけます。

ホイールナットレンチを使用して図の順序でナットを右にまわし、2~3度にわたり十分締めつけます。

●締めつけトルク：

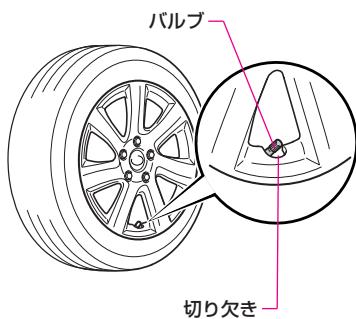
約105N・m {1050kgf・cm}



15 センターオーナメントを取りつけます。

アルミホイール装着車は、はずしたタイヤからセンターオーナメントを取りはずして交換したタイヤに取りつけます。

●応急用タイヤにセンターオーナメントを取りつけることはできません。



16 ホイールキャップを取り付けます。

フルキャップ装着車で、ホイールキャップを取りつけるときは、タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせて、確実にホイールキャップを取りつけます。

- 応急用タイヤにホイールキャップを取りつけることはできません。

17 工具・ジャッキ・タイヤを片づけます。

18 タイヤの空気圧を点検してください。

P.429参照。



警告

パンクしたまま走行しないでください。

- パンクしたまま走行しないでください。パンクしたまま走行し続けると、走行不安定となり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、タイヤ・ディスクホイール・サスペンション・車体に損傷を与えるおそれがあります。ただちにスペアタイヤに交換してください。
- ジャッキアップした車の下には絶対にもぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると、身体が車の下敷きになり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。エンジンの振動でジャッキがはずれたり、車が動き出すなど、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 必ず以下のことをお守りください。お守りいただかない車体を損傷させたり、ジャッキがはずれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ジャッキアップするときは、平らな場所に車を止め、対角にあるタイヤに必ず輪止めをしてください。なお、輪止めの代わりに石などで代用する場合、タイヤを確実に固定できることを確認してください。また、パーキングブレーキをしっかりかけてください。
 - 人を乗せたままジャッキアップしないでください。
 - ジャッキアップするときは、ジャッキの上や下にものを挟まないでください。
 - ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。
 - 車体はタイヤ交換に必要な高さだけ持ち上げてください。
- ジャッキアップした車体をおろすときは、作業者自身やまわりの人が手や足などを挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、周囲を確認し、十分注意しながら作業してください。
- ホイール取りつけナットが確実に締まっていることを確認してください。確実に締まっていないと、ホイール取りつけボルトやブレーキ部品を破損したり、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。タイヤ交換後はトヨタ販売店で、できるだけ早くトルクレンチで基準値にナットを締めてください。
締めつけトルク：約105N·m {1050kgf·cm}
- タイヤを取りつけるナットやボルトにオイルやグリースを塗らないでください。ナットを締めるときに必要以上に締めつけられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるんで走行中にタイヤがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤの取りつけには、ご使用のディスクホイール専用のホイール取りつけナットを使用してください。
- ディスクホイール取りつけボルト、ナットのネジ部やディスクホイールのボルト穴につけられやき裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店などで点検を受けてください。つけられやき裂などの異常があると、ナットを締めづけても十分に締まらず、ディスクホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 新品と交換するときは、4輪とも指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

早基本
わかり作取り扱い
装置の取り扱い
設備のの安全
解説・
快適裝備付車との
上手な

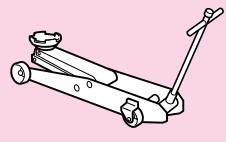
メンテナンス

万ーのとき

索引

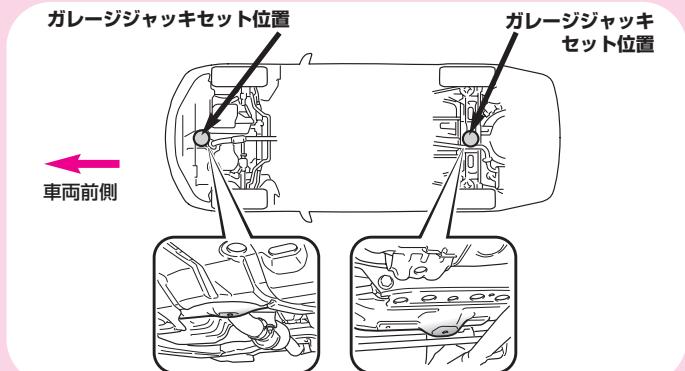
車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用してジャッキアップする場合は、特別な工具が必要になったり、取り扱いに特別な注意が必要になるため、誤って使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、リヤサスペンション部（FF車）などでジャッキアップすると、車両を損傷することがあります。

車に搭載されているジャッキ以外のジャッキを使用する必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。また、ガレージジャッキを使用するときは、必ずしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。下図のガレージジャッキセット位置に当ててください。ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキに付属の取扱説明書を十分に確認のうえ、使用してください。



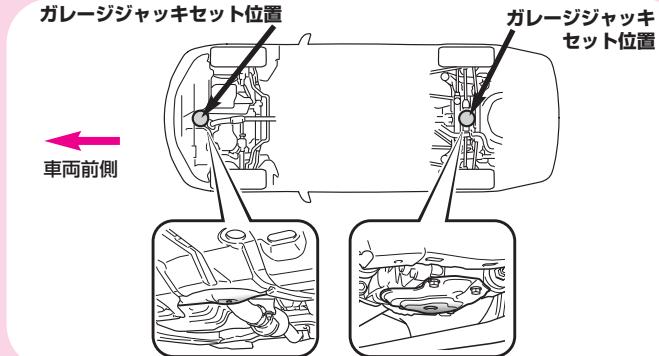
ガレージジャッキ

FF車



警告

4WD車




注意

ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。

- ホイールナットレンチはホイールナットに十分深くかけてください。ホイールナットレンチのかけ方が浅いと、締めつけるときにレンチがはずれてけがをするおそれがあります。
- ホイールキャップは、直接手をかけて取らないでください。また、取り扱いには十分注意してください。けがをするおそれがあります。
- ホイールキャップをはずすときは、ホイールナットレンチ以外は使わないでください。ディスクホイール・ホイールキャップが損傷するおそれがあります。
- ディスクホイールのシート部やホイール裏側の取りつけ面がほこりなどで汚れていると、走行中にホイール取りつけナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。
- アルミホイール装着車のナットはトヨタ純正アルミホイール専用品以外を使用しないでください。走行中にナットがゆるみタイヤがはずれるおそれがあります。
- ホイールナットレンチを足で踏んでまわしたり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。タイヤを取りつけるボルトが折れるおそれがあります。
- 傷・変形があるホイール取りつけナット・ディスクホイールなどは使用しないでください。
- タイヤ交換後、走行中にハンドルや車体に振動が出た場合は、トヨタ販売店でタイヤのバランスの点検を受けてください。

早基
わ本
かり作取り
運転
装置の
扱い取り
室內
扱い
裝備のの安全
解説・
快適裝備
と注意付車との
上手な
付き合い

メンテナンス

万ーのとき

索引

電子キーが正常に働かないときは

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠をするときは

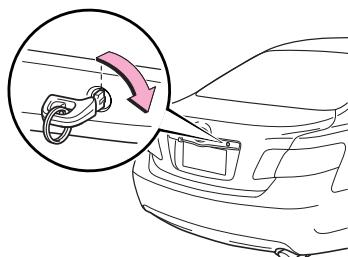
ドアの施錠・解錠のしかた



運転席ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、車両前方にまわすと施錠、後方にまわすと解錠されます。

- すべてのドアの施錠、解錠が同時にできます。
- 電子キー本体からメカニカルキーを取り出してください。(P.141参照)

トランクの解錠のしかた



キーシリンダーにメカニカルキーを差し込み、右にまわすと解錠されます。

- 電子キー本体からメカニカルキーを取り出してください。(P.141参照)



知識

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠について

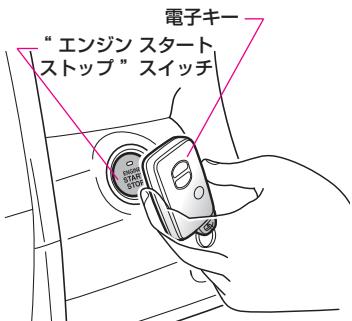
メカニカルキーを使用する方法は一時的な処置です。電池が切れたときはただちに電池の交換をおおすすめします。(P.394参照)

“エンジンスタートストップ”スイッチの切り替え、エンジンを始動するときは

“エンジンスタートストップ”スイッチの切り替え方

“エンジンスタートストップ”スイッチに電子キーの^④（トヨタマーク）のある面で触ることで、スイッチの切り替えが可能になります。

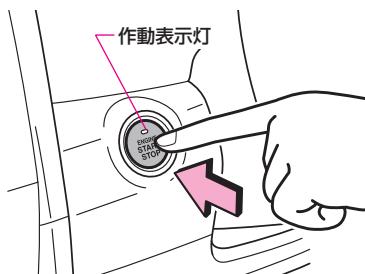
P.121の「“エンジンスタートストップ”スイッチの切り替え方」を併せてお読みください。



1 ブレーキペダルを踏みます。

2 電子キーの^④（トヨタマーク）のある面で“エンジンスタートストップ”スイッチに触れます。

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。



3 電子キー認識後、約5秒以内にすべてのペダルから足を離して、“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

“エンジンスタートストップ”スイッチを押すごとに、スイッチが
アクセサリーモード⇒イグニッション
ONモード⇒OFF
の順に切り替わります。

目次

警告

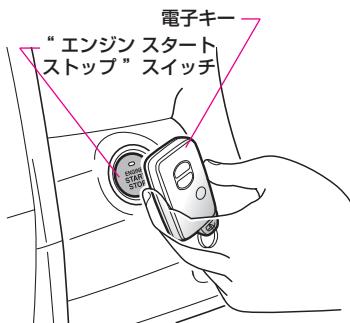
早基
本
か
り
作取
運
転
装
置
の取
室
内
装
備
のの
安
全
・
快
適
装
備
の
解
説
と
注
意付
車
と
の
上
手
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき

索引

エンジン始動のしかた

“エンジンスタートストップ”スイッチに電子キーの^{トヨタマーク}のある面で触ることで、エンジンの始動が可能になります。

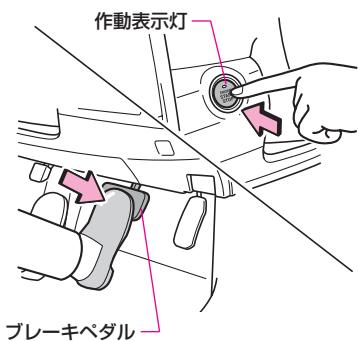
P.124 「エンジン始動・停止のしかた」を併せてお読みください。



1 ブレーキペダルをしっかりと踏みながら、電子キーの^{トヨタマーク}のある面で“エンジンスタートストップ”スイッチに触れます。

電子キーを認識すると、ブザー音が鳴り、作動表示灯が緑色に点灯します。

●作動表示灯が緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



2 電子キー認識後、約5秒以内にブレーキペダルを踏みながら“エンジンスタートストップ”スイッチを押しエンジンを始動します。

エンジンが始動すると、作動表示灯は消灯します。

●ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込まないと、エンジンが始動しないようになっています。

●完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

●エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルを踏まずに“エンジンスタートストップ”スイッチを押して、一度スイッチをOFFにしたあと、もう一度、手順1からやり直します。このときブレーキペダルが重くなることがあります、その際には通常よりも強くペダルを踏んでください。

早基
本か
り作取り
扱い
装置の取り
扱い
室装備のの安
全・快
適装
備の解
説と注
意事項付
車との上
手な方
との合
いメンテナ
ンス万
一のとき

索引

■エンジン停止のしかた

通常のエンジンの停止のしかたと同様です。(P.126参照)



知識

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替えについて

- いったん“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにすると、スイッチを押してもスイッチの切り替えができません。もう一度はじめから操作してください。
- 電子キー認識後、約5秒以上たってから“エンジン スタート ストップ”スイッチを押しても、スイッチは切り替わりません。もう一度はじめから操作してください。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチに触れるスイッチの切り替え、エンジンの始動は一時的な処置です。電池が切れたときはただちに電池の交換をおすすめします。

キーなし警告表示について

“エンジン スタート ストップ”スイッチの切り替え時に、いずれかのドアを開閉すると、キーなし警告表示(P.134参照)が表示されますが異常ではありません。

エンジン始動時アドバイス表示について

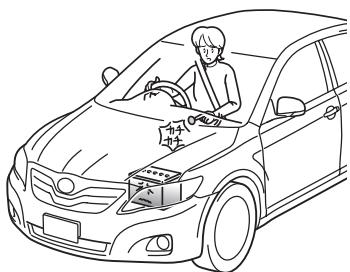
メカニカルキーでドアを解錠後、“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、エンジン始動時アドバイス表示(P.245参照)が表示されることがあります。

バッテリーがあがったときは

バッテリーあがりとは

次のような状態が、バッテリーあがりです。

- スターターがまわらなかったり、まわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ヘッドライトがいつもより暗い。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。



処置のしかた

押しがけによる始動はできません。

救援車を依頼しブースターケーブルを接続して、エンジンを始動してください。なお、救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

1 ブースターケーブルをつなぎます。

バッテリーの \oplus 端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぎます。

- ①自車のバッテリーの \oplus 端子（①）と、救援車のバッテリーの \oplus 端子（②）をつなぎます。
- ②救援車のバッテリーの \ominus 端子（③）と、下図で指示している箇所（④）をつなぎアースをとります。

2 バッテリーを充電します。

救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転を保持し、応急的に自車（バッテリーあがり車）のバッテリーを充電します。

3 自車のエンジンをかけます。

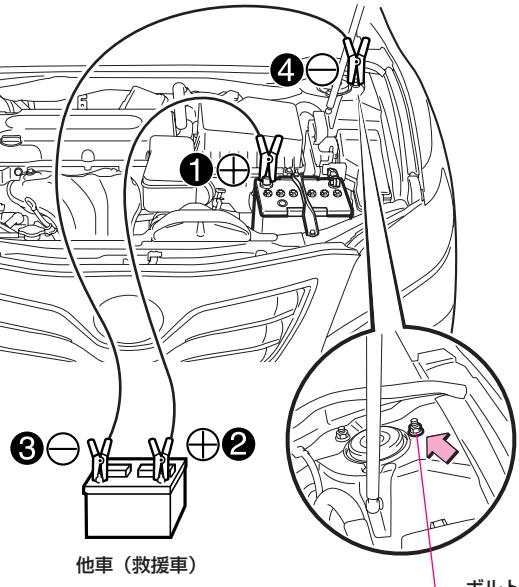
早
基
本
操
作取
り
扱
い取
り
扱
いの
解
説
と
注
意
装
備付
き
合
い
の
上
手
な
車
とメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

4 ブースターケーブルをはずします。

ブースターケーブルをつないだときと逆の順にはずします。

[アースポイント]

自車（バッテリーあがり車）



● バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンを停止したままランプをつけたり、エアコンなどを使わないようにしてください。
- エンジン回転中でも渋滞などで長時間止まっている場合は、不必要的電装品の電源を切ってください。



警告

火気をバッテリーに近づけないでください。

- 必ず以下のことをお守りください。お守りいただかないとバッテリーから発生する可燃性ガスに引火・爆発し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ④の接続は自車バッテリーの \ominus 端子につながないでください。バッテリーに直接つなぐと、火花が発生します。
 - ブースターケーブルを接続するとき、 \oplus と \ominus 端子を絶対に接触させないでください。接触させると火花が発生します。
 - 火気をバッテリーに近づけないでください。
- 充電中はバッテリーに近づかないでください。希硫酸の含まれるバッテリー液が吹き出す場合があり、目や皮膚に付着すると、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、医師の診察を受けてください。
- ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- バッテリーを交換したときは、クランプのナットを確実に締めつけてください。確実に締めつけないと、走行中にクランプがはずれて、ショートするなどして車両火災につながるおそれがあり危険です。



注意

救援車のバッテリーは12Vを使用してください。

- 他車（救援車）のバッテリーは12Vでなければなりません。12V用バッテリーであることを確認してから行ってください。
- バッテリーがあがりやすい場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

MEMO

目次



基本操作
わかれり

運転装置の
取り扱い

室内装備の
取り扱い

安全・快適装備
の解説と注意

車との上手な
付き合い方

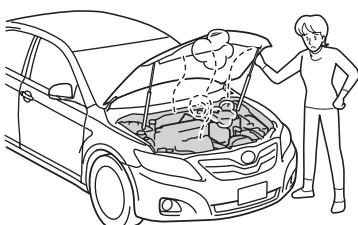
メンテナンス

万一のとき

索引

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートとは



次のような状態が、オーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する。
- マルチインフォメーションディスプレイに水温異常警告表示（P.245参照）が表示された。
- ボンネットから蒸気が立ちのぼる。

処置のしかた

1 車を止めます。

車を安全な場所に止め、エアコンを使用している場合は、O F F にします。

2 ボンネットの確認をします。

ボンネットから蒸気が出ているか確認します。

■ボンネットから蒸気が出ていない場合

ボンネットを開けて、そのままエンジンをかけておきます。

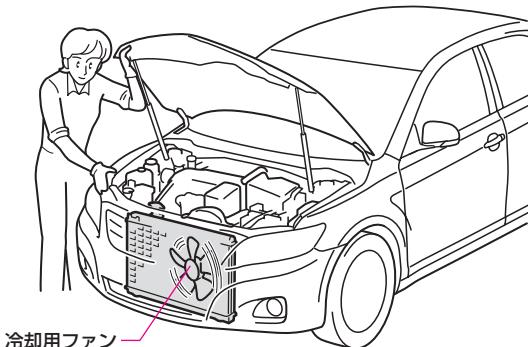
■ボンネットから蒸気が出ている場合

エンジンを停止し、蒸気が出なくなったら、風通しを良くするためにボンネットを開けエンジンをかけます。

早
基
本
操
作運
転
装
置
の
取
り
扱
い取
り
扱
い
室
内
装
備
のの
安
全
・
快
適
装
備
と
注
意
説
明付
き
合
い
方
手
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

3 冷却用ファンを確認します。

ラジエーター冷却用ファンが作動していることを確認してください。ファンが作動していないときはエンジンを停止して、トヨタ販売店に連絡してください。

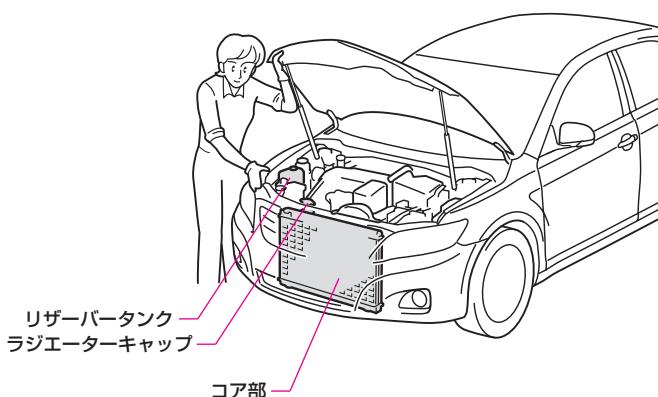


4 エンジンを停止します。

水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。

5 冷却水量などを確認します。

エンジンが十分冷えてからラジエーターキャップをはずし、ラジエーターとリザーバータンクの冷却水量の確認およびラジエーターコア部(放熱部)が著しく汚れていないか、ごみなどが付着していないかなどを確認します。



6 冷却水を補給します。

冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーバータンクに冷却水を補給します。

- 冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

7 トヨタ販売店で点検を受けます。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 移動途中で再び水温計の針が上昇してきたときや、水温異常警告表示が表示されたときは、空調の温度調整を最大暖房にし、ファンを最大風量にしてください。ヒーター配管内の冷却水により水温の上昇を抑えることができます。



オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量、地面に水もれがないか日頃から点検をしてください。
点検方法は「メンテナンスノート」をお読みください。



警告

やけどなどしないように十分気をつけてください。

- ボンネットから蒸気が出ているときは、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分注意してください。
- ラジエーターや補助タンクが熱いときはラジエーターキャップを開けないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。
- エンジンがまわっているときは、ファンやベルトなどに触れたり、近づいたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

けん引について

けん引のしかた

このけん引フックはけん引されることを目的としており、他車をけん引するものではありません。

けん引してもらうときは、できるだけトヨタ販売店、またはJ A Fなどに依頼してください。とくに次の場合は駆動系の故障が考えられますので、けん引される前にまずトヨタ販売店へご連絡ください。

●エンジンがまわっているのに車が動かない。

●異常な音がする。

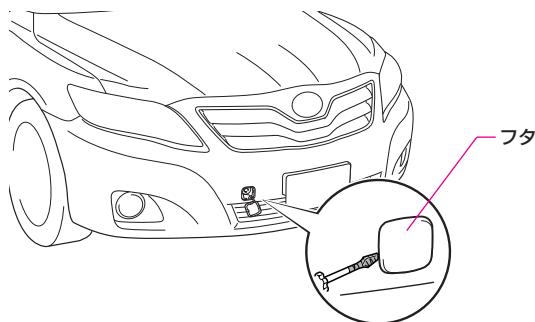
けん引してもらうときは

1 けん引フック、ホイールナットレンチを取り出します。

(P.434参照)

2 けん引フック取りつけ部のフタをはずします。

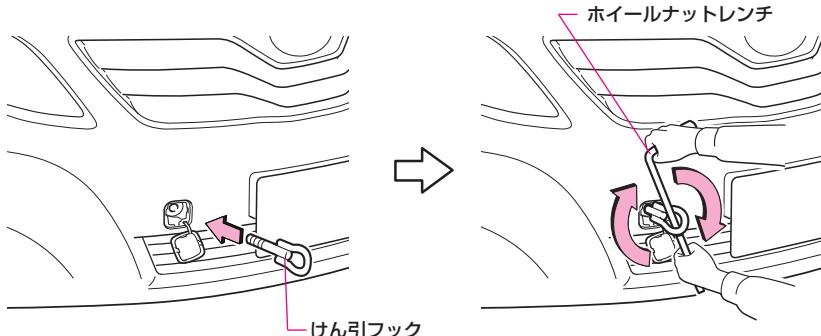
フタとバンパーのすき間に入る程度の薄刃のマイナスドライバー先端に、バンパー傷つき防止のために薄手のテープを巻いてフタをはずします。



早
基
本
操
作運
転
装
置
の
取
り
扱
い室
内
装
備
の
取
り
扱
いの
安
全
解
説
・
快
適
装
備付
き
合
い
方
な
車
と
の
上
手
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

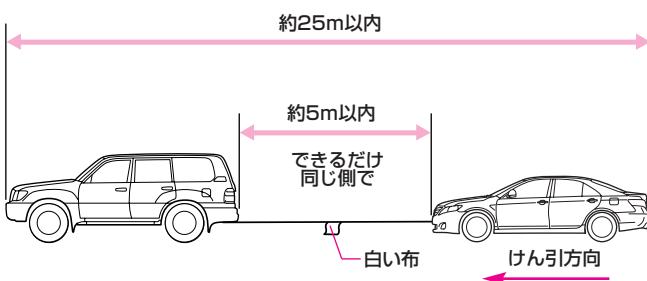
3 けん引フックを取りつけます。

ホイールナットレンチを使用して、けん引フックを確実に取りつけます。



4 ロープをかけます。

ボディに傷をつけないようにして、ロープをけん引フックにかけます。必ずけん引フックにロープをかけて前進方向でけん引してください。けん引ロープには、0.3メートル平方（0.3m×0.3m）以上の白い布をロープ中央に必ずつけてください。



5 エンジンをかけます。

エンジンをできるだけかけておいてください。エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにします。

6 発進します。

シフトレバーを❶にして、パーキングブレーキを解除します。

7 前の車に注意します。

けん引ロープをたるませないようにし、前の車の制動灯に注意してください。

けん引が終わったら、けん引フックをはずし、バンパーのフタを確実に取りつけてください。

●はずしたけん引フックは、トランクに格納します。



警告

けん引される車は慎重に運転してください。

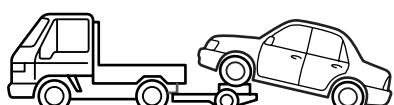
- けん引される車は慎重に運転してください。エンジンがかからっていないとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるため、通常と同じ感覚で運転すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしないでください。スイッチをOFFにすると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- けん引する車は、急発進などけん引フックやロープに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。けん引フックやロープが破損するおそれがあります。また、万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。



注意

長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。

- 長坂路を下るときは、レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。
- 4WD車の場合、4輪接地でけん引するか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪または後輪だけを持ち上げたけん引は絶対にしないでください。駆動装置が焼きつきを起こしたり、車がトレッカー（台車）から飛び出すおそれがあります。また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず4輪を持ち上げて運搬してください。



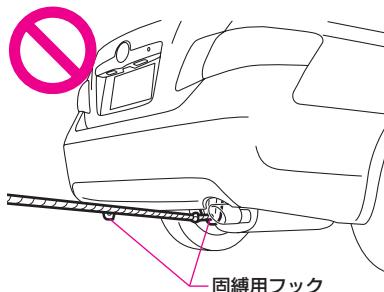
早基
本わ
かり作取
り
運
搬
装
置
の取
り
扱
い
車
内
装
備
のの安
全・
解説
と注
意装
備付
車と
の上
手な
方メン
テナ
ンス万
一のとき

索引



けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内で、前進方向でけん引してください。

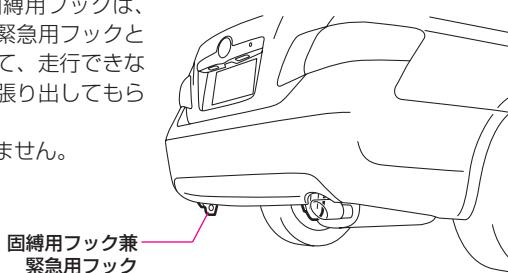
- けん引速度30km/h以下、けん引距離80km以内で、前進方向でけん引してください。この速度、距離をこえてのけん引、または後進方向でのけん引をするとトランスミッションに悪影響をおよぼし、損傷するおそれがありますので、これらの場合は車両積載車などにより、4輪とも持ち上げて運搬してください。
- スタック脱出のために、他車にけん引してもらうときは、サスペンションアームなどにロープをかけないでください。サスペンションアームなどを損傷するおそれがあります。
- ワイヤーロープは使用しないでください。バンパーに傷がつくおそれがあります。
- スタック^{*}したときは、無理にけん引せず、トヨタ販売店やJ A Fなどに依頼してください。けん引フックやサスペンション部品などにロープをかけてけん引すると、けん引フックやサスペンション部品を損傷するおそれがあります。
※ ぬかるみ・砂地・深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなったりした状態。
- 固縛用フックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。けん引には絶対使用しないでください。けん引に使用すると車両を損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。この車で他車をけん引することはできません。



寒冷地仕様車の固縛用フック（緊急用フック）について

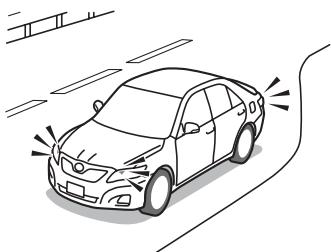
寒冷地仕様車のリヤ（助手席側）の固縛用フックは、緊急用フックとしても使用できます。緊急用フックとは、雪の吹きだまりなどでスタックして、走行できなくなったりしたときに、緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するためのものです。

この車で他車をけん引することはできません。



事故が起きたときは

あわてずに次の処置を行ってください



1 続発事故を防止します。

ほかの交通のさまたげにならないような安全な場所に車を移動し、エンジンを停止します。

2 負傷者がいる場合は、応急手当を行います。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。

3 警察への届け出をします。

4 相手方の確認とメモ（氏名・住所・電話番号）を取ります。

5 ご購入された販売店と保険会社へ連絡します。

早
基
本
操
り
作取
運
転
装
置
の
取
扱
い取
室
内
装
備
の
取
扱
いの
安
全
・
快
適
装
備
と
注
意
説
明付
車
と
の
上
手
な
使
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
時
間索
引

車両を緊急停止するには

緊急停止のしかた

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続けます。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常よりも強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを①に入れます。

■シフトレバーが①に入った場合

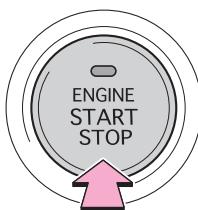
3 減速後、車を安全な道路脇に停めます。

4 エンジンを停止します。

■シフトレバーが①に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させます。

4 “エンジン スタート ストップ”スイッチを3秒以上押し続けてエンジンを停止します。



走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは、十分に減速するようにしてください。エンジンを停止すると、ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

MEMO

さくいん

- 五十音さくいん 472
警告灯さくいん 481



さくいん

五十音さくいん

症状から調べたいときや、万一のときの処置については、**色付き文字**の項目をご覧ください。

あ

アームレスト（リヤシート）	177
アウターミラー（ドアミラー）	198
アクセサリーソケット	327
アクセサリーボックス	323
アジャスタブル ショルダーベルトアンカー	183
雨の日の運転	368
アンチロックブレーキシステム (ABS)	348
アンテナ	314

い

E L R機構付シートベルト	346
イグニッションスイッチ	121
E B Dの働き	350
I S O F I X対応チャイルドシート 固定専用バー&トップティザーアンカー	186
イラスト目次	8~11
イルミネーテッドエントリーシステム	119
インナーミラー	195

う

ウインカー（方向指示灯） 方向指示表示灯	220
方向指示レバー	251
ワット数	425
ウインドゥウォッシャー ¹ 液の補給	417
タンクの容量	428
点検方法	416
噴射のしかた	257、260
冬の前の準備・点検	369
ウインドゥガラス（パワーウィンドウ） ²	151
ウインドゥデフォッガー（曇り取り） スイッチの使い方	261

ウインドゥロックスイッチ	153
上向き表示灯 (ヘッドランプ上向き表示灯)	220
ウォーニングランプ（警告灯）	224
動きなくなったときは	441
雨滴感知式ワイパー	254
運転する前に（寒冷時の取り扱い）	371
運転席SRSエアバッグ	332
運転席シートベルト非着用警告灯	235
運転席ドア連動オートアンロック	430
運転席に座っての点検	421

え

エアコンガス（冷媒）の点検	390
エアコン クリーンエアフィルターの交換	390
使い方	272
手入れ	390
ステアリングスイッチの使い方	283
A B S & ブレーキアシスト	348
E B D付A B S & ブレーキアシスト についての注意	62
A B S & ブレーキアシストが 作動しているとき	349
A B S & ブレーキアシスト警告灯	226
A B S警告灯	227
S R Sエアバッグ	332
S R Sエアバッグ警告灯	228
S R Sエアバッグについての注意	55
S R Sカーテンシールドエアバッグ	333
S R Sサイドエアバッグ	333
S R S二エアバッグ	332
SA E粘度（エンジンオイル）	428
L L C（冷却水） タンク容量・濃度	426
冬の前の準備・点検	369

早基
本
か
り作取
運
転
装
置
の
取
り扱
い室
内
装
備
の
取
り扱
いの安
全
解
説・
快適
装
備付
車
と
の上
手な
使
いメン
テ
ナ
ンス万
一
のとき

索引

エンジンオイル	
オイル量	427
注入口・レベルゲージ位置	411
点検方法	415
冬の前の準備・点検	369
エンジン回転計（タコメーター）	215
エンジン警告灯	229
エンジンスイッチ	121
エンジンの始動・停止のしかた	124
エンジンルーム	
エンジンルームから	
煙（水蒸気）が出ている	460
点検	411
ポンネットオープナー	165
エンジンルーム内ヒューズボックス	396
エンストで始動できなくなったときは	441

お

オイル類	
（メンテナンスデータ）	426～428
応急用タイヤ	437
オーディオの取り扱い	288
アンテナ	314
AUX端子の使い方	308
CDプレーヤーの使い方	296
使用上の留意点	315
ステアリングスイッチの使い方	310
電源、音量・音質の調整	289
ラジオの使い方	292
オートエアコン	
クリーンエアフィルターの交換	390
使い方	272
オートマチック車の運転のしかた	206
オートマチック車についての注意	64
走行のしかた	208
停車・駐車のしかた	210
発進のしかた	206
オートマチックトランスアクスルフルード	
フルード量	426
オーバーヒート	
オーバーヒートについての注意	84
オーバーヒートしたときは	460

オーバーヘッドコンソール	321
オープナー	
トランクオープナー	159
フューエルリッドオープナー	162
ポンネットオープナー	165
お子さまを乗せるときの注意	37
お出かけ前の注意	15
オド／トリップ拡大表示	238
オドメーター（積算距離計）	216

か

カーテンシールドエアバッグ	333
外気温度表示	239
外装の手入れ	386
ガソリン（燃料）	
使用ガソリン／タンク容量	428
カップホルダー	325
間欠時間調整式ワイパー	259
環境保護のために	380
寒冷時の取り扱い	369
寒冷地用ワイパープレード	370

き

キー	
キーナンバープレート	115
電子キー	112
メカニカルキー	141
キーOFF後作動機能	153、157
キー閉じ込み防止機能	131
鏡面角度調整（ドアミラー）	198
“キーキー”と金属音がタイヤから聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）	32
キーなし警告表示	134
キーバッテリー低下警告表示	133
キーレスエントリー	
（ワイヤレスドアロック）	142
基準値（メンテナンスデータ）	424
キックダウン	64
給油後平均燃費	240
緊急停止のしかた	469

◀

空気圧（タイヤ）	429
区間距離計（トリップメーター）	216
曇り取りスイッチ（リヤウインドウ デフォッガー）	261
クラクション（ホーン）	264
クリープ現象	64
クリーンエアフィルターの交換	390
クルーズインフォメーションディスプレイ	238
クルーズコントロール	265
クルーズコントロールについての注意	70
クルーズコントロール表示灯	222
車の手入れ	384
車のまわりの点検	418
グレード名称	429
グローブボックス	322
ランプのW（ワット数）	425
グロッサリーフック	329

け

警音器（ホーン）	264
計器類（メーター）	214
警告灯が点灯・点滅したときは	224
警告表示	242
経済的な運転	378
化粧用（バニティ）ミラー	318
けん引について	464
けん引フック	434

こ

コートフック	324
工具の格納場所	434
航続可能距離	239
後退灯	
電球（バルブ）の交換	406
ワット数	425
故障したときは	440
5速ゲート式シフトレバー	202
子供専用シートについての注意	44
小物入れ	322

コンソールボックス	323
コンライト	248

さ

サービスデータ	
（メンテナンスデータ）	424
サイドエアバッグ	333
サイド方向指示灯	
方向指示レバー	251
ワット数	425
サンシェード	326
サンバイザー	318
サンルーフ（ムーンルーフ）	155

し

CD一体AM／FMラジオ	288
CDプレーヤー	296
シート	167
シートについての注意	41
シートの調整	167
シートヒーター	172
フロントシート	169
リヤシート	174
シートベルト	178
アジャスタブル	
ショルダーベルトアンカー	183
E L R機構付シートベルト	346
シートベルトの働き	346
シートベルトについての注意	49
シートベルト非着用警告灯	235
着用のしかた	181
ブリテンショナー＆フォースリミッター	
付シートベルト	346
リヤシートベルトリルーター機構	184
事故が起きたときは	468
室内装備品の使い方	318
室内灯（ルームランプ）	319
ワット数	425
始動後走行距離	240
始動後平均車速	241
シフトポジション表示	220

早基
本
か
り作取
運
転
装
置
の
取
扱
い室
内
装
備
の
取
扱
いの安
全
解
説
と
注
意
装
備付
車
と
の
上
手
な
方
なメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

シフトレバー	
5速ゲート式シフトレバー	202
4速ゲート式シフトレバー	204
シフト運動オートアンロック	431
シフト運動オートロック	431
シフトロックシステム	203、205
車速感応オートドアロック	431
ジャッキ	
格納位置	434
ジャッキアップ	
ジャッキアップについての注意	81
ポイント（セット位置）	443
ジャッキハンドル	434
車幅灯	
ライトスイッチ	248
ワット数	425
車幅灯表示灯	220
車両型式	429
車両を緊急停止するには	469
充電警告灯	233
衝撃感知ドアロック解除システム	145
助手席足元ヒューズボックス	397
助手席SRSエアバッグ	332
助手席シートベルト非着用警告灯	235
す	
Super E C T	
Super E C Tとは	353
登降坂変速制御システムの働き	353
フレックスロックアップシステムの働き	353
水温計	215
水温計の針が赤いマークに入った	460
スイッチの使い方	248
ステアリング位置調整レバー	194
ステアリングスイッチ	
エアコン	283
オーディオ	310
ステアリングホイール	
SRSエアバッグ	332
ホーン	264
せ	
制動灯（ストップランプ）	
電球（バルブ）の交換	405
ワット数	425
積算距離計（オドメーター）	216
セキュリティ機能	360
洗車	386
前照灯（ヘッドライト）	
ライトスイッチ	248
ワット数	425
センターアームレスト	177
そ	
走行するときは（寒冷時の取り扱い）	373
ストップランプ（制動灯）	
電球（バルブ）の交換	405
ワット数	425
スノータイヤ（冬用タイヤ）	370
スピードメーター	215
スペアタイヤ	436
スマートエントリー & スタートシステム	
解除	115
警報音が鳴っているときは／ 警告灯表示が表示されているときは	130
作動表示灯が橙色に点滅している ときは	135、136
作動表示灯が緑色に点滅している ときは	136
スマートエントリー & スタート システムが作動しないときは	452
スマートエントリー & スタート システムの解除	115
“エンジンスタートストップ” スイッチがOFFにならない	126
スマールランプ（車幅灯）	
ライトスイッチ	248
ワット数	425
スリップ表示灯	221

走行について

走行しての点検	423
走行するときの注意	22
走行中、異常に気づいたら	30
走行できなくなったときは (けん引について)	464
走行のしかた	208
速度計（スピードメーター）	215

た

タイヤ

空気圧	429
スペアタイヤ	436
タイヤチェーン	370, 374
タイヤの点検	393, 418
タイヤ／ホイールサイズ	429
タイヤローテーション	393
冬用タイヤ	370
タイヤについての注意	74
タイヤを交換するときは	442
タコメーター（エンジン回転計）	215
正しい運転姿勢（シート）	167
正しい着用（シートベルト）	178

ち

チェーン（タイヤチェーン）	370, 374
チャイルドシート	
シートベルトでの固定	191
固定専用バー＆トップテザー アンカーでの固定	186
子供専用シートについての注意	44
チャイルドプロテクターの使い方	148
駐車するときは（寒冷時の取り扱い）	376
駐車灯（非常点滅灯） スイッチ	263
ワット数	425
駐車のしかた	210
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	212
点検基準値	424
駐停車するときの注意	33
チルト＆テレスコピックステアリングレバー (ハンドル調整)	194

て

TRC（トラクションコントロール）	363
VSC・TRCについての注意	63
ディスチャージヘッドライト オートレベルリング（上下照射方向自動調整） システム	361
ディスチャージヘッドライト オートレベルリング警告灯	230
ワット数	425
ディファレンシャルオイル オイル量	426
手入れ エアコンの手入れ 外装の手入れ 車の手入れ 内装の手入れ 日頃の手入れ	390 386 384 388 384
テールランプ（尾灯） 電球（バルブ）の交換	405
ライトスイッチ	248
ワット数	425
電気式ドアロック キー閉じ込み防止機能 衝撃感知ドアロック解除システム セキュリティ機能 ユーザーカスタマイズについて	131 145 360 431
電球（バルブ）の交換	403
電球（バルブ）のワット数	425
点検 運転席に座っての点検 エンジンルームの点検 車のまわりの点検 走行しての点検 日常点検について	421 411 418 423 410
点検基準値（メンテナンスデータ）	424
点検整備実施のお願い	14
点検・手入れ時の注意	72
電子キー 電池交換	112 394
電動格納式ドアミラー	198

早基本
わかり作取り扱い
運転装置の取り扱い
室内装備のの安全
解説・
快適装備
と注意付車との
上手な
付き合いメンテナ
ンス

万のとき

索引

と

ドア	
イルミネーテッドエントリーシステム	119
開閉	142
チャイルドプロテクター	148
電気式ドアロック	145
ドアを開けたら“ポーン、ポーン” と音が鳴り続けた	130
バッテリーあがり防止機能	119
ドアガラス	
開閉	151
ドアミラー	198
ドアロックスイッチ	145
搭載工具	434
時計	328
登降坂変速制御システム	
Super E C T	353
5 Super E C T	352
トランク	
解錠	120
開閉	159
トランクオープナー	159
トランク灯	161
ワット数	425
トランスアクスルフルード	
フルード量	426
トランスファーフルード	
フルード量	426
トリップメーター（区間距離計）	216
な	
内外気切り替え（エアコン）	277
内装の手入れ	388

に

日常点検	410
運転席に座っての点検	421
エンジンルームの点検	411
車のまわりの点検	418
走行しての点検	423
日常点検について	410

ね

燃料	
タンク容量	428
燃料計	215
燃料残量警告灯	234
燃料補給口（フューエルリッド）	162
燃料補給時の注意	20

は

パーキングブレーキ	212
点検基準値	424
排気ガスに対する注意	35
灰皿	321
ハイビーム（ヘッドライト）	
操作方法	250
電球（バルブ）の交換	404
ヘッドライト上向き表示灯	220
ワット数	425
ハイマウントストップランプ	
ワット数	425
ハザードランプ（非常点滅灯）	
スイッチ	263
ワット数	425
挟み込み防止機構	
パワーウィンドウ	152
ムーンルーフ	157
発炎筒の使い方	438
発進のしかた	206
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換	406
ワット数	425

撥水機能付ガラス	359	表示灯（メーター）	218
バッテリー		日よけ（サンバイザー）	318
点検方法	413		
バッテリーがあがったときは	456		
バッテリーについての注意	79		
冬の前の準備・点検	369		
バッテリーあがり防止機構	119		
パッドウェアインジケーター（ブレーキ			
パッドウェアインジケーター）	32		
バニティ（化粧用）ミラー	318		
ランプのワット数	425		
バルブ（電球）の交換	403		
バルブ（電球）のワット数	425		
パワーウィンドウ			
スイッチ	151	点検基準値	424
パワーウィンドウが動かない	153	フォースリミッター機構	346
パワーシート	169	吹き出し口（空調）	
パワーステアリングフルード		調整	282
フルード量	426	使用目的	276
番号灯		フック	
電球（バルブ）の交換	406	グロッサリーフック	329
ライトスイッチ	248	コートフック	324
ワット数	425	フック（けん引）	434
半ドア警告灯	234	フューエルキャップの開閉	162
ハンドル		フューエルメーター（燃料計）	215
位置の調整	194	フューエルリッドオープナー	162
ハンドルが重くなった	31	フューエルリッド（燃料補給口）	162
パンクしたときは	442	冬の前の準備・点検	369
		冬用タイヤ	370
		プラズマクラスターの使い方	280
		プリテンショナー機構	346
		プリテンショナー&	
"ピーピーピー" と長い音の繰り返し		フォースリミッター付シートベルト	346
〈リバース（後退）ブザー〉		ブレーキアリスト	348
.....	202、204	ブレーキ警告灯	231
日頃の手入れ	384	ブレーキパッドウェアインジケーター	32
非常点滅灯		ブレーキフルード	
スイッチ	263	点検方法	412
ワット数	425	タンク位置	411
尾灯		ブレーキペダル	
電球（バルブ）の交換	405	点検基準値	424
ライトスイッチ	248		
ワット数	425		
ヒューズの点検・交換	396		



"ピーピーピー" と長い音の繰り返し	
〈リバース（後退）ブザー〉	
.....	202、204
日頃の手入れ	384
非常点滅灯	
スイッチ	263
ワット数	425
尾灯	
電球（バルブ）の交換	405
ライトスイッチ	248
ワット数	425
ヒューズの点検・交換	396



5 Super E C T	
5 Super E C Tとは	352
登降坂変速制御システムの働き	352
フレックスロックアップシステムの働き	352
V S C · T R C	362
V S C · T R Cについての注意	63
Vフレックスフルタイム4WD	354
Vリブドベルト	
点検基準値	424
フォースリミッター機構	346
吹き出し口（空調）	
調整	282
使用目的	276
フック	
グロッサリーフック	329
コートフック	324
フック（けん引）	434
フューエルキャップの開閉	162
フューエルメーター（燃料計）	215
フューエルリッドオープナー	162
フューエルリッド（燃料補給口）	162
冬の前の準備・点検	369
冬用タイヤ	370
プラズマクラスターの使い方	280
プリテンショナー機構	346
プリテンショナー&	
フォースリミッター付シートベルト	346
ブレーキアリスト	348
ブレーキ警告灯	231
ブレーキパッドウェアインジケーター	32
ブレーキフルード	
点検方法	412
タンク位置	411
ブレーキペダル	
点検基準値	424

早基
本
か
り作取
運
転
装
置
の
取
扱
い室
内
装
備
の
取
扱
いの安
全
解
説・
快適
装
備
と
注
意付
車
と
の
上
手
な
使
いメン
テ
ナ
ン
ス万
一
の
とき索
引

ブレーキランプ（制動灯）	
電球（バルブ）の交換	405
ワット数	425
ブレーキを踏むと“キーキー”と音がする	32
フレックスロックアップシステム	
Super E C T	353
5 Super E C T	352
フロアマット	330
フロントシート	169
フロントパーソナルランプ	318
ワット数	425
フロントフォグランプ	
スイッチ	252
フロントフォグランプ表示灯	220
ワット数	425
フロントワイパーデアイサースイッチ	262

へ

ヘッドライト	
上向き表示灯	220
ライトスイッチ	248
ワット数	425
ヘッドライト	
フロント	171
リヤ	176
ベビーシート	
シートベルトでの固定	191
固定専用バー&トップテザー	
アンカーでの固定	186

ほ

ホイールサイズ	429
ホイールナットレンチ	434
ホイール（タイヤ）の交換	442
方向指示灯	
方向指示表示灯	220
方向指示レバー	251
ワット数	425
ホーン	264
“ボーン、ボーン”と短い音の繰り返し 〈電源切り忘れ防止機能〉	130

ボンネット	165
ボンネットから煙（水蒸気） が出ている	460

ま

マニュアルシート	169
マルチインフォメーションディスプレイ	236
各表示の切り替えのしかた	237
クルーズインフォメーションディスプレイ	238
警告表示	242
マルチインフォメーション ディスプレイでできること	236
万一の事故のときの注意	85

み

ミラーの調整	
インナーミラー	195
ドアミラー	198
ミラーヒーター	200

む

ムーンルーフ	155
--------	-----

め

メーター類	214
メーター照度調整ダイヤル	217
メンテナンスデータ	424

ゆ

ユーティリティボックス	329
油圧警告表示	244

よ

腰部硬さ調整	171
4速ゲート式シフトレバー	204
4WD	
V フレックスフルタイム4WD	354
4WD車についての注意	67

5

ライセンスプレートランプ（番号灯）	
電球（バルブ）の交換	406
ライトスイッチ	248
ワット数	425
ライトスイッチ	248
ラジエーター	
オーバーヒートしたときは	460
タンク・キャップ位置	411
冷却水濃度・容量	426
ラジオの使い方	292
ランプオートカットシステム	249
ランバーサポート（腰部硬さ調整）	171

り

リクライニング調整	
フロントシート	169
リヤシート	174
リバース（後退）ブザー	202、204
リヤウインドウデフォッガー (曇り取り)	261
リヤカップホルダー	325
リヤサンシェード	326
リヤシート	174
リヤシートベルトインナーパックル	182
リヤディファレンシャルオイル オイル量	426
リヤドアが車内から開けられない	148
リヤフォグランプ	
スイッチ	253
電球（バルブ）の交換	406
リヤフォグランプ表示灯	220
ワット数	425

れ

冷却水	
オーバーヒートしたときは	460
点検方法	414
濃度・容量	426
冬の前の準備・点検	369
リザーバータンク位置	411
レインクリアリングミラー	356

ろ

ロービーム（ヘッドライト）	
スイッチ	248
ワット数	425
路上で故障したときは	440
ロックレバー	147

わ

ワイドビュードアミラー	358
ワイパー＆ウォッシャー	254、259
ワイヤレスドアロック	142
ワックス	384
ワット数	425

る

ルームミラー（インナーミラー）	195
ルームランプ（室内灯）	319
ワット数	425

警告灯さくいん



A B S &
ブレーキアシスト
警告灯 P.226



充電警告灯 P.233



A B S 警告灯 P.227



燃料残量警告灯 P.234



S R S エアバッグ／
プリテンショナー
警告灯 P.228



半ドア警告灯 P.234



エンジン警告灯 P.229



運転席シート
ベルト非着用
警告灯 P.235



ディスクチャージヘッドライト
オートレベリング警告灯
P.230



助手席シート
ベルト非着用
警告灯 P.235



ブレーキ警告灯 P.231

警告

早基
本
か
り作

取
り
扱
い
の
運
転
装
置
の

取
り
扱
い
の
室
内
装
備
の

の安
全
解
説
と
注
意
装
備

付
車
と
の
上
手
な
方
い

メン
テ
ナ
ン
ス

万
一
の
とき

索
引

MEMO

MEMO

目次

基本操作
わかり作運転装置の
取り扱い室内装備の
取り扱い安全・快適装備
の解説と注意車との上手な
付き合い方

メンテナンス

万一のとき

索引

MEMO

ホ-14

カムリ



お問い合わせ、ご相談は
下記へお願ひいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オーブン時間 365日 9:00~18:00

所在地 〒450-0002 名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますので了承ください。
●印刷 NAB-2010年 7月26日

●発行-2010年8月2日 初版

M 33891
01999-33891